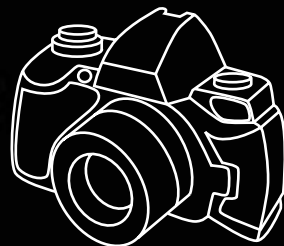
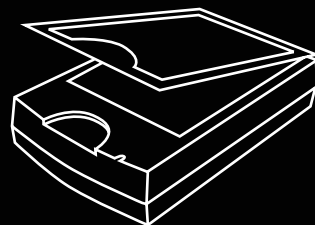


# SilverFast<sup>®</sup>

マニュアル

6



48  
Bit

LaserSoft Imaging<sup>™</sup>



日本語マニュアル版





## コピーライト

Copyright © 1994-2003 SilverFast®Ai, LaserSoft Imaging™AG,  
Germany

この出版物のどの部分も LaserSoft Imaging AG の許可なく、  
電子的、機械的な如何なる手段を利用した複製、転送等  
を行う事はできません。

**SilverFast®Ai** ソフトは LaserSoft Imaging により著作権保護  
され、ライセンス契約書で明記された場合のみ使用されます。  
購入者はバックアップ用でのみソフトのコピーを許可されます。  
その他の全てのコピーの類は禁止され、また法的に告訴される  
でしょう。

LaserSoft Imaging はこのソフトが全 Macintosh //Windows  
システムでエラーなしに動作する事を保証しません。しかし、  
LaserSoft Imaging は損害を受けたソフトをリプレースします。  
このマニュアルに記載されたソフトはライセンスの一部であり、  
それは購入者が CDパッケージを開封する際に有効になります。  
ソフトはこれらライセンス契約書に従って使用が許可されます。  
記述された全ての登録商標は各社によって保護されます。

**SilverFast Ai** は LaserSoft Imaging ,Germany の登録商標です。

**SilverFast Ai** は、Karl-Heinz Zahorsky, Nils Heidorn,  
Eric Flyvbjerg, Dr. Martin Munier, Ralf Magnussen,  
Ron Pokriefke, Thomas Belli, Martina Steidele ,  
Nick D' Amato . によって開発されました。

マニュアルは Karl-Heinz Zahorsky and Gerhard Wolff により  
書かれ、Gerhard Wolff により編集されました。

全ての写真は Karl-Heinz Zahorsky によるものです。

© 1997, 1998, 1999, 2000, 2001, 2002, 2003.

### ヘッドクォーター

#### **LaserSoft Imaging AG**

Luisenweg 6-8 ,  
D 24105 Kiel, Germany  
Telefon: +49-431-56009-0  
Fax: +49-431-56009-98  
e-mail: info@SilverFast.de  
http://www.SilverFast.de

### US-オフィス

#### **LaserSoft Imaging, Inc.**

546 Bay Isles Road  
Longboat Key, FL-34228, USA  
Telefon: +1-941-383-7496  
Fax: +1-941-387-7574  
e-mail: info@SilverFast.com  
http://www.SilverFast.com

## SilverFast ソフトウェアライセンス 承諾書

このソフトウェア承諾書の条件を読んで同意するまで、ソフトウェアパッケージを開封またはソフトウェアを使用しないで下さい。  
これらの条件を承諾できない場合、ソフトウェアを元のパッケージの状態のままにし、  
LaserSoft Imaging AGに至急返送下さい。

SilverFast はソフトウェアとユーザーマニュアルから成るソフトウェアパッケージであり、カラーセパレーション作成とイメージ印刷のスキャン生成用に利用されます。LaserSoft Imaging AGは SilverFast を開発し、その全権利を所有します。

### 1. コピーライト

- (1) ユーザーとLaserSoft Imaging AGが所有するソース&オブジェクトコードのソフトウェア著作権を認められたライセンシー。
- (2) マニュアルと他の文書はコピーライトによって保護されます。違法使用（マニュアルのイメージも含む）も損害を請求されます。

### 2. ライセンス

- (1) LaserSoft Imaging AGはライセンシーに独占かつ譲渡不可のライセンスでソフトウェアコード&マニュアルの使用を認めます。
- (2) このライセンスは SilverFast を1台のコンピュータで使用する事を認めます。複数のプロセッサ/場所での使用は別ライセンスが必要です。
- (3) ユーザーとライセンシーは SilverFast の全体/部分コピーをバックアップコピー作成用以外で許可されません。ライセンシーは SilverFast で供給されるサポート文書の全体/部分コピーのどちらも認めません。
- (4) ソフトウェアは機密の情報を含みます: このライセンスはライセンスの変更、調整、リバースエンジニア、またはオブジェクトコードにアクセスするソフトウェアの逆アセンブリを許可しません。
- (5) ライセンシーはソフトの貸し出し、リース、サブライセンス、ローン認められません。ソフトと文書の複製は全ソフト&文書を譲渡する条件下で可能であり、コピー不可（バックアップソフトを含む）は保持され、サードパーティは当ライセンスを承諾します。

### 3. 有効性

- (1) 当ライセンスはソフトウェアパッケージが開封された日から有効です。LaserSoft Imaging AG/ライセンシーがこの承諾書を終了する日まで有効です。
- (2) このライセンス承諾書は以下の条件で終了します。
  - (a) LaserSoft Imaging AGは承諾書の全体/部分的不履行が行われた場合、このライセンスを終了させる場合があります。
  - (b) ライセンシーは第四の条件下で、LaserSoft Imaging AGに対し書かれた注意書き上の当ライセンスを終了する事が認められます。もし開封したパッケージを返送する場合、コンピュータ上のコピー並びにバックアップコピーを即座に削除します。

### 4. 保証

- (1) SilverFast は LaserSoft Imaging AGが特定用途向けの SilverFast ソフトウェアの有用性やその市場性、ライセンスの要求に適合しないとする明示、黙示的な何れも保証しないものとして提供されます。エラー除去のためにあらゆる努力が行われますが、LaserSoft Imaging AG は SilverFast がエラーがない事を保証するものではありません。
- (2) ライセンシーは14日以内にソフトウェアの相当の、認識可能な不良箇所を調べる必要があります。これらは LaserSoft Imaging AG に対して書面で通知しなければなりません。さもなければソフトウェアと文書は制限なしに承認されます。
- (3) 相当な不良箇所では、LaserSoft Imaging AGは他のバージョンで、もしくは正当な時間内にそれを除去してのライセンス提供を選択。LaserSoft Imaging AG がこの時間内にソフトの使用を許可できない場合、ライセンシーはこの契約の賠償を減額または消滅します。
- (4) 保証の主張に際して、ライセンシーはLaserSoft Imaging AG の負担でソフトウェアと受領証明を送り返さなければなりません。

### 5. 免責

経済損失を含む、直接、間接、重大な損害に対し、たとえそのような損害の可能性を示唆したとしても、LaserSoft Imaging AG、ディストリビュータ、公認ディーラーは責任を負いません。合法または違法行為による SilverFast 使用法以外から生じるどんなLaserSoft Imaging AG の責務もソフトウェアライセンス支払いにかかった金額を超過することがない事をライセンスは承認します。

### 6. トレードマーク（商標）

SilverFast と文書内で言及された商標は LaserSoft Imaging AG の登録商標または各社の所有するものです。これらの商標の使用はLaserSoft Imaging AG または各社によってのみ許可されます。

### 7. 無効な条件

この契約の個々の規定は、いかなる理由でも無効となるべきものです。またはこの同意にかかわらず、履行不一致が起こるならば、十分な効力を残します。どんな団体もが意図する法的可能性の範囲に最も近い条項 - またはかれらがその条項が望むものであったと考慮したならば、過去に遡って履行不一致、無効な条項を置き換えるものとします。

### 8. 賠償

当承諾書の賠償は書類にする必要があります。

### 9. 適用できる法律

ドイツの法律が適用されます。国際商品販売連合（CISG）の協定はこれにより除外されます。



## Dear SilverFast User



**SilverFastAi** は1995年に発売開始されてから7年目です。 **SilverFast** は今や「スキャンソフトの標準」と呼ばれる位、世界中で多大な認知をされています。それは素晴らしい賛辞ですが、それに留まる事はありません。

**SilverFast** はプロフェッショナルカラスキャンを真に扱いやすく、結果を予測可能にさせました。ユニークなアンシャープマスキング、フォーカス・プレビュー、Plug & Play CMYK、簡単にパワフルなセレクトィブカラーコレクション、ネガフィルム変換

最適化用 NegaFix、大容量イメージファイル高速ロード用 HiRePP、**SilverFast 6** より搭載の **SC2G**(インテリジェントカラー > グレー変換)、改良されたセレクトィブカラーコレクション(レイヤー&マスキング付)、ダスト&スクラッチ除去ベースのユニークな **SilverFastSRD**(ゴミ除去)など、新しくパワフルな **SilverFast 6** への道を切り拓きました。  
**SilverFastAi 6** では最初の **SilverFastAi** QuickTime ムービーデモ搭載を目にするでしょう。**SilverFast 6** に搭載されたパワフルな機能を例示し、これらのツールが如何に使われるかをデモンストレーションします。我々は現在、世界の中でユニークな変化の入り口にいます。イメージング(画像処理)は人間の心とその外側世界との間のトランスレータとして、主要かつ最も重要なテクノロジーになりつつあります。それは実際に進化の形成構造性質であり、それは遊離した一片とその集まりを共に意味ある知性全体へともたらししており、イメージとして我々が認識しているものです。

いにしえの古人の言葉に「知識は意識の中に作られる」とあります。それは意味のあるアイテムを知るようになる所であり、そしてそれは我々の意識の中のイメージや、それによって形成される知識です。科学は我々の知能の源と意識の中心地としての、我々頭脳のイメージング性質を認知しました。イメージングデベロッパーとして、我々は **LaserSoft Imaging** 社がエキサイティングな潜在意識のグローバルな世界に小さな一片を増やしている事を誇りに思います。

カールハインツ・ザホルスキー

プレジデント&創設者  
**LaserSoft Imaging AG**

## コンテンツ

コピーライト .....	3
<b>SilverFast</b> ソフトウェアライセンス .....	4
イントロダクション .....	5
コンテンツ .....	6-12
 1. インストール .....	 13-26
必要動作環境 .....	15-16
スキャナーインターフェース .....	17
<b>SilverFast</b> のインストール .....	18-21
<b>SilverFast</b> 起動と実行 ( Photoshop 経由 ) .....	22
<b>SilverFast</b> 起動と実行 ( SF Launcher 経由 ) .....	23
<b>SilverFast</b> “フィーチャーCD” .....	24
シリアルNO. 入力中の問題に関して .....	25
QuickTime ムービー .....	26
 2. 概要 .....	 27-38
<b>SilverFast</b> ダイアログ Mac .....	29
<b>SilverFast</b> ダイアログWin .....	30
<b>SilverFast</b> ダイアログ概要 .....	31
プリスキャン画面内ツールバー .....	32-34
<b>SilverFast</b> ツールパレット .....	36
回転ツールパレット .....	37
 3. プリセット .....	 39-66
プリセット (prefs) .....	41-42
計測単位: cm, inch, pica, point, pixel .....	42
オプション .....	43-54
“General” .....	43-46
“Auto” .....	47-49
“CMS” .....	50-52
“Special” .....	53-54
スキャンパラメータの調節 .....	55-61
“General” .....	55-56
“Frame” .....	55-59
スケーリング .....	62-63
プロポーションスケーリング .....	64
ピクセルロック .....	65
ドラッグ&ドロップ .....	66
スキャナーのスイッチング .....	66

4. <b>SilverFast</b> プリスキャンコンセプト	67-86
<b>SilverFast</b> プリスキャンコンセプト	69
<b>SilverFast</b> プリスキャンデザイン	70-80
プリスキャンでのズーミング	81-82
高解像度プリスキャン	83
ズームしたプリスキャンの編集	84
ズーム&高度な補正	85
異なる光学解像度を持つスキャナー	86
5. <b>SilverFast</b> ツール	87-173
ツール概要	90-91
ScanPilot	92-93
イメージ最適化のワークフロー	94-95
5.1. イメージオートアジャスト	96-106
オートアジャスト&カラーキャスト除去	99
オートアジャスト&カラーキャスト保護	100
オートアジャスト&スレシールド	101
“オートスレシールド”	103-104
5.2. ハイライト/シャドウツール	105-114
ハイライトの設定	105
シャドウ設定	106
ハイライト/シャドウ リセット	106
中間トーン設定	107
マルチニュートラル化ピペット (MidPip4)	108-110
MipPip 編集	109
ハイライト/シャドウ オフセット	111
ブライテスト&ダーkestポイント表示	113-114
5.3. ヒストグラム	115-129
3パート ヒストグラム	117-118
ヒストグラムチャンネル選択	118
自動カラーキャスト除去	119-120
カラーキャスト除去手動用スライダー	120
手動でヒストグラムを最適化	121-122
ヒストグラムでの色空間の圧縮	123-126
マルチデンシトメータ (固定ピペット)	127
ブライテスト/ダーkestポイントの転移	
(マルチデンシトメータに対して)	127
デンシトメータ内での色空間選択	128

5.4. グラデーションダイアログ .....	129-136
グラデーション カーブの調節 .....	131
グラデーションカーブの保存 .....	132
グラデーションカーブの削除 .....	132
グラデーションカーブチャンネル .....	132
グラデーションカーブポイントの非アクティブ化 .....	133
非アクティブ化したカーブポイントのリセット .....	133
ホットトラック グラデーション .....	134
グラデーション地点の状態をマーキング (On/Off) .....	134
拡張グラデーションカーブ .....	135
Photoshop グラデーションカーブのロード .....	135
グラデーションカーブの選択 .....	135
リニア&対数 中間トーン (Midtone) .....	136
5.5. グローバルコレクションダイアログ .....	137-139
カラーバランス .....	138
カラーバランスのリセット .....	138
カラーバランスの変更 .....	139
5.6. セレクティブカラーコレクション .....	140-165
カラーコレクションにおける色 .....	140
概要 .....	141
セレクティブカラーコレクションの目的 .....	142
コレクションカラーの選択 .....	142
スライダーによる HSL補正 .....	143
写真のセレクティブカラーコレクション .....	144-145
カラーサークル .....	146
カラー選択 .....	146
カラーコレクションプリセット .....	146
カラーコレクションプリセットの操作 .....	148
フリーハンドマスキング .....	149-155
マスクツール選択 .....	149
新規マスク .....	150
ハード/ソフトマスクエッジ .....	151
マスク変更 .....	152-154
12色のコレクション .....	156
マルチレイヤー&マスクでの セレクティブカラーコレクション .....	157
<b>SilverFast</b> ACR (退色復元) .....	161
<b>SilverFast</b> SG2G セレクティブ カラー>グレイ変換 .....	162-165

5.7. プリスキャンでのズーミング .....	166-170
高解像度プリスキャン .....	166-167
ズーム&デンシトメータ .....	168
デンシトメータ読解とグラデーションカーブ .....	168
5.8. エキスパートダイアログ .....	169-171
プロ用ダイアログ .....	169
テキストファイルとしてイメージパラメータ出力 .....	171
6. スペシャル機能 .....	173-320
6.1 デンシトメータ .....	176-180
6.2 シャープ化 .....	181-186
6.3 ディスクリーニング .....	187-190
6.4 GANE グレイン&ノイズ除去 .....	191-194
6.5 ラインアーツキャン (1 bit) .....	195-196
6.6 マルチサンプリング .....	197-198
6.7 ネガティブスキャン .....	199-214
6.8 フィルムホルダーの利用 (フィルムスキャナー用) .....	215-219
6.9 異なるファイル形式に保存 .....	219-224
6.10 スキャナーのフォーカス .....	224-228
6.11 スペシャル機能の解説 .....	
SilverFast PhotoCD, -HDR, -DC, DCPro .....	229-279
SilverFast PhotoCD .....	230-234
SilverFast HDR .....	235-237
SilverFast DC / DCPro .....	238-271
SilverFast HiRePP .....	272-279
6.12 SilverFast JobManager .....	279-302
6.13 SilverFastSRD ダスト&スクラッチ除去 .....	303-326

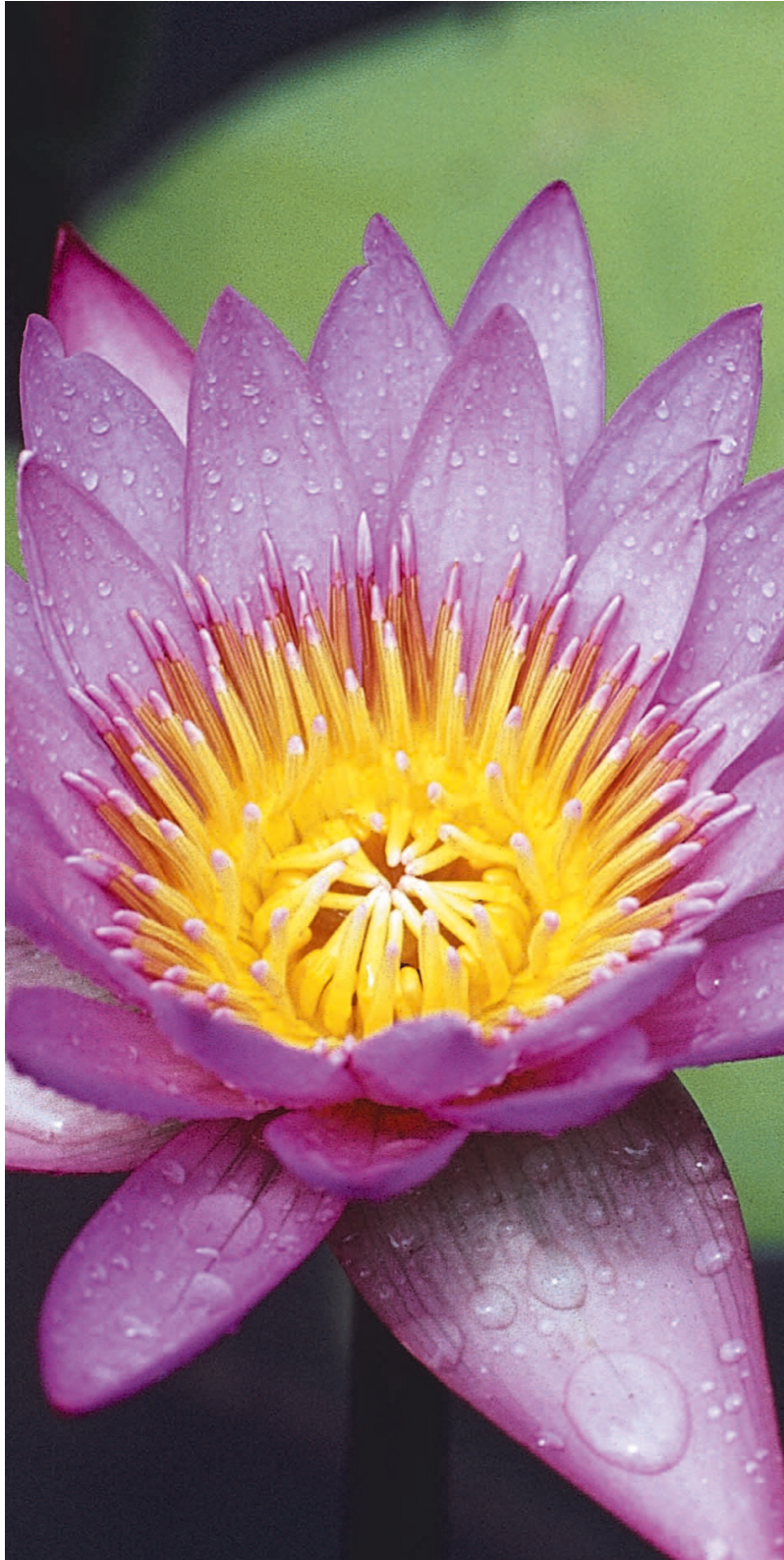
7. カラーマネージメント	327-356
イントロダクション	328
カラーマネージメントの目的	329-330
SilverFast カラーマネージメントの目的	330-332
CMSダイアログ	333-343
1. カラーマネージメント	334-335
2. ColorSync (ICM) 用 プ ロ フ ァ イ	336-340
3. プロファイル埋め込み	341
4. プラグ&プレイ CMYK	342-343
サンプル設定 SilverFast/Photoshop 5	344-346
サンプル設定 SilverFast/Photoshop 6	347
サンプル設定 SilverFast/Photoshop 7	348
スキャナーキャリブレーション (IT8-キャリブレーション)	349-356
7.1 付録	357-411
キーボードショートカット Mac&Win	359







## 第一章 インストレーション



## インストール

最初のチャプターでは必要動作環境とインストール方法を説明します。 フォトショッ ププラグインとしてインストールする場合、どのフォルダが自分のフォトショッ ププラグインとして割り当てられているかを注意してチェック下さい。

1. インストール	13-26
必要動作環境	15-16
スキャナ ー接続	17
<b>SilverFast</b> インストール	18-21
<b>SilverFast</b> の起動&アクティベ ート (Photoshop )	22
<b>SilverFast</b> の起動&アクティベ ート (SFラウンチャ ー)	23
<b>SilverFast</b> フィ ーチャ ー CD	24
アクティベ ーシ ョンコードのトラブルシューテ ィング	25
<b>SilverFast</b> オンライントレーニ ング (QuickTime)	26

## 必要動作環境

### Macintosh

**SilverFast** は、最低 64MB以上の RAMをもつパワーMacを必要とします。オペレーティングシステムは、Mac OS 9.2 以降が必要です。**SilverFast** の最新リリースは下記ウェブアドレスをチェック下さい。

[www.silverfast.com/jp](http://www.silverfast.com/jp)

**SilverFast** の最大限のパフォーマンスは十分なRAMを搭載したパワーMacで発揮されます。注) お持ちの画像処理ソフト (例、Photoshop) は、そのイメージが必要とする以上の3～4倍のRAMを必要とします。

大容量TIFF ファイルへのバッチスキャニングは最小限のRAMのみ必要とします。

インストールは 60 MB 以上のHD空き容量が必要です。

### アピアランスマネージャー

アピアランスマネージャー利用によりファインダーと他のソフトのイメージを変更する事ができます ( OS内部にインストールされた場合のみ) アピアランスマネージャーは **SilverFast 6** の適切な働きのためにインストールする必要があります。

### Macintosh 68k サポートの終了

**SilverFast** Ver5以来、68Kプロセッサ搭載の旧型 Macintosh は対応していません。これらプロセッサの計算パフォーマンスは **SilverFast** による迅速なワークフローを十分に提供する事ができません。

## 必要動作環境

### Windows

**SilverFast** Win用は、Windows 98, Windows ME, Windows XP  
Windows 2000 で動作し、64 MB以上の RAM が必要です。

インストールは、60 MB以上のHD 空き容量が必要です。

## スキャナーインターフェース

## SCSI

**SilverFastAi** では SCSI ID 0 , 7 に対応しません。通常、これらは起動ボリューム、SCSI ホストアダプタに使われます。

## USB

**SilverFastAi** (USB スキャナー使用)

**SilverFastAi** は通常、USB スキャナー用に最適な USB ドライバーを要求します。これは製造元のオリジナルインストールと共にインストールされ、**SilverFastAi** CD Readme 内に他に指示がなければ最初にインストールされるべきものです。



注意!

Win 98, 2000, ME に関し、システムファイル >usbscan.sys< は下記にあります。

c:\Windows\System32\drivers\usbscan.sys

ファイル USBSCAN.SYS は通常、Windows インストールでインストールされます。いくつかの Windows インストールではインストールされない場合もあります (この場合、ファイル後インストール) Windows のみ USB スキャナーを認識できます。

## FireWire

**SilverFastAi** (FireWire スキャナー使用)

**SilverFastAi** は通常 FireWire スキャナーに最適な FireWire ドライバを必要とします。これは製造元のオリジナルインストールと共にインストールされ、**SilverFastAi** CD Readme 内に他に指示がなければ最初にインストールされるべきものです。



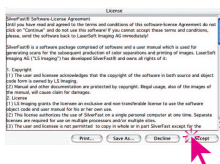




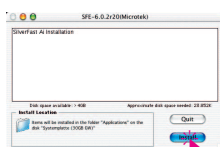
- 次画面で何をインストールするかを選択します。  
例) PDF マニュアルもインストール可能です。  
**SilverFast Installation** ボタンをクリックします。



- Continue** をクリックしてインストールが開始されます。



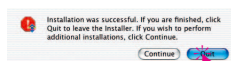
- ライセンス契約書（英文）を注意してお読み下さい。  
同意する場合は **Accept** をクリック下さい。



- Install** をクリック。インストールが準備され、Photoshop インストールをコンピュータがサーチします。



- 次のダイアログでサーチ結果が表示されます。Photoshop の保存先を選び、**Select** をクリックします。  
Photoshop が見つからない場合、**SilverFast** は **SF Launcher** ディレクトリ内へインストールされます。



- インストール後、**Quit** をクリックしてダイアログを閉じます。



**重要!** (Mac OS 9 ユーザーのみ)

**SilverFast** の操作と Photoshop を始める前に、Photoshop 用 RAM 割り当てをチェックして下さい。Photoshop はスキャンしたいイメージの 3-4倍の RAM を必要とする事に注意下さい。

## TWAIN モジュールとしての **SilverFast**

**SilverFast** 6(以上)用TWAINモジュールは一部スキャナーのみ配布され、通常インストールCDには収録されていません。

利用可能な **TWAIN** モジュールはウェブサイト上にあります。**TWAIN** モジュールを希望される場合、該当するスキャナー用モジュールのダウンロードエリアをチェック下さい。

<http://www.silverfast.com/update/en.html>

LaserSoft では Photoshop 経由プラグインか、**SF Launcher** 利用をお勧めします。



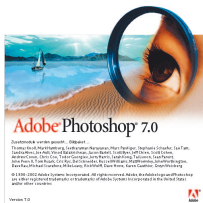
### TWAIN モジュールのインストール

**TWAIN** モジュールのインストールは前述の Photoshop プラグインのインストールに類似しています。ダウンロード済インストーラはアイコンのダブルクリックで開始されます。

### **SilverFast** TWAIN モジュールのスタートとアクティベート

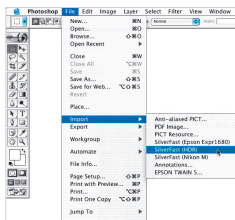
**SilverFast** 起動の正確なステップは利用する画像処理ソフトに依存し、基本的な事項のみここに記述します。

- **TWAIN** 互換画像処理ソフトを起動します。
- **TWAIN** ソース” オプションから **SilverFast** を選択。
- 画像処理ソフト内の「読み込み」機能を調べ、接続スキャナー用の **SilverFast** モジュールをアクティベートします。



## SilverFast 起動と実行 (Photoshop 経由)

- Photoshop を起動します。
- スキャナーが正しく接続されている事を確認し、電源を投入。  
OSX での SCSI スキャナーは事前にオンにしておきます。  
(そうでないとスキャナーは認識しないかもしれません)  
いくつかのフィルムスキャナーでは、スライド/フィルム  
ストリップはロードさせておくよう注意して下さい。
- メニュー > ファイル を開きます。  
インストール済 **SilverFast** がサブメニュー > 読み込み 内に  
あります。  
**SilverFast** をクリックして起動。  
**SilverFast** が起動し、接続済スキャナーを  
サーチします。

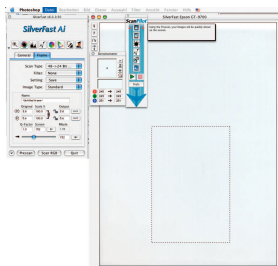


- スキャナーが見つかった、アクティベーション画面が表示  
されます。  
氏名、所属先(1文字以上)、そして  
アクティベーションコード(インストール  
CDのパッケージか、レジストレーション  
カードをチェック)を入力します。

First Name:	Joe
Last Name:	Miller
Organisation:	ML
Serial number:	123456789ABCDEF78090
<input type="button" value="OK"/> <input type="button" value="Cancel"/>	

Note: 大文字表記のみを使用下さい。

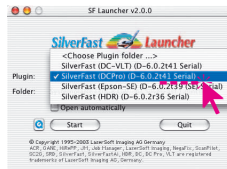
OK をクリックしてダイアログを終了します。



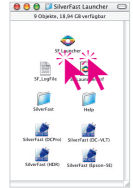
**SilverFast** がスタートします。 **SilverFast** の全機能はプリスキャン  
画面の下にヘルプテキストでの説明書きがあります。 プリスキャン  
画面の左側ボタン ? クリックでも詳細ヘルプを見る事ができます。

## SilverFast 起動と実行（SF Launcher 経由）

- **SF Launcher** を起動します。



- スキャナーの正しい接続を確認して電源を投入。  
注) いくつかのフィルムスキャナーのスライド/  
フィルムストリップではロードさせておきます。



- メニュー > プラグインを開き、希望する **SilverFast** のバージョンを直接選びます。  
または <Choose Plugin folder> クリックで **SilverFast** プラグインのあるディレクトリをブラウズします。

**Start** をクリックして**SilverFast** を起動。

**SilverFast** が起動して接続したスキャナーをサーチします。



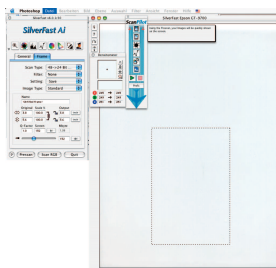
- スキャナーが見つかり、アクティベーション画面が表示されます。

氏名、所属先（1文字以上）、そして  
アクティベーションコード（インストール  
CDのパッケージか、レジストレーション  
カードをチェック）を入力します。

First Name:	Joe
Last Name:	Miller
Organization:	MI
Serial number:	123456789ABCDEF789090
<input type="button" value="OK"/> <input type="button" value="Cancel"/> <input type="button" value="To work in demo mode, press Cancel."/>	

Note: 大文字表記のみを使用下さい。

**OK** をクリックしてダイアログを終了します。



**SilverFast** がスタートします。**SilverFast** の全機能はプリスキャン画面の下にヘルプテキストでの説明書きがあります。プリスキャン画面の左側ボタン ? クリックでも詳細ヘルプを見る事ができます。

## SilverFast “フィーチャーCD”

“フィーチャー CD” はインストール済 **SilverFast** バージョンの拡張を可能にします。“IT8 Calibration” を例にしてみます。

既にインストール、シリアル入力済の、お持ちのスキャナーに機能が最適化された **SilverFastAi** 版で始めて下さい。  
以下に指示されたステップに続いて下さい。

1.2



- フィーチャーCD をドライブにセットし、20桁のシリアル番号を手元に用意下さい。  
システムが CD を認識するまで待ちます。



- お持ちのスキャナー用 **SilverFastAi** 版がスタートします。
- プリセット画面の左端上の小さな“i” ボタンをクリックします。  
Note: “i” ボタンが見つからない時は、スキャンパイロットの背後に隠れているかもしれません。



- “Credits” ボタンをクリックします。  
アクティベーションデータが小ポップアップ画面に表示されます。

- “Upgrade” ボタンをクリックします。



- レジストレーション画面 serial number 欄の古いシリアルNO. を新しいシリアルNO. を入力して削除します。

- “OK” を押してダイアログを閉じます。  
一度ダイアログがコードを受け付けると、画面が消えます。  
新しいフィーチャー（機能）がプリスキャン画面左の縦型ボタンバー内で使用可能になりました。

## シリアルNO.入力中の問題に関して

シリアルNO. 入力用ダイアログが“OK” ボタンを押して閉じない場合、**SilverFast** はその記入を受け付けません。以下の事項をお試し下さい:

- 次のメッセージ「Please insert the SilverFast CD and restart SilverFast」が出たら、シリアルNO. ダイアログをキャンセルし、**SilverFast** を閉じて、CD を挿入して再度起動下さい。要は、**SilverFast** 起動中インストール CD を提示する必要があるということです。一度 **SilverFast** が動作しているのを認識しないでしょう。
- 最低1文字を氏名、所属先(会社)欄の空欄に表示させる必要があります。個人的に利用する場合、会社の欄に“private”と入力しましょう。※すべて英字での入力になります。
- **SilverFast** 用のシリアルNO. は常に 20桁です。0~9の数字と、A~Fの文字から構成されるため、文字“O”は現れません。ゼロのみです。
- 大文字であることを確認下さい。
- スペース、シンボルを入れずにシリアルNO. を入力下さい。

“OK” ボタンを押してもまだダイアログが閉じない場合、サポート宛にお問い合わせ下さい。

## QuickTime ムービー

### SilverFast オンライントレーニング (QT ムービー)

**SilverFast** は オンライントレーニングに等倍 QuickTime ムービー（サウンドを含む）を画像処理ソフトとして最初に採用しました。購入ユーザーはすぐに機能や操作方法を学習する事ができます。複雑なソフトをより簡単にマスターする事は従来ありませんでした。

我々のホームページにある各種ムービーをご覧ください。

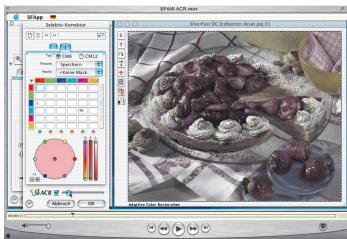
（継続的にムービーが追加される予定）

将来的に **SilverFast** 全機能をQTムービーに網羅する予定です。

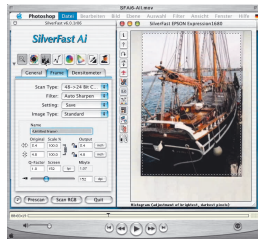
以下、ムービーの一例です。



1.2



**SilverFast 基本操作**



**SilverFast AC**



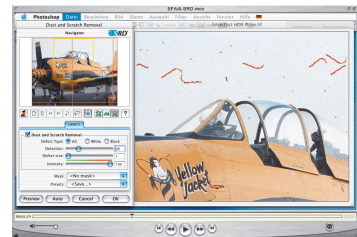
**SilverFast GANE**



**SilverFast MidPip4**



**SilverFast SC2G**



**SilverFast SRD**



## 第二章

## 概 要



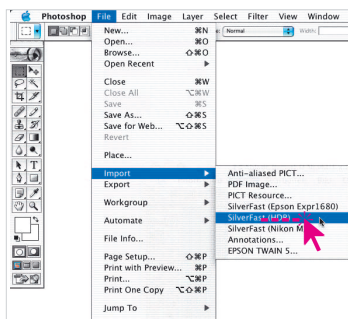
概 要

この章では **SilverFast** のスタート方法を紹介します。ここでは **SilverFast** 主要ダイアログ概要と **SilverFast** ツール類の説明を行います。

2. 概 要	27-38
<b>SilverFast</b> 主要ダイアログ Macintosh 版 . . . . .	29
<b>SilverFast</b> 主要ダイアログ Windows 版 . . . . .	30
<b>SilverFast</b> ダイアログ概要. . . . .	31
プリスキャン画面内ツールバー. . . . .	32-34
<b>SilverFast</b> ツールパレット . . . . .	36
ロテーションツールパレット. . . . .	37

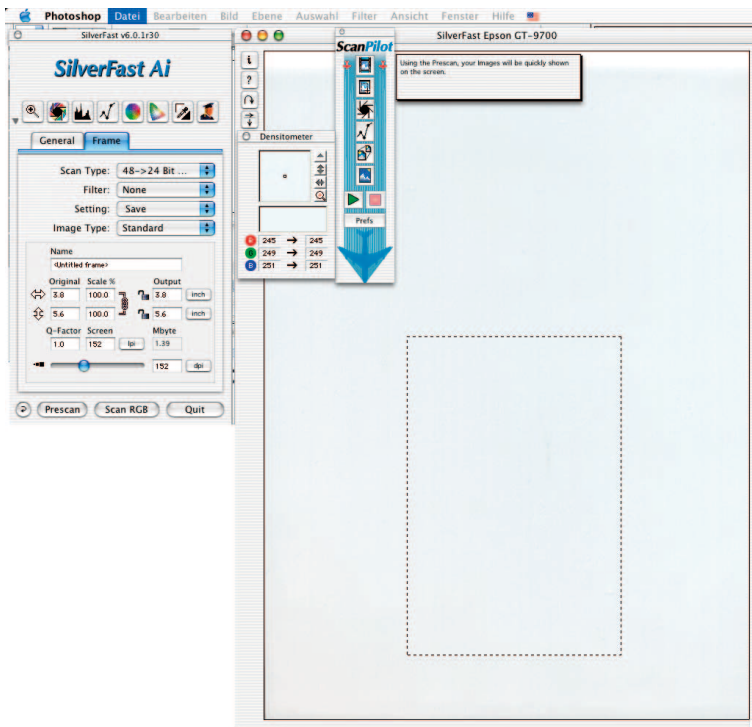
## SilverFast ダイアログ画面

### Macintosh 版



Photoshop プラグインの開始

**SilverFast** 選択後、以下のスキャンダイアログ（作業画面）が表示されます。スキャンダイアログ画面はお使いのモニターのサイズに従った最大のサイズで自動的に画面を開きます。



“Resize-Box（リサイズBOX）” 利用で、スキャンフレームは希望のサイズに調整可能です。スキャン画面のリサイズ後、新規プリスキャンの起動を推奨します。

Win OS では、プリスキャン画面はプリスキャンフレームのドラッグ/プッシュによってスケール調節できます。

## SilverFast ダイアログ画面

### Windows 版

プリスキャン画面の右/下端のドラッグ/プッシュによって、プリスキャン画面サイズの拡大縮小を行います。



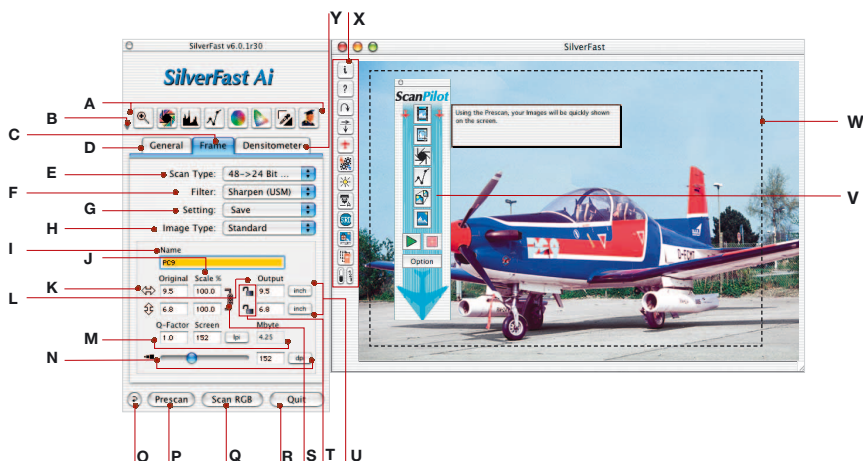
#### Note:

多くのスクリーンショットは Mac 版からのものです。Win 版ユーザーインターフェースは **Options** ダイアログの例外を除き、Mac 版と同一です。Windows 用キーボードショートカットは、当マニュアルの巻末付録にあります。



## SilverFast ダイアログ概要

**SilverFast** スキャン画面内部は、すべての調節が明確に視覚化されています。全ての重要なパラメータは、左側フローティング画面にあるツールパレットからアクセスするツールによって調節できるでしょう。



- A Tools palette:** オートアジャスト、ズーム、ヒストグラム、グラデーション、グローバル・セレクトティブコレクション、ハイライト/シャドウ設定、エキスパートダイアログ
  - B Minimize** ウィンドウ
  - C Frame** パレット
  - D General** パレット
  - E Scan type:** カラーデプス、グレースケール、ラインアート、HDRチューザー
  - F Filter** アンシャープマスキング、ディスクリーニング
  - G Scan frame parameters:**  
save, load
  - H Image type presets:**  
異なるプリセットの選択
  - I File name**
  - J Scaling factor:**  
オープン/ロックによる非一様なスケーリング  
(画像比率の歪み)
  - K Input dimensions:**  
プリスキャンフレームに対応する高さ&幅
  - L Output dimensions:** プリスキャンフレームに対応する高さ&幅
  - M Quality factor, Output screen, Output file size**
  - N Scan resolution** dpi / dpcm
  - O Reset** ボタン
  - P Prescan** ラUNCHボタン
  - Q Scan** スタートボタン  
RGB, CIE Lab, CMYK スキャンへの切替可能
  - R Quit** SilverFast 終了
  - S Lock closed:** スキャンフレームの比例スケーリング
  - T Lock** 幅/高さの固定
  - U Measurement units:** (計測単位)  
pica, point, inch, cm
  - V ScanPilot** 画面+ヘルプテキスト
  - W Active scan frame**
  - X Special functions** 特別機能&特定スキャナー機能
  - Y Densitometer** /デンシトメータパレット

## プリスキャン画面内ツールバー



### \*/\*\* 注意事項

- \* この機能の有効性は使用するスキャナーモデルに依存します。
- \*\* IT-8 キャリブレーションは一定のスキャナーモデルに含まれ、その他と共にアップグレードオプションとして利用可能です



**Info:** インストレーション、バージョン、アクティベーション関連情報と共に **SilverFast** ウェルカムダイアログを表示します。  
これで追加機能をインストールする際に、アクティベーションダイアログに戻る事も可能です。



**Help:** **SilverFast** 用PDFヘルプテキストを開きます。



**Prescan rotation:** 90度の時計回りでプリスキャンイメージを回転させます。Shiftキーを押したままの場合、イメージは反時計回りに回転します。ランドスケープやポートレート用イメージの正しい表示を可能にします。



**Prescan mirroring:** プリスキャンイメージを水平/垂直方向にミラー反射します。



**ScanPilot:** スキャン完了までの必要なステップを自動的にガイドします。



**JobManager:** **SilverFast** JobManager をアクティブにします。



**Automatic density\*:** この機能は、スキャナーがスキャン前にイメージの濃度範囲をを解析し、ハードウェアに最適化するように調節可能です。



**Focus\*:** フォーカス機能は“automatic”（焦点がイメージの中心）か、“manual”（ユーザーによって焦点を定義）に設定可能。スキャナーはその後、スキャン&プリスキャン前に最適なフォーカスを決定します。



**Eject button\*:** スライド/フィルムストリップのイジェクトか、挿入済の APS フィルムを巻き戻します（インストールしたドキュメントホルダーかフィルムホルダー類に依存）。最初か2番目に挿入中のスライドはこの方法で実行できます。例）オートマテック スライドフィーダ SF-200 等で



**IT8-calibration\*\*:** IT8-キャリブレーション(オプション)開始。



**Adjustment of Film Strip Position\*:** フィルムストリップの始まりと終わりをチェックします。モーター駆動フィルムフィーダーでは正しくフィルムポジションを行いません。



**SilverFast SRD:** *SilverFast* 全ての版では、汚れ&キズ除去用に **SilverFastSRD** を搭載しています。\*いくつかのスキャナーは「**DIGITAL ICE** テクノロジー」が利用されています。これはスキャナーのハード側で単独動作し、イメージファイルから汚れ&キズを自動的に除去する事が可能です。



**Multiple scanning\*:** 困難なアートワークをスキャン中、被写界深度を改善する事ができます。中間を決めるためイメージは何度もスキャンされます。この方法では、サーマルの働き（特にイメージの暗いエリア）で引き起こされる CCD 音を半分~4分の1減らす事が可能です（一定のスキャナーのみ）。



**VLT\*:** *SilverFastHDR, -DC, -DCPro, PhotoCD* における、メインダイアログ>バーチャルライトテーブル切り替えを行います。



**Image overview dialogue (Index scan)\*:** フィルムストリップ/APS フィルムフィーダーの利用で、**SilverFast** は自動的にイメージオーバービュー（特定イメージの選択&検索を簡素化）を生成します。



**Frame deletion:** アクティブなスキャンフレームを削除します。



**Black and white point and frame number indicator:** ボタンの特定エリアをクリックしたままにすると、ブラック&ホワイトポイント/スキャンフレームの番号を表示します。



**Print image:** 現在のスキャンフレームの印刷を開始します。印刷出力サイズは **Frames** パレットの **Output size** 選択で調節できます。



**Red eye correction\*:** フラッシュで撮られた写真で起こるレッドアイ（赤目）を補正するツールです。



**Quicktime:** Quicktime ムービーを開始して現行ウインドウ用機能をガイドします。



**Preview in Fullscreen\*:** プレビュー内のアクティブなイメージを白色の背景色の前で、フルスクリーンモードで表示します。プレビューの再クリックで画面が閉じます。



**Filmholder for middle formats\*:** いくつかのスキャナーは違う形式のホルダーをサポートします。ここにあるボタンは中間の形式です： 6x4.5, 6x6, 6x7, 6x9cm





## SilverFast ツール

パレットから選択できる **SilverFast** ツールの正しい使い方で、全てのイメージに影響する操作が実行可能です。多くの場合、**Auto-adjust** が満足のいく結果を導きます。しかし、もしイメージ調節プロセスを短縮させたいなら、**Auto-adjust** ツールをクリックするだけで **SilverFast** のカラー解析エンジンがアクティブとなり、すぐに結果を得ることができます。

2

キーボード・ショートカット  
キーボード・ショートカットの活用で  
各ツールを使いやすくする事も可能  
です（巻末に収録）

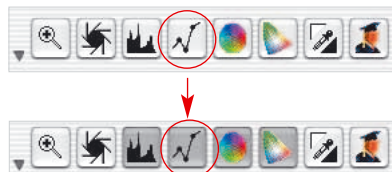


### 設定変更用のレッドインジケータ

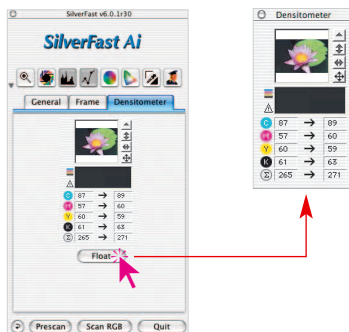


レッドインジケータ

設定が変更された際にアイコンがダークグレー色に変わります。大きなモニターでも、設定が変わったかどうか、変更されたツールで確認することが可能です。



## ロテーション ツールパレット

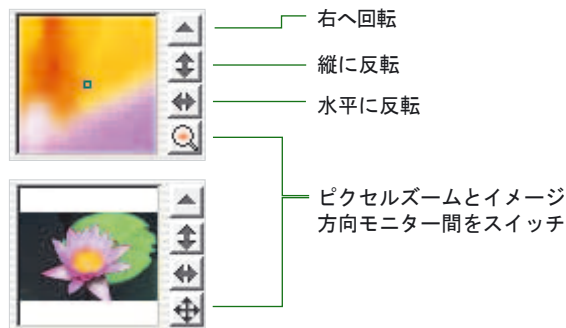


イメージ方向決め用パレットは、デンシトメータ索引カードかデンシトメータ画面にあります。

ここは出力時に各イメージがどう方向決めされるかを判断する事ができます。これは 90度ステップでの回転、垂直/水平での反転も適用できるでしょう。

注) ここに表示されるアジャストメント類はプリスキャン画面左、パネル見出しの縦欄の中で設定を常に上書きして表示します。

ここから landscape 形式でプリスキャンイメージを表示可能ですが、デンシトメータボタンを使い portrait 形式でスキャンした状態にしておきます。これはより大きなスキャンエリアでの作業時に有効です。スキャンベッド全体は方向決めを無視して使われるかもしれません。プリスキャンはイメージ毎の回転が良いでしょう。方向決め出力はデンシトメータで設定します。



小ズームボタン上でのクリックは、回転/フリップ（反転）度数を表示させてイメージ方向決め画面を元に戻します。



最上部の小さな三角マークをクリックすると、イメージはスキャン中（三角は赤になり、右方向を指示） 90度時計回りに回転します。ロテーションアイコン上での各クリックは、イメージを別の90度時計回りに回転させます。反時計回りに回転させるには、Shift キーを押したまま、ロテーションツール（三角）をクリックします。







### 第三章 プリセット

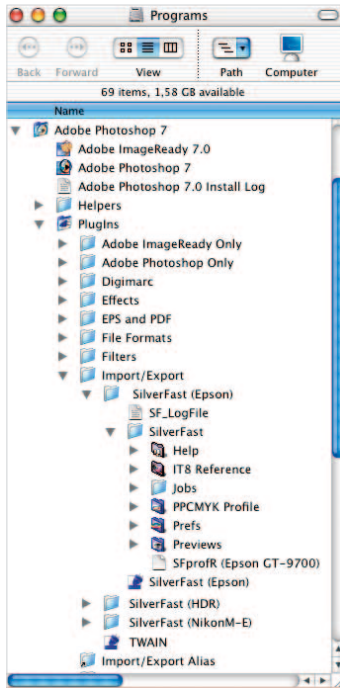
## プリセット

この章では **SilverFast** で利用できる、様々なオプション & プリセット類を説明します。スキャンを行う前に、オートアジャスト用ハイライト/シャドウ・プリセット設定のような重要なオプションをチェック願います。

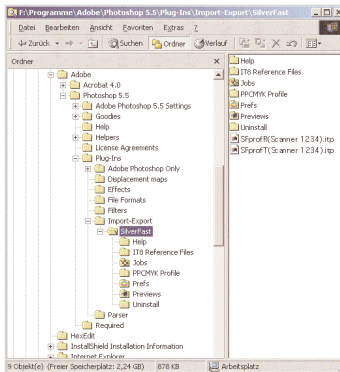
3. プリセット	39-66
<b>SilverFast</b> プリセット (prefs)	41-42
計測単位: cm, inch, pica, point, pixel	42
オプション	43-54
“General” プリセット	43-46
“Auto” プリセット	47-49
“CMS” プリセット	50-52
“Special” プリセット	53-54
Adjusting Scan パラメータ	55-61
“General” プリセット	55-56
“Frame” プリセット	55-59
スケーリング	62-63
プロポーションアルスケーリング	64
ピクセルロック	65
ドラッグ&ドロップ	66
スキャナースイッチング	66



## SilverFast プリファレンス (“Prefs”)



Mac Prefs



Win Prefs

**SilverFast** プラグイン全てはピクチャーエディタディレクトリに “**SilverFast**” フォルダを作成します。そのフォルダは実際の “**SilverFast**” プラグインと平行して “Previews” (全プレビューファイル用), “Prefs” (全プリファレンスファイル用), “PPCMYK profiles” (セパレーションテーブル用), “Help” (PDFヘルプファイル用) 等の追加サブフォルダを含みます。**SilverFast** は、その Prefs ファイル関連スキャンパラメータ全てを保存します。これらプリファレンスファイルは **SilverFast** 初回起動後に自動的に作成されます。下記ファイルが **SilverFast** で生成されます。

### 1. SilverFast Preference File (Prefs “Prefs” Folder)

**SilverFast** Prefs ファイルはプラグインのある **SilverFast** フォルダ内部に存在し、各スキャンフレームのパラメータの設定に従って、絶えずアップデートされます。

### 2. SilverFast Application File (Prefs “Prefs” Folder)

**SilverFast** 用基本設定。

### 3. SilverFast Preview File (Previews “Previews” Folder)

2つの **SilverFast** Preview Fileがあります: 反射用と透過用。ファイルサイズはプレビュー画面のサイズに依存します。プレビューファイルは、スキャナーがプレビュー作成時に自動的に生成されます。

### 4. SilverFast Zoom File (Previews “Previews” Folder)

**SilverFast** Zoom Fileは、ズームがプレビュー画面内で実行されている時に生成されるため、ノーマルプレビューとズームプレビュー間で切り替えできます。ズームファイルは新規ノーマルプレビューを実行してプレビューをズームするか、かなり異なるサイズのズームエリアにした場合のいずれかになるまで同じままです。

## 5. **SilverFast** Unsharp Masking Preview File

(  Previews “Previews” Folder)

**SilverFast** USM プレビューファイルはアンシャープマスキングプレビューの実行時に生成されます。次回ダイアログを開くと、前回のアンシャープマスキングプレビューがまだあります。

## 6. **SilverFast** Descreening / Unsharp Masking Preview File

(  Previews “Previews” Folder)

いくつかのスキャナーではディスクリーニングと同時のアンシャープマスキングを処理します。USM に関し、そのプロセスは自動的に保存されるプレビューファイルを生成します。

## 7. **SilverFast** Calibration File ( **SilverFast** “**SilverFast**” Folder)

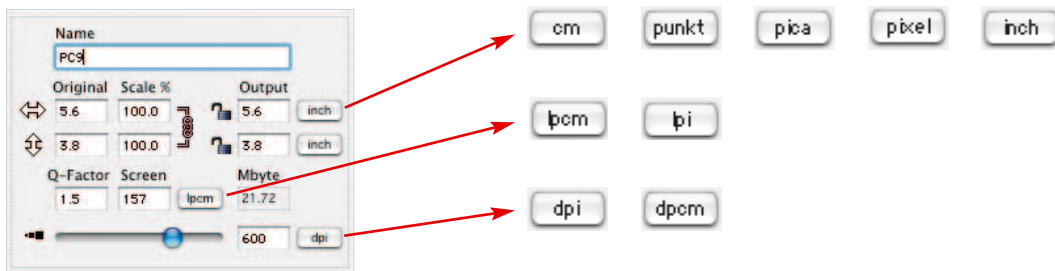
IT8 target calibration (可能であれば)は2つのキャリブレーションファイル (反射&透過) があります。

## 8. **JobManager** Files ( “Job” Folder)

**SilverFast** JobManager はファイルをジョブフォルダに保存します。

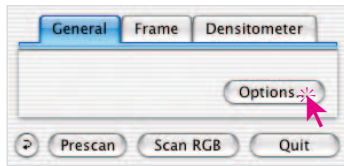
## 計測単位: cm, inch, Pica, Point, Pixel

全ての **SilverFast** プラグインは補足の測定ユニットが付属します。cm, inch の他に、pica ,point ,pixel があり、フレームファイルカードから選択可能です。切り替えるには、計測ユニットのアイコン上で単にクリックします。





## オプション\*



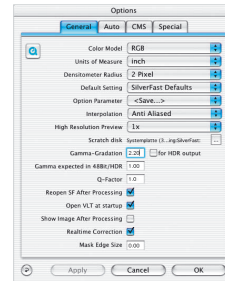
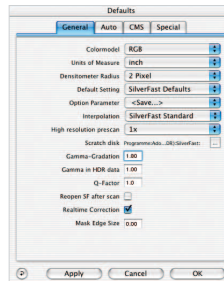
**SilverFast** でスキャンする前に“**Options...**” ダイアログ下 **General settings palette** で明確な設定を記入して下さい。これらのプリファレンスは次のスキャン操作に自動的に組み込まれます。



\*注) : デフォルトダイアログ画面は、スキャナー間で異なり、いくつかの機能は一定のスキャナー/一定の画像処理ソフトのみで利用できます。

## General デフォルト

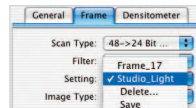
General デフォルト\*  
左: **SilverFastAi**  
右: **SilverFastDCPro**



- Colour model RGB or CMYK  
RGB (0-255 値)、CMYK (0~100%量) 間の切り替えはここで行われます。これらの設定は **SilverFast** の画面内のディスプレイ&計算モードでのみ影響します。CMYK か RGB ファイルでのスキャンの決定は異なる段階で行われます。  
（“Plug & Play CMYK” を参照）
- cm/inch での計測ユニット  
計測ユニットは、cm, inch, Pica, Punkt, Pixel の間で切り替え可能です。
- デンシトメータ範囲  
デンシトメータの読み込みエリアは、1, 2x2 ,3x3 pixels に設定可能です。

## • Default setting

ここでは前回定義したデフォルト設定が選択できます。これらの設定は“**Frame**”パネルの“**Settings**”下に名前を割り当てられています。“**Apply**”ボタンを使って新規デフォルト設定が現在アクティブなフレームに対して即座に適用させる事ができます。どの新規フレームも自動的にデフォルト設定が割り当てられます。



## • Options parameter

“Option “ダイアログの全設定を単一の出力ファイルに保存 (&ロード) します。その他全てのパネル “Auto “, “CMS “, “Special “ の全設定は同じように保存されます。特別な作品シナリオ用設定は、いつでも簡単にリロードする事ができます。

## • Interpolation of scan resolution

補間方法の選択: “Standard” か “Anti-Aliased” 。  
“Anti-Aliased” グリッド構造の物は効果的に除去されるでしょう。

## • High-resolution prescan

**SilverFast** で加工作業をよりクイックに行うには、通常のプリスキャンに実際必要なものよりプリスキャンを 8倍大きい解像度を選択します。



その利点はむしろメガネ利用のズームの活用です。

**SilverFast** は既に利用可能なデータの訂正や、拡大したプレビューの素早い表示が再スキャンする事なく可能です。そのため最初のプリスキャンは通常のものより若干長めです。もし選択したズームがデータパラメータ内に残っている場合、拡大メガネはグリーン色に変わります。

- **Scratch volume**

特別なスクラッチボリューム（特別な分割）を **SilverFast** に割り当てる事が可能。それにより、テンポラリーファイルがそこに保存されます。そのようなテンポラリーファイルは、バッチモードでのスキニングで起こりえます。例）スキャンプロセス完了後、ファイルは自動的に再度削除されます。

- **Gamma-gradation**

これは中間トーン&シャドウ用イメージの一般ブライトネス調整です。一般的に、ガンマ 1.6-1.8 が推奨されます。透過に関し、ガンマは通常反射用（透過 1.8-2）より高めです。色調値を公平に表示するためにモニターを正しいガンマに設定するようチェック下さい。最適な結果は、グレーキャリブレーション・ストリップをスキャンしてガンマをそれに従って調整します。

- **Gamma-gradation for HDR output**

チェックBOXのクリックで、現在のガンマ値が処理の間、48ビットデータに適用されます。48ビットスキャンはイメージ適用において、幾分明るく見えるでしょう。

- **Q-factor**

**Q-factor** はイメージのクオリティファクターです。範囲は 1~2.5 です。以下の付録部分を参照下さい。  
(Calculating the scan resolution)

- **Reopen SilverFast after scan\* (only with SilverFast Ai)**

通常、**SilverFast** (Photoshopプラグインとして)はスキャン後に閉じ、そして次回スキャン時に再度スタートします。

- **Reopen SilverFast after processing\* (SilverFast DC, -DCPro, -HDR)**

通常、**SilverFast** (Photoshopプラグイン) は画像処理後に閉じ、次イメージ用に手動で再オープンさせる必要があります。これは「ノーマル&バッチ」モードでの作業時のみ適用されます。

“... (File) “ か to Album “ モード使用時、**SilverFast** は処理後も開いたままです。



注意

“デフォルトダイアログ” 画面はスキャナー毎に異なり、いくつかの機能は一定のスキャナー/画像処理ソフトのみで利用可能です。



\*注意

デフォルトダイアログ画面は各スキャナーで異なり、いくつかの機能は一定のスキャナー/一定の画像処理ソフトのみ利用可能です。

- Open VLT at start up\*

**SilverFastDC, DCPro, HDR**の起動の度に VLT が開く場合は、この BOXをチェックして下さい。

もしアクティブならば、**SilverFast** のメイン画面は開かず、VLT が表示されます。VLT がその後閉じる場合、**SilverFast** メインダイアログ画面がすぐに開きます。

- Displaying a processed image\*

(**SFLauncher** 利用での **SilverFastDC, DCPro, HDR** のみ)

このオプションが選ばれると、完成ファイルはファインダーで開かれます。(“Normal (File)”と“Batch mode (File)”が選択されると適用可能)

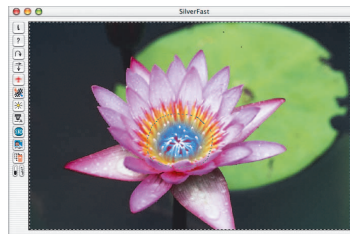
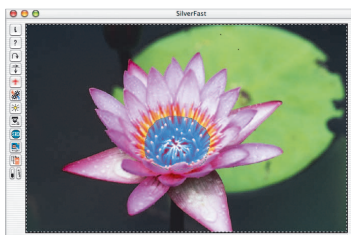
- Realtime Correction

旧型および低速のパソコン利用のために、通常の現在リアルタイムコレクションはオフにできます。

- Mask Edge Size (Width of Soft Mask)

**SilverFast6** では、セレクトティブカラーコレクションと共に使われるマスクの境界ソフトネスを定義する事が可能です。以前に急なトランジション（変わり目）があったならば、今度は非常にスムーズなものに定義する事ができます。

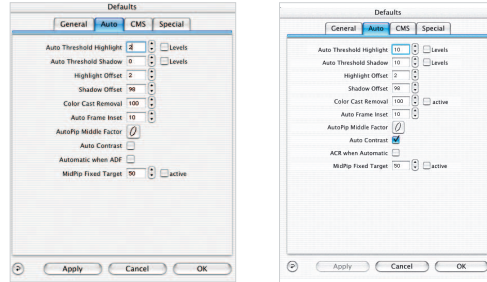
左図の例は、値 0.00 で表現されている旧機能、右図ではトランジションを値 0.05 に定義したものです。



値の変更と Apply ボタンのクリックにより、エフェクトはプレビュー画面内でモニター可能です。もし結果が思い通りなら、OK をクリックして Options... ダイアログを閉じます。

## Auto デフォルト\*

“Auto” Palette\*  
左: SilverFastAi  
右: SilverFastDCPro



- ハイライト&シャドウ用オートスレシヨルド  
オートアジャスト用感度 (0-30) を指定。低めの値＝より高感度になります。推奨値は 2-12 です。“Levels”選択でヒストグラムに移行する時、ピクセルレシオに代えて R G B レベルを使用する事ができます。この機能は“auto-adjust”のみの使用でスキャニングイメージで白、黒のようなベース色を除去してイメージを最適化したい場合に効果的です。



注意! スレシヨルド、ハイライト/シャドウ変更時にはディテールが失われることにご注意下さい。これはクリッピング効果が起因しています。

- Highlight offset (brightest point)  
% における (例、3%)、最も明るい地点の最小値。



- Shadow offset (darkest point)  
% における (例、98%)、最も暗い地点の最大値。



\*注意

“デフォルトダイアログ” 画面は、スキャナー毎に異なり、いくつかの機能は一定のスキャナー/一定の画像処理ソフトのみ利用可能です。

- Colour Cast Removal\*  
ここでは現在のカラーキャスト（色かぶり）を自動的に除去する量を指定します。100 の値はカラーキャストが完全に除去される事を意味します。  
その自動化は、“active” BOXそれぞれをチェックする事でアクティブ/非アクティブにできるでしょう。

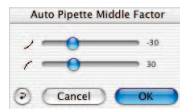
## • Auto Pipette Middle Factor

オートピペットミドルファクターはグラデーションカーブの自動アジャストメント利用によって自動グラデーションが、暗すぎ、明るめ、明るすぎ、暗めであるイメージに如何に作用するかに影響します。

両スライダーは通常、オートアジャストの range , strength を制限します。

両スライダーはオートアジャストがイメージの中間トーンに影響する量のみ決定します。

ハイライトとシャドウには影響しません。



下向きに反ったスライダーはオートアジャストがイメージの中間トーンを減少させる量（つまり、グラデーションカーブがどれくらい下方に曲がるか）を決定します。

上向きに反ったスライダーはオートアジャストがイメージの中間トーンを増加させる量（つまり、グラデーションカーブがどれくらい上方に曲がるか）を決定します。

例：もしプリセット値 -30/30 が最大値 -100/100 に変わる場合、イメージの中間トーン上のオートアジャストの効果は最強になります。そのような、ありえそうな設定では、そのオートアジャストは強すぎる反応になり、イメージはオーバーコレクト（過補正）気味になりがちです。

もしプリセット値 -30/30 が最小値 -0/0 に変わる場合は、オートアジャストはどの中間トーン補正も実行できません。グラデーションカーブは変化せずに、いわば直線のままになります。

それから独立して自動コントラストはグラデーションカーブの変更をさらに産み出します。この場合、自動コントラストが **OPTION \ panel “Auto“ \ check box “Auto / not”** 下でアクティブになっているかをチェックする必要があります。

スライダーの数値はどの寸法にも関係ありません。これらは自動による影響の “Strength “ に影響します。  
0 の値は影響なしを表し、100 の値は最大の影響を表します。



\*注意

“デフォルトダイアログ” 画面はスキャナー毎に異なり、いくつかの機能は一定のスキャナー/一定の画像処理ソフトのみ利用可能です。

- Frame inset

現在フレームがイメージオートアジャスト/**NegaFix** オートオレンジマスク・リムーバルの実際の使用から控除される量を決定します。A 10 は現在フレームの 10 %が外側から控除される事を意味します。

- Auto-contrast\*

このチェックBOXがチェックされると、イメージオートアジャストはイメージの現在のコントラストを評価し、それに従いコントラストを増減します。

この機能は多くのスキャナーに組み込まれますが、常にデフォルトでアクティブではなく、フィルムスキャナーでこの機能は常にアクティブではありません。フラットベッドでオートコントラストは反射用にはアクティブで、透過用はアクティブではありません。お持ちのスキャナーが強すぎるコントラストを示す場合、このメニューに従いオートコントラストがアクティブか非アクティブかをチェックして下さい。

- ACR with auto-adjust\*

このBOXをチェックすると、イメージオートアジャストはイメージの現在のサチュレーション（彩度）を評価してそれに従いサチュレーションを増減します。

- Automatic when ADF\*

自動ドキュメントフィーダからバッチスキャンが行われる時、この機能はスキャニング中、各イメージでオートアジャストを実行します。このオプションはユーザーが各スキャン用のメイン **SilverFast** 画面内のシャッター記号をクリックする場合と同じ効果になります。

このオプションは全てのスキャナーで利用できません。

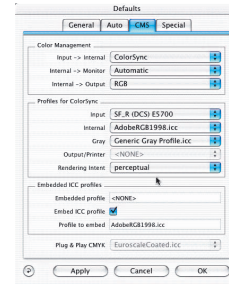


\*注意

“デフォルトダイアログ” 画面はスキャナー毎に異なり、いくつかの機能は一定のスキャナー/一定の画像処理ソフトのみ利用できます。

## CMS（カラーマネジメント）設定\*

“CMS” パレット\*  
左: **SilverFast Ai**  
右: **SilverFastDCPro**



### Colour Management

ここではワークフローで使われる全てのカラーマネジメントが決定されます。

#### • CMS Scanner > Internal\*

現在のスキャナーのカラーデビエーション（色ズレ）補正に選んだモデルを選択できます。

選択は以下から；“none”、“use embedded profile”、  
( **SilverFast HDR , DC, DCPro, PhotoCD** でのみ )、  
“ColorSync” キャリブレーション (Windows: “ICM”)

#### • CMS Internal > Monitor\*

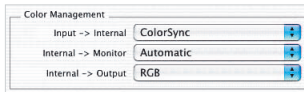
ここでは **SilverFast** の内部カラースペース（色空間）から定義されている現在のモニターまでのマッチングです。

“None” はユーザーがどのマッチングも求めない場合です。

“Auto” は Photoshop 内部カラースペース設定がまとめて使われる事を示します。( **SilverFast** の内部 ICCプロファイル設定が Photoshop 内部カラースペースで割り当てられているものと同一であることを確認下さい ) “ColorSync” (Windows: “ICM” ) はユーザーがカラーマッチングを望み、ソフト内部でマッチングを供給しないソフトウェア向けです。

#### • CMS Internal > Output\*

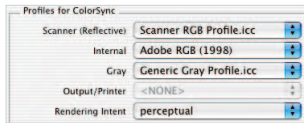
出力カラースペース生成定義用に選んだシステムはここで選べます。マッチング出力なしには “RGB” を選択します。ColorSync での出力には “ColorSync” (Windows: “ICM” )。デバイス独立型カラースペース生成には “Cie-Lab” を選択。**SilverFast** 自身の Photoshop CMYK マッチングへの強力なセパレーション用には “P&P CMYK” です。



\*注意

“デフォルトダイアログ” 画面はスキャナー毎に異なり、いくつかの機能は一定のスキャナーが画像処理ソフトでのみ利用可能です。

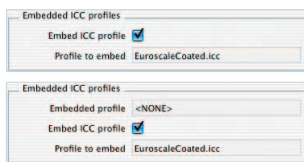




## Profiles for ColorSync (ICM)

ここではプロファイルが使用されるカラーマネージメントワークフローを決定します。

- **Scanner (Reflective)\***  
スキャナーの反射ユニット用 ColorSync プロファイル。
- **Scanner (Transparency)\***  
スキャナーの透過ユニット用 ColorSync プロファイル。
- **Internal**  
内部カラースペース (色空間) 用 ColorSync プロファイル
- **Profiles for ColorSync / Grey**  
ここではイメージファイル内にも埋め込み可能なグレースケールスキャン用 Grey Profile を選択できます。
- **Output / Printer**  
プリンター用 ColorSync プロファイル。
- **Rendering intent**  
出力用途の選択: perceptual, relative colourimetric, saturational, absolute colourimetric.



## Embed ICC profiles

上: SilverFastAi  
下: SilverFastHDR

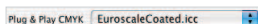
## Embed Profiles

- Embed ICC profiles

このオプションは埋め込んだプロファイルで自動マッチングを行うアプリケーションに対しユーザーがイメージデータを通す事を可能にします。TIFFファイルが **SilverFast** から生成される時、ICCプロファイルが TIFFデータ内へ埋め込まれます。既存の **SilverFast HDR, DC, DCPPro / PhotoCD** と一緒に、埋め込んだプロファイルが追加表示されます。

- Calibration profile\*

IT8 ターゲット・キャリブレーションからのキャリブレーションプロファイル。入力デバイス（スキャナー、デジタルカメラ）のキャリブレーションを実行。**SilverFastHDR, DC, DCPPro** を選択可能。



## Plug&Play CMYK\*

プラグ＆プレイ CMYK セパレーション用セパレーションテーブル/ICC プロファイルをここで選びます。



\*注意

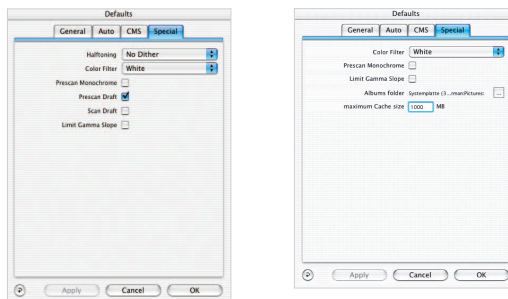
“デフォルトダイアログ” 画面はスキャナー毎に異なり、いくつかの機能は一定のスキャナーか画像処理ソフトでのみ利用可能です。

## Special デフォルト\*

スペシャルデフォルトパレット\*

左: **SilverFastAi**

右: **SilverFastDCPro**



- **Halftoning\***  
lineart モードでのハーフトーンイメージスキャニング用ディザリングアルゴリズム。
- **Colour filter (blind colour)\***  
スキャナーがモノクロームスキャン中にいずれが無視させたいカラーを選択します。レッド、グリーン、ブルーから選ぶことができます。
- **Prescan “monochrome”\***  
グレースケール/白黒のみでのスキャニングを行う場合、“Prescan monochrome” の選択でプリスキャンをさらにスピードアップさせる事ができます。（フィルターはグリーンか白以外の色に設定する必要あり）
- **Prescan draft\***  
クオリティを落とした高速プリスキャン用。
- **Scan draft\***  
クオリティを落としたスキャン用。



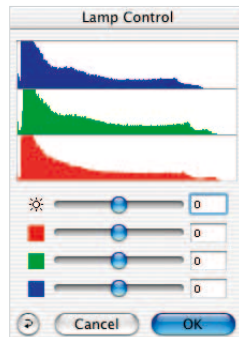
\*注意

“デフォルトダイアログ” 画面はスキャナー毎に異なり、いくつかの機能は一定のスキャナーが画像処理ソフトでのみ利用可能です。

- **Lamp brightness\***

このダイアログは現プレビューイメージの RGBヒストグラムと同じく、“Exposure “（露出）スライダーを持ちます。スキャナーのランプ輝度の増減のシミュレートとヒストグラムとプレビュー画面の効果をモニターする事が可能になりました。

このコントロールで、明るいエリア（ヒストグラム内においてクリップとして表示）の露出オーバーを迅速に避ける事が可能になりました。スキャンが完了する迄待つ必要がなく、あとは始めるだけです。



- **Limit Gamma Slope\***

もしシャドウにたくさんのノイズが見つかったら、チェックした方が良いでしょう。シャドウの中で特に急な傾斜のある、カーブ全領域の傾斜はその後ほぼ直線的作用に減少されます。

- **Albums folder\***

アルバム用ロケーションとパス (**SilverFastHDR, DC, -DCPro** のみ) は、ここで調整できるでしょう。

- **Maximum Cache Size\***

キャッシュメモリーサイズ調節。主に下記製品で使われます：**SilverFastHDR, DC, DCPro**。例、RAWデータ変換は大きな容量を取る一方で、このデータは一時的なメリットのみになります。



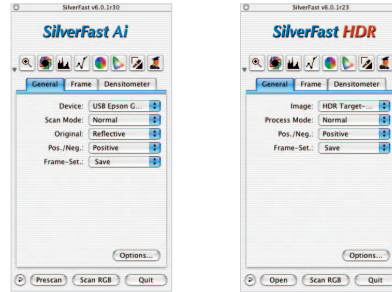
\*注意

“デフォルトダイアログ” 画面はスキャナー毎に異なり、いくつかの機能は一定のスキャナーか画像処理ソフトでのみ利用可能です。

## スキャンパラメータの調節\*

スキャン前に、“General”、“Frame” パネル内の希望するパラメータを入力します。

### “General” パレット



“General” パレット  
左: **SilverFastAi**  
右: **SilverFastHDR**

Device: ☒ SU-Nikon LS-4000

- **Device\* (SilverFastAi)**

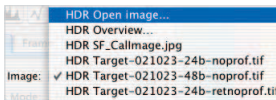
2つ以上の同じメーカーのスキャナーが Mac/PC に接続されている場合、希望のスキャナー選択を要求されます。それ以外では、“Search Device” 経由で接続デバイスサーチ用にパソコンのバスシステムが利用できます。

- **Picture\* (SilverFastHDR, DC, DCPro, PhotoCD)**

ここに表示される最近のイメージと同様の、現行イメージの名前。“Open image” クリックにより、ディレクトリ内新規イメージがサーチされ、開かれます。

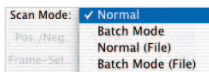
“Overview” クリックで、ディレクトリ全体のコンテンツを表示します。これで1つ以上のイメージが開かれます。

このオーバービューは、プリスキャン画面の左側に配置された縦型ボタン内のそれぞれのボタンクリックでも起動できます。



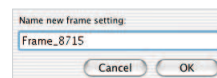
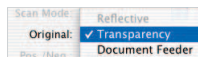
\*注意

“デフォルトダイアログ” 画面はスキャナー毎に異なり、いくつかの機能は一定のスキャナーか画像処理ソフトでのみ利用可能です。



\*注意

“デフォルトダイアログ”画面はスキャナー毎に異なり、いくつかの機能は一定のスキャナーが画像処理ソフトでのみ利用可能です。



## • Scan Mode\*

Scan-Mode 項目から選択：“Normal”，“Batch-Mode”，“Normal (File)”，“Batch-Mode (File)”。

“Normal”では、現スキャンフレームがスキャンされて、イメージは画像処理ソフト（Photoshop等）内の画面に直接現れるでしょう。

“Batch-Mode”では、プリスキャン上の全スキャンフレームが画像処理ソフト内の別々の画面に直接スキャンされます。

“Normal (File)”はアクティブなスキャンフレームをハードディスクへ直接スキャンします。

“Batch-Mode (File)”はプレビュー上の全スキャンフレームをハードディスクへスキャンします。

“to album” \* コピーとしてアルバムへ戻り、最適化の後に現イメージを保存します。

## • Original\*

3つの違うオリジナルタイプが以下より選択できます：

“Reflective” “Transparency” “ADF / Document Feeder”

“Transparency”と“ADF / Document Feeder”は適切なハードウェア追加が可能（そして接続済）な場合、フラットベッドスキャナーでのみ利用可能です。

## • Positiv/Negativ\*

使用するフィルムタイプに従って、“positive”と“negative”から選びます。“Negative”クリックで“**SilverFastNegaFix**”ダイアログ画面が開きます。ポジ > ネガ変換用ハードウェアソリューションを持つスキャナーでは、“Neg. Direct”で動作します。

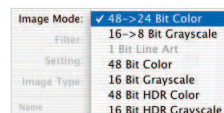
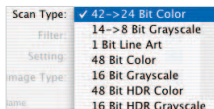
**SilverFastNegaFix**はその後、非アクティブになります。

## • Frame-Sets\*

このメニューはプレビュー上の全スキャンフレーム（名前の項目に個々の位置と個々のパラメータ全部を含んでいる）の保存が可能です。以前保存したフレーム設定はここでロード/削除が可能です。

## Frame パレット\*

“Frame” パレット\*  
左: **SilverFastAi**  
右: **SilverFastHDR**



- Scan Type\* (**SilverFastAi**)  
Image Mode\* (**SilverFastHDR, -DC, DCPro, PhotoCD**)

“Scan-Type” (**SilverFastAi**)、  
“Image Mode” (**SilverFastHDR, -DC, -PhotoCD,..**) において、スキャンの  
カラー深度(ビット深度)を選択します。

ハードウェアの内部カラー深度を基に、  
この選択 BOX 内での選択で出力スキャンのカラー深度を  
決定します。

大多数のスキャナーは 24ビット以上のカラー深度を内部で  
生成します。例) 30 ビット( R, G, B チャンネル毎に 3x10),  
36 ビット( 3x12 ビット)/ 48 ビット( 3x16ビット) は 24  
ビット出力深度に減少されます。**SilverFastAi** はお持ちの  
スキャナーの内部カラー深度を読みドロップダウンメニュー  
の内容に沿って適用します。“42->24 bit colour”はその  
スキャナーが 42 ビット内部カラー深度を使う事を示します。  
SilverFast は内部的に 42ビットを使い、設定を組み込んで  
標準の 24 ビット出力を作成します。

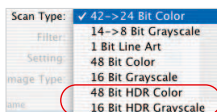
“...Grayscale” 選択はグレートーンレベルの差異に良く対応  
する白黒ハーフトーンイメージファイルの出力を示します。

“...1 bitline art” 選択は純粋な白、純粋な黒の値だけの  
ピクセルになるスキャンを示します。

いくつかのスキャナーでは **SilverFastAi** が標準の24ビットデータだけでなく、ハードウェア対応型のカラー深度の内部情報全体も提供可能です。これは使用するハードに依存して36ビット、48 ビット又はそれ以上のものが可能になります。しかし、コンピュータープログラムはカラーチャンネル毎に8 か 16 ビットのデータしか理解しない為、次に高い出力形式が選ばれることになります。ハードウェアデータ（内部カラー深度）が 48 以下なら、そのギャップは命令される48ビットデータ深度に見合わせる為、0 の値で満たされます。



48ビットファイルは標準 24ビットファイルサイズの2倍である事に注意して下さい！



**SilverFast** はピュアで未補正の “raw data形式” としての48 ビットファイル出力を提供します。

この類のデータ用に対応する選択は：

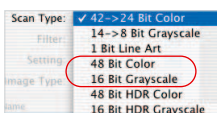
“48 bit HDR colour” と “16 bit HDR greyscale” です。これら2つの選択は、圧縮なし TIFF形式での RGBファイルと同様（変更なし）、ハードウェアにより読まれる “raw data” を提供します。

raw データスキャンモードで唯一利用



できるソフトコントロールは出力補正と

出力解像度です。他の全てのソフトツールは Image モードが raw データスキャンモードに設定されると同時に利用不可になります。



ピュアな raw データ出力に加えて、

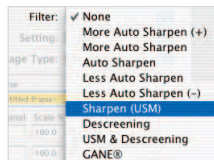


**SilverFast** バージョン 5.5.2 以降は

**high-bit colour corrected output**（高ビットカラー補正出力）を搭載。このモードでは全イメージ補正ツールが引き続き使用可能。対応する選択：“48 bit colour”，“16 bit greyscale”

高ビットデータの利点についての詳細は「JobManager の意味と目的」の章を参照願います。





- **Filter\***

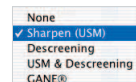
スキャナータイプ\* と条件によって異なったアンシャープマスキング/USM（シャープネス）

“None”，“Less...”，“Auto...”，“More ...”

レベルから選択ができます。または USM ダイア

ログを直接呼び出す事が可能。加えて以下を選択できます：

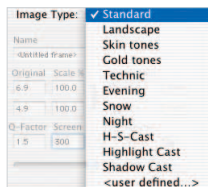
“descreening”，“USM + Descreening”，“GANE”



注) 1度に1フィルターのみがアクティブなスキャンフレームに適用されます。(フィルターの同時使用は不可)

- **Settings**

イメージ操作に関する全ての設定（フレーム位置、名前、スキャンサイズ）は保存か読み込みが可能です。



## • Image Type

適切なイメージタイプの選択により、より正確にご要望に沿ったオートアジャストツールの機能を発揮させる事が可能。

**Standard:** カラーキャスト（色かぶり）除去を使い、ハイライトとシャドウを最適化。

**Landscape:** カラーキャスト除去なしに範囲（コントラスト）を調節。

**Skin tones:** カラーキャスト除去なしに範囲（コントラスト）を減少。

**Gold tones:** カラーキャスト除去なしに範囲（コントラスト）を調節。

**Technic:** カラーキャスト除去なしに範囲（コントラスト）を調節。

**Evening:** ハイライトが保存され、シャドウが最適化。優れたダークトーン（夜など）をもつイメージ用。

**Snow:** シャドウが保存され、ハイライトが最適化。優れたハイライトをもつイメージ用。

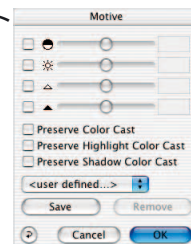
**Night:** ハイライトが保存され、シャドウが最適化。優れたシャドウをもつイメージ用。

**H-S-Cast:** ハイライトとシャドウがカラーキャスト除去でフルに最適化。

**Highlight Cast:** ハイライトとシャドウが最適化。カラーキャストはハイライト内で除去。

**Shadow Cast:** ハイライトとシャドウが最適化。カラーキャストはシャドウ内でのみ除去。

**User defined:** 独自のオートアジャストメントの保存用。





## サイズ 調節

オリジナルの幅と高さのイメージ寸法設定用入力フィールドはプリスキャン上のスキャンフレーム描画によって自動的に設定されます。クオリティファクターを(1.5 推奨)、また希望の最終サイズを入力して、**SilverFast** は最適の解像度とスケールファクターを計算します。

3



スキャン解像度 1:1

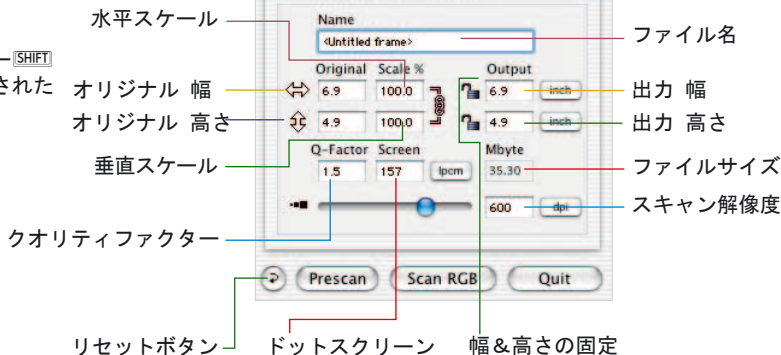
**SilverFast** はスケールとクオリティファクターを内部的に計算するため、ここでは出力イメージ全体用に生じる解像度が示されます。

スキャン解像度の表示

**SilverFast** は “Ctrl” キー **CTRL** を押すと、editフィールドでハードウェアスキャン解像度を表示します。

補間された解像度の表示

“Ctrl” キー **CTRL** と “Shift” キー **SHIFT** は実際のスキャンで起こる補間された解像度を表示します。



## スケールイメージ用のスキャン解像度

スケールファクター入力か、希望する出力サイズ入力のどちらかでイメージをスケール（拡大縮小）させる事ができます。

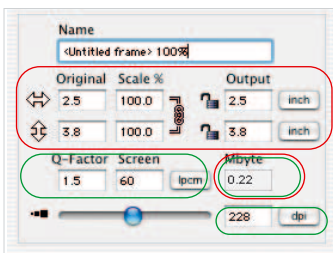
**SilverFast** は不明のファクターを計算、それに従ってスキャンを行います。例、スキャナーに 35mm イメージがあり、これを 4 x 6 に拡大する場合、**SilverFast** で出力サイズを 4 x 6 に設定するだけです。また dpi を希望する出力解像度（印刷用 200 ~ 300 ）に設定します。**SilverFast** はその後、拡大を実行するために必要なスキャン dpi を内部的に計算します。そのため、dpi をたとえ 300 に設定してもスキャナーは非常に高い dpi（Ctrl キーを押してモニター可能）を内部的にスキャンします。

スキャン解像度の表示

**SilverFast** は“Ctrl”キー [CTRL] を押すと、editフィールドでハードウェアスキャン解像度を表示します。

補間された解像度の表示

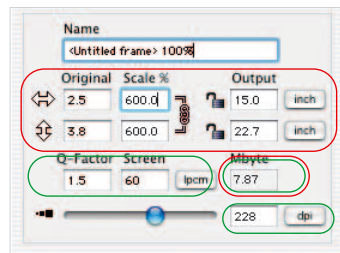
“Ctrl”キー [CTRL] と“Shift”キー [SHIFT] は実際のスキャンで起こる補間された解像度を表示します。



100%での有効解像度



100%での補間済解像度



600%での有効解像度



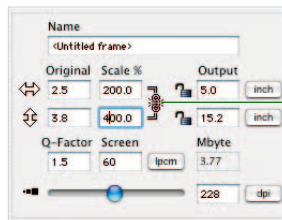
600%での補間済解像度



## 均一でないイメージスケール

幅と高さの比率を可変させる為には Lock をクリックして開くか、または閉じます。

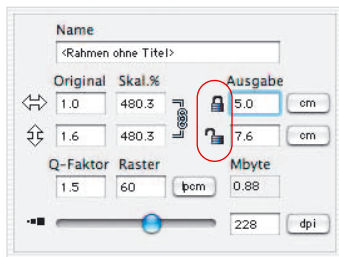
イメージは均一でない水平&垂直比率でのスケールが可能です。均一でないイメージスケールを行うには、ロック解除する水平&垂直スケール入力フィールドに繋がっている黒ラインの上でクリックします。適切なフィールドで希望のスケールを入力し、そして黒ライン上でクリックして再ロックさせます。



Lock

クリックで不均一なスケールをオープン

## 均一のスケール



幅&高さ出力を保持したままの均一スケール

幅&高さ出力（または両方）を保持するため、カタログ製作を例にとると、2つのロックがスキャンダイアログ内へ実行されました。

通常、ロックは開いています。クリックすると、ロックは閉じて入力された幅/高さ（または両方）が固定されます。

幅&高さ出力の固定

幅&高さ（均一スケール）の比率を保持する為、ロックを閉じる必要があります。ハンド（手）をスキャンフレームの一角に移動し、交差させるとカーソル⌘が現れます。これで縦横比を保持したまま、フレームサイズを自由に調節する事ができます。



幅/高さ出力の固定

幅/高さ出力を保持するには、一方のロックを閉じます。ハンドをスキャンフレーム片側へ移動し、水平方向のカーソル⇔が現れます。これで高さ出力へ影響することなく、フレーム幅を変更する事が可能です。幅出力を維持しながら、高さを変更する事も同様です。



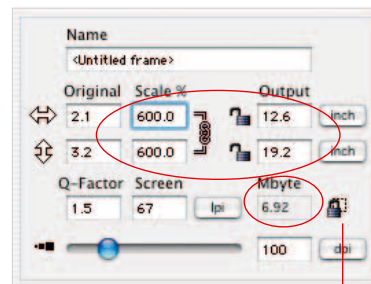
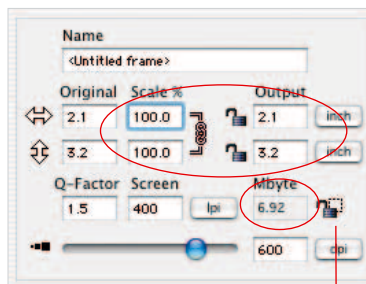
## ピクセル ロック\*



ピクセルロックはオリジナルデータには何も補間が起こらない事を確定させます。

ロックを閉じる時、オリジナルデータのオリジナルピクセル数が保存されます。出力サイズはまだ変更できますが、ファイルサイズとそれ故、ピクセル数は変わりません。出力スクリーンとスケール値だけがそれに従って変更されます。

**SilverFastHDR, DC, PhotoCD** でイメージを開いた後、ピクセルロックを閉じ、ファイルサイズにどんな影響もなく出力サイズとスケールの変更が可能です。ピクセル総計は変わらず残ります。  
注) ドットスクリーンと出力解像度は変更できないでしょう。



\*注意!

ピクセルロックは

**SilverFast** スキャナー独立バージョン  
(HDR、DC、PhotoCD 等) のみで利用  
可能です。

## ドラッグ&ドロップ

**SilverFast** では「ドラッグ&ドロップ」経由で直接的スキャン生成が可能になりました。

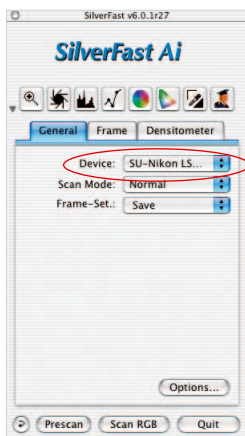
プリスキャン画面の境界上で最適化されたスキャンフレームをクリック&ドラッグして、そこで離す必要があるだけです。

もし別のアプリケーションのバックグラウンドで開かれた文書（例、Microsoft Word 内文書）にドラッグ後、マウスキーを離すなら、そのスキャンは文書の中へうまく落とし込まれるでしょう。別な状況では、スキャンはテンポラリーファイルへ書き込まれます。Mac の場合、スクラップブック内か、デスクトップ/ Finder 上に置かれます。

利用できる RAM が十分でない場合、ドラッグ&ドロップでのスキャンはすぐに限界に達するでしょう。それゆえ、より小さな画像（ファイルサイズ）のスキャンを推奨します。加えて、ドラッグ&ドロップしたスキャンは RGB モードに限定されます。

## スキャナーのスイッチング

**SilverFast** のメインダイアログ内の“General”パレットは“Device”と呼ばれる追加ポップアップメニューを含みます。このメニューは“Ctrl”キーを押しながら、プレビュー画面のタイトルをクリックする際に呼び出すものと同じメニューです。



SCSI: バスの数と SCSI-ID が SCSI 機器と共に表示されます。複数の機器を接続している場合、単純に一方から他方へスイッチする事ができます。

“search devices” 入力、コンピュータ起動後に追加されたリストにないスキャナーの使用を選ぶ事ができます。

USBand FireWire: “search devices” 入力、ここにはなく、**SilverFast** 起動時に既に全ての機器が認識されているためです。





第四章 プリスキャンデザイン

SilverFast プリスキャンデザイン

この章では **SilverFast** のコアデザインへご案内します。全てのコントロールはあなたが見るものとプリスキャンのモニターに依ります。低解像度のイメージとカラーダイナミック範囲毎に 8 ビット以上で作業するこのコンセプトは、他のイメージ最適コンセプトからはかなり異なります。

4. <b>SilverFast</b> プリスキャン コンセプト	67-86
<b>SilverFast</b> プリスキャン コンセプト . . . . .	69
<b>SilverFast</b> プリスキャン デザイン . . . . .	70-80
プリスキャンでのズーミング . . . . .	81-82
高解像度プリスキャン . . . . .	83
プリスキャンズーム画面の編集 . . . . .	84
ズーム&高度な補正. . . . .	85
異なる視覚解像度を持つスキャナー. . . . .	86

### SilverFast プリスキャンコンセプト

全く新しいプリスキャンコンセプトは **SilverFast** で開発されました。それはプリスキャン上で必要な全補正を行わせる事が可能。個々のスキャンフレーム用の全てのパラメータは保持されます。

#### リアルタイム処理

**SilverFast** V5 以降、全イメージ補正（ユーザーがスライダーや入力により使いたいグラデーション、グローバル&セレクトティブカラーコレクションなど）はプリスキャンでリアルタイムに表示されます。これはカラー処理、色調値、グラデーション補正では特に利点があります。

#### プリスキャンコンセプトの利点

プリスキャンデザインコンセプトを理解する事は重要です。とりわけスキャナー利用では、お持ちのスキャナーの内部機能をフルに活用されたいからです。この理由によって、プリスキャンで見た（そして評価した）ものを基にした全てのクオリティファクターをコントロールする事が肝要です。従い、プリスキャンは高速かつ、最終スキャンの低解像度イメージのみとなるため、全ての操作はリアルタイムです。その為、イメージに対して行われた事からすぐレスポンスを得られます。別の利点は行う事全てが完了なしという点です。“Scan” ボタンを押すまでは、最終イメージに対して何もしてはいけません。

## SilverFast プリスキャンデザイン

以下のプリスキャンデザインの利点は、プロダクティビティ（生産性）とコントロールしやすさに焦点が向けられています。

### 1. 反射&透過用に保存したプリスキャン

**SilverFast** は、反射と透過の両方のスキャンの際に、マルチスキャンフレームからの全パラメータ保存が可能です。スキャンフレーム内部の全パラメータは自動的に保存され、いつでもリロードする事が可能です。



## 2. プリスキャンでのマルチフレーム

プリスキャンイメージではどんな希望スキャンフレーム数でも作成する事ができます。手順は、希望する新規フレーム左コーナー上の方へマウスを移動、マウスボタンを押しつつ、希望するフレームの右コーナー下部へマウスをドラッグします。1つのフレームだけが一度にアクティブとなり、そのイメージ内部は **SilverFast** ツールで変更する事が可能です。イメージ内側のクリックにより適切なフレームがアクティブになります。新規フレームの開始地点は既存フレーム外側にすべきです。新規フレームはその後、プレビューのどの地点にでも配置でき、必要なだけフレームをリサイズ可能です。



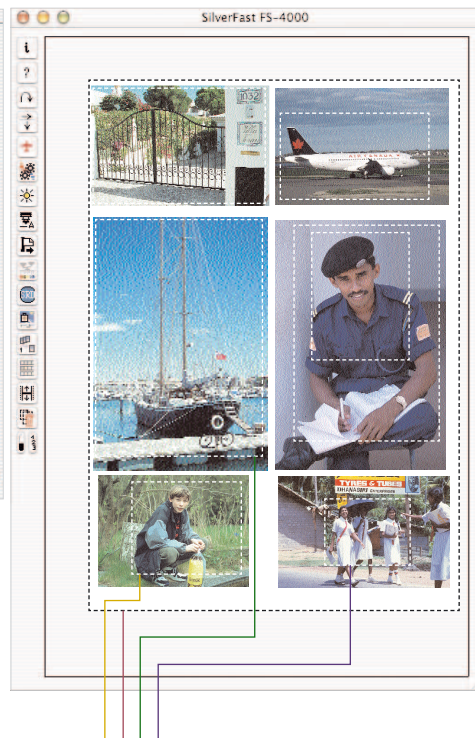
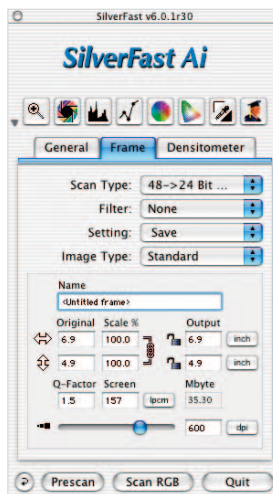
注意：

“Options...” / “Auto” > “Auto Frame Inset” を 0 スキャンフレームに設定し、イメージ自身の内部にあるべき時、境界の無意味でない部分か、またはイメージの外部がオートアジャストの結果に影響する事をチェック下さい。誤ったハイライトかシャドウ値になるでしょう。オートアジャストの設定/手動ダークスト/ブライトストポイント設定の後、スキャンフレームを拡大できます。



SFprefs (Scanner)

全てのスキャンフレームの個々のパラメータは **SilverFastPrefs** 内に自動的に保存されます。



マルチスキャンフレーム

ここはどの希望フレーム数も、スキャナーのフラットベッドスキャンエリアを表している、プレビューエリア上で画像が生成されます。



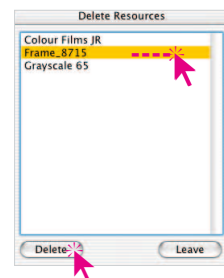
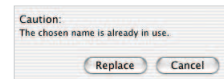
## 3. シングルスキャンフレームパラメータのロード&保存

**SilverFast** では、スキャンモード、ハイライト-シャドウ値、グラデーションカーブ、スケール&スキャン-解像度のような、連携した設定でフレームを保存&リロードする事が可能です。これは、最も必要な設定とフレームをすぐに利用可能にする場合において役立ちます。

その設定全てを使って新規スキャンフレームを保存するには、Frame パネル下 “Settings” > “Save” に進み、適切な名前を入力します。

もし名前に既にあるなら、その名前をリプレイスするかどうかを聞かれます。

設定を削除するには、同じメニューから “Delete” に進みます。現在全ての設定リストが得られます。削除したい設定を選んで “Delete” をクリックします。



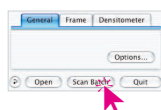
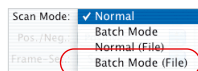
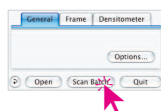
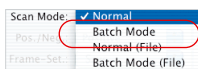
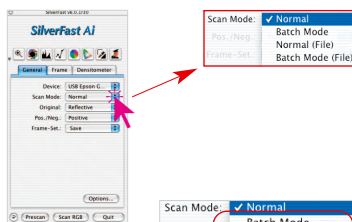
## 4. SilverFast からのバッチスキャン

バッチスキャンはコンピュータ上の多数のスキャン（スキャンフレーム）の自動化処理を表します。

**SilverFast** は様々なバッチスキャンの種類に対応します。

最初にいくつかのスキャンフレームを作り、そして必要ならばそれらフレームへの個々の設定を割り当てます。

“brightest-darkest point/show frame number” ボタンの右半分をクリックすると、フレームナンバリングを表示します。これでバッチモードの1つがアクティブになります。



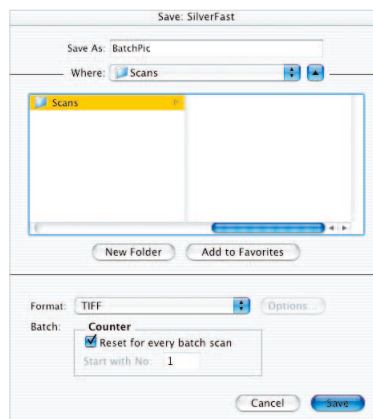
“General” パネルでプルダウンメニュー “Scan Mode” をクリックすると、以下のスキャンモードが利用できます：  
“Batch Mode”、“Batch Mode (File)”

## a. 画像処理ソフトへの直接バッチスキャン

全フレームを1つずつスキャンするには、“Scan Mode” > “Batch Mode” に進み、“Scan Batch” スキャン開始ボタンをクリックします。全フレームは画像処理ソフトへスキャンされます。全てのスキャンは番号付けされます。

## b. ハードディスクへの直接バッチスキャン

全フレームをハードディスクに1つずつスキャンするには、“Scan Mode” > “Batch-Mode (File)” に進みます。また “Scan Batch” ボタンクリック後、下の画面が現れます。



ダイアログ画面ではハードディスクのファイル保存先や一般ファイル名（自動的に番号1〜が付加される）の定義と同様に、フォルダを定義する事ができます。ファイル形式として“TIFF”，“JPEG”，“EPSF”から選択できます。

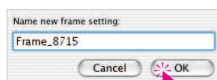
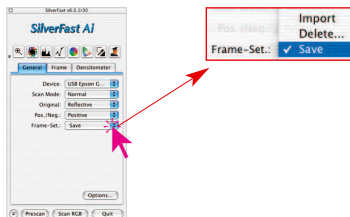
## 5. 1つの設定として複数スキャンフレームを保存&ロード

**SilverFast** は個々の設定にかかわらず、プリスキャン上の全スキャンフレームの設定全体の保存とそのリロードが何時でも可能です。

この機能はフラットベッド/大判タイプのスキャナー向けに特に重要です。

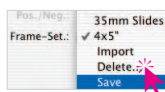
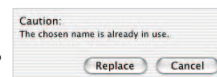
スキャンフレーム位置、ハイライト-シャドウ値、スキャンモード、グラデーションカーブ、スケール、解像度を含む、全設定を保存します。

これで何度も繰り返される作業（例：複数の35mmスライド）にすぐに設定を割り付けて、必要な処理も始める事が可能です。

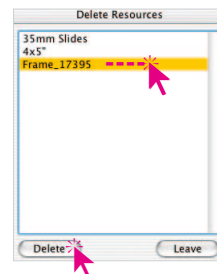


それら設定を利用したスキャンフレーム設定を保存するには、General パネル > “Settings” に進み、適切な名前を入力します。

名前が重複する場合、その名前の書換え（置換え）を行うかどうかを聞かれます。



設定を削除するには、同じメニュー下の“Delete”に進みます。現在の設定の全リストが得られます。削除したい設定を選んで“Delete”をクリックします。





## 6. スキャンフレームのアクティベート

スキャンフレームをアクティブにするにはクリックするだけです。スキャンフレームはアクティブな破線を表示します。

## 7. スキャンフレームの削除



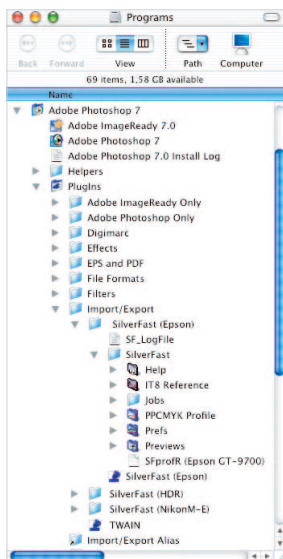
スキャンフレームを削除するにはクリックしてフレームをアクティブにした後、縦型ツールバーの“Delete Frame”ボタンをクリックします。

## 8. プリスキャンフレーム削除中の“Reset All”

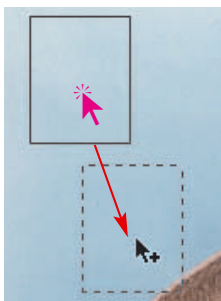
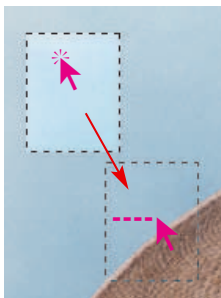


1つのスキャンフレームだけがプリスキャン画面内に表示されている場合、フレーム削除用アイコンのクリックで、全体のリセットを実行する事ができます。

この方法で、全パラメータは“work settings”に戻され、そしてフォルダ“Previews”の内容が削除されます。



再度開く際、**SilverFast** は白で、空の“prescan window”になり、全パラメータはデフォルト設定になります。



## 9. スキャンフレームの移動とコピー

バージョン5からの全 **SilverFast** プラグインはスキャンフレームの取り扱いが修正されました。

クリックドラッグによるスキャンフレームの移動は、以前と同じままです。しかし、移動中スキャンフレームのオリジナル位置のトラックは位置の外で残ります。これは自分で方向付けることをより簡単にします。マウスキーを離すと、古いフレームトラックは消失するでしょう。同時に、新規スキャンパラメータが新しい位置でフレームコンテンツをアップデートします。

“Alt” キーを押しながらのクリックドラッグで、スキャンフレームをコピーできるようになりました。「+」の印がカーソルに次いで現れます。

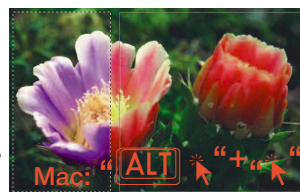
コピー用に以前の機能を継続して使う事が可能です。Alt キーを押しながらアクティブなスキャンフレームのそばでクリックします。**SilverFast** はプリスキャン画面（パラメータと設定全てを含む）における、以前のアクティブなフレームのコピーを作成する事ができます。

## 10. 別のスキャンフレームへパラメータをコピー

Macintosh:

Mac: “ALT”  “+”  “

まず元のフレームをアクティブにし、“Alt” キーを押してコピーしたいパラメータのフレーム内へクリック。次は Alt キーなしで希望フレームへ別の時にクリック。希望フレームはパラメータコピーによってアップデートされます。



Windows:

Win: “ALT”  “

元のフレームをアクティブにし、“Alt” キーを押したまま希望のフレームへ単にクリックします。

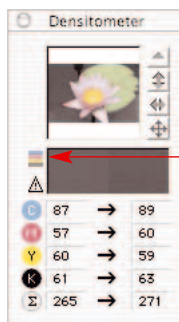
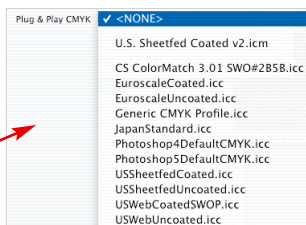
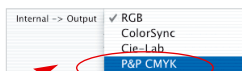
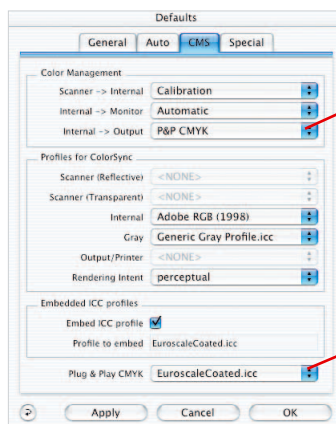


## 11. パーマネント ソフトプルーフ

全 **SilverFast** プラグインの Ver5 以降、プリスキャン画面のノーマル RGB カラーモニターディスプレイは、CMYK カラーシミュレーションへ恒常的に変換可能になりました。これでユーザーはカラーに関して自分自身で確認する事を確実にし、実際のスキャン前にテキストから選択する事が可能です。

切換えの必要条件は“Options”ダイアログ下“CMS”設定内“Colour-Management/internal > Output”から“P&P CMYK”が選択される事と“P&P CMYK”下の同じパレットから最適なセパレーションプロファイル（特性）が選ばれる事です。

お持ちの画像処理ソフトで同じセパレーションプロファイルが選択される事を確認下さい。



これら設定が完了後、デンストメータ画面内の RGB と CMYK の 設定から好きな時にスイッチする事が可能です。

実行するにはソフトプルーフ用ボタンをクリックします。

アイコンをアクティブにするとソフトプルーフがオン/オフになります。アクティブになると明るくなります。



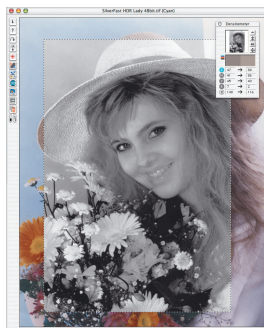
## 12. CMYK カラーセパレーションのソフトプルーフ



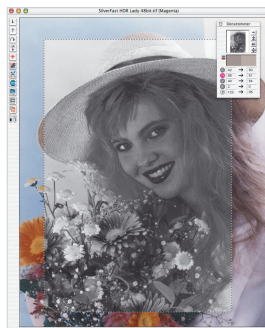
パーマナントソフトプルーフ機能がアクティブである場合、デンストメータの C, M, Y, K ボタンをクリックすると、それぞれの色をプリスキャン画面に表示させる事ができます。これらの色のどのコンビネーションも、ゆえにスキャン前に判断可能です。

シンボル上でのクリックでフル CMYK 表示に戻ります。

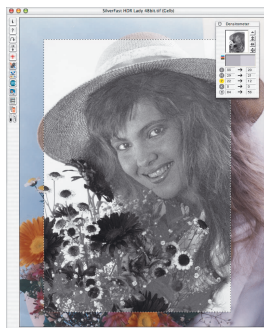
### Colour separation softproof



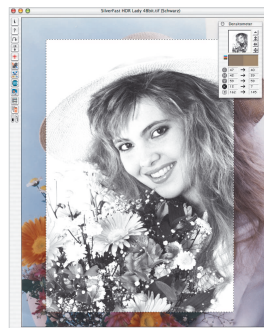
Cyan



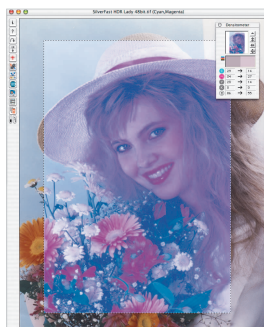
Magenta



Yellow



Black



Combination C + M



C + M + Y



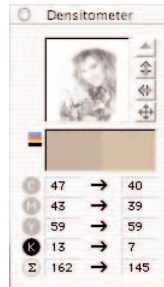
C + K



Y + K

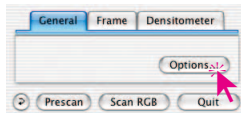
セパレーションパラメータの変更とシャドウビルドアップ効果（例）のコントロール

プリスキャンにおける様々なセパレーションプロファイル効果を既に表示させるのに非常に実用的といえます。

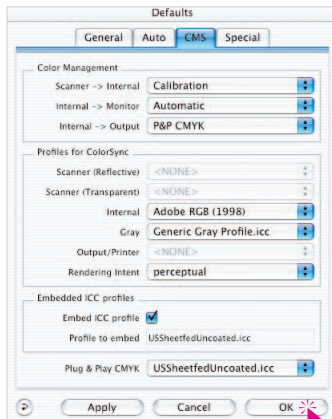


パーマナントソフトプルーフ機能をアクティブに、黒“K”（C, M, Yは非アクティブに）を選びます。プリスキャン画面で、イメージは事前選択したセパレーションプロファイルに従って表示されています。

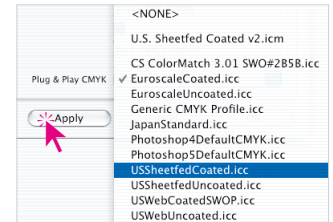
Plug & Play CMYK EuroscaleCoated.icc



別セパレーションプロファイルにスイッチするには、“Options”ダイアログを開きます。



“CMS” パレット “Plug&Play CMYK” プロファイルにスイッチします。

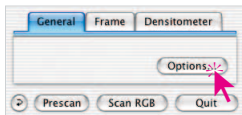


プリスキャン画面にある“Apply”をクリックすると更新されます。変更はプリスキャン画面ですぐに見る事ができます。



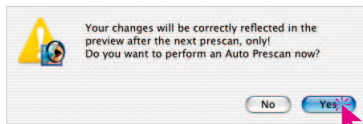
適切なセパレーションがあったら、“OK”でダイアログが閉じます。





## 13. 自動プリスキャン

もし“Option”ダイアログ内のパラメータが変更されていて新規プリスキャン（Gamma, ICC prole, ...）が要求される場合、「このプリスキャンはモニターディスプレイ補正を要求する」という注意が指摘されます。ユーザーが新規プリスキャンを始める場合、それから自分で決める事が可能です。



## 14. フレーム番号の表示



このボタンの右半分を押したままクリックする事により、個々のフレーム番号がそのフレームの上左部分に表示されます。

これら番号の順番は選んだバッチスキャンが起こる順番でもあります。

現在アクティブなスキャンフレームは常に番号“1”を持ち、前にクリックしたフレームは“2”など。

個々のフレームでクリックする事で、バッチスキャンでのスキャン順に影響を及ぼすこれらの電子化が変更されます。

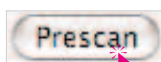
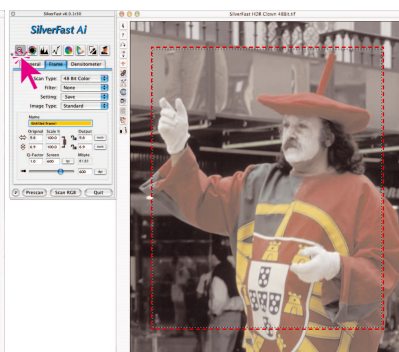
## プリスキャンでのズーミング

### プリスキャン画面内ヘイメージをズーミング

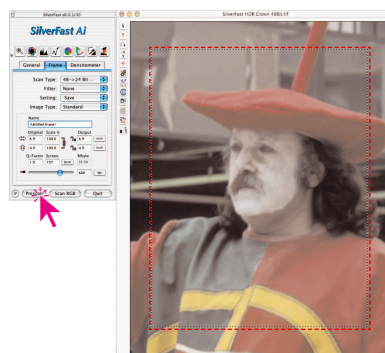


ディテールをプリスキャン画面内へズームするため、そのイメージの希望の部分周囲にフレームを引き、拡大メガネをクリックします。

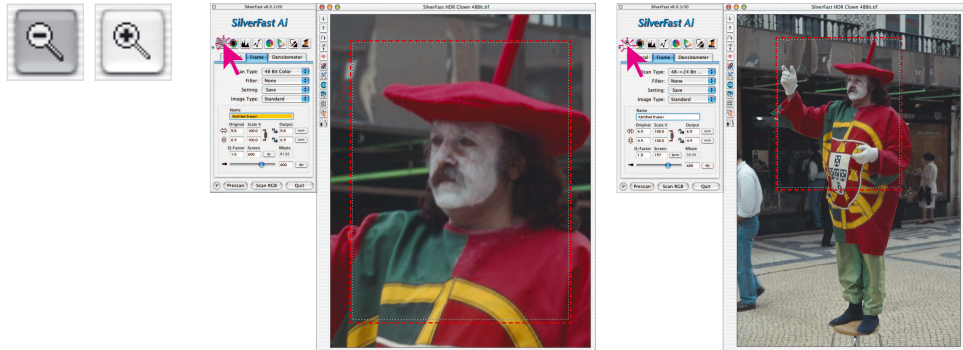
プリスキャン画面内へ素早いズームが起こります。オーバービュープリスキャンに戻る場合は、拡大メガネを再クリック。拡大メガネボタンはトグルスイッチのような働きをします。



ズームプレビューを更に拡大する場合、ズームプレビューでスキャンフレームを最小化して、Prescan ボタンを再びクリックします。



ズームインしたフレームは常にスキャン画面より僅かに短めに  
なります。これに従い、フレーム選択は常に後で補正されます。  
ズームツール上で再びクリックする事により、ズームインした  
プレビューから普通のプレビューにジャンプして戻れます。  
ズームツール上での再クリックは、ズームしたプレビューの方  
に戻すかたちになります。



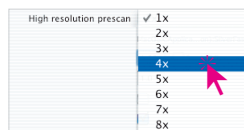
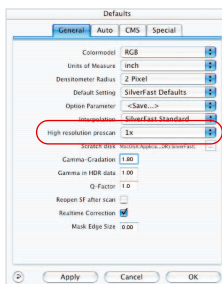
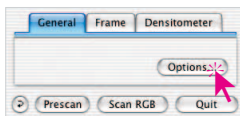
1つ以上の光学レンズ（解像度）を搭載したスキャナーで作業  
する場合、P86を参照下さい。



## 高解像度プリスキャン

**SilverFast** でより迅速にプロセスワークを行う為、解像度を持つプリスキャンを選択（標準プリスキャンに実際必要とするよりも 8倍まで大きくなる）可能です。

高解像度プリスキャンの起動は“General”パレット内の下方にある“Options...”で行われます。



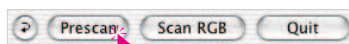
その利点は、拡大メガネ利用によるズームの活用です。**SilverFast** は既に利用可能であり拡大済プレビューをすぐに表示するデータを再スキャンなしに復帰させる事ができます。それゆえ、最初のプリスキャンは標準よりもいくぶん長めに時間を取ります。



選択したズームがまだデータパラメータに残る場合、拡大メガネはグリーンに変わります。



**SilverFast** がデータを補間する必要がある時（プリスキャンでシングルピクセルを既にご覧でしょう）拡大メガネはレッドに変わります。

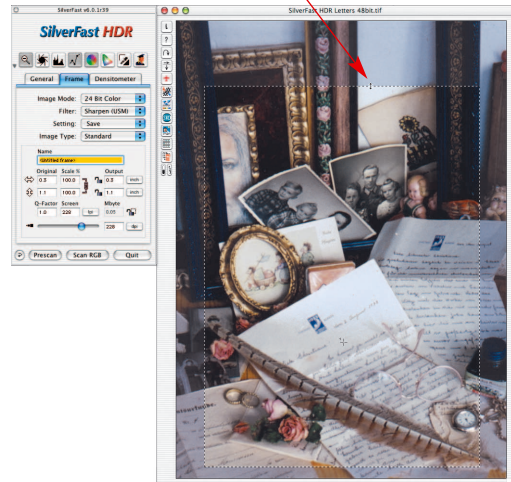
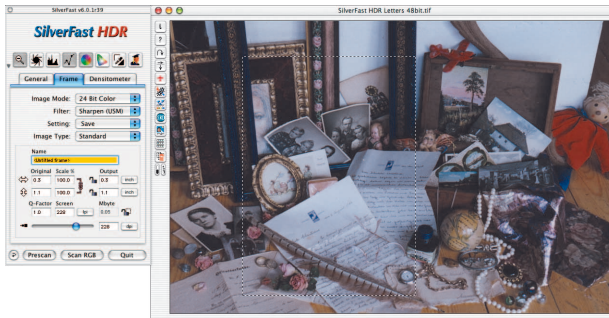


ハード機器から新規プリスキャンを（プリスキャンボタンで）選択できます。この場合、最も重要なインターフェースの、プレビューが常に最適の解像度をもつ事を確実にします。

## ズームしたプリスキャンの編集

ズームした部分はいつでも編集可能です。**SilverFast** ツール全てが利用できます。


ズームした部分は若干大きめにあるいは小さめに作られます。フレームボーダー上で水平か垂直の矢印の表示（移動可能な破線選択範囲）になる迄マウスを動かします。どのフレーム方向かを示す矢印は移動させる事ができます。変更を加えた後、拡大メガネをクリックする事でフルイメージに戻ります。



ズームしたプリスキャン編集後、ズームツールのクリックでオーバービュー スキャンフレームに簡単に戻る事ができます。

## ズーム&高度な補正

**SilverFast** で高度なコレクション（補正）を、特に幾分細かいイメージにおいてご自分の補正を基にする必要がある場合に、**SilverFast** のズーミングコンセプトは理想的なソリューションといえます。以下の手順に従って下さい。

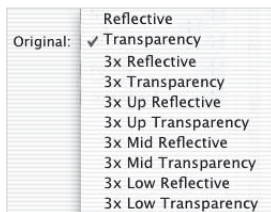
1. よりディテールを見たい選択範囲を選択する。
2. ズームツール（拡大メガネ）をクリック。
3. デンシトメータのポイントを定め、出力値を監視する。  
（デンシトメータのポイント固定は、“Shift”  キーを押してイメージ上の好きな地点でクリックします）
4. 必要とする補正（グラデーション、ハイライト/シャドウ、セレクトティブカラーコレクション）を実行する。
5. オーバービュープレビューに戻る（ズームツール再クリック）  
標準プレビューにいる間、再度ズームして見る必要があるかもしれません。これはズームツール上で再びクリックする事で行えます。プレビューの選択範囲を変更する場合のみは、新規ズームスキャンが開始されます。
6. ここでイメージ全体に及んだズーム選択範囲を終えます。  
（ズーム選択で行った補正は自動的にイメージ全体に適用されるでしょう）。



**SilverFast** は常に2つのプリスキャンをメモリに保持します：スキャンエリア全体であるメインプリスキャンとズームドプリスキャン。選択フレームがメモリ内でズーム済プリスキャンの内部エリアにある間、新規ズームプリスキャンの開始はありません。イメージにズームし、フレームサイズを後で落とした時、ズームツールのクリックで **SilverFast** がより高い倍率で新規プリスキャンを行う事はなく、代わりにズームモードの時にプリスキャンボタンを再び押します。

固定された計測ポイントの設定  
(Multiple Fixpip)  
“Multiple FixPip” P108を  
参照下さい。

## 異なる光学解像度を持つスキャナー\*



メニュー “Original”  
1つの光学解像度を持つスキャナー  
モデル（上）。3つの光学解像度に  
切り換わるスキャナー（下）

いくつかのスキャナー\*は異なる光学解像度を提供するための異なる光学\*を利用する機能を持ちます。通常特別なコマンドで、より高い光学解像度がスイッチオンさせます。これは違う（より小さな）利用可能スキャンエリアになります。フラットベッドの中央内で小さな縦ストリップだけが稀に使われます。

ソフトをハイレゾスキャンモードに設定しても、最初のプリスキャンはスキャンエリア全体を読み取ります。例、フラットベッドではハイレゾスキャンエリア長さ全体を一度に読みます。

スキャナーモデルによって “General” > “Original” メニューで別の解像度モードが見つかります（ここではスキャナーが対応する場合、“Transparency”, “Reactive”, “Document Feeder” を変更する事も可能です）

好みのスキャンフレーム選択中に、ズームボタンのクリックで選択エリアの新規プリスキャンが起きます。ズーム済ハイレゾプレビューはモニタースクリーンの大きき分拡大でき、そこでスキャンフレームの比率が新規プレビュースキャン比率を決定します。正方形の形状のスキャンフレームは、正方形の形状のプレビューになります。

主な利点は、この新しいアプローチによりラージフォーマットパノラマフィルム\*\*（例、6x17 cm ロールフィルム-ネガ\*\*）さえ、ズームプレビューの中で一度にプレビューできる事です。

もしズームプレビューをもっとズームさせたいならば、ズームプレビュー上でスキャンフレームを単にサイズダウンし、プリスキャンボタンを再クリックして新規プレビューを始動します。ズームボタン（拡大メガネ）でのクリックで、スキャンベッド（トグルスイッチ）全体のプレビュー始動を戻します。



### \*NOTE!

機能は各スキャナーで異なり、いくつかの機能は特定スキャナーでのみ、利用可能です。

### \*\*NOTE!

いくつかのフィルムスキャナーは6x9 cm、最大スキャンエリアのみ可能（たとえばマテリアルホルダーがより大きなオリジナルを許容しても）。オリジナル寸法の最大許容に関してお持ちのハードウェアマニュアルを参照下さい。



## 第五章

## ツール



5. <b>SilverFast ツール</b>	87-173
ツール概要	90-91
スキャンパイロット	92-93
イメージ最適化のワークフロー	94-95
5.1. イメージオートアジャスト	96-106
5.2. ハイライト/シャドウツール	105-114
5.3. ヒストグラム	115-129
5.4. グラデーションダイアログ	129-136
5.5. グローバルコレクションダイアログ	137-139
5.6. セレクティブカラーコレクション	140-165
5.7. プリスキャンでのズーミング	166-170
5.8. エキスパートダイアログ	169-171

## 色鮮やかなイメージ用ツール

**SilverFast** はお持ちのスキャナー/ RAWデータ (**SilverFastDC**, **SilverFastHDR**, **SilverFastPhotoCD**) から色鮮やかなイメージを生成する為の全てのツールを備えます。スキャンから色鮮やかな結果を得るベストな方法に親しめるでしょう。はじめのスキャンパイロットの使用は適切な順序だてに役立ちます。

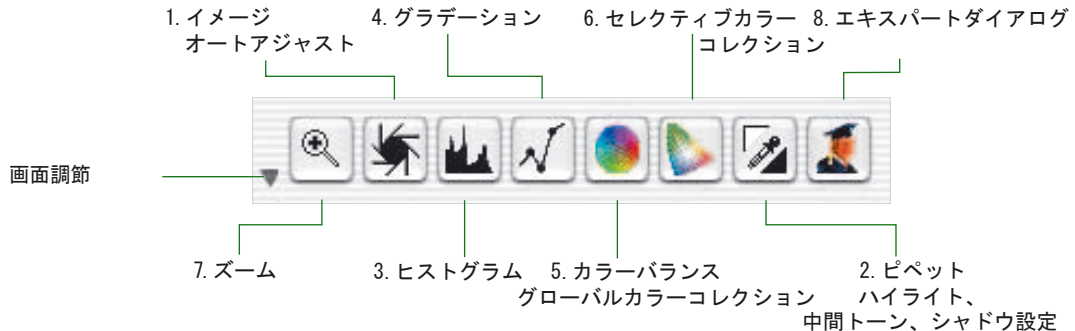
オートアジャストを利用する時、特定イメージへの操作を調節するために適切なイメージタイプの選択を確認下さい。

ハイライト&シャドウ ( “Options...” > “Automatic” ) 用の設定も印刷の条件に従う事をチェックします。

付録における、スキャン解像度の最適条件に関する章を一読される事も勧めます。

## SilverFast ツール

**SilverFast** のパワフルイメージ調節ツールはツールを通じてアクセスできます。これらツールの利用法をマスターすれば **SilverFast** で最高の結果を得られます。



### ツール 1: イメージオートアジャスト (オートグラデーション)

(Mac: + + [2], PC: + + [2])

オートグラデーションを利用したハイライト/シャドウ地点は自動的に最適化されます。カラーキャスト除去が自動的に適用されます（もしくは、スキャナーモデルや選択イメージタイプにより適用されない）。

### ツール 2: ハイライト、中間トーン、シャドウ設定

イメージの最も明るい地点と最も暗い地点、中間トーンを手動設定します。

### ツール 3: ヒストグラム

(Mac: + + [3], PC: + + [3])

ヒストグラムツールでハイライト/シャドウ地点がコントロール&最適化されます。



## ツール 4: グラデーション

(Mac: +, PC: ++)

グラデーションダイアログでは色調値は RGB/CMYカーブ経由で影響されます。グラデーションカーブはスライダー、数値入力やカーブ操作によってコントロールされます。RGB ~ CMY 表現から選択できます。

## ツール 5: カラーバランス (グローバルカラーコレクション)

(Mac: +, PC: ++)

グローバルカラーコレクションを使い、カラーバランスを 1/4, 1/2, 3/4 トーンを含む全ての色調の値に変更する事ができます。

## ツール 6: セレクティブカラーコレクション

(Mac: +, PC: ++)

この非常にパワフルなツールで、単一カラーがカラー全般の影響なしに変更できます。

## ツール 7: イメージズーム

(Mac: +, PC: ++)

イメージズーム (拡大メガネ) を使い、イメージのどの部分へもズームできます。

## ツール 8: エキスパートダイアログ

(Mac: +, PC: ++)

イメージに影響する全パラメータが数字で表記され、変更可能です。RGB ~ CMY 表示にスイッチできます。

## スキャンパイロット/イメージパイロット



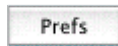
**SilverFast** をまず起動すると、**ScanPilot / ImagePilot** が現れます。これは自動か手動のどれかで、まさに正しい順序でツールを使うための役目を果たします。この画面内のアイコンはプリスキャン、フレームの位置、サイズ、オートアジャスト、グラデーション、出力サイズ、スキャン終了を表します。



下部にあるスタート、ストップ、オプションボタンです。もしスタートボタンを押すと、**ScanPilot** は適切な順序で作業に取り掛かります。



ストップボタンを押すと何時でも **ScanPilot** をストップできます。ここで **SilverFast** ツールを手動利用する事ができます。

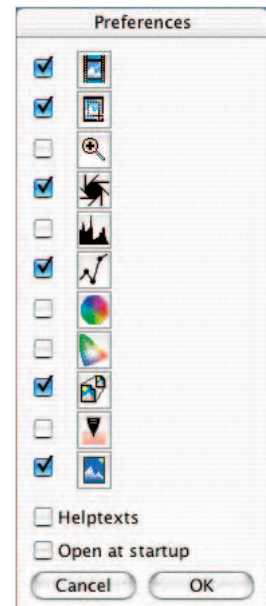


オプションボタンを押す事で、**ScanPilot** で使われるツールリストの拡張ができます。

ツールボタン脇のチェックBOXをマークすると、**ScanPilot** はどの時点でこれらツールを使うのが最適かを表示します。ツールの詳述はこのマニュアル内にあります。

設定ダイアログ画面内では、**ScanPilot** が操作中にツール脇にある簡易ヘルプテキスト (Helptexts) を表示させるかを定義します。

スキャンパイロットを常時使うなら、チェックBOX の “Open at Start-up” をマークします。スキャンパイロットは **SilverFast** スタートの度に開きます。(これはデフォルト設定です)

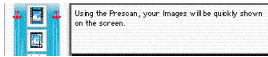


\* **ScanPilot** と **ImagePilot** の違い

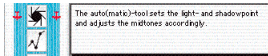
これらに違いはなく、**ScanPilot** は **SilverFastAi** での呼称です。  
**ImagePilot** は **SilverFastDC,-DCPro,-HDR,-PhotoCD** での呼称です。

## ScanPilot のヘルプテキスト

簡易ヘルプテキストは **ScanPilot** そばに有り、次に何を行うかを知らせます。

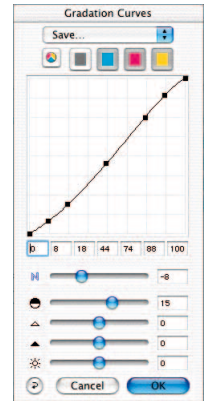


“Frame position” 作業中 “Which part you do want to scan?”  
「どの部分をスキャンしますか？」と聞かれます。フレームの角でマウスをクリックしたまま、希望サイズにドラッグします。



これでオートアジャストがハイライト、シャドウ、中間トーン輝度を設定します。

その後、イメージオートアジャストが自動的に適用され、次のダイアログ画面が現れます。  
(ここではグラデーション)



最終ステップ完了によって、スキャンフレームは画像処理アプリケーション内へスキャンされるでしょう。

この手順をストップボタンを押す事でいつでもストップし、手動で **SilverFast** ツールを利用して進める事ができます。

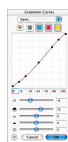
## イメージ最適化のコンセプト

スキャンイメージを最適にする際、正しい順序でのツール使用は結果に大きく影響するため、最高の出力品質を指示し、達成する事ができます。

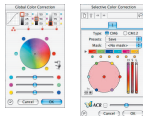
1. 白/黒ポイントとカラーコレクションの基本的選択  
白/黒ポイントとカラーコレクションは手動またはオートアジャスト機能を使って設定できます。



2. グラデーション最適化  
必要なら、グラデーションカーブ（中間トーン&コントラスト）でさらに個々の最適化が可能です。



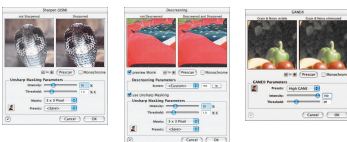
3. +4. グローバルカラー/セレクトィブカラー コレクション  
必要なら、個々の色にセレクトィブカラーコレクションを利用するか、あるいはそのカラー特性にグローバルカラーコレクションを利用して補正する事ができます。また、カラーコレクション適用に ICCスキャナープロファイルを利用する事も可能です。



5. サイズ調節とスケール  
高さと同幅で個々にイメージとスキャンフレームをスケールします。



6. フィルター適用：  
シャープ（アンシャープマスク）/ディスクリーニング/**GANE**  
イメージタイプとスケールに従って、アンシャープマスク/ディスクリーニング/**GANE** 用に最適の設定を選びます。



7. RGB, LAB , CMYK 出力  
“Scan RGB”, “LAB” か “Plug&Play CMYK” を選択。  
印刷タイプ用に適切なセパレーションプロファイルを選びます。



8. スキャン



イメージ最適化のワークフロー

1



イメージオートアジャスト  
ハイライト/シャドウ定義

2



グラデーションカーブ  
調節

3



グローバルカラーコレクション

4



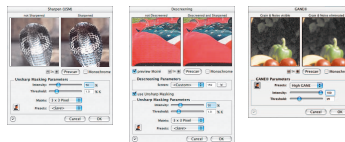
セレクトティブカラーコレクション

5



サイズ調節

6



フィルター: アンシャープマスク  
ディスクリーニング/ **GANE**

7



プロファイル出力

8



スキャン出力

## ツール 1: イメージオートアジャスト

### オートグラデーション



オートアジャストはクイックにイメージ最適化を達成する為の便利なツールです。その機能はイメージデータ（イメージ内の最も明るく、最も暗いエリア）の全ヒストグラム最終地点を解析し、それに従ってハイライトシャドウ地点を設定します。また1/2, 3/4トーンにおける分布がチェックされ、この分布によるグラデーションカーブ（リニア/対数）が補正用に生成されます。

**SilverFast** では、イメージオートアジャストボタンは以下の命令を持ちます。



ブルー

一般的スキャナーでの標準設定。オートアジャストボタンクリックで、イメージ自動化が始まり、既存カラーキャストを補正します。カラーキャストは、ハイライト&シャドウの中で取り除かれます。



カラード

少数のスキャナーの標準設定。既に工場設定で十分ニュートラルなイメージ出力を持ちます。またIT8-キャリブレーション(オプション)でアクティブです。オートアジャストクリックでイメージの自動化が始まり、どの既存カラーキャストも保持されます。

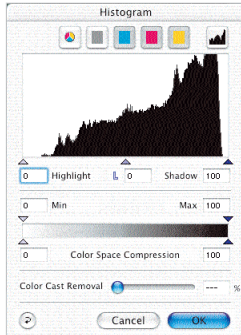


カラード+CM

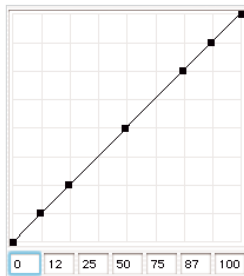
カラードオートアジャストボタンの小さな“C”は、ColorSync ワークフロー (Win: ICMワークフロー) が **SilverFast** 内部でアクティブである事を示します。それはキャリブレーション入力が ColorSync (ICM) に切り換り、ICCプロファイル (Win: ICMプロファイル) が **SilverFast** カラーマネージメント設定(オプション内)の中で割り当てられている際にアクティブになります。

次のサンプルはオートアジャスト使用前後のイメージと対応するヒストグラムを図示します。

やや気の抜けた感じのイメージの理由はハイライトディテール補正のない事がイメージに現れているからです。その理由：イメージ内部に白の値がなく、単に 10 % グレーである。ヒストグラムは白の最初のピクセルが 9～13% の間で始まる事を示します。



オートアジャストなし  
ヒストグラム



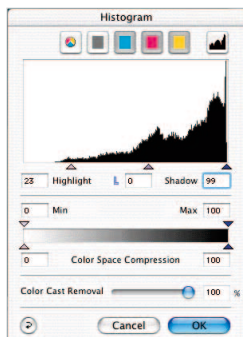
オートアジャストなし  
グラデーション



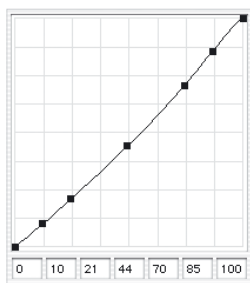




オートアジャストオプションを押すや否や、我々はイメージがいかに輝きの中で獲得するかが理解できます。ヒストグラムで黒のトライアングルマーカーが、ハイライトは現在 13% を示すのを観察する事ができます。この意味は、前のイメージで 13% の値を持っていた各ポイントが現在はホワイトカラー (2-3%) になったという事です。同時に、レッドカラーキャストが明るいエリアから消失したのが分かります。オートグラデーションはカラーキャスト (色かぶり) を取り除きました。左に示すグラデーションカーブでは、オートグラデーションが中間トーンにおいて若干明るめのイメージを生成しました。



オートアジャスト付ヒストグラム



オートアジャスト付グラデーション



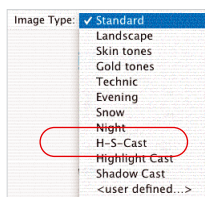
**SilverFast** 内部の人工知能は、スキャンフレーム選択範囲内にあるものを基にイメージを評価する事に注意下さい。オートアジャストの効果を、より小さめか大きめの選択範囲の作成によって変更する事が可能です。



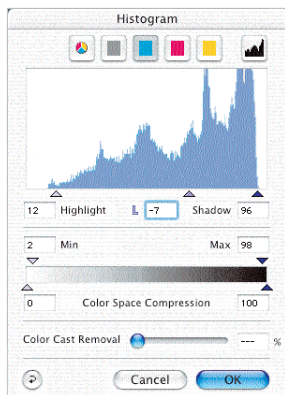
**注意:** オートアジャストでの最大限の利点を得るため、それに従って選択したイメージタイプを確かめて下さい。



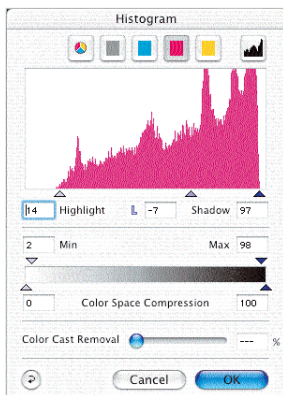
## オートアジャスト&カラーキャスト除去



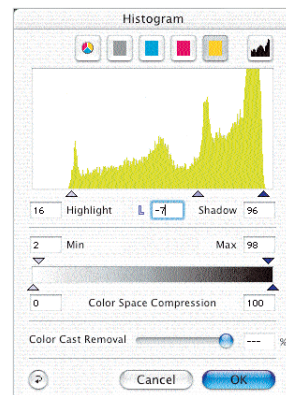
アパーチャ（絞り）ボタンを押すと、アクティブなスキャンフレームがカラーキャスト除去でハイライトシャドウ最適化を実行します。下の3つのヒストグラムではシアン、マゼンタ、イエローチャンネルに影響しているのが簡単に分かります。



シアン、ハイライトを 9%に設定



マゼンタ、ハイライトを 14%に設定



イエロー、ハイライトを 16%に設定

ハイライト設定をシアン 9%、マゼンタ 14%、イエロー 16% にすると、カラーキャストが除去されます。



シアンキャストのオリジナル



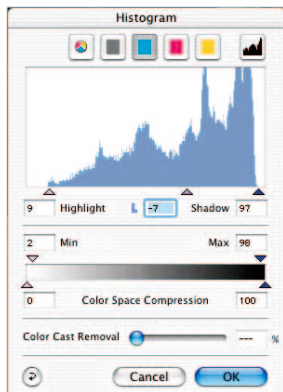
オートアジャストでのシアンキャスト除去



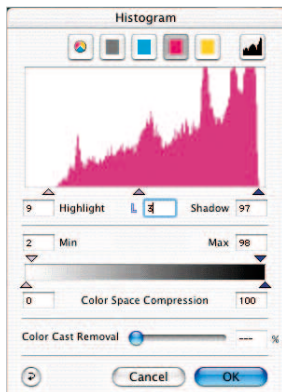
オートアジャストリセット  
オートアジャストのリセットは“Alt”  
キーを押し、アパーチャ(絞り) オート  
アジャストアイコンをクリックします。

## オートアジャスト&カラーキャスト保護

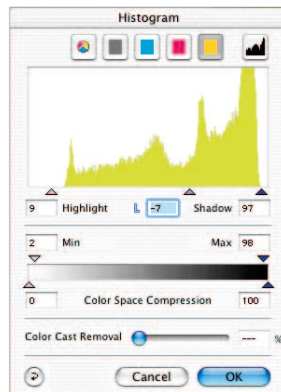
もし赤みがかったキャストのような、サンセットカラーを含む  
イメージの場合、おそらくイメージの中のこの特徴を逃さぬ様  
にするでしょう。これを削除するオートカラーキャスト除去  
除去を防ぐ為、Shift (SHIFT) キーを押したままアパーチャボタン  
をクリック。ハイライトシャドウポイントは最適化し、カラー  
効果はイメージでタッチされずに残ります。ヒストグラムの  
ハイライトシャドウトライアングルはこのように見えます。



シアン、9%にハイライト設定



マゼンタ、9%にハイライト設定



イエロー、9%にハイライト設定

ハイライト&シャドウポイント用の値はハイライトで 9% と  
シャドウで 97% です。これでカラーキャストはイメージの  
中で完全に保持されました。

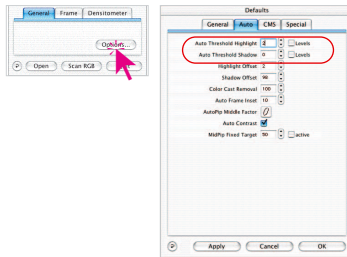


最適化なしのオリジナル

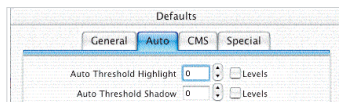


カラーキャスト除去を抑制した最適化

## オートアジャスト&スレシヨルド

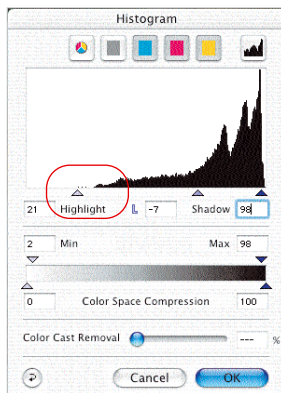


“Options...” > “Auto” : オートアジャスト用にスレシヨルドを決定できます。このスレシヨルドはオートアジャストの感度をコントロールします。オートアジャストを小さな値に設定すると少数のピクセルに反応します。スレシヨルドが非常に大きな値に設定されると、ヒストグラムの最終ポイントで多数のピクセルをスキップします。下のサンプルを参照下さい。



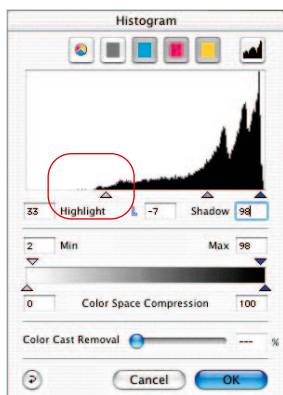
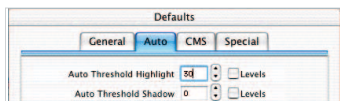
### 1. オートマティック スレシヨルド “0”

オートアジャストが非常に敏感になります。スレシヨルドを“0”に設定する場合、ハイライト/シャドウ地点が個々のピクセルに設定されます。これはしかし、これらの最初のピクセルが眼に見えない無意味なイメージ情報で表現されるので、いくつかのイメージでは意図しない結果を招きます。このため、スレシヨルド値は 2~10 にすべきです。



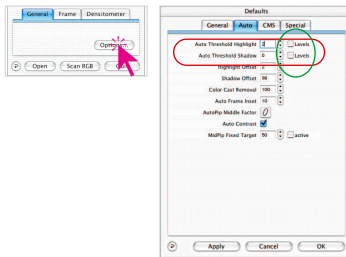
## 2. オートマティック スレシヨルド “30”

オートアジャスト スレシヨルドの他の極端な値 “30” です。値 “33” でのハイライト トライアングル地点がヒストグラムではっきり見ることができます。それゆえに、ハイライトディテールは幾分失われます。明るい色調値を持つ、多め/少なめのピクセルどちらかに依り、極端なスレシヨルド “30” でのオートアジャストは多数のピクセルを無視します。

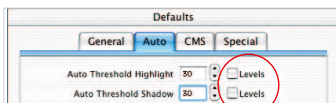
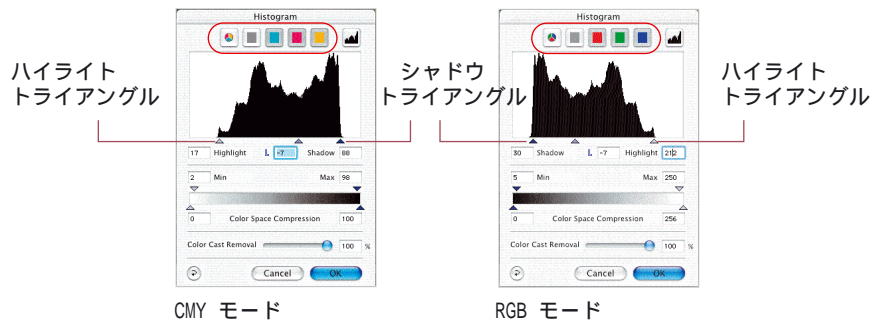




## “オートスレシールド ハイライト” & “オートスレシールド シャドウ”



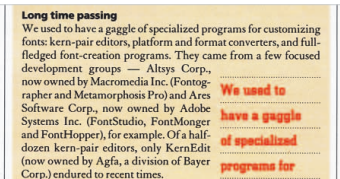
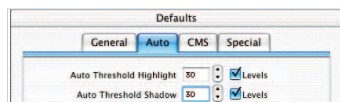
“Auto Threshold Highlight” と “Auto Threshold Shadow” は 0 から 100 ステップの範囲内で調節可能であり、“Options...” > “Auto” ダイアログで可変できます。これらの調節はイメージオートアジャストの機能に影響し、ヒストグラムダイアログ内で見えるようになります。イメージオートアジャスト利用時、ハイライト&シャドウ用のトライアングルはこれらデフォルト設定としてヒストグラムの中で自動的に配置されるでしょう。



注記: ヒストグラム画面はグレースケールの範囲全体を描写します: ステップ 0~255の 8ビットRGB モード (右側) と 0~100 %の 8ビットCMYモード (左側)。もし1つか両方のチェックBOX “Levels” がマークされると、ファクター Auto threshold highlight/shadow” が実際のRGB ステップとして、トータルなピクセルのクオリティに対応する関連ファクターではないとして処理されます。CMYモードでの作業も同じです。

例:

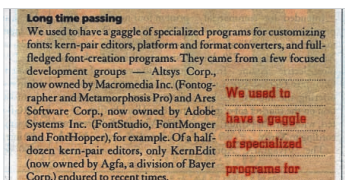
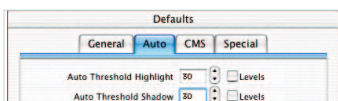
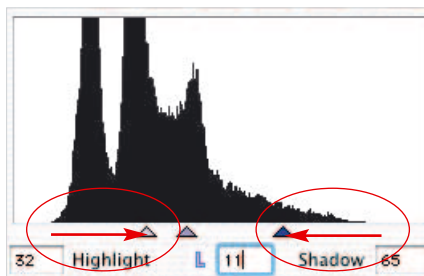
調節は平坦な明るい/暗い背景でのモチーフと共に使うべきです。色付けの基礎訓練でのテキストやグラフィックスのスキニングにも利用価値があります。(次の例を参照下さい)



“Levels” の利用ははっきりとした背景からの文字を強調します。

ファクター “50” の可変はヒストグラム内部のハイライト&シャドウ トライアングルの位置スキップ定義に影響します。ヒストグラムのふち辺りにある最初の列から始まり、50 RGB ステップがスキップされます。結果としてステップにおけるそれぞれの変更がトライアングルの“絶対的”移動量です。CMY モード（下図）利用でも、50 RGB ステップがスキップされます。

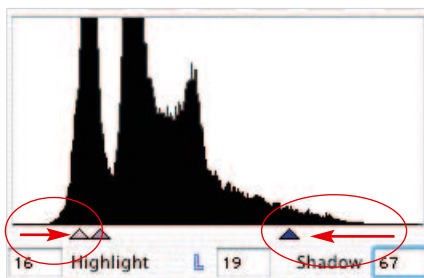
例ではハイライト&シャドウ トライアングルが同じようにシフトするのが分かります（赤矢印は均等な距離である）。



“Levels” なしの背景は非常に暗く見えます。

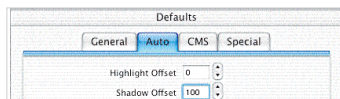
もし “Levels” BOX がマークされない場合は、調節は単にトライアングル位置の“関連する”変更に影響します。可変ファクターはそれからヒストグラムの端のエリア内でピクセルのクオリティに関係します。

もしふちの列が高く、大きなピクセル量を含む場合、可変ファクター “50” はごく少数のピクセルのみ用の長いシフト（シャドウ/長い赤矢印）に比べ、トライアングル（ハイライト/短い赤矢印）の小さな移動量に相対的に影響します。



## ツール 2:ハイライト/シャドウツール

オフセット “0” でのハイライト/シャドウ



ハイライト/シャドウツールでイメージのブライトテスト&ダークテストポイントを手動で指定することができます。このツールでは、“Options...”>”Auto”ダイアログでハイライトオフセット&シャドウオフセットの選択が可能です。ハイライトオフセットの値が 0 でシャドウオフセットが 100 の場合、そのハイライトは 0% となり、シャドウは 100% になります。以下のサンプルはデンストメータ読解による利用法を示します。

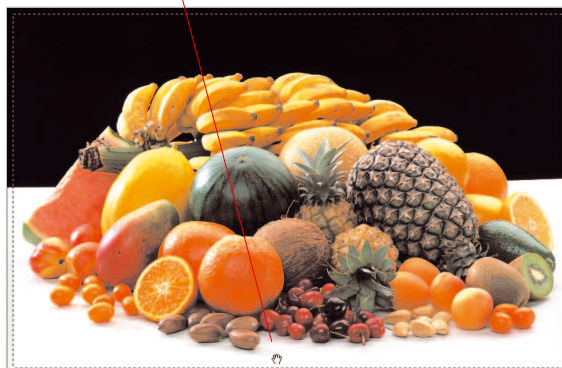
ハイライトの設定



ハイライトを設定する為、左コーナー上部（マウスポインタが白のトライアングルに変化）でクリックし、ハイライトを設定したいブライトテストポイントを探します。イメージ上でトライアングルを移動中デンストメータが値を表示。ここでブライトテストポイント上でクリックします。デンストメータは CMY 用の出力表示で “0” を表示するでしょう。

C	27	→	21
M	19	→	14
Y	20	→	15

C	27	→	0
M	19	→	0
Y	20	→	0



イメージの明るさはこの地点で即座に変化します。それに従って、イメージの他の陰影全てが影響されるでしょう。

## シャドウ設定



シャドウ(最も暗い地点)の設定は、ハイライト/シャドウツールの右コーナー下をクリックすると黒トライアングルが現れます。デンストメータ読解の観察により、イメージ上の最も暗い点を検知し、そしてプリスキャン内のイメージをクリックします。

C	99	→	96
M	99	→	96
Y	99	→	98

C	99	→	100
M	99	→	100
Y	99	→	100



デンストメータの右側にある CMY 値が如何に 100% に設定するか注目します。このイメージ用のハイライト&シャドウ値をここで設定します。



印刷において、ハイライトシャドウ値を“0”か“100”%に設定すべきでない事に注意します。それは印刷で、白は 3-10% の印刷ドットに、黒は 90-98% になる為です。次ページで、これについて明白になります。

## ハイライト/シャドウ リセット

### Macintosh

ハイライト/シャドウ値のリセットは“Alt”キー **[ALT]** を押して、ツールのピペット（ガラス管）上をクリックします。

### Windows

“Alt”キーを押して、ツールパレットピペットアイコンをクリックします。



## 中間トーン設定



中間トーン（ニュートラル地点）定義はハイライト/シャドウツールのピペットアイコンをクリック（カーソルがグレーの長方形になる）。ニュートラルグレーにしたい色の上に長方形の先端を動かし、デンストメータを見ます（CMY解釈を選択）。

C	40	→	27
M	39	→	25
Y	30	→	18



C	40	→	23
M	39	→	23
Y	30	→	22



デンストメータ解読前は C27 / M25 / Y18 でしょう。ここでプリスキャンの希望地点でクリックし、CMY カラーがいかにか C23 / M23 / Y22 の平均値になるかを目にするでしょう。その色合いはニュートラルになりました。



## マルチニュートラル化ピペット(MidPip4)

**MidPip4** (アドバンストカラーキャスト除去) はカラーキャスト除去 (例: ミックスしたライト状況からの結果) を可能にします。

これを実行するには、プレビュー画面で4つのニュートラル地点を設定可能です。いずれかの地点のニュートラル値がスペシャルダイアログ内で直接編集する事が可能です。

ピペット (ツールバー内) でクリックして **MidPip4** を起動し、プレビュー画面で好きなイメージディテールをクリックします。ニュートラル地点設定は番号つき十字でマークされます。



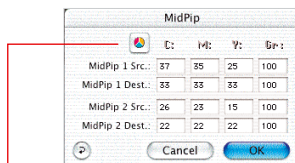
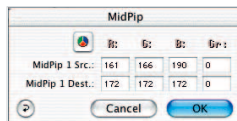
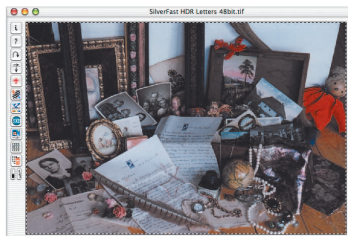
もしいくつかのニュートラル地点を一度に設定したい場合、4つのニュートラル地点の設定中、ピペットをクリックし、“Option” キーを押します。ピペットを再クリックするか、4番目のニュートラル地点を設定する迄ピペットはカーソルとして残ります。例では3つのニュートラルが設定済です。



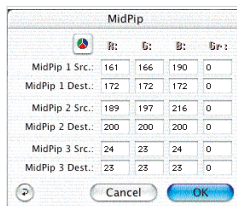
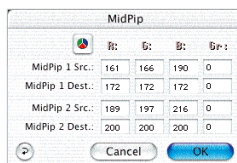
## MipPip 編集

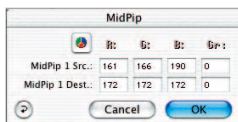


ニュートラル地点のファインチューンにピペットツールをダブルクリックすると **MidPip** ダイアログ画面が現れます。値フィールドは適用前後の RGBか、全ニュートラル地点の CMY 値を表示します。**SilverFast ver 6** は最も洗練されたカラーキャスト補正の可能性を提供します。

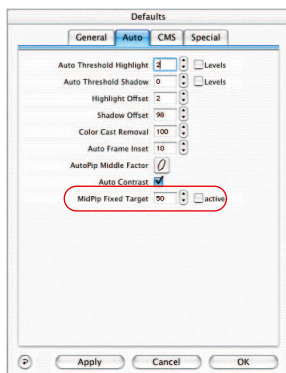


CMY < > RGB スイッチ  
RGB > CMY で計測された値の変換はその逆も同様です。





第一列“**MidPip # Src.**”は RGB/CMY ソース（元）値を表示。次の“**MidPip # Dest.**”は RGB/CMY ディスティネーション（目標）値を意味します。後者は中間トーンセレクトが選んだ中間トーンをニュートラル位置に引っぱる為、通常3つのカラーチャンネルと同じ値を表示します。これでユーザーはこれらターゲット値を変更でき、代わりに中間トーン補正の結果として、一定のカラートーンを保つ事ができます。もしユーザーが最初の列かソース値を変えるなら、その後、中間トーン補正効果はその写真のディテールにおいて異なったオリジナルカラーを持つでしょう。



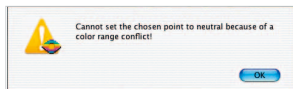
決定した濃度へニュートラル値を調節

中間トーンセレクトの追加変更ツールが“Options...”ダイアログ“Auto”タブに表示されます。もし“**Midpip Fixed Target**”隣の“active”チェックBOX を選んだら、中間トーンセレクトの後続クリックによりニュートラルな中間トーンに導きます、そしてそのターゲット値はクリックした写真ディテールの明るさを保持するためダイナミックに決定される事はありません。代わりに、決定したターゲット値がここで使われます。どの CMY 値でも良く、デフォルト毎のプリセットなら、50%(RGB 128) の値を持ちます。

ニュートラル地点の削除

ニュートラル地点を削除する為には、“Alt”キーを押したまま、中間トーンピペット上でクリックし、削除したいニュートラル地点上をクリックします。

アラート（警告）メッセージ



希望地点の色調値がディスティネーション値から遠すぎ、また最適な補正範囲の外に落ち込んでいる時、アラートメッセージが常に表示されます。

限界エラーの兆候：もし3か4番目のニュートラル地点が表示されない時、希望の結果とキャストはニュートラル化しません。明らかに補正可能な範囲の限界をヒットしています。



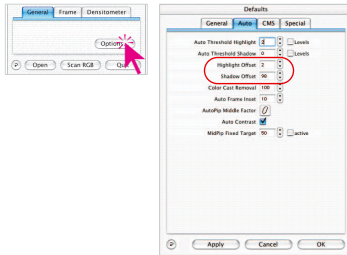
## ハイライト&シャドウ オフセット

ハイライトが 0 %に設定される所に気づいたかもしれません。そのハイライトのディテールは失われ、目に見える細やかなディテールはこれ以上何もないといえます。

こうした事を防ぐため、**SilverFast** は“Options...” >” Auto”ダイアログでハイライト&シャドウオフセットの変更が可能です。ここではハイライト用に 0 ～ 10% を、シャドウ用に 90 ～ 100% の値を入力する事ができます。

ハイライトオフセットの設定 6 は 5-6% がハイライト内部に残る事を意味します。これはハイライト地点を配置する所にハーフトーンドットの 5-6% が残るという事です。シャドウの場合と同じく、濃度は 100%以下に設定すべきです。

以下の例では、これがはっきり示されています：ハイライトにおけるディテールが保護されます。



C	27	→	7
M	19	→	6
Y	20	→	6

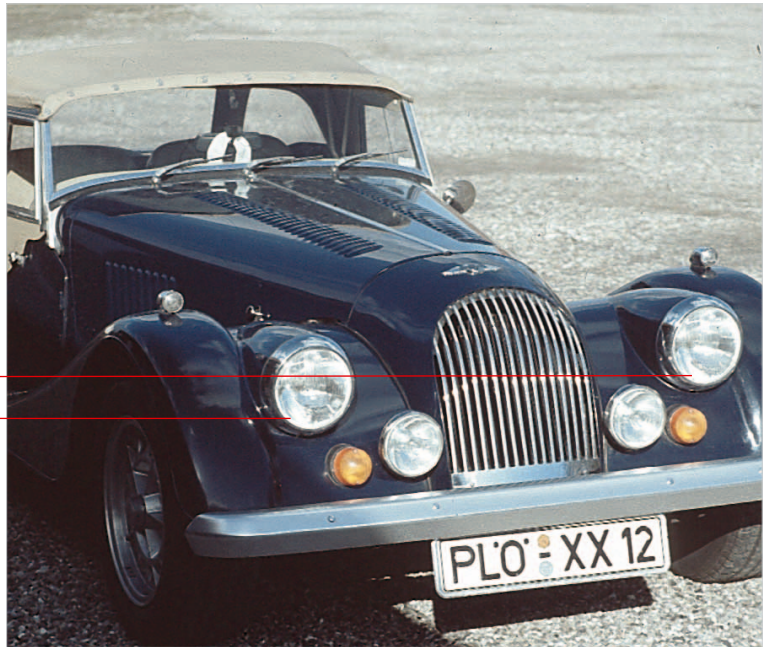


## ハイライト/シャドウツールでのカラーキャスト保護

おそらく、カラーキャスト除去がハイライト/シャドウ設定に関係する事にお気づきでしょう。もしカラーキャストを保護したい場合、ハイライト/シャドウ設定の間“Shift”キーを押します。そしてそのカラーキャストは除去されません。

## スペキュラーハイライトの保護

スペキュラーハイライトはガラス、宝石等のように、きらめいている表面の光の反射です。スペキュラーハイライトは印刷できるドットを持たないので、イメージは光沢を維持します。これらスペキュラーハイライト保持には、“Option” > ”Auto” 下 “Highlight Offset” を “0” に設定するか、これらスペキュラーハイライト内側でデンシトメータ地点を固定し、希望結果になるまでヒストグラムでハイライト終了地点を移動します。



スペキュラーハイライト

## イメージのブライトテスト&ダーkestポイント表示

イメージのブライトテスト(最も明るい) & ダーkest(最も暗い) ポイントを知る事は重要で、ポイント表示機能を搭載しました。




### ブライトテストポイントの表示


ブライトテストポイント表示は、display-brightest-darkest point ボタンの白い部分の上にマウскарソルを動かし、マウスをクリックします。“十字”と一緒に赤い丸印が最も明るい点を表示します。加えて、同じ明るさを持つ全てのピクセルはネガ形式で表示されます。



ブライトテストポイントの表示：

Macintosh (2つのキーを押す)

“Command” キー 

“Shift” キー 

Windows (2つのキーを押す)

“Ctrl”  と “Shift” キー 

ブライトテスト (最も明るい) ポイント





## ダーkestポイントの表示

ダーkestポイント表示は display-brightest-darkest point ボタンの黒い部分の上にマウスカーソルを動かし、マウスクリックするか、以下のキー操作の組み合わせを行います:

Mac: “Command” & “Ctrl” キー (“Command” の方が先)

Win: “Ctrl” キーのみ

“十字” のある赤い円が最も暗い地点の印です。

## ハイライト/シャドウツールでの組み合わせ


前述による表示は、ハイライトとシャドウをそれに従って設定できる利点を用いてハイライト/シャドウツールを利用しながら見せる事も可能です。




ダーkestポイントの表示

## ダーkestポイントの表示

Macintosh (2つのキーを押す)

“Command” キー  と

“Ctrl” キー 

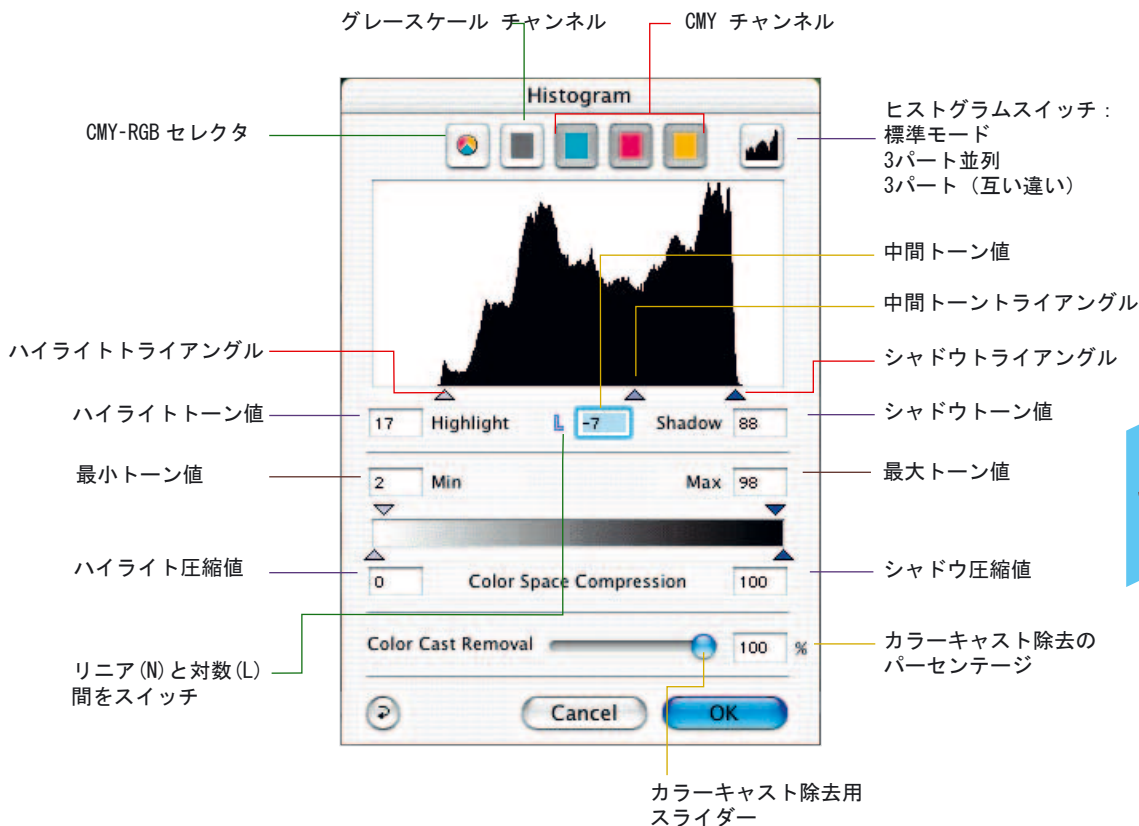
Windows

“Ctrl”  キーを押す。

## ツール 3: ヒストグラム



**SilverFast** のヒストグラムはイメージデータを調べ、それを最適化するためのパワフルなツールです。オートアジャストコントロールで既にヒストグラムは使われています。



5.3



ヒストグラムでのハイライト/シャドウ地点設定で、利用できる色調値は 256値のグレースケール全体を占めるよう拡張されます。そのイメージはもっと輝きを見せ始めます。**SilverFast** では、様々な方法を手動によるヒストグラム適正化に利用することができます。

a. 表示イメージの観察

ヒストグラム内の終了地点を移動中、そのイメージは素早く調節効果を表示しながら、リアルタイムでスキャンフレームの中でアップデートされるでしょう。

b. デンシトメータ解読での観察

ヒストグラムの終了地点を移動しながら、デンシトメータ解読で値の変化をすぐに観察する事ができます。

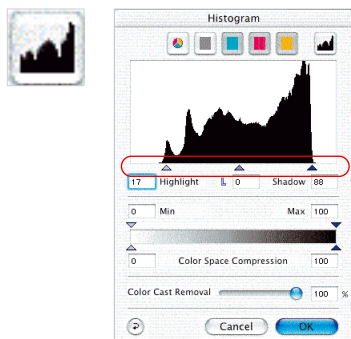
“Shift” キー  を押し、スキャンフレーム上をハンドシンボルでそのイメージの部分をクリックする事によって、デンシトメータは再クリック※するまで、この地点に固定されます。※（“Shift” キー  を押しながら）これでヒストグラムでトライアングル地点の移動時、現れるイメージの一定部分での変化を正確にコントロールできます。詳細な情報は”マルチデンシトメータ (Multiple FixPip) “を参照願います。

## 3パート ヒストグラム



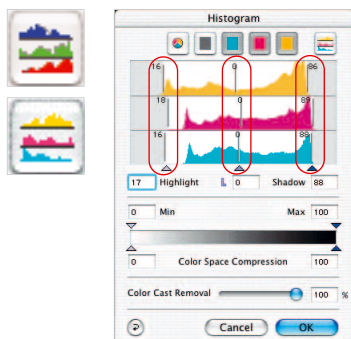
個々のカラーチャンネル ( r, g / b, / c, m / y ) 其々の表現でのヒストグラムは、Ver5以降の全ての **SilverFast Ai** プラグインで 3つのカラーチャンネル (r, g & b, /c ,m & y) 全てのパラレル表現にスイッチ可能です。ヒストグラムでの操作を非常に簡単にする機能でより分かりやすくなります。

スイッチングはヒストグラムダイアログの右上部のアイコンクリックで行います。追加のクリックは、次のインジケータモードへスイッチします。インジケータモードは下記の通り：



### 1. 標準モード

このモードで1つのカラーチャンネルだけがダイアログ画面で表示されます。グラフィック上のアイコンを活用して、色調の表現と個々のチャンネル間を選ぶ事が可能です。濃淡、中間の設定をグラフィック下にある小さなトライアングルをクリック&ドラッグして操作します。

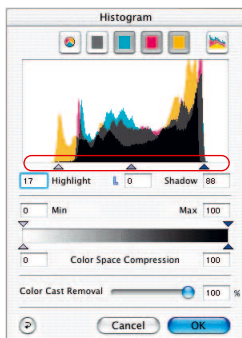


### 2. 3パートパラレル表現

このモードで全3カラーチャンネルは1つのグラフィックとして各々表示されます。

個々のダイアグラム内で、連番付きの縦列をドラッグして濃淡や中間トーンを設定します。陰影の量を表すラインで、その番号は濃淡や中間トーンに使われます。

加えて、全体の表示と個々のチャンネル表示との切換えをグラフィック上のアイコン使用によって行う事ができます。

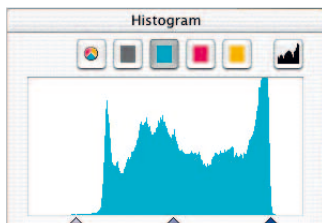


## 3. 互い違い配列の3パート表現

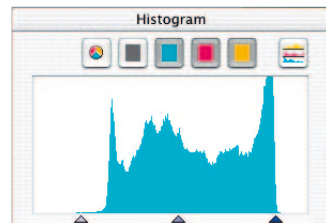
これら全てのカラーチャンネルが、一方が他方に続き全体カーブで一緒にグラフィック表示されます。濃淡、中間の設定は、グラフィック下の小トライアングルをクリック＆ドラッグする事によって行います。

## ヒストグラムチャンネル選択

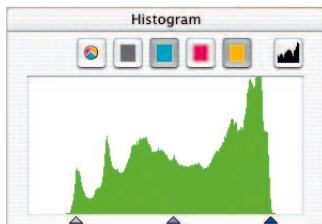
ヒストグラムで単一カラーチャンネルを選択する場合、シアンチャンネルを例にとると、適切なボタンをクリックします。2つのチャンネルを同時に操作するには“Shift”キー (SHIFT) を押しながら2番目のチャンネルボタンをクリック。全てのチャンネルのアクティブはグレーボタンをクリックします。



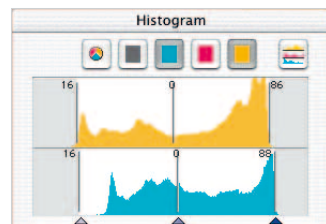
標準モードのヒストグラム  
シアンのみ選択



3パートモードのヒストグラム  
シアンのみ選択



標準モードのヒストグラム  
シアンとイエロー選択



3パートモードのヒストグラム  
シアンとイエロー選択

## 自動カラーキャスト除去

スキャンした作品からのカラーキャスト除去のための手順は、**SilverFast ver5**以降大いに改良されてきました。

いまやユーザーは可能なカラーキャストを自動的に除去するばかりか、スライダー利用でのカラーキャスト低減の度合いも決定する事が可能。変更は **SilverFast** ラージレビュー内でリアルタイムに現れます。

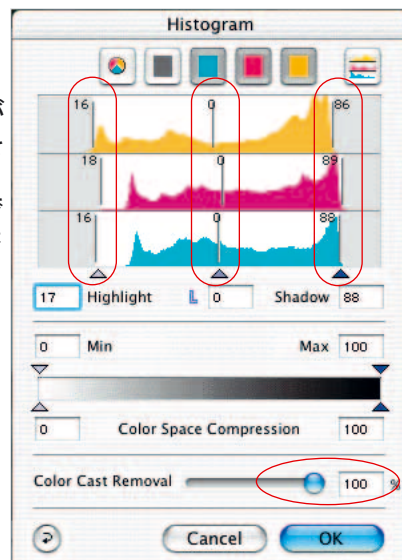
もちろん自動機能はキーボードショートカット使用によって希望通りにアクティブ/非アクティブにする事ができます。また自動カラーキャスト調節の度合いは、希望する適正值へ通常は制限させる事もできます。“Options...” / “Auto” / “Colour Cast Removal” )を参照ください。

カラーキャスト除去用の自動機能はスキャナーとその品質に依存して、アクティブ/非アクティブにできます。



もし“automatic image”用アイコンが“normal”ならば、グレーの背景になる事を意味します。**SilverFast**はそのアイコンクリックで現行のカラーキャストを除去します。

結果は以下の通り、ヒストグラムで見る事ができます：ハイライト、中間トーン、シャドウ領域用スライダーがオフセットされ、異なる値を表示、そしてカラーキャスト除去の量はパーセンテージでインジケータパネルで表示されています。



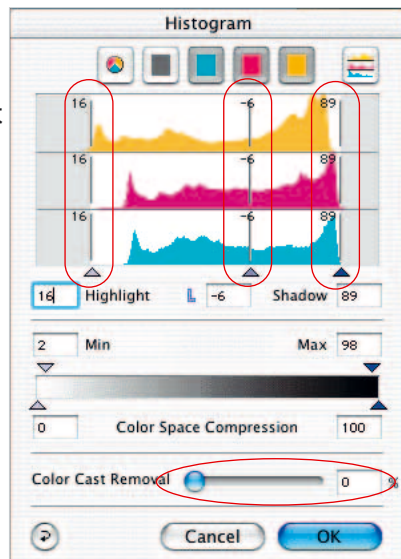
5.3





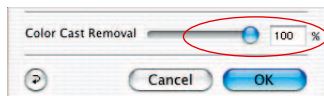
もし“automatic image”がカラーなら、**SilverFast**は現行のカラーキャストを保持し、それはアイコンでのクリックで削除される事はありません。

ヒストグラムで見ることが  
できる結果は以下の通り：  
ハイライト、中間トーン、  
シャドウ領域用スライダーは  
全てラインの縦で同じ値と、  
カラーキャスト除去の量を  
示している事を、値のない  
ラインとしてインジケータ  
パネルで表示しています。



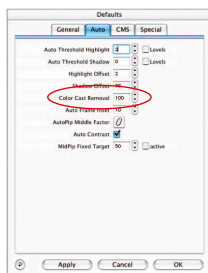
## カラーキャスト除去手動用スライダーの利用

スライダーを活用する事により、除去させたい現在のカラーキャスト量を決定する事ができます。マウスでスライダーを移動させ、プレビュー内で変更結果をリアルタイムに見る事がヒストグラムダイアログの個々のダイアグラムの中と同様に可能です。カラーキャスト除去“0”の値は、カラーキャストが保持される事を意味します。“100”の値は、カラーキャストが完全に除去される事を意味します。



もし個々のヒストグラムに対してカラーキャストをスライダーの手動ドラッグで除去させたい場合、自動機能は勿論削除されます。カラーキャスト除去用インジケータパネルは、それから消去されます。

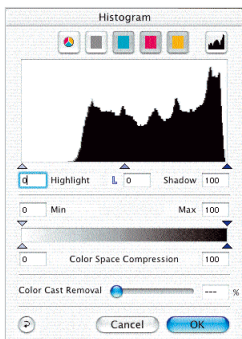
ダイアログの“Options...” / “Auto” / “ColourCast Removal”で自動カラーキャスト除去用の適正值のプリセットを変更する事が可能です。





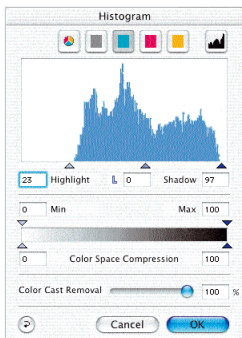
## 手動でヒストグラムを最適化

当ページ下左のイメージで、我々は白い領域（ニュートラルの白になるべき）でデンシトメータを固定しました。表示された値は、僅かに赤に達する (C11-M17-Y16) のが現れています。今、ここで赤みがかったキャストを取り除いて、5-5-5 の値のニュートリアルな白を生成し、まずシアンチャンネルで始めてみることにします。



Histogramm not optimised

C	18	→	11
M	25	→	17
Y	24	→	16



最適化したヒストグラム  
(シアンのみ)

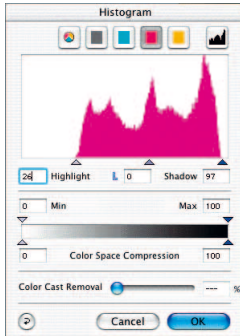
## ヒストグラムでシアンチャンネルを最適化

シアン (C) ボタンをクリック。シアンチャンネルでデンシトメータが値 “5” を読む迄、ハイライトトライアングルを最初のシアンピクセルの始まりの方へ移動します。最初のピクセルの左へトライアングルを僅かに動かす必要がある事に注意します。トライアングルを最初のピクセルへ正確に動かすと、デンシトメータはシアン “0” の値を読みます。

C	18	→	5
M	25	→	25
Y	24	→	24

## ヒストグラムでマゼンタチャンネルを最適化

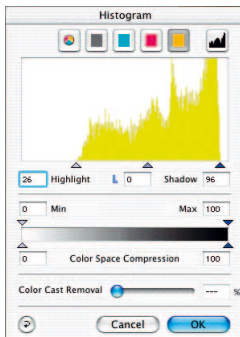
マゼンタ (M) ボタンをクリック。同様に、マゼンタチャンネルを定義します。トライアングルの移動によって、マゼンタ “5” の値がデンストメータで表示されるのが分かります。



C	18	→	5
M	25	→	5
Y	24	→	18

## ヒストグラムでイエローチャンネルを最適化

イエロー (Y) ボタンをクリック。ここでもトライアングルをデンストメータが “5” の値になるまで移動します。ここで以前のように、美しいニュートラルな白に成っている事をイメージ内部に見る事ができます。

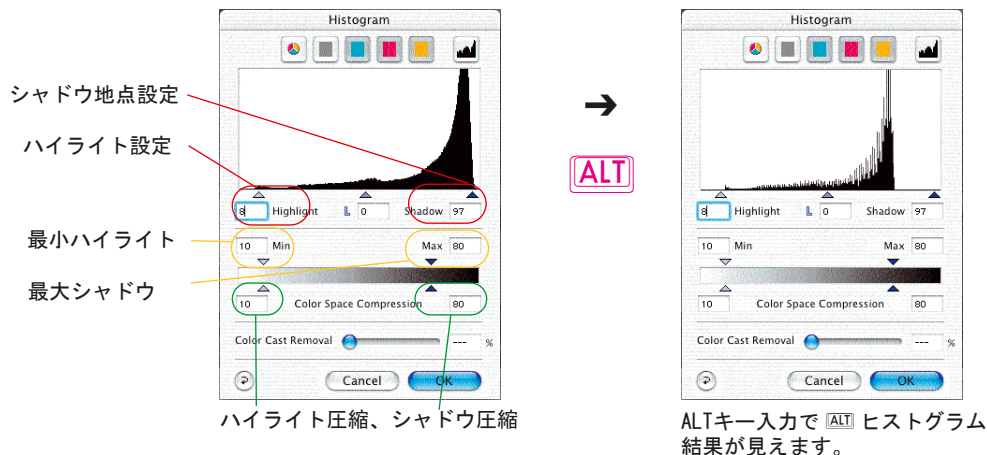


C	18	→	5
M	25	→	5
Y	24	→	5



## ヒストグラムでの色空間の圧縮

一定の出力/印刷条件に色空間を調節するため、ヒストグラムダイアログで色空間を圧縮する事ができます。これはソース/スキャナー色空間がカットされる事を意味しません、しかしそのスキャナーの現在の色調値は新規ディスティネーション/出力色空間の圧縮したスケールに対して平等に分布されます。



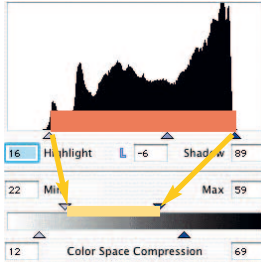
**SilverFast** ヒストグラムは5つの主な値で管理されます。

- ・ 絶対 0%-値 ( “スペキュラーハイライト “)、
- ・ 白地点設定 ( “ハイライト “)、
- ・ 中間トーン値 ( “中間トーン “)、
- ・ シャドウ地点設定 ( “シャドウ “) &
- ・ 絶対 100%-値 ( “max 黒 “)、

移動トライアングル圧縮コントロールはインテリジェントにつながります。これはハイライト/シャドウ圧縮のための値が Min & Max の値以下にさせません。

## 移動トライアングルと値フィールド “Min & Max “

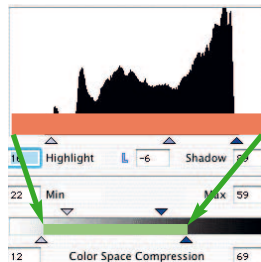
“Min “, “Max “移動トライアングルの位置はヒストグラムでのハイライト&シャドウの値を表します。  
ハイライトとシャドウ地点間の範囲設定は最終スキャン用の  
“Min “& “Max “値に投影され、圧縮される状況が起こります。



## 移動トライアングルと値フィールド “Colour space Compression “

色空間圧縮トライアングルの位置はヒストグラムでの “0% “ & “100% “絶対値を表します。

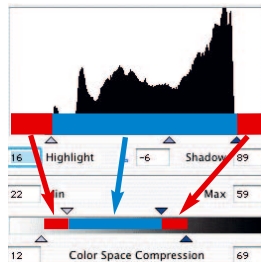
最終スキャン時、ヒストグラム範囲全体が2つのトライアングルでマークされた色空間範囲内へ投影され、それによって圧縮されるでしょう。



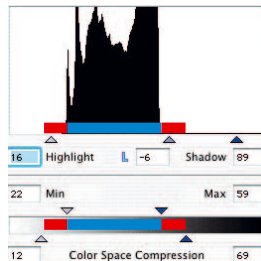
## 最終結果

白地点 (0~9%) の前と黒地点 (88~100%) の後に現れている、ヒストグラムで見える色調範囲は、色空間圧縮後 12~22% (Min) 59~69% (Max) になります。

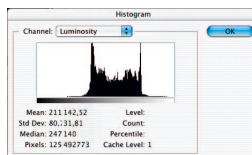
白&黒地点 (9~88%) 間の色調値は Min&Max 値 (22%~59%) へ投影されます。



ALT



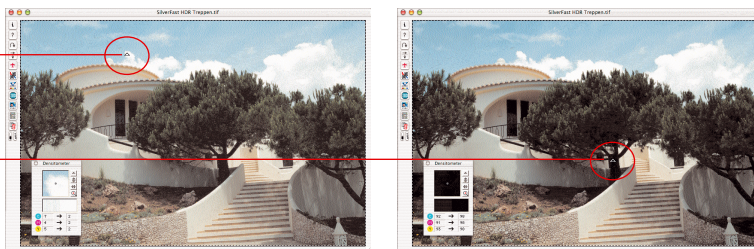
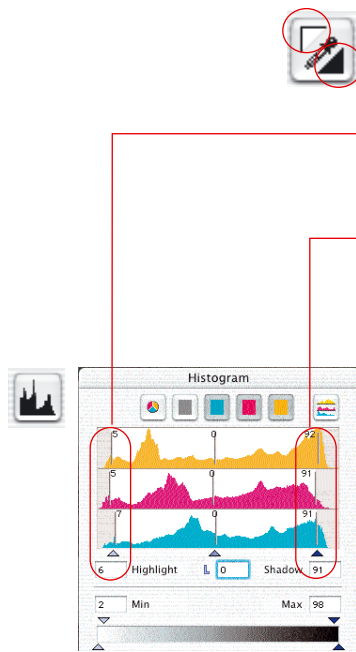
“Alt “キーを押すところにある最終スキャンヒストグラムをシミュレートするでしょう。



Photoshop で発生する  
ヒストグラム

## 色空間圧縮のサンプル

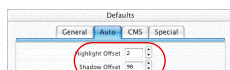
プリスキンの後、ハイライト&シャドウ地点はヒストグラムにおいてハイライト-シャドウトライアングルで手動設定します。



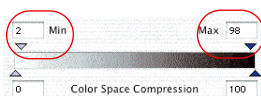
ハイライト&シャドウ地点位置は明らかに移動トライアングル外側の位置になります。

これらは完全な色調範囲の端（ここでは 5%、93%）からは幾分挿入します。

ハイライト&シャドウはまだ見えるディテール情報を保持し、スペキュラーハイライト(0%) と真っ黒(100%)とははっきり異なります。

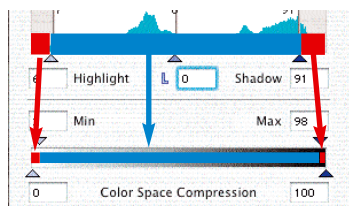


OPTION > Autoメニュー下、Min & Max 値用一般設定に従い、Highlights %、Shadows % が設定されると、完全な色調の範囲が出力用に圧縮できます。



Min & Max の値はヒストグラムダイアログで直接、実際のスキンプレーン用に変更する事もできます。両方の移動トライアングル “ Min & Max “ はこの目的に利用します。

例では、ハイライト用 min 値を 2% に設定し、シャドウ用 Max 値 98% を設定しました。



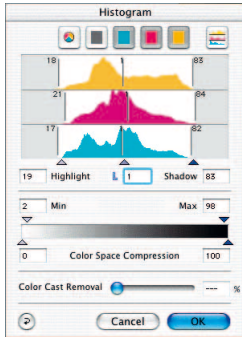
ハイライトの前(0 ~ 5%) とシャドウの後(93 ~ 100%)に発生している、ヒストグラムで見える色調値は圧縮により、0 ~ 2%、98 ~ 100% になります。

白-黒地点間(5 ~ 93%) の色調値は Min-Max値 (2% ~ 98%) の間に投影されます。

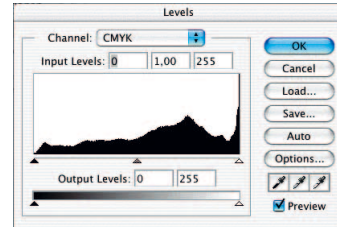


## ヒストグラム経由の色空間圧縮

**SilverFast** でのヒストグラムを利用した色空間圧縮の例がいくつかあります:



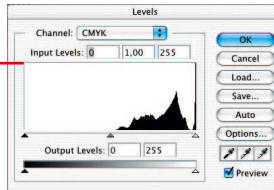
圧縮なしの色空間



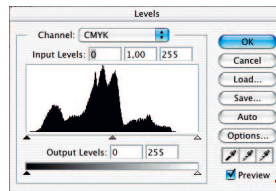
5.3



3-40% に圧縮



Photoshop でのヒストグラム  
結果 (3-40%)

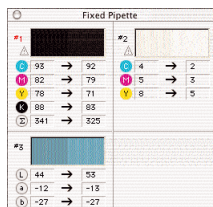
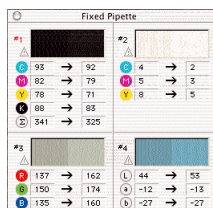


Photoshop でのヒストグラム  
結果 (54-94%)



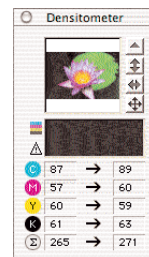
54-94% に圧縮

## マルチデンシトメータ (固定ピペット)



4つまでのデンシトメータ計測地点が **SilverFast** プラグイン (MidPip4) で利用する事ができます。

これらのピペット計測地点の計測値は、もはやデンシトメータ画面で表示されず、それら固有の画面内になります。その画面は計測地点の数に適合しようと働き、固定した地点の数と選択したカラータイプ (RGB, CMYK, グレー、etc.) に依存しているそのサイズを変更する事を意味します。



カラータイプは、お互いに独立したピペット各々を調節する事が可能です。

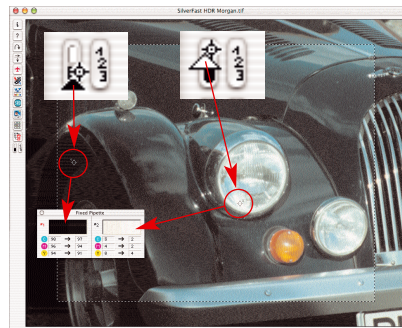
もし全ての固定した地点が削除されていたら、画面は自動的に閉じるでしょう。もしその画面が閉じたら、全ての固定地点は自動的に削除されます。

前のように、固定地点は“Shift” キーを押しながらプレビューでマウスキーを押す事により作成できます。もしマウスが既存の固定地点をヒットしたら、その地点は削除されます。マウスが既存の固定地点をヒットし、マウスが移動したら、その固定地点は転移します。

ブライテスト/ダーkestポイントの転移  
(マルチデンシトメータに対して)



“Shift” キーを押しながら “darkest/lightest point” 用アイコンの白/黒の領域をクリックして **SilverFast** で調べた解読が fixed pipette 画面に転移されます。コーナー値の上手なコントロールはこうして確実にできます。



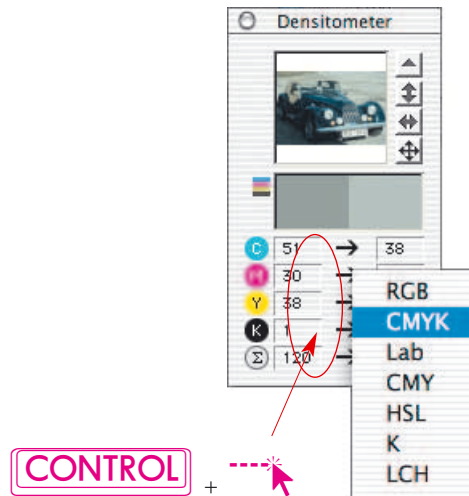


## デンストメータ内での色空間選択

“Ctrl” キー **CONTROL** を押しながら、デンストメータのいずれか計測値セルへクリックします。ポップアップ画面が開き、そしてデンストメータでの別の色空間計測値の選択により、選択した色空間の値へ変換されます。

以下の色空間が利用できます： RGB, CMYK, Lab, CMY, HSL, K, LCH。

ここで前のように、表示する値のクリックで希望の色空間を選ぶ事ができます。



## ツール 4: グラデーションダイアログ

### グラデーションカーブ

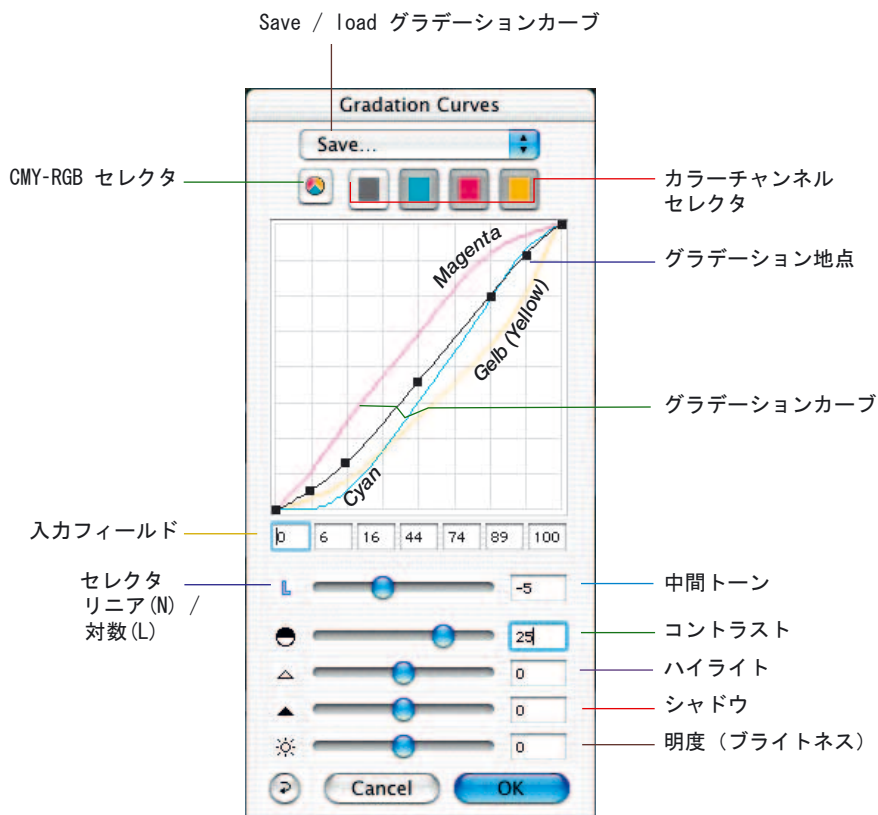


グラデーションは入力と出力間の関係を参照します。イメージの色調値はハイライト/シャドウ地点の調節のような方法で最適化されて、グラデーションは可能な限りベストな結果をもたらします。不慣れなユーザーは時に明度とコントラストコントロールを使ってイメージを最適化しようと試み、それ故イメージのひどい低下を招きます。イメージ最適化の正しい方法は以下の通りに達成する事ができます：

1. ハイライト&シャドウ設定
2. グラデーション最適化
3. セレクティブカラーコレクション
4. サイズ調節
5. シャープ化（アンシャープマスク）

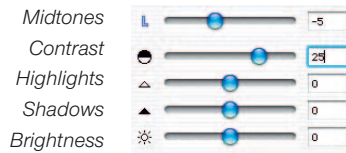
もしコントラスト/明度コントロールで調節する場合、危険が伴います（ハイライトは燃え尽き、シャドウは焦げ付く）。

## グラデーション ダイアログ



## グラデーションカーブの調節

グラデーションカーブは4つの方法で変更できます：

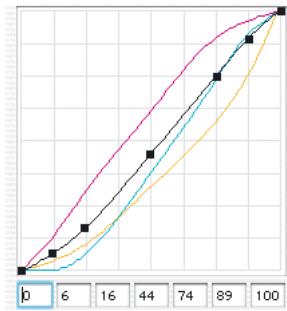


### a. スライダーの利用での方法

スライダーを利用する事でグラデーションカーブを上手に変更可能。カーブポイントに関する入力フィールドと、スライダー位置に関するものは、それによって更新されます。スライダー位置はスライダー右の入力フィールド内の値入力によって変更する事もできます。

### b. カーブ地点の移動での方法

グラデーションカーブのカーブポイントは、マウスで移動できます。ここではカーブ地点下の入力フィールドの値が自動的に更新されます。



### c. 入力フィールド内への値入力での方法

カーブポイントは5つの入力フィールドでの値変更で、それによって移動できます。

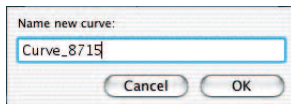
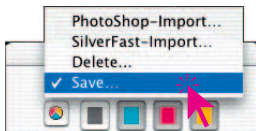
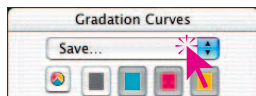


### d. 保存したグラデーションカーブのロードでの方法

以前に保存したリスト外のグラデーションカーブをロードし、それですぐに効果をかけられます。

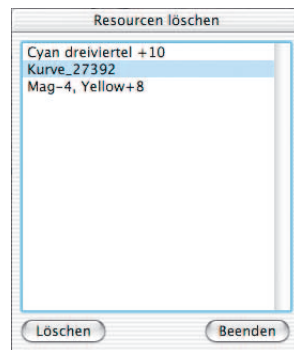
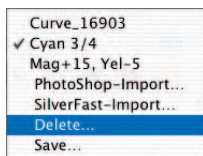
## グラデーションカーブの保存

グラデーションカーブダイアログに進み、プルダウンメニュー“Save”を選択。ダイアログが開き、このカーブ名を尋ねます。



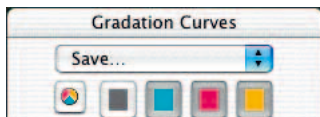
## グラデーションカーブの削除

リストからグラデーションカーブを削除するには、Delete をクリックし、リストから削除するカーブを選択。1つ以上のカーブを選ぶ事もできます。Delete ボタンのクリックで選択した全てのカーブが削除されます。



## グラデーションカーブチャンネル

単ーグラデーションカーブチャンネルの選択は、マゼンタの例では、その適切なボタンをクリックします。2つのチャンネルを同時に操作するには、“Shift”キー **SHIFT** を押しながら、2番目のチャンネルボタンをクリックします。全3チャンネルをアクティブにするには、グレーボタンをクリックします。



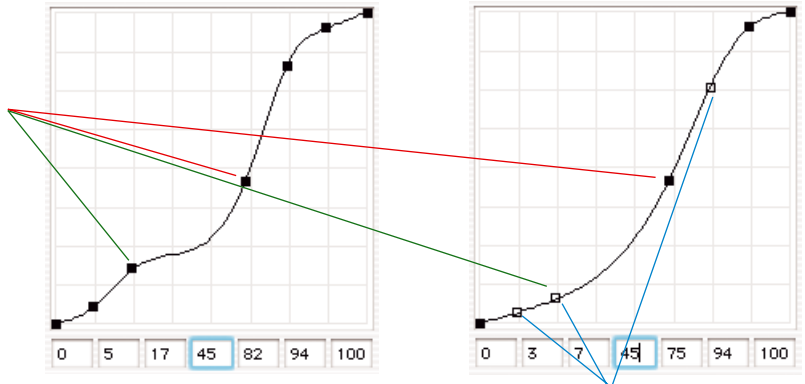
シアン - マゼンタ - イエロー  
(赤 - 緑 - 青)

## グラデーションカーブポイントの非アクティブ化

グラデーションカーブを既存のカーブポイント付近の限定的影響なしに変更するため、いずれかの既存カーブポイント为非アクティブにする事が可能です。

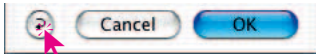
以下の例では、カーブポイントの非アクティブなし（左図）、非アクティブあり（右図）でのカーブ補正効果を表します。

近くのカーブポイントからの限定的影響が明らかです。



非アクティブのカーブポイント

カーブポイントを非アクティブにするには“Alt”キー **[ALT]** を押し、希望カーブポイントをクリック（黒い輪郭に変化）。カーブポイントを再アクティブにするには“Alt”キー **[ALT]** をもう一度押して、希望のカーブポイントをクリック（黒い点に戻る）します。



## 非アクティブ化したカーブポイントのリセット

全ての非アクティブカーブポイントのリセットは、グラデーションダイアログ内の“Reset”ボタンをクリックします。

カーブポイントのコントロール:

ポイントアクティブ化/非アクティブ化  
Mac+Win: “Alt” キーを押しながらのカーブポイントのクリックでアクティブ (黒) /パッシブ (空白) になります。

縦方向のポイント移動:

Mac: “Ctrl” キーを押しながらのクリック-ドラッグは、X座標を一定にキープします。

移動は Y 方向のみ可能。

Windows: “Alt” キーを押しながらのクリック-ドラッグは、座標を一定にキープします。

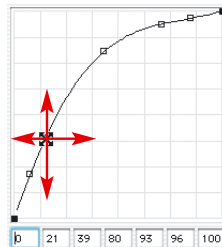
移動は Y 方向のみ可能。

縦方向でのホットトラック

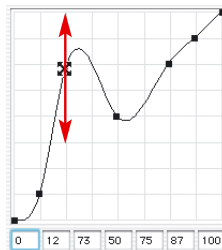
“Command” & “Ctrl” キー (Win: “Strg/Ctrl” + “Alt”) を押す間に、ホットトラック移動は縦方向でのみ 1 つのポイントで起こります。

## ホットトラック グラデーション

全 **SilverFast** プラグインVer5以降、グラデーションダイアログでのカーブポイントのコントロール性が改良されています。グラデーションダイアログでカーブポイント (トラックポイント) のドラッグ中、“Command” キー (Win:Strg/Ctrlキー) を押すと、選んだカーブポイントは自動的にアクティブになり、他のカーブポイント全て ( 0%&100% 以外) はパッシブ (受動的) になります。ドラッグの後、アクティブ&パッシブポイントの元の状態は、それらの以前の設定に戻るでしょう。



“Ctrl” キー (Win: “Alt” キー) を押すと、クリックしたカーブポイント縦方向にのみ移動できます。



## グラデーション地点の状態をマーキング (On/Off)

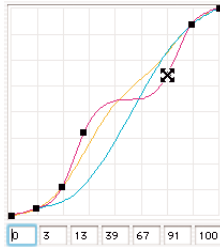
全 **SilverFast** プラグインVer5 以降、グラデーションカーブの個々のトラッキングポイントで最後に入力したコマンドが次回変更に残されます。アクティブ (黒) か、パッシブ (空白) なトラッキングポイントの状態は残り、リスタート後も利用可能です。



# グラデーション

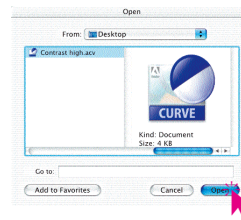
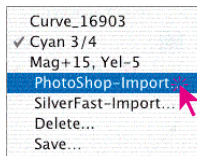
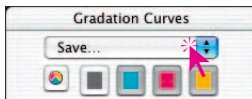
## 拡張グラデーションカーブ

拡張グラデーションカーブは、複雑なカーブの生成を可能にします。グラデーションカーブポイントは水平垂直の両方で自由に移動する事ができます。非常に複雑なグラデーションカーブでさえ、この方法が可能です。



## Photoshop グラデーションカーブのロード

Photoshop で生成されたグラデーションカーブは、チャンネルセレクトタの上部ポップアップ内部での読み込み機能を利用してロードする事ができます。

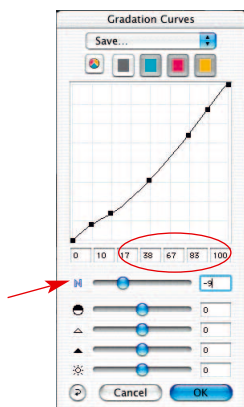


## グラデーションカーブの選択

グラデーションカーブは現在の選択からロードできます。更に多くのカーブを後で追加可能です。

## リニア&対数 中間トーン (Midtone)

中間トーンスライダーは全ての明度の補正を実行するためには、非常に重要なスライダーです。中間トーンの標準的イメージで正しい色調バランスを得るのには十分です。  
もしイメージが 4分の3色調で多くの陰影を持とうとも、4分の3色調範囲に影響を及ぼす別カーブを使うのに必要であるでしょう。4分の3色調範囲に影響するには、中間トーンスライダーのさらに左で “N” (標準) でクリックします。N は L (Logarithmic/対数) に変わり、グラデーションカーブは 4分の3色調を明るくするよう変化します。



標準型中間トーンカーブ



標準型中間トーン グラデーション使用

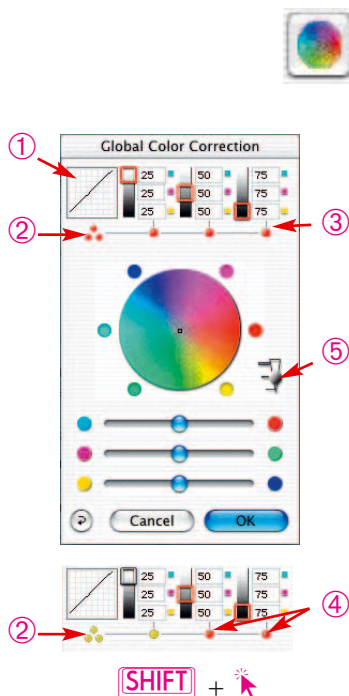


対数型中間トーンカーブ



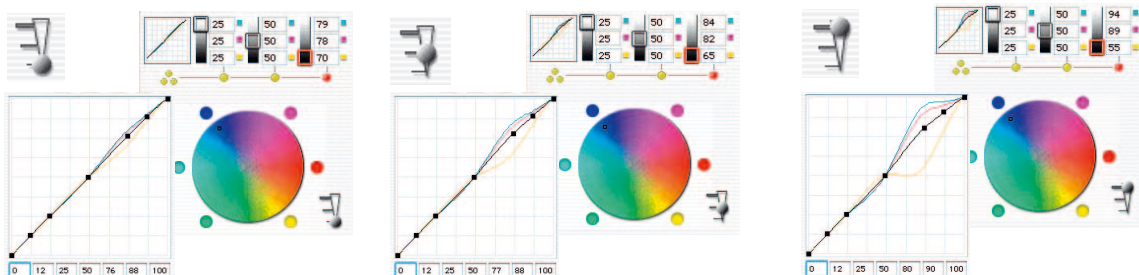
対数型中間トーン グラデーション使用

## ツール 5: グローバルコレクションダイアログ カラーバランス



**SilverFast** 全製品は直感的なグローバルカラーコレクションを持ちます。実際のグラデーションカーブ①はダイアログ画面上でオーバーレイ表示されます。これでグローバルコレクション間のグラデーションカーブで起きている事を正しく決めるのを容易にします。トータルの色調値領域が全体的に補正されるか、部分的のみ（ハイライト、中間トーンセレクト色調、シャドウ領域のみ）の場合、1回のマウスクリックで決まります。トータルの色調値領域に関し、3つの黄/赤色集合ポイント②（ミニグラデーションカーブ下）をクリック。部分については、単一の赤/黄色ポイント③④（数値インジケータ下）の1つをクリックします。希望する部分は“Shift”キーを押しながら一度クリックして結合できます④。数値インジケータ下の赤いポイントと其々のグレースケールの赤色フレームは、この色調値領域がまさにアクティブになり、変更できる事を表示します。加えて、3ステップスライダー⑤が搭載されており、変更する度合いの調節が可能です。下側のステップは小変更が可能です。上側のステップはより強い変更を産み出します。

他のグローバルコレクションの操作は引き続き同じままです：（カラーサークル内部のスライダー使用/クリック・ドラッグ）



スライダーによるエフェクトの例

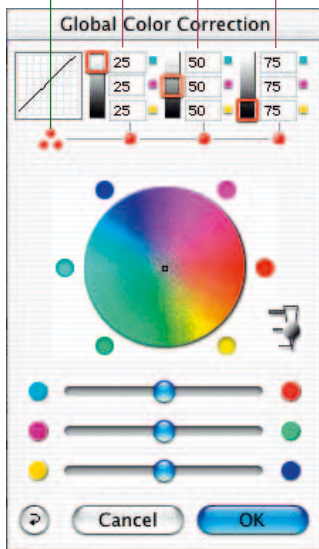
その都度、1回のコレクションがシャドウ領域で引き受けられました。分かりやすくするため、カラーサークルの中央イメージポイントは中央から外側の青色へ完全に移動しました。グラデーションカーブの画面はスライダーのステップ対応に沿った変更を表示します。

## カラーバランス

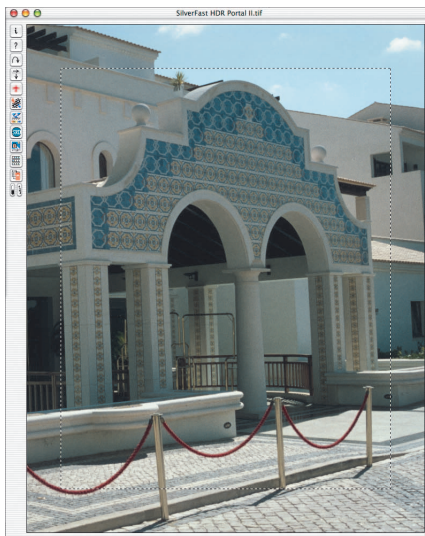
カラーバランスはグローバルコレクションダイアログで編集されます。ここはカラーキャストが既にハイライト/シャドウツールによってニュートラル化されて、単にいくつかの色調範囲で修正すべきものであると想定されます。これはグラデーションカーブの変更です。カラーバランスはイメージの印象に関する補正に利用されます。それはハイライト&シャドウが既にニュートラルだという前提で、中間トーンか3/4トーンでの若干のカラーバランスシフトを意図するものです。この目的の為に“グローバルコレクションダイアログ”がデザインされました。

選択範囲:

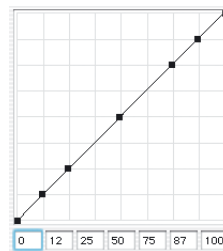
All 25% 50% 75%



もとのグローバルコレクション



もとのプレビュー



もとのグラデーションカーブ



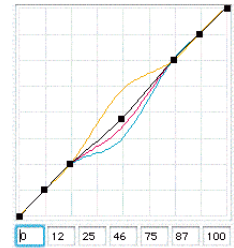
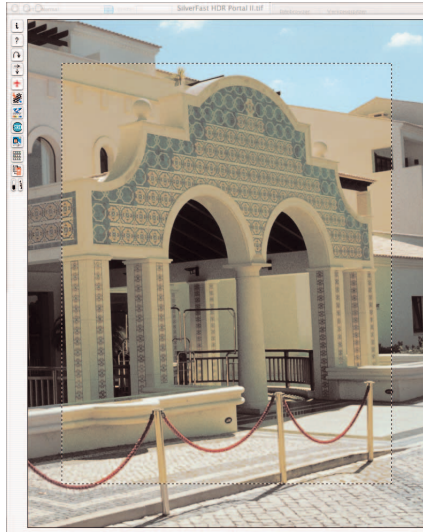
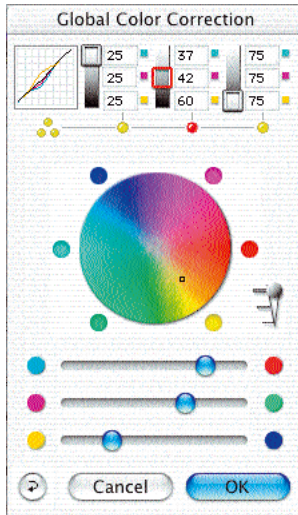
## カラーバランスのリセット

グラデーションカーブの移動はグラデーションカーブダイアログでの“Reset”ボタンクリックでのみリセット可能です。その後、グローバルコレクションダイアログの全ての値もそのデフォルト値にリセットされます。

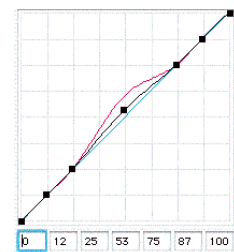
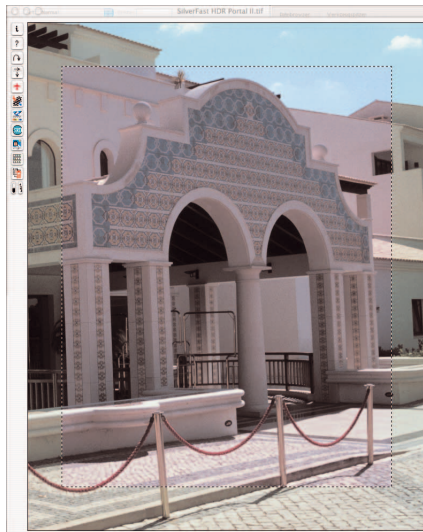
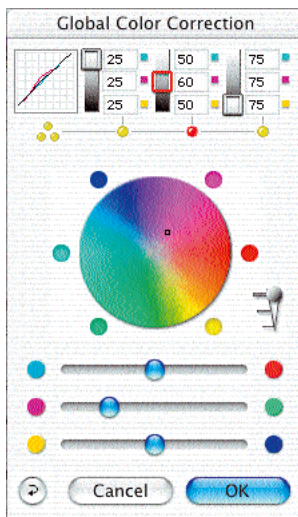


## カラーバランスの変更

カラーバランスはスライダー利用による6つに色付けされたサークルの1つをクリックする、手動操作で変更されます。移動量は選択したコレクション範囲にのみ影響します。



グローバルコレクション：  
ハイライト&シャドウを  
除く全ての要素



グローバルコレクション：  
25% から 75% がマゼンタに  
変更されています。

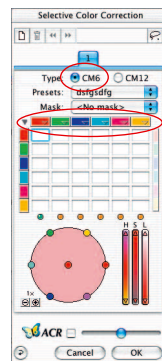
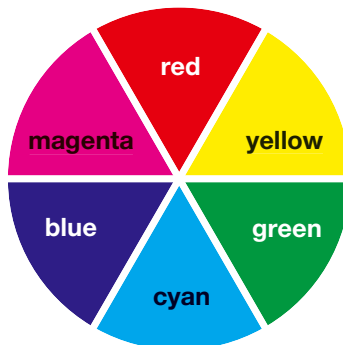
## ツール 6: セレクトティブカラーコレクション



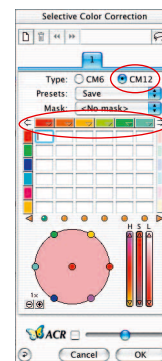
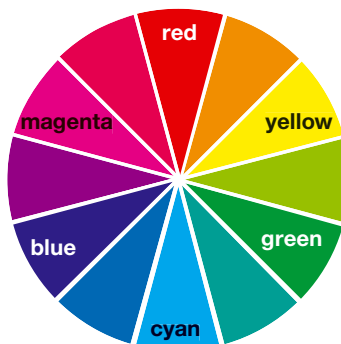
カラーコレクションにおける色

セレクトティブカラーコレクションはカラー内部でのカラー変更からなり、ハイエンドスキャナー向けに開発されました。中間の6色と同じく、赤、緑、青、黄、シアン、マゼンタカラーが補正されます。悪影響を及ぼす色は低減され、正しい色を増加する事ができます。赤のキャストカラーはシアン、緑はマゼンタ、青は黄色です。

SilverFast で使用されるセレクトティブカラーコレクションタイプは、セクター（扇形）コレクションと呼ばれ、60° / 30° 度バンド内でカラーを補正します（どのマトリックス/列が使用されるかによる）。付録にある、カラーモデルのより詳細な解説をお読みください。



カラーマトリックス 6 を  
利用した 6 カラーセクター



カラーマトリックス 12 を  
利用した 12カラーセクター

## オーバービュー

セレクトティブカラーコレクションの実行



ダイアログ画面オープン用ボタン



カラーコレクションがアクティブであることを示すグレーの背景

レイヤーの管理:



新規レイヤー追加



アクティブレイヤー削除



前のレイヤー移動



後のレイヤー移動

マスク作成:

マスク変更ツール: マウスを押したままボタンクリックすると、希望の変更ツールをポップアップ表示する



ブラシ



ポリゴン



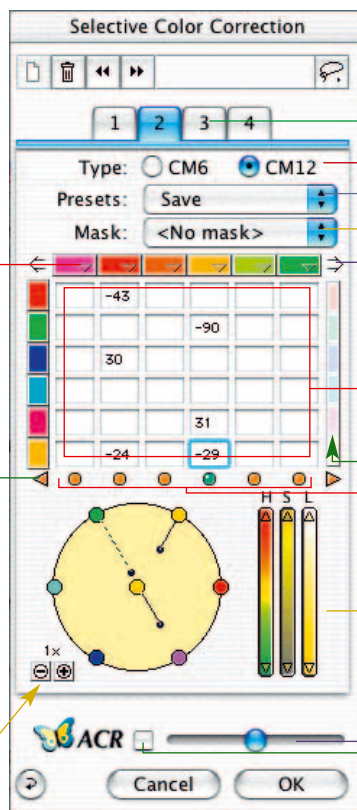
投げ輪

セクタープリセット-トライアングル 適切なセクター用のみ設定のロード&保存

インジケータ-トライアングル 緑: 左/右で他にアクティブなセクターあり  
赤: 左/右で他にアクティブなセクターなし

色空間-ズーム

より大きい/細かいコレクションを実行する変更度合いを増減



OK  
設定を適用してダイアログ終了

Reset  
リセット設定

Cancel  
設定を適用せずにダイアログ終了

レイヤー:  
単一レイヤーパネル

タイプ CM6 / CM12:  
6/12カラー間を切換え

プリセット:  
設定の保存/ロード

マスク:  
マスクの保存/ロード

カラーセクターオーバービュー:  
(矢印 ⇄)  
CM12 のみ利用可能。より右/左の別のチャンネルを表示

カラーマトリックス:  
全カラーセクター用カラーテーブル

全カラーの変更:  
アクティブ時、選択済セクターの全カラーをカラーホイールの内側/外側からのマウスドラッグにより、より明るく/暗くさせる事が可能

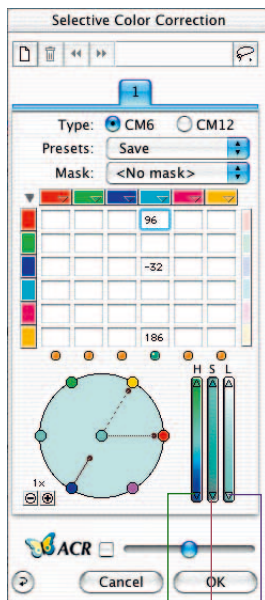
アクティブ-スイッチ 緑: セクターはアクティブ  
赤: セクターは非アクティブ

HSL-コントロール:  
小三角をコントロールの上下で押したままにして変更

ACR-コントロール

ACR- オン/オフ 切換え





Hue コントロール

Saturation コントロール

Luminance コントロール

## セレクトティブカラーコレクションの目的

セレクトティブカラーコレクションの目的は悪影響を及ぼす色を抑え、その原色を必要なだけ高める事にあります。上側の列で、補正される全ての色が水平に表示されます。縦方向に表示される色で、上側のものが補正される色です。

### 1. カラーマトリックス（行列）

カラーマトリックスの上の列では、水平に並んだ補正可能な RGBCMY カラーが見つかります。これらは縦方向に整列して補正する事も可能です。例：赤のマゼンタ部分は、それぞれのフィールド内での +10 入力によって増加させる事ができます。

### 2. HSL コントロール

hue:色合い(H), saturation:彩度(S), luminance:輝度(L)の変更をコントロールします。

### 3. カラーサークル

カラーサークルを利用して、色の増減を変更可能です。

## コレクションカラーの選択

しばしば、色調が赤かマゼンタ、青、シアンであるのを見分けるのが難しい場合があります。プリスキャン画面でカラーを単純にクリックすると、**SilverFast** が補正されるカラータイプをカラーサークル中心で表示します。認識されたカラーセクターがカラーホイール中心の色であり、同時にカラーマトリックスに対応している列がアクティブになります。



### スライダーによる HSL 補正

Hue (H): Hue (色合い) バー最後の小トライアングルを希望の補正になる迄クリックします (補正スピードを上げる為、SHIFT “Shift” キーを押したままにします)。

Saturation (S): saturation (彩度) の調節

Luminance (L): luminance (輝度) の調節

## 写真のセレクトティブカラーコレクション

如何に色を選択的に補正するかを例を使ってお見せします。  
以下のステップを使って、選択的に衣装のブラウスとサリーの  
緑色の補正を進めていきます：



1. **SilverFast** ツールバーの “Selective colour correction” アイコンをクリックします。

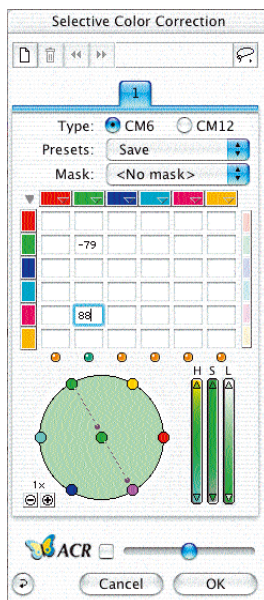


補正される緑色



2. 中央の少女の緑色のブラウス上でクリックします。カラーサークルと HSLコレクションが緑に変わります。

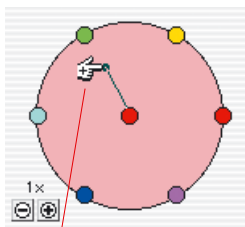
3. ここでカラーサークル外側の緑の上にカーソルを移動します。  
(カーソルは一記号付のハンドカーソルに変わります)
4. マウスを押してカラーサークルの中央の方へドラッグします  
(緑のスポットから線が引き出され、ブラウスとサリー内の緑はうすくなります)。



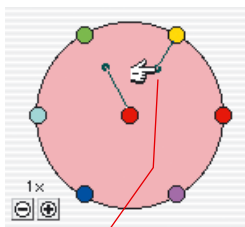
緑色が青色に変化



5. カーソルをカラーサークルの中央の緑色スポットに動かし、  
外側サークルのマゼンタスポットの方へドラッグします。  
(ブラウスとサリーの色は今、青に変わりました)



+コレクション（色の追加）



-コレクション（減少）

## カラーサークル

1つのカラーを別なものに追加するには、サークルの中央へ移動（ハンドカーソルシンボルが+印を表示）し、追加したい色の方へドラッグします（線が引き出される）。表示された例では、原色（赤）は赤の追加で高められるため、赤はより強くなります。1つ以上の色をサークル中央で選んだ色に追加する事ができます。

色を減ずるには、サークルの周囲の色の上にカーソルを移動します（ハンドカーソルシンボル上で-印が現れます）。選択した色が今、補正される色から減らされます（中央で）。例では、赤が赤から減らされます、よって赤色が弱くなります。

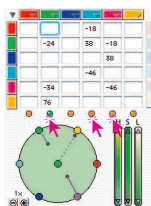
サークル内のコレクション線は、カラーサークル左下の+/-ボタンでスケール（拡大縮小）できます。

## カラー選択

” shift “キーを押し、そして同時にLED かプリスキャン内でクリックする事により、現行のセレクトションに別の色を追加できます。

この方法で3以上の付近の色を選択&作業する事ができます。これは選択した色の Saturation(彩度)を増加している間の、HSLコントロールを利用する際に非常に便利です。

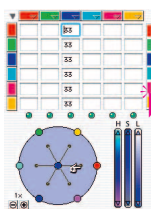
5.6



Mac: +   
Win: +



キーボードショートカット “Command” + ” A” (Win:Strg+A) で全カラーの選択が可能です。

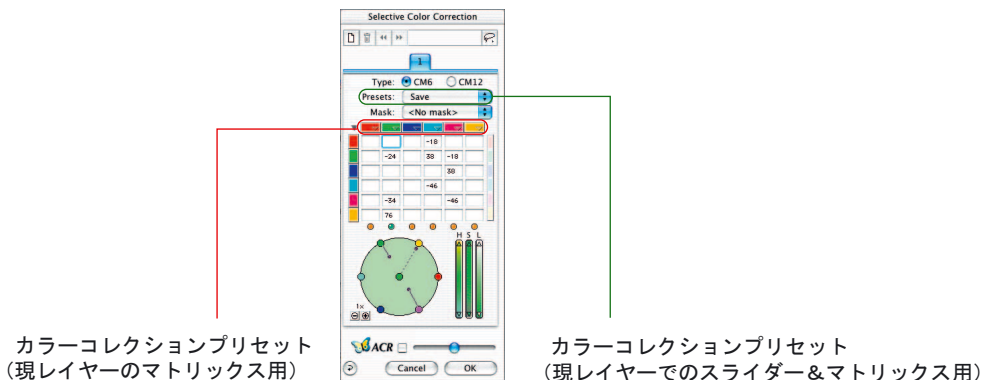


マトリックス右の縦型カラーバーは、全ての色を色の増減に関連付けるために使われます。これは補正用カラーホイール利用時のみ適切です。例 カラーホイールの中央から外側にドラッグして赤に黄色（関連付けはアクティブで）を追加しようとする場合に、全ての色は赤の代わりに追加されて、赤をもっと暗めにさせています。



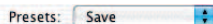
## カラーコレクションプリセット

どんな希望のプリセット数も、6つ其々のコレクションカラー（赤、緑、青、シアン、マゼンタ、黄色）配下のセレクトティブカラーコレクションで保存、後でリロードする事ができます。このプリセットのコンビネーションもそれに従い保存可能です。



## カラーマトリックス用プリセット

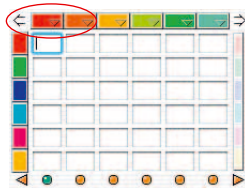
カラーマトリックスで小トライアングルがプリセットを表示、単一カラーそれぞれに複数のコレクションが作成できます。リストからプリセットを削除するには、Altキー (Win: “Shift” キー (SHIFT)) を押したまま、マウสดラッグします。マウスボタンを離すと、そのプリセットが除去されます。



## コントロール&マトリックスコンビネーション用プリセット

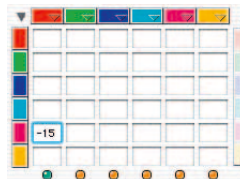
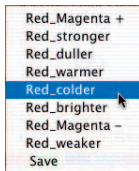
ダイアログ画面の “Save” ボタン利用でマトリックスプリセットのコレクションコンビネーションとアクティブレイヤー用のプルダウンメニュー下のスライダーポジションを保存できます。





## カラーコレクション プリセットの扱い

セレクトティブカラーコレクションダイアログを開き、“RED” プリセットシンボルをクリックします。赤のプリセットのあるプルダウンメニューを目にします。コレクションを選び、マウスボタンを離します。



それぞれの値が今、カラーマトリックス内へ自動的に入力されます。



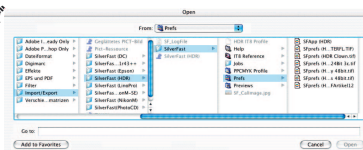
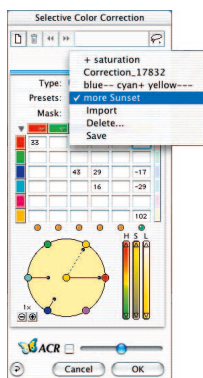
同じ方法で、6つのコレクションカラーそれぞれがロードできます。

リストからプリセットを削除するには、“Alt” キー (Win: “Shift” キー) を押したまま、その上でマウスドラッグします。マウスボタンを離すとプリセットが除去されます。

## 完全なコレクション用のプリセット結合

どんな好みのプリセットも完全なコレクションに結合でき、指定する名称の下で保存できます。

読み込み機能を利用して、他の **SilverFast** 製品から保存したパラメータをロードし、現行のバージョンへ適用可能でしょう。プリセットはファイル “SFApp” からの **SilverFast** の元となるバージョンの “prefs” フォルダからロードされます。



## マスクの操作

通常、セレクトティブカラーコレクションでの全設定はイメージ全体（フレーム）に影響します。

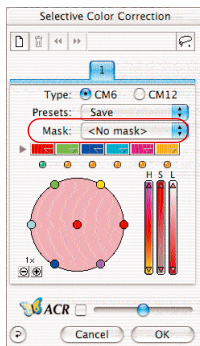
補正をイメージの一定領域に制限させたいなら、マスクを適用する必要があります。

マスクはプレビュー画面内部でマウスで自由に描画することができます。

選択を指定&囲い込みする為の「投げ輪、ブラシ、ポリゴン」ツールは改良されています。

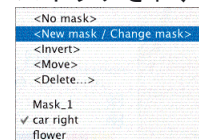


マスク描画後、そのカラーコレクションはアクティブな領域内で適用されます。これらはアクティブ領域がスキャンフレームの一部分をカバー/触れる場合にのみ見えます。投げ輪&ポリゴンツールは 6x & 12x マトリックス両方で適用可能です。



## マスクツールの選択

投げ輪ツール上でマウスをクリックしたままにすると、ポップアップで他のマスクツールを表示します。マウスを保持しつつ他のマスクツールの1つに変更でき、そしてマウスを離します。マスクメニューはすぐに“New mask / ...”にスイッチされ、描画をすぐに実行できるようになります。

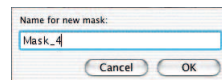


### 投げ輪（lasso）ツールでの新規マスク



マスクのアクティブな領域はマウスボタンを押している間の 1 動作で描く必要があります。マウスボタンを離す時、この方法で指定されたマスクの領域は、既に予定されたセレクトティブカラーコレクションで提供されるか、そのコレクションがアクティブな表面領域に即座に適用されるよう作成されます。

“Save” ダイアログがシンボルの後ですぐ現れ、マスクが保存できるようになります。

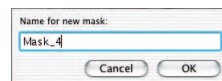


### ポリゴンツールでの新規マスク



アクティブなマスク領域は後続のシングルマウスクリックで定義されます。線は連続マウスクリックで描きます。ジオメトリックな領域の完了はポリゴンの始点を再びクリックして終了します。この方法で指定したマスク領域は、既に予定されたセレクトティブカラーコレクションで提供されるか、コレクションがアクティブな表面領域に即座に適用されるよう作成されます。

“Save” ダイアログがシンボルの後ですぐ現れ、マスクが保存できるようになります。

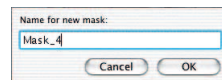


### ブラシツールでの新規マスク



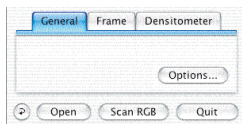
ブラシツールは小さな線を用いてマスクを作成します。これら小さな領域のみセレクトティブカラーコレクションで影響させられます。

“Save” ダイアログがシンボルの後ですぐ現れ、マスクが保存できるようになります。

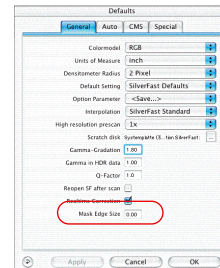


## ハード/ソフト マスクエッジ

描いたマスクのエッジはそのソフトネスが一定ではありません。マスクエッジ用標準設定は“hard”として定義されます。境界での横断地点はその幅を自由に定義可能です。



“General”・パレット > “Options...” ボタンをクリック。ポップアップ画面 “Presets” で “General” を選び、 “Mask Edge Size” メニューに続きます。ここの標準設定は “0” で、ハードマスクエッジを定義します。



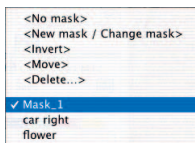
マスクエッジサイズ= „0.00“

値を変え、 “Apply” ボタンをクリックする事で、その効果をプレビュー画面でモニターできます。値の入力で得られる効果は、現在使用される出力解像度によります。



マスクエッジサイズ= „0.05“

もし結果が満足するものなら “OK” をクリックして “Option” .ダイアログを閉じます。ここで選んだ設定は、その後全てのマスクエッジに有効です。



## マスクの変更

現存するマスクは何時でも変更できるでしょう。実行するには、マスクメニューから希望のマスクを選ぶだけです。

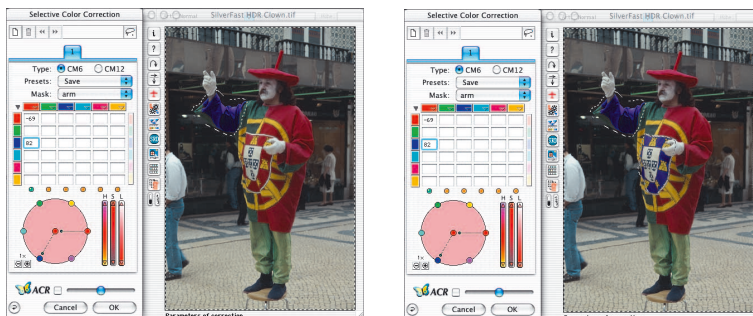
マスクに追加: “Shift” を押し追加分を描きます。  
マウスポインタは+印を表示します。



マスクから減少: “Alt” を押して、減らす分を描きます。  
マウスポインタは一印を表示します。

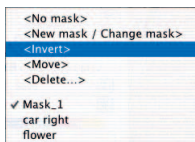


マスク変更:  
左側の画像のレイヤー3上で、隅の方だけマスク “Arm” を持ちます。右の画面では紋章が以前のマスクに追加されました。



## マスクの遅延反転 <inverse>

メニューinvert(反転)はスイッチです。以前のアクティブマスク領域と以前に非アクティブ領域間のスイッチングを可能にします。



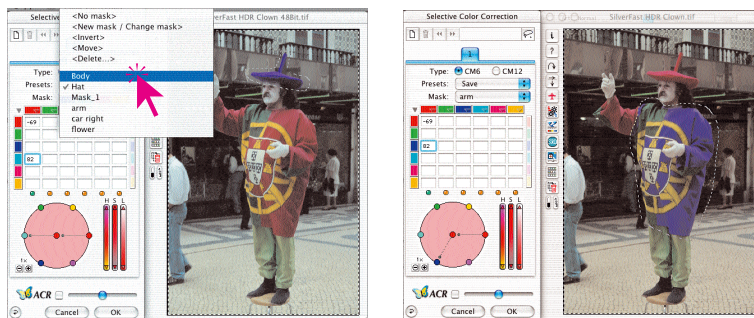
## 反転したマスクの直接的新規リドロー

何れかのマスクツールをアクティブにし、Alt キーを押す事でそのマスク機能を反転します。マスクはネガティブマスクの類になります。ここで、補正から影響を受けさせたくない領域をマスクツールで囲みます。この機能はマスクメニューからのマスク機能反転 (invert) に類似します。

## マスクの変更

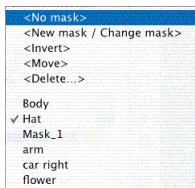
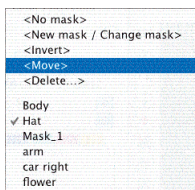
メニュー “ Masks “は以前作成したマスク全てを表示します。  
マスクはここで作成&削除ができます。  
現在アクティブなマスクはマスク名の前にチェックマークで  
ハイライト表示されます。  
あるマスクから別のものへの変更はマスク名でのクリックに  
よって実行されます。  
ダイアログは閉じて、プレビュー画面が更新されます。

マスク変更:  
レイヤー4で、現行のマスク“Arm”から  
マスク“Hat”にスイッチしてみました。



## マスクの位置を変更 <move>

クリック-ドラッグにより、アクティブなマスク領域が全体  
として、プリスキャン画面内部でシフトできます。



## マスクの非アクティブ化 <no mask>

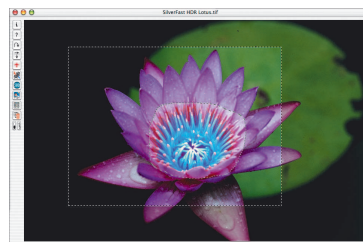
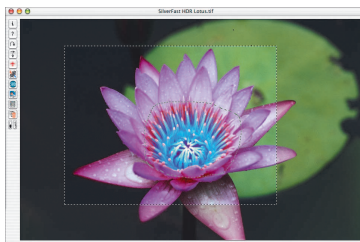
メニュー選択 <no mask> を使う事でアクティブレイヤー用の  
現在のマスクが非アクティブになります。  
そのマスクが削除される事はありません。



## 非アクティブなマスク領域の表示

セレクトイブカラーコレクションダイアログ画面が“OK”で閉じると、プリスキャン画面の非アクティブ領域は“Cmd + “Alt”キー (Win: “Ctrl” + “Alt” )を同時に押すと、薄暗く表示されます。アクティブなマスク領域は薄暗くなりません。

Mac:  +   
Win:  + 



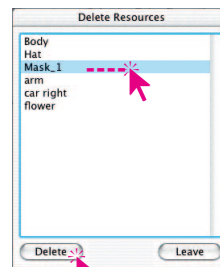
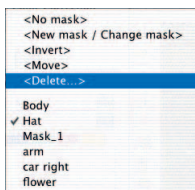
## マスクの除去 <delete>

以前保存した全マスクをダイアログ画面でここに表示させる事ができます。

単一マスクはクリックによりマークされ、メニューから削除する事ができます。

“Shift” キーを押しながらクリックすると複数のマスクをマークでき、削除できます。

“Command” を押しながらクリックするとマスクの列をマークでき、メニューから削除する事ができます。



サンプル

単一マスク



マスク反転



複数の部分的選択でのマスク





## 12色のコレクション

セレクトティブカラーコレクションダイアログの2番目のパネルは12色の補正に対応します。これで紫やオレンジのような中間の色合いを補正可能、6カラーマトリックスの代わりに利用できます。

なぜなら、カラーマトリックスの入力フィールドの全部は1度に表示できないためです。上部の左右に2つの矢印があり、水平にマトリックスをスクロールします。

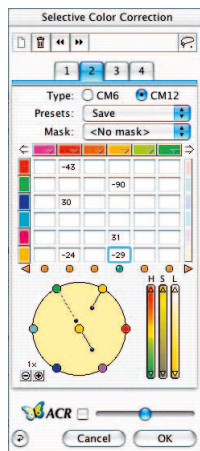


もし色（プレビューでクリックすると非表示になる）を選ぶと、マトリックスは自動的にスクロールします。

下の左右の矢印は補正されるであろう、見えない色が選択されている事を示します。



## マルチレイヤー&マスクでの セレクトティブカラーコレクション

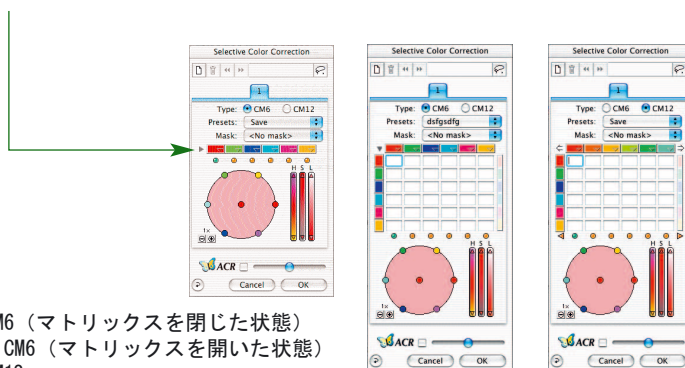


**SilverFast ver 6** 以降での新セレクトティブカラーコレクションはレイヤーまで含まれます。各レイヤーはマスキングを含む、それ自身の独立したカラーコレクションを持つ事ができます。例として、4つの赤の適用がそれぞれ別の色になる事が可能です。かなり複雑なカラーコレクションが非常に手軽に実行可能です。

セレクトティブカラーコレクションはカラー再現の最重要機能で、新しいセレクトティブカラーコレクションはユーザーの補正力をより面倒なワークフロー形成なしに向上させます。ユーザーはオブジェクトで単一クリック下さい、そして **SilverFast** はその色を認識します。コントロールを利用して、非常に簡単に色の変更ができます。レイヤーの追加とオブジェクトのマスキングで1つの色が今や、異なる色に分割可能になりました。

スペシャル機能 “Options...” ダイアログ > “General” パネル > “Mask Edge Size “はマスクのスムーズエッジの度合いさえも定義可能です。

ユーザーはセレクトティブカラーダイアログ外観も定義できます。カラーマトリクス全体はカラーチャンネルインジケータ左の小トライアングルでのクリックにより、非表示にする事が可能です（不要な時）。



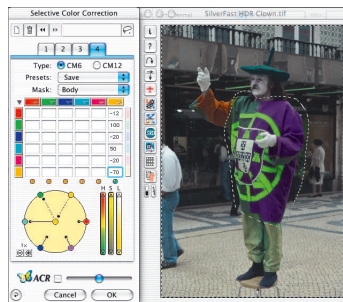
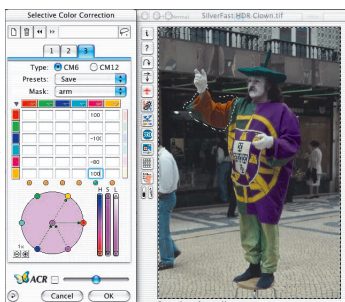
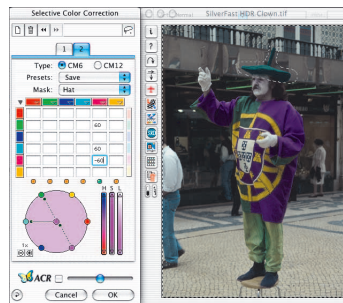
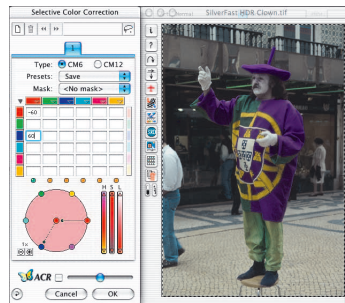
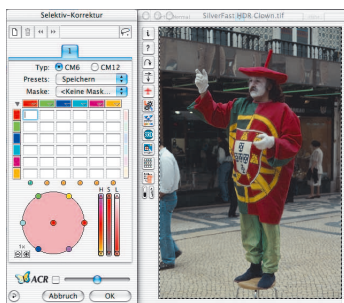
外観：  
左：CM6（マトリクスを閉じた状態）  
中央：CM6（マトリクスを開いた状態）  
右：CM12



## 新規レイヤーの作成



新規レイヤーはレイヤーボタンをクリックして作成されます。4つのレイヤーまで作成可能です。それぞれの新規レイヤーはデフォルト設定で起動しますが、基礎をなすレイヤーの上に構築されます。下図の例の場合、1番目のレイヤー上で赤は青に変わり、2番目のレイヤーは赤を赤として表示せず、青として表示します（最初のレイヤーで変更されている為）。



### レイヤーの追加

オリジナル(上左)レイヤーから始まり、4つのレイヤーまでが作成でき、カラー補正されました。コスチュームの単一アイテムのカラー補正を行うために、レイヤー上に 2~4 マスクが適用されました。

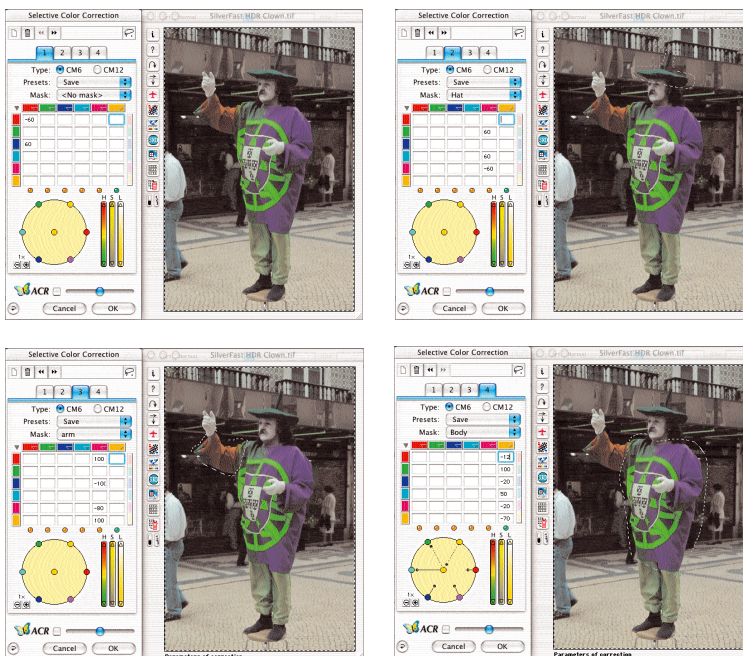
1つのレイヤー内部の全設定は幾分独立していますが、常に関連する基礎のレイヤー上に構築されます。この理由の為、Moving layers(レイヤー移動)“、Changing layers(レイヤー変更)“機能の違いを理解する事は重要です。



## レイヤーの変更（“スイッチング”）

レイヤー番号でクリックすると希望レイヤー（その設定全て）にスイッチできます。このレイヤー上でアクティブなマスキングも見えます。他レイヤーのマスキング破線は不可視になります。

そのカラー表現のようなプレビューそれ自体は、他レイヤーにスイッチする時も常に同じままです。変更はプレビューの別の位置におけるマスキング状況に関してのみ分かります。



レイヤー一面のチューニング：  
オリジナルレイヤーから始まり、  
全レイヤーが調節で一度表示します。

## レイヤーの削除



各レイヤーは“Delete”ボタン（ゴミ箱）でのクリックにより、削除できます。  
1つのレイヤーは常に残ります。最後に残ったレイヤーは削除できません。

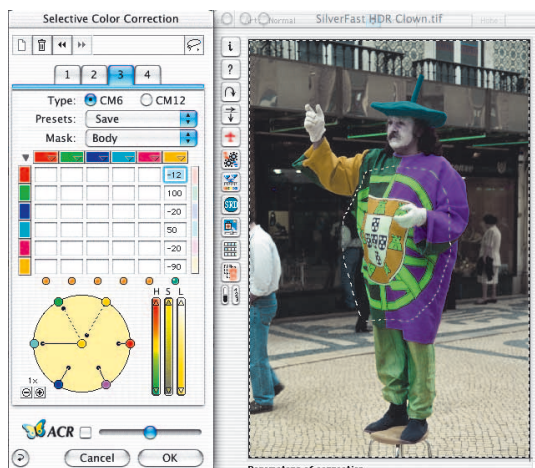
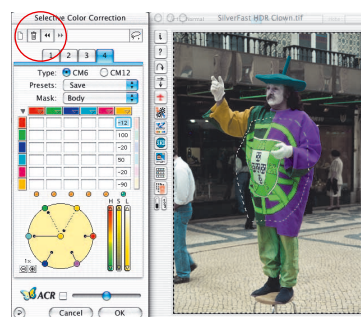
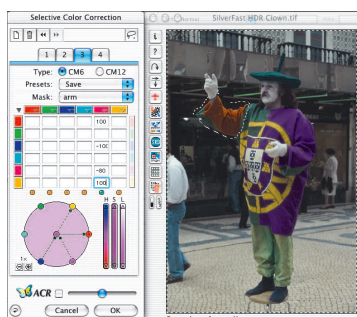


## レイヤーの移動 (“Change order “)



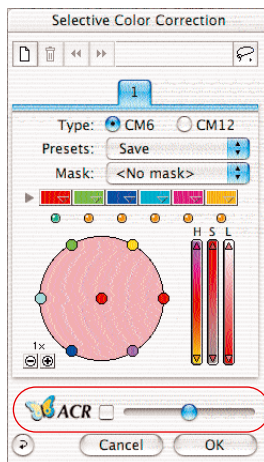
左図の矢印ボタンクリックで、固定されているレイヤーの順序が変わります。もし4つのレイヤーがあるなら、レイヤー番号3下のレイヤー番号4を左向きの矢印クリックで移動する事が可能です。レイヤーはお互いの位置を交換します。

もしレイヤーがマスクを持ち、2つのレイヤーでのマスク部分をオーバーラップする時、期待に添わない効果になるでしょう。マスク領域は全レイヤー中を計算される為、その結果は全体的に期待とは違う色になります。他のマスクをオーバーラップしないマスク領域は変わらずに残ります。



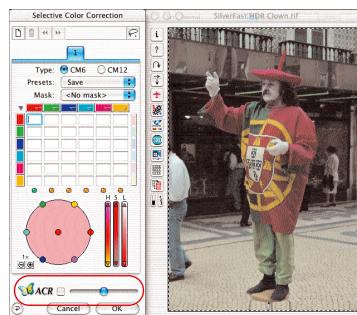
レイヤーの移動:  
ここのレイヤー4 はレイヤー3 の前に移動。  
両レイヤーに適用されているマスクは紋章の  
領域でオーバーラップします。レイヤーの  
移動によって、紋章の色は変わります。

## SilverFast ACR 退色復元



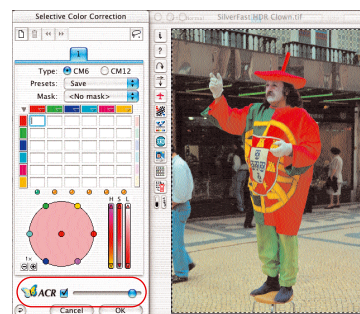
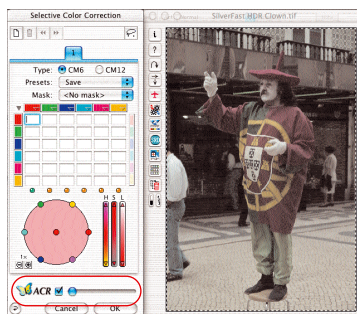
**SilverFastACR** (アダプティブカラーレストレーション: ACR 退色復元) はセレクトティブカラーコレクションダイアログの一部であり、チェックマークのオンオフで切換えできます。この自動機能は、ユーザーが褪せた色の復元や過度な彩度の標準化を可能にします。スライダーを使って色彩度を増減する事が可能です。

ACR はセレクトティブカラーコレクションとのコンビネーションで使う事ができます。ACR のアクティブ時に全ての設定が影響する事が可能。例として彩度の加減が必要な場合、ユーザーは ACR-スライダーを調節する必要があるだけです。セレクトティブカラーコレクションにおいて、以前補正されているカラー間の関係は保護されます。



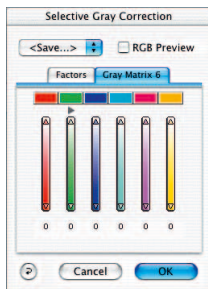
### ACR-スライダー

中央の位置では ACR は非常に小さな影響を与えます。左に動かすと、そのイメージは低い色彩になります。右に動かすと、そのイメージはより強い色彩になります。



## SilverFast SC2G

### セレクトィブカラー ＞ グレー変換



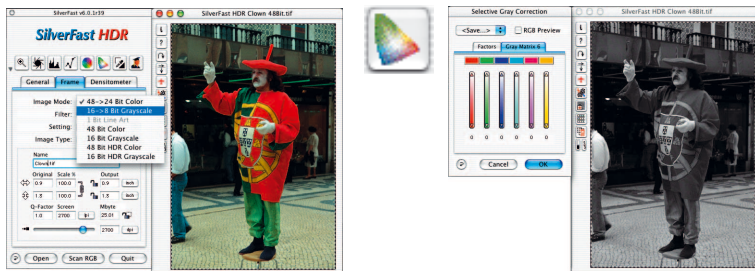
**SC2G**（セレクトィブカラー ＞ グレー）はグレーに変換されるイメージのカラー方法をコントロールするユニークな機能です。原色と第2色からグレー色調への変換の直接的なコントロールによって、ユーザーは類似したグレー色調の隣接した領域間での区別を強める事ができます。

日刊紙、雑誌、その他の刊行物は、しばしばグレー間の差異が少なすぎる白黒写真が見受けられます。元のカラーイメージはきれいな陰影出力だったかもしれませんが、変換プロセスにおいて、隣接したグレー間の差異は時に失われます。

**SilverFast SC2G** は全6色（赤、緑、青、シアン、マゼンタ、黄）での変換プロセスコントロールによって、陰影の間の差異を保護、または強調する事ができます。ユーザーはどのグレー陰影でカラー変換させるかを定義できます。プロセス全体はインタラクティブに定義できるため（最終結果は見える）、希望する結果にクイックに到達する事ができます。

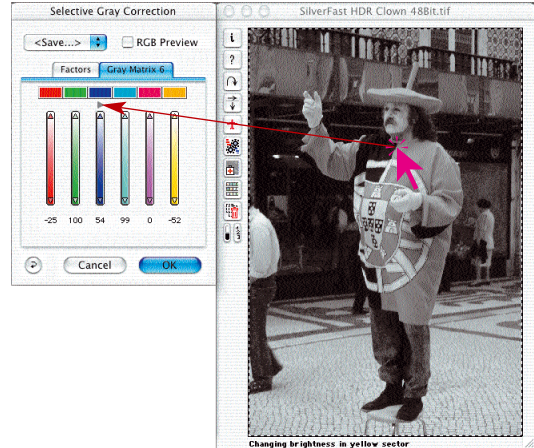
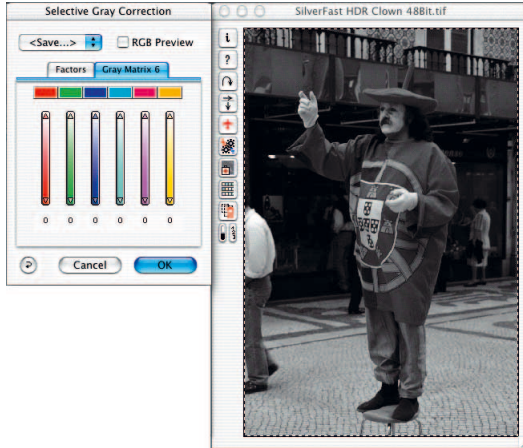
### SC2G のアクティベート

最初のステップは、“Image Mode” 下のカラーモードからグレーモードへのスイッチングです。セレクトィブカラーコレクションボタンをクリックすると、**SC2G**-ダイアログが呼び出されます。



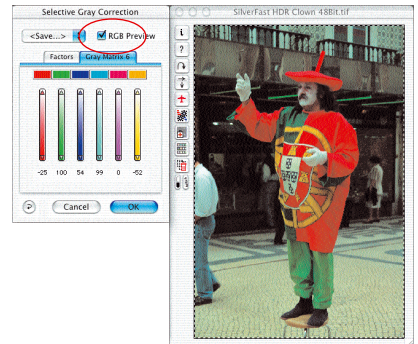
## カラーイメージ > グレーの変更

グレー調節の必要な領域でのクリックで **SC2G** はこのグレーがどの色から発生するかを認識します。上記を適切なカラー領域で行うと、**SC2G** がオリジナルカラーを認識した事を示している、小さな右矢印が見えるでしょう。



これでセレクトィブグレーコレクションを始める事が可能になります。コントロール上部で小トライアングルをクリックしたままにすると、選択したグレー用の明度が上がります。トライアングル下部はグレー明度を減少させます。一度マウスを離すとイメージが更新されるのと同様に、増減に従ってコントロール下に数値が見えます。

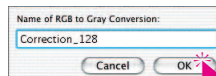
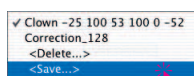
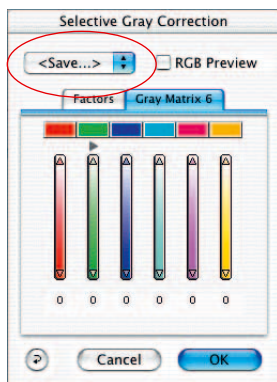
“RGB Preview” “クリックでどのオリジナルカラーに効果を及ぼすかをクロスチェックできます。



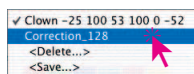


## SC2G-設定の保存/ロード/削除

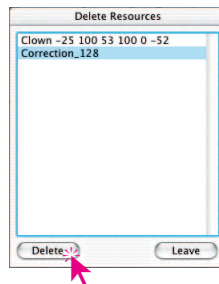
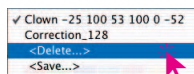
設定は他の **SilverFast** での設定と同様、保存、リロードする事ができます。



別の SC2G-設定間をスイッチするには、一方から別の設定（名）にスイッチするだけです。



不要な設定は簡単に削除する事ができます (Delete選択)。



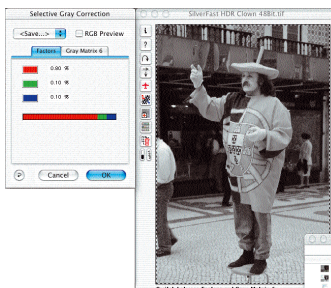
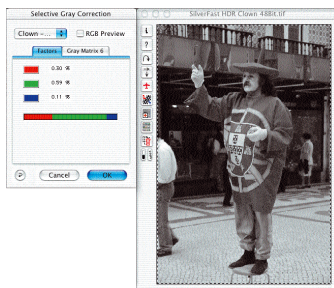
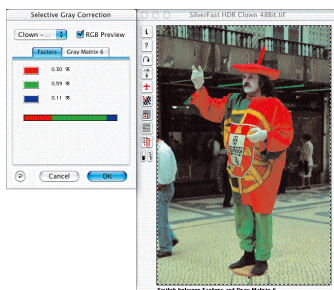
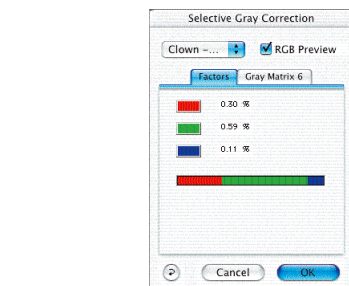
## 変換ファクターの変更

SC2Gダイアログは“Factors”と呼ばれるカラー → グレー変換の別の変更方法があります：ここはイメージのオリジナルRGB値を如何にグレー階調へ変換するかを定義することができます。

ダイアログ上部は現行パーセンテージ関係で原色を表示します。下の部分は3原色関係でのカラーバーで原色を表示します。全ての色の合計は常に 100% です。一つの色の方が大きい程、その色から変換されたグレー色調はより明るくなります。

左のサンプルに従い、赤チャンネルからのカラー明度は 30%で、緑チャンネルからのものは 59%、青チャンネルだけからは 11%でグレー変換に使用されます。それは緑の色調が赤の色調よりも明るくなる事を意味します（既存のカラー明度の参照を用いた明度の増加）。この例では、青い色調はこの設定で最も暗く映ります。

マウスでカラーバーのカラーボーダーを掴んで、ボーダー（赤/ 緑と緑/ 青）を好みの結果になるように移動させます。



標準設定では、道化師の装備はグレー色調付近に変換されます。例では、赤（中央イメージ）や緑（右イメージ）によるイメージ変更が如何に重要であるかをはっきりと示します。



## ツール 7: プリスキャンでのズーミング



(81 P を参照)

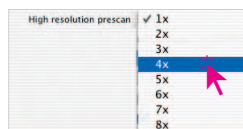
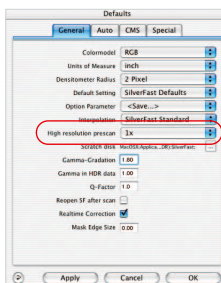
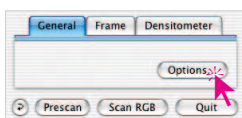
プリスキャンから、どのフレームへもズームできます。ズームはアクティブフレームをモニター画面の自由な利用可能スペースへスキャンします。拡大メガネをクリックしてズームを開始します。ズームしたフレーム上でいつでも補正を実行することができます。元のプリスキャン画面に戻るには、ツールバーで再び拡大メガネをクリックします。  
ズームツールは“トグルスイッチ”として動作します。

### プリスキャンの中止

“Command” + “ピリオド” (Win: “Ctrl” + “ピリオド”) を使っていつでもプリスキャンを中止できます。以前スキャンしたイメージは残ります。

### 高解像度プリスキャン

**SilverFast** でよりクイックに処理を行うため、プリスキャンは標準プリスキャンに実際必要なものより、8倍以上までの解像度を選ぶことができます。高解像度プリスキャンは“Options...”ダイアログ > “General” パレットでアクティブにされます。





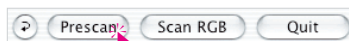
その利点は、拡大メガネ利用によるズームの活用です。**SilverFast** はデータを復帰させる事ができ、それは既に利用可能であり、拡大プレビューを再スキャンなしですぐに表示します。それゆえ、最初のプリスキャンは標準よりもいくらか長めに時間を取ります。



もし選択したズームがデータパラメータ内部にまだある場合、拡大メガネが緑色になります。



**SilverFast** がデータを補間する（既にプリスキャンで単一ピクセルを見るかもしれません）必要があるなら、拡大メガネは赤に変わります。



プリスキャンボタンのクリックでハードウェアから新規プリスキャンを選ぶ事もできます。この方法で、最も重要なユーザーインターフェースのプレビューが常に最適な解像度を確実にできます。



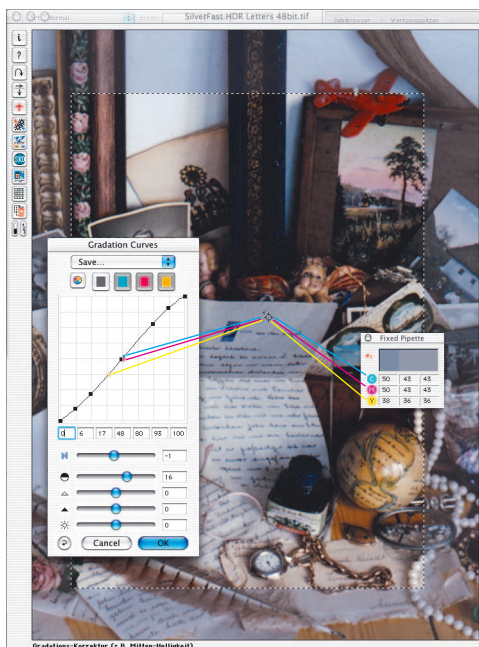
プリスキャンでのデンストメータ計測地点

## ズーム&デンストメータ

4つのデンストメータ計測地点をプリスキャンで固定でき、それはズーム内で保存されます。デンストメータ地点を固定するには、“Shift” キーを押し、マウスをクリックします。デンストメータ地点を再度離す際も同じ事を行います (P108 を参照)。

## デンストメータ読解とグラデーションカーブ

デンストメータ地点の固定とズームのアクティブ化の後で、3色の値がカーブ上で直接カラードットとして表示されます。これで特定の結果を得る為に変更すべきカーブを探す事がどのユーザーにも簡単になります。



ズームでのデンストメータ計測地点

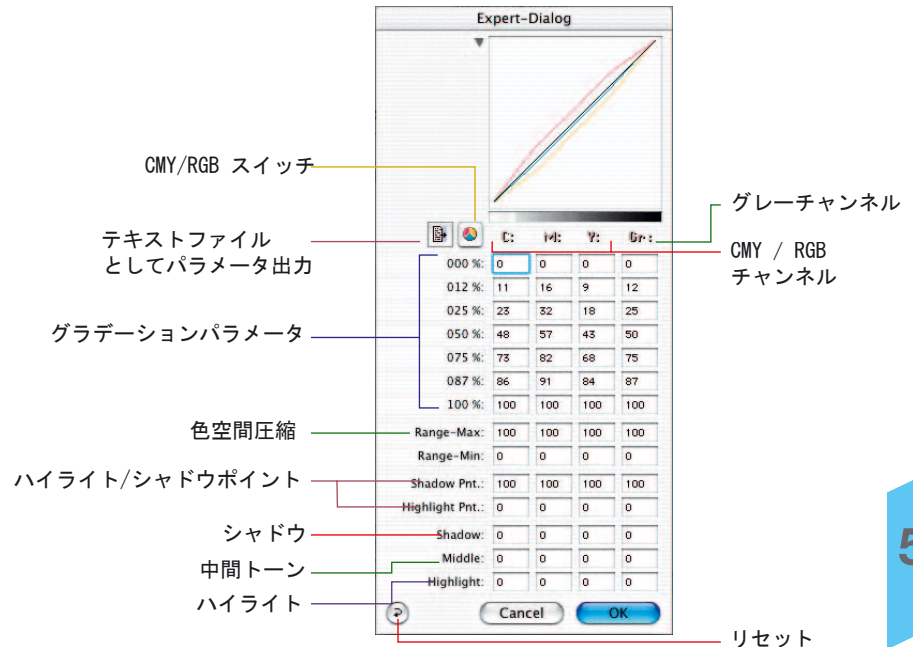
例、もし適切なデンストメータ地点でのマゼンタ値を変更する必要があるなら、上のボタンでマゼンタチャンネルを選択し、グラデーションカーブのマゼンタドット付近のカーブポイントポイントをドラッグします。

## ツール 8: エキスパートダイアログ

## プロフェッショナル用ダイアログ



エキスパートダイアログでは、スキャンフレームで設定する全てのパラメータが表示され、チェック&編集する事が可能。ベテランユーザーには、全主要パラメータのクイックオーバービューが利用できます。エキスパートダイアログのパラメータを変更するには、編集フィールドで新しい値を入力します。



列のパラメータ均一

列のパラメータの均一化は、CMY値のグラデーションで 50% 色調を得る場合でいえば、フィールドへ値を入力し、“Alt”キーを押してフィールドで再クリック - 全ての値は今や等しく（一列に）なります。

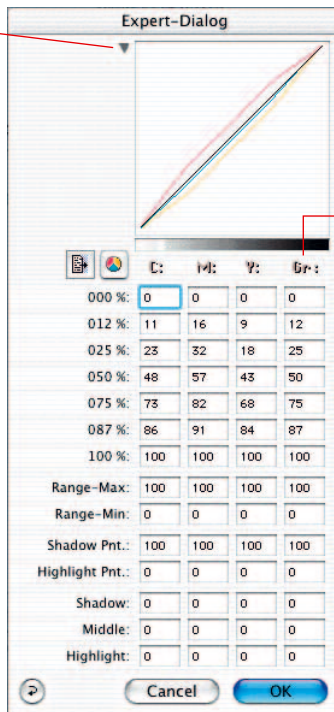
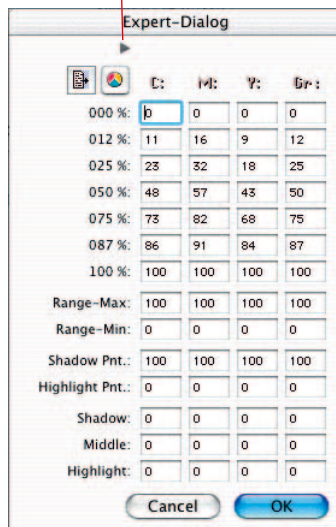
## グレイ値用の4番目の欄

赤、緑、青、シアン、マゼンタ、黄色の値の他に、エキスパートダイアログは追加の4つめの欄を持ちます。この欄 (Gr.) はグレースケールイメージ用のセパレートチャンネルであり、イメージのグレイ値を常に反映します。

## カーブ画面ダイアログの表示/非表示

小さな四角形で、エキスパートダイアログ上部のカーブ画面ダイアログの表示/非表示が行えます。

カーブ画面表示/非表示の  
ボタン



## 171





## 第六章    スペシャル機能



## スペシャル機能

全ての追加&スペシャル機能が第六章で解説されます。これらの機能のいくつかは特定のスキャナーであり、ソフト&ハードの組み合わせにより、異なる動作をする場合があります。そしていくつかのメニューは異なるか、まったく表示されません。

6. スペシャル機能	173-320
6.1 デンシトメータ	176-180
6.2 シャープニング	181-186
6.3 ディスクリーニング	187-190
6.4 GANE グレイン&ノイズ除去	191-194
6.5 ラインアーツキャン(1 bit)	195-196
6.6 マルチサンプリング	197-198
6.7 ネガティブスキャン	199-214
6.8 フィルムスキャナーでフィルムホルダー利用	215-219
6.9 異なるファイル形式で保存	219-224
6.10 スキャナーのフォーカス	224-228
6.11 スペシャル機能の解説	
<b>SilverFastPhotoCD, -HDR, -DC, DCPro</b>	229-279
<b>SilverFastPhotoCD</b>	230-234
<b>SilverFastHDR</b>	235-237
<b>SilverFastDC / DCPro</b>	238-271
<b>SilverFastHiRePP</b>	272-279
6.12 <b>SilverFastJobManager</b>	279-302
6.13 <b>SilverFastSRD</b> ダスト&スクラッチ除去	303-326

## スペシャル機能

### 6.1 デンシトメータ

For precise monitoring of density values

### 6.2 アンシャープマスキング

To enhance the image with better sharpness (detail contrast)

### 6.3 ディスクリーニング (モアレ除去)

To eliminate possible moire patterns when scanning printed images.

### 6.4 *SilverFast GANE*

Filter for reduction of grain and noise structures in film scans

### 6.5 ラインアート

To scan black and white samples (not greyscale)

### 6.6 ネガティブスキャン

To scan greyscale or colour negatives.

### 6.7 Uフィルムスキャナーと様々なフィルムホルダーの利用

APS film adapter, film strip holder, slide feeder.

### 6.8 スキャナーのフォーカシング

For optical focussing of the scanner.

### 6.9 *SilverFast PhotoCD, - DC, -DCpro, -HDR*

Scanner independent SilverFast products and their differences to *SilverFastAi*.

### 6.10 *SilverFast JobManager*

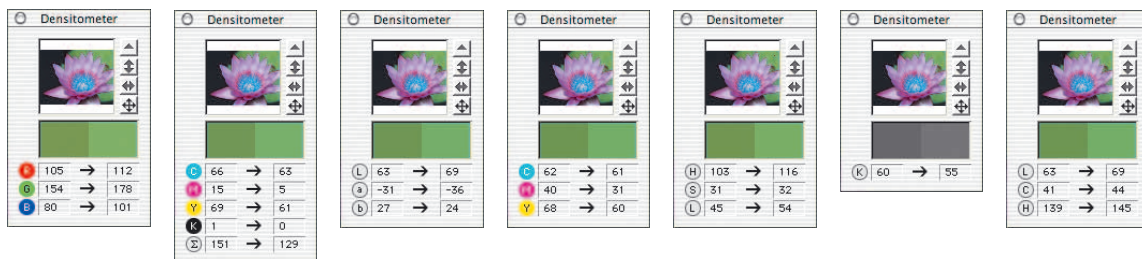
The high-end development of batch scanning.

### 6.11 *SilverFast SRD*

Smart removal of defects; remove scratches and dirt by the software.

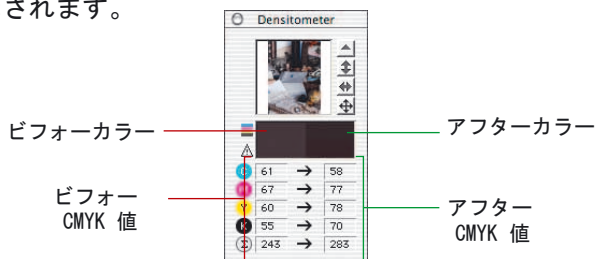
## デンストメータ（濃度計）

デンストメータでサポートされるカラーモデルは RGB, CMY, LAB, CNYK, K, LCH, HSL です。



### ビフォー&アフター値のモニタ

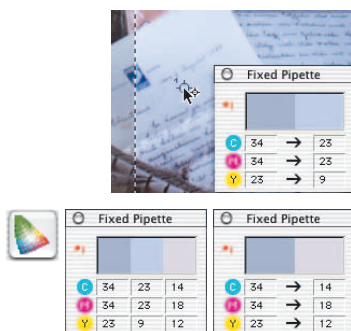
デンストメータは左の欄で未変更の値を表示します。右の欄では、変更された値（イメージオートアジャスト、グラデーション、他）が表示されます。



デンストメータはグラデーション&セレクトティブダイアログ内で表示されます。

スキャンフレーム内部でデンストメータポイントを固定します。グラデーション/セレクトティブカラーコレクションダイアログが開いている間、デンストメータはスレショルドモニタヘスイッチします。補正が完了すると、3番目（右）の欄が2番目に関連して変更した値を表示します。

OK のクリックでグラデーションダイアログが承認されると、デンストメータが2番目の欄ヘスイッチされます。3番目の欄は2番目の欄になるでしょう。

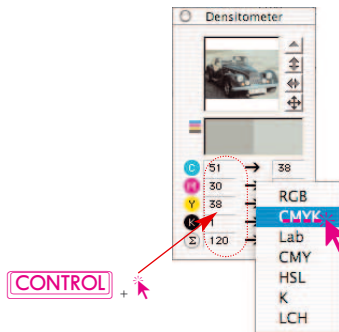


## デンストメータのスイッチング

全てのデンストメータは2つの方法による、異なる色空間にスイッチできます：

トグルスイッチ： 何れかのデンストメータの計測欄におけるクリックで、次の色空間モードへジャンプするでしょう。希望の色空間が表示されるまでここをクリックし続けます。

コンテキストメニューでの直接スイッチング：“Ctrl”キー **[CONTROL]** を押し、デンストメータの何れかの計測値セル内へクリックします。ポップアップ画面が開き、別の色空間選択により、デンストメータで計測された値は選んだ色空間の値に変換されるでしょう。

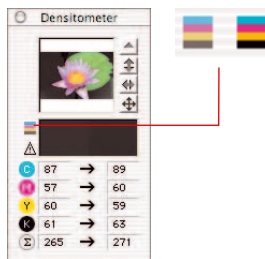


## プリスキャン上で見える CMYK 値

(P77、パーマネントソフトプルーフも参照)

**SilverFast** のフルバージョンにおいて、CMYK 出力値は既にプリスキャン自身で見られます。

**SilverFast** でICC セパレーションプロファイルなしの場合、Photoshop セパレーション設定がデンストメータ表示に使用されます。ただ、ICC プロファイルが選択された場合、このプロファイルがデンストメータ表示に使われます。これはマルチデンストメータ固定ピペットと同様、フローティングシングルデンストメータでも行われます。



CMYK プロファイルが **SilverFast** で選ばれると、C. M. Y. K 色の小ボタンが デンストメータ画面カラー “ビフォー/アフター” 表示左に現れます。このボタンはモニター上のソフトプルーフのアクティベーションです。単純にこのボタンを押してこの機能をアクティブ/非アクティブにできます。この状況は、スキャンボタンが” Scan CMYK “を示すという事です。短い計算後、CMYK 色はプリスキャンでシミュレートされます。

この方法で、Photoshop/ ICC- プロファイルから得られた最終セパレーション値を予測する事が可能です。



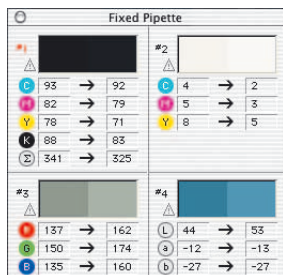
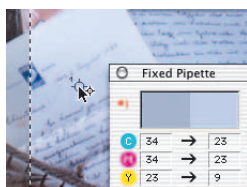
## ガムナット ウォーニング（警告）

計測位置でカラーが CMYK 色で印刷できない時の警告シグナルです。右欄上のカラーセルは水平に分割され、上側部分は現在のモニターカラーを表示し、下側部分は印刷可能な色にする色を表示します。



## マルチデンストメータ (マルチ Fixpip)

” Shift “ キーを押し、スキャンイメージでクリックする事により、4つ個々の計測ポイント迄をイメージのいずれかの所へ配置&固定させる事が可能です。これらの地点を削除するには、手順を繰り返すだけです。固定された計測ポイントはプリスキャン画面内で小番号付きの円によってマークされます。



これらピペット計測ポイントの計測値はもはやデンストメーター画面ではなく、それ自身の画面で表示されます。その画面は計測ポイント数への適応を試み、それらは固定ポイント数と選択したカラータイプ（RGB、CMYK、グレー、etc.）により、そのサイズが変更される事を意味します。

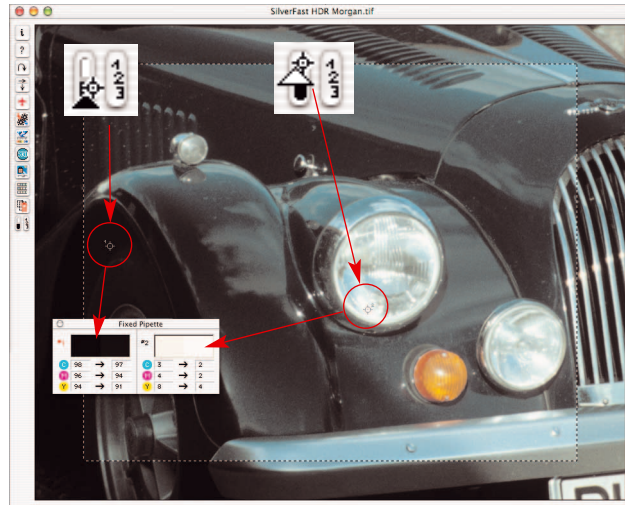
カラータイプはお互いに独立した各ピペット用に調節する事が可能です。最も速いスイッチ方法は、コンテキストメニュー（” Ctrl “ キーを押して値表示欄でクリック）を利用して実行できます。

もし全ての固定ポイントが削除されている場合、画面は自動的に閉じます。もし画面が閉じたなら、全ての固定ポイントは自動的に削除されます。

## マルチデンストメータにダーkest/ブライテストポイント転送



“Shift” キーを押しながら、“darkest/lightest point” アイコン内の白/黒の領域をクリックすると、**SilverFast** による解読が “fixed pipette” 画面に転送されます。コーナー値の上手なコントロールがこうして確実にできます。



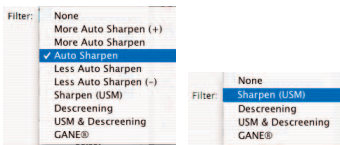


## シャープネスの改善

**SilverFast** は” Unsharp Mask “ (USM)と呼ばれる、特別に設計したシャープネス機能を持ちます。そのコンセプトはまだ科学的なプロセスだった伝統的の石版印刷術に由来します。コンター（輪郭）シャープネスはコピープロセスのフォーカス外フィルムマスク活用により改良されました。このプロセスは現在ソフトで使われ、自然な風合いのシャープネスを実現。標準シャープネスは作品を不自然に見せている作品のイメージ不規則さ全てのディテールコントラスト&輝度を増加させます。

### オートマティック USM

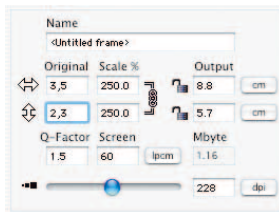
もし “auto-sharp” “less auto sharp” “more auto sharp” を **SilverFast** 用スキャンダイアログ画面のフィルターメニューで選ぶと、オートアンシャープマスクングは自動的に完了します。“auto-sharp” は基本的デフォルト設定です。この自動設定により、アンシャープマスクングは前に入力したスキャン解像度を参照して完了します。この設定で、アンシャープマスクングは選ばれた問題に対して、自動的に適用されます。それはエラーを回避し、殆どのスキャンで良い結果になります。多めか、少なめのシャープネスが必要な場合、単に増加または減少の設定を使います。



フィルターメニュー ” Unsharp Masking “  
(**SilverFastAi** & **SilverFastHDR** で)

### マニュアル（手動）USM

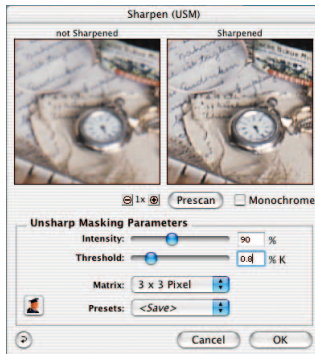
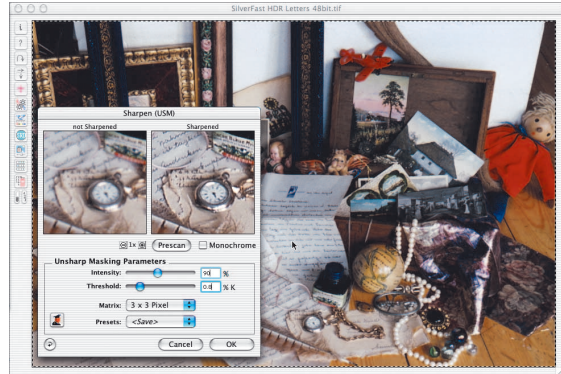
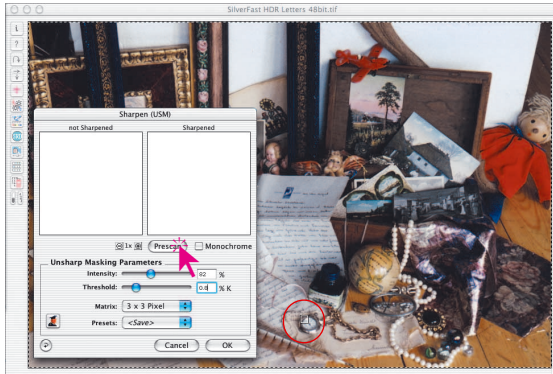
手動でのアンシャープマスク設定を行うには、最初に以下の設定を完了する必要があります：  
スケーリングを設定、出力フレームを設定、そして最終出力解像度を入力します。



出力パラメータの設定は、USMの適切な機能に必ず必要になります。

上述のポイントが完了した後だけ、“frame “ピペット内のフィルターメニューで USM 機能を使用すべきです。

まず、U. S. M. ダイアログで“Prescan” ボタンをクリックし、その後 **SilverFast** メイン画面で、シャープネス決定に最適な写真エリアでクリックします。 **SilverFast** はそれから選んだ最終解像度でイメージディテールをスキャンします。  
2つの小プレビュー画面がスキャンしたイメージディテールを表示：左がシャープ化効果なし、右がシャープ化効果有り。



シャープ化パラメータはポップアップメニュー“matrix”使用と同じく、スライダー“strength”“threshold”を利用して迅速かつ簡単に調節することができます。

- **Strength:** ストレngth（強さ）効果（0-500）の強度を調節。一般的値は 50 ~ 150。
- **Threshold:** スレシヨルド（閾値）値（0-10）はグレイ階調のシャープ化が起こる地点を決定（通常、2-10）。
- **Matrix:** シャープ化されるピクセルのその周囲の距離を決定。より大きなピクセル半径だけがより高い解像度（標準 3x3）になっているイメージで必要です。300% の拡大ならば、“5x5”のマトリックス、600% なら“7x7”のマトリックスが良いでしょう。

選択したパラメータはその後のスキャン用“presets”メニューで保存できます。  
全てのパラメータは“reset”を使ってデフォルト設定に戻す事ができます。

小さなプリスキャンの拡大に“pixel zoom”を使用。  
8倍迄の拡大の選択に“plus”ボタンをクリックします。

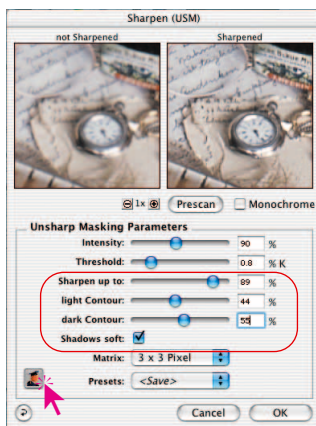


ズームしたプリスキャン、  
8倍までの拡大ファクター

小プリスキャンのイメージは“Shift”キー（ズームモードのみ）  
を押しながら、マウスカーソルのクリック&ドラッグによって  
移動する事ができます。







## エキスパートダイアログでのマニュアル USM

上級ユーザーは広範囲なエキスパートモードで最適なシャープ化パラメータ設定が行えます。

ダイアログ画面内の小さな“expert ボタン”クリックで画面が拡張し、追加設定機能が提供されます。“expert ボタン”（現在は赤）追加のクリックでダイアログ画面は通常サイズに戻ります。追加パラメータ：

- Sharpening up to:** グレー値 (0-100%) のパーセント値を決定します。  
 例、80% の値は、80% 以下の全ての色調がシャープ化される事を意味します。80% ~100% の暗い色調はシャープ化されないままになります。
- Sharpen from (スライドモードでのみ)：**  
 どのパーセントで（グレースケール）シャープ化を実行させるかを決定 (0-100%)。  
 例、20% の値は 20% 以上の全ての色調がシャープ化される事を意味します。0~20% の明るめの色調（スライド）は再度シャープ化されないままです。  
 スライダー sharpen up to “ / sharpen from “ は USM によって強くなるシャドウのあるイメージでノイズを防ぐのに重要です。
- Light edge / dark edge:** 希望するテーマのシャープ化に依り。1つかその他の値を増加する事ができます。多くの場合、設定の値は同じです。
- Shadows soft:** チェックBOX でチェックして決定します。  
 “sharpen up to” はその時点からソフトになります。  
 シャドウつきのイメージにおけるノイズ出現の可能性は “sharpen up to “ “ shadow soft “のコンビネーションで概ね、削除されます。

ブライトコンター/ダークコンター（輪郭）シャープ化の例  
好みのシャープ化を実行するには、実際のイメージによって、  
2つの値の1つに基づいて変更する必要があります。通常、  
両方の値は同じに保つようアドバイスされます。ブライト/  
ダークエッジ用のスライダーが4イメージ全ての中で単に  
変更されました。



ブライトカラー = 0  
ダークカラー = 0



ブライトカラー = 40  
ダークカラー = 60



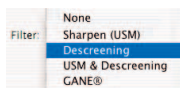
ブライトカラー = 0  
ダークカラー = 100



ブライトカラー = 100  
ダークカラー = 0



## 印刷物のディスクリーニング（モアレ除去）

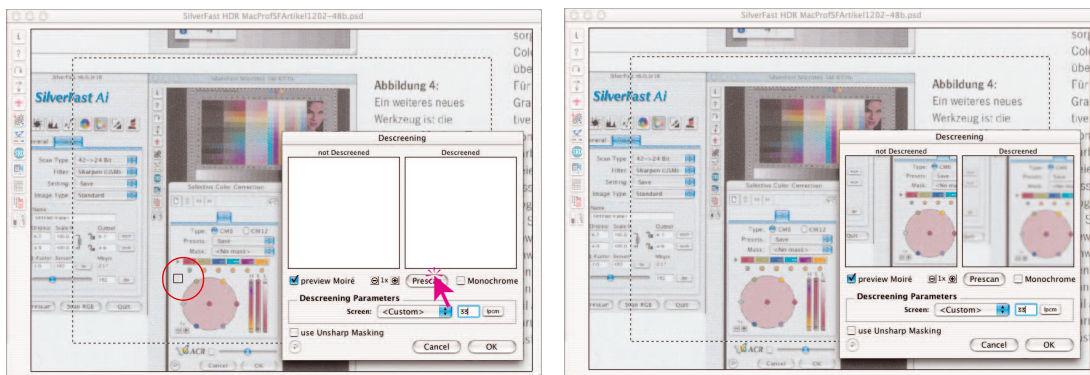


**SilverFast** は印刷物からスクリーン除去用ディスクリーニングを使用します。

SilverFast でディスクリーニングを実行するには”frames “パレットのフィルターメニューから “descreening” を選択、続いてダイアログ画面が表示されます。

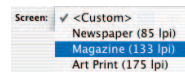
### 印刷物におけるスクリーン設定

まず、descreening ダイアログの“prescan” ボタンをクリックして、**SilverFast** メイン画面でディスクリーニング用に最適なイメージエリアをクリックします。 **SilverFast** はその後選択した最終解像度でイメージディテールをスキャンします。2つの小プレビュー画面はスキャンしたイメージディテールを表示します。左側はシャープ化効果なし、右側は効果有り。



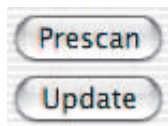
ディスクリーニングの最大効果を得る為には、最初にラインカウンターか、特別なリソメーター（計測器）を利用してディスクリーニングされる印刷物を決めます。“screen” 下スクリーンサイズ用に決めた値を入力。“scale unit” 用ボタンをマウスクリックし “lpi” ~ ”lpcm” を切換可能です。

もしスクリーンサイズが分からない場合、概算値として **SilverFast** でプリセットした値に戻れます。印刷物用にいくつかのプリセットがポップアップメニュー “screen” で表示されます。



**[SHIFT]** +

=

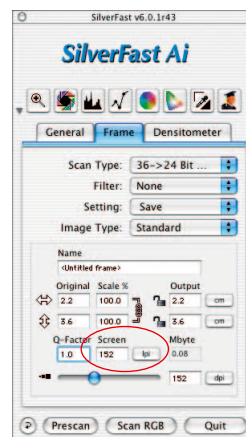


続くプレビューで、その設定はリアルタイムで表示される事はありません。エフェクトをコントロールするには、“Shift” キーを押しながら “update” キーでクリックします。

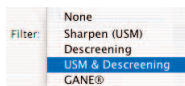
**SilverFast** はその後、スキャナーからのデータ（特にメインプリスキャンでクリックされた第1優先ターゲット位置から）を更新。古いターゲット位置用に更新されたサーチが不要になります。

小さなプリスキャン拡大用に “pixel zoom” を使います。ズーム操作はまさしくアンシャープマスクで行います。“plus” ボタンをクリックして8倍までの拡大を選択します。小プリスキャンのイメージは “Shift” キー（ズームモード時のみ）を押し、マウスカーソルでクリック&ドラッグする事で移動させる事ができます。

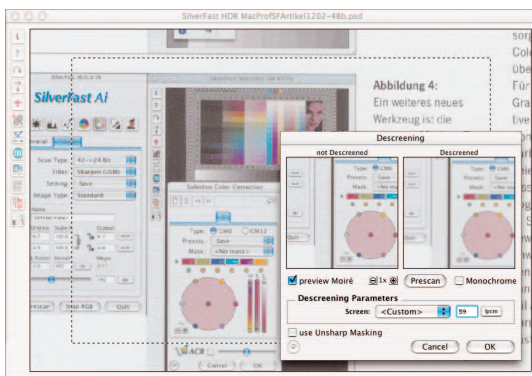
最後に、“frame” タブ内の “screen” フィールドで出力スクリーンを入力します。



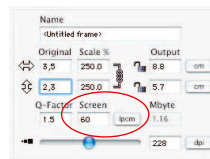
実際のスキャンの間、スキャナー操作がやや遅いように感じられるでしょう。これはディスクリーニング中の集中的計算によるものです。



アンシャープマスキング (USM) 利用でのディスクリーニング  
単に印刷物をディスクリーニングすると、画像処理ソフトでは非常にソフト見え、ひどくぼやけた感じになる場合があります。これを避ける為、ディスクリーニング処理に“アンシャープマスキング”を加える事ができます。フィルターメニューのディスクリーニングは”USM & descreening”下で起動できるでしょう。その代わりに、ディスクリーニングダイアログが既に開いている場合、”use unsharp masking”BOXチェックによって USM を実行できるでしょう。



この目的の為、“use unsharp masking”BOXのチェックマークにマークします。拡張されたダイアログ画面で全パラメータが標準アンシャープマスキングのように利用できます。標準モードとエキスパートモード間をここで選ぶ事もできます。



最後にファイルタブ“frame”パレット内の“screen”用フィールドで任意の出力スクリーンを入力します。





ディスクリーニング中の制限された拡大（引き伸ばし）

スクリーン印刷物は解像度を持ち、スクリーン解像度（ドット数）により制限されます。それゆえ、ディスクリーニング中の拡大は制限されます。

その結果はモアレパターンか、もしくは何か他の効果に自動的になるでしょう。縮小は問題ありません。

## GA NE

### グレイン&ノイズ除去（粒状低減）

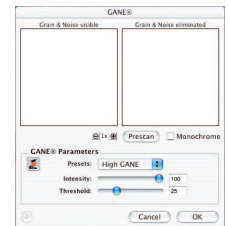


GA NE (Grain- and Noise Elimination) はフィルムの粒状感と CCD ノイズを除去または低減させる **SilverFast** フィルターです。

粒状パターンとノイズの減少は **SilverFast** “ビフォーアフタープレビュー” でモニターでき、最終結果の確実な判断を可能にします。

今日のモダンで、高解像度のスキャナーはフィルムから、とりわけ高 ASA/ISO-値でのフィルムから粒状を生じさせます。ノイズの抑制は旧型のスキャナーかデジタルカメラに関連します。

GA NE フィルターの強度はビフォーアフタープレビューで簡単にコントロールできます。細かい調節はエキスパートモードでの追加スライダーで対応。（エキスパートモードは **SilverFast** フルバージョンのみ可能）



#### 重要な予備ステップ

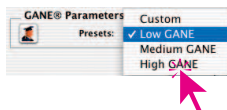
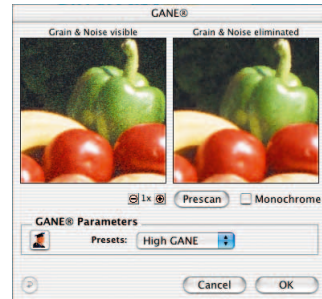
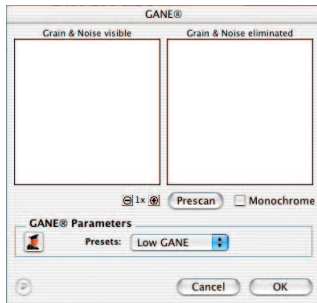
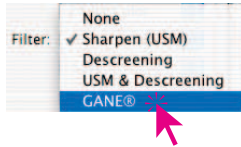


GA NE は“アンシャープマスキング (USM)” フィルターのように機能します。標準の **SilverFast** イメージ最適化ワークフローの全ステップを最初に実行する必要があります。GA NE は最終ステップ、スキャン開始前に直接使うのがベストです。最低限、スケーリング&出力解像度を設定すべきです。

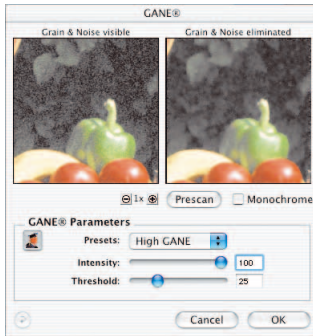
## GANE のアクティベート

GANE は **SilverFast** メインダイアログ “Frame “内 Filter 下でアクティブになります。GANE-ダイアログ画面が開きます。

ビフォーアフタープレビューで GANE 効果をモニターするには、“Prescan “ ボタンをクリックし、イメージプレビュー内での必要なイメージエリア上で四角のマウスカースルのクリックで、効果を見るための関連イメージディテールを得られます。  
**SilverFast** はプリセット解像度に 1:1 スキャンを用意、そしてビフォーアフタープレビュー内でその結果を表示します。



ここは “Presets “ メニューから設定を選ぶ事だけです。上の例では、設定 “High GANE” が選択されました。



## エキスパートモード

プリセットが不適当ならいつでも、Expert ボタンをクリックしてエキスパートモードをアクティブにする事ができます。ダイアログ画面が拡張し、3つの専用スライダーが表示されます。

**Intensity:** エフェクトの強度を表します。最大値100は GANEがイメージの全てにおいてノイズ 100% を削除しようとする事を示します。

どんなノイズもない“理想的“イメージは人の脳によって、“人工的”として簡単に解釈されます。“理想的“単一色フラットエリアは見る者に対して人工的に感じさせます。言い換えると、小さなノイズ量を含んでいるエリアはよりもっと“自然“に見えます。

これらの事実・、高品質スキャナーでは 80%以下に、・結果が“不自然““人工的“に見える場合に、強さを・する・は合理的に思われます。

**Threshold:** GANE は 不必要なノイズと保護したいイメージディテール間を識別しようと試みます。小さな値はより小さなノイズレベルを意味します。

**Radius:** 各ノイズの粗さ、粒状のサイズを定義します。もし、ノイズピクセルサイズ以上に拡張しない場合、小半径値が適用されます。ノイズが隣接したピクセル以上に拡張する場合、その半径は増加します。



## ラインアートスキャン(1 bit)

### ラインアートスキャンの解像度

ラインアートは解像度に有効なピクセル数の1ビット情報で、標準フラットベッドスキャナーのキーファクター(グレースケールでシェード/カラー数を映像化する事が最重要)です。**SilverFast** ではスキャナーはスキャナーハードウェアにより、(4800 dpi迄の補間で)異なる・解像度をスキャン可能です。

しかしそんな解像度は必要ですか? 答えは“NO!” 一般に、解像度は 800~1200 dpi の間で十分です。稀な場合のみ、高解像度が要求されます。すなわち、スライドスキャナーは高い・解像度が要・されますが、それはハイレベルな拡大が可能だからです。

ラインアートイメージ



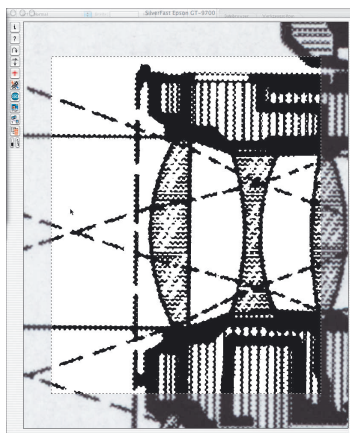
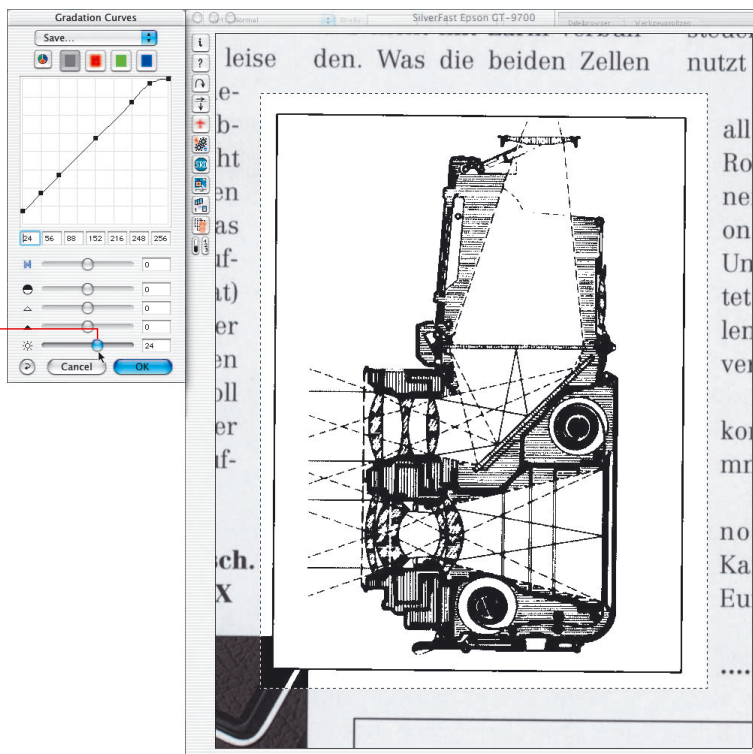


## 最適なスレシールド定義のためのズーミング

通常、プリスキャンはスレシールド値（閾値）決定に活用されません。しかしながら、それを行うのに、**SilverFast** からのズームは良い助けとなります。

ラインアートにズームインする事で重要なラインを見る事ができ、スレシールドスライダの利用によって、それらを調節できます。左のズームはラインアートイメージの各ディテールにズームできる事を示し、そのためスレシールドは完全に調節できます。

シングルズームプリスキャン  
でのスレシールド設定



ダブルズームプリスキャン

## マルチサンプリング\*



マルチサンプリング\*はいくつかのスキヤナーに関して利用する事ができ、それは邪魔なものを削除する為にシャドウエリアではっきりと力強い走査音を呈します。

この機能は一定のスキヤナーのみ利用可能です。

このプロセスでは、スキャンフレームは複数回スキャンされてそれから結果として、最終イメージに平均化されます。

高解像度に関して、アンシャープマスキング検討を考慮すべき、若干のフォーカスのロスがあるかもしれません。ハードウェアの点で、時折シングルスキャンのミスマッチ要因になりえます。ここは2回目の試行が助けになるかもしれません。結果は通常うまくいきます。

走査音の様子は統計的にランダムな原則に従い、イメージからイメージへ異なった地点で現れます。繰り返されるスキャン済イメージの計算において、サンプルまたは走査音の間の相違はtこの方法で削除する事ができます。これはポジショニング動作に劣るスキヤナーでは機能しません。

マルチサンプリングはそれ自身のボタンで実行できます。

スキャンフレーム毎のスキャン数は 1, 4, 8, 16 回（回数はスキヤナーに依存）です。ボタン内の小さな数はスキャン量を表します。



スキャン時間全体はスキャン数に比例して増加する事に注意下さい。

少数のスキヤナーのみ、CCD 停止の間にマルチサンプリングを使います。プリセットスキャン回数に従い、スキヤナーは停止し、1回以上 CCD を読みます。利点は高速なスピード（標準スキャン以上に長くはない）にあります。記録の完全な正確さでもあります。通常、この方法はシャープさのロスはありません。



\* 注意

この機能はいくつかのスキヤナーのみ利用可能です。



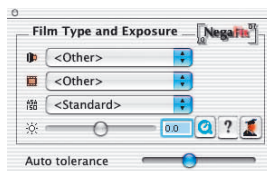
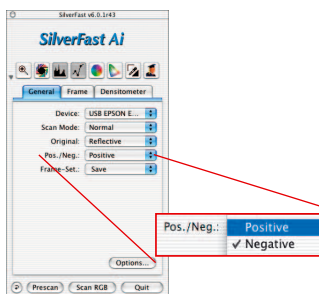
## NegaFix ネガティブスキャン

### 1. 統合されたプロフィールでの ネガ（フィルム）の最適化



**SilverFast NegaFix** を利用した標準的露出と現像したネガのネガ-ポジ変換はいくつかの簡単なステップで達成できます。

“General” パネルでメニュー “Pos./Neg.” を “Negative” モードへスイッチします。これが起こると、“Negative” ダイアログ画面で “NegaFix” が表示されます。



**NegaFix** 画面は3つのポップアップメニューと2つのスライダーを表示。ポップアップメニューはネガフィルムの適切な特性の選択に使われます：

- a) メーカー/フィルムブランド名
- b) フィルムタイプ/ フィルム名
- c) フィルムスピード（感光度）

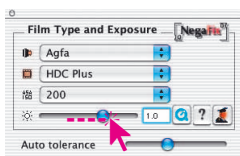
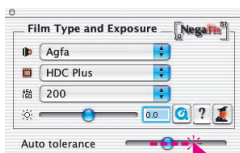
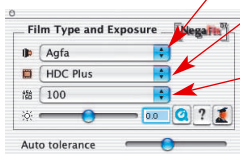
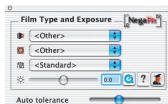
スライダー “Exposure” か、入力フィールドを利用して、ネガのフィルム露出をプラス/マイナス 3Fストップ（絞り）以内で調節する事ができます。

“Auto tolerance” スライダーは自動フィルムマスク認識におけるハイライトの調節が可能です。



イメージのオーバービューを取得する為にプリスキャンを開始します。プレビューは未補正のポジイメージを表示。以下のページでのステップに続いて下さい：

\*スライダー “Auto-tolerance” はスキャナーに依存した **SilverFastAi** , **SilverFastSE** バージョンのみ利用可能です。



## 1. イメージフレーム選択

マーキー線選択がイメージ内側にあり、フィルム材質の周囲に触れないようにします。右側のイメージは搭載した“標準プロファイル”で自動的に最適化されています。



## 2. フィルムメーカー選択

メーカーまたはネガフィルムブランド(例 Agfa)を選びます。

## 3. フィルムタイプ選択

フィルムタイプを選択(例, HDC)。



## 4. フィルムスピード選択

実フィルムのフィルムスピード(ASA/ISO値)をポップアップメニューから選択。選んだ全ての設定はプレビュー画面で直ぐに更新されます。



## 5. オートトレランス

イメージにまだニュートラルさが不足の場合、このスライダーはマスク認識(ハイライトで)のトレランス(許容値)の調節が可能です。

## 6. フィルム露出補正

通常、フィルム露出の補正は必要ではありません。もしイメージが明るすぎ/暗すぎるようなら、スライダーで±3 F-ストップのフィルム露出をシミュレートします。プレビュー内で補正をリアルタイムで確認できます。

## 7. オートアジャスト適用

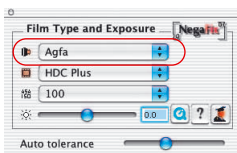
ここでネガ-ポジ変換のプロセスが完了しました。お持ちのイメージをフルに最適化するには **SilverFast** オートアジャストボタンをツールバーで押すか、任意の他ツールを適用します。

## 2. ネガ最適化のサンプル

この例では“Agfa, HDC 200 plus” ネガの最適化を実行します：

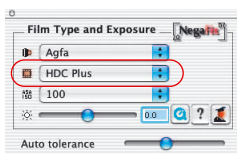
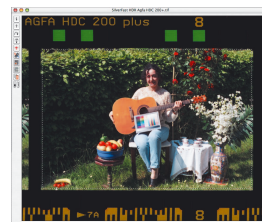


まずモードをポジからネガに切換えて、プリスキャンをスタートします。プリスキャン画面がポジに変換されたイメージを表示します。スキャンフレームを変えることにより、実際のイメージピクセルだけカバーし、フィルムのミシン目に触れません。



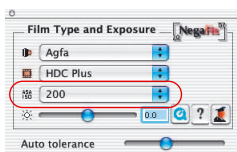
フィルムメーカー：“Agfa”

このポップアップでネガフィルムのメーカー名を選択できます。選択による効果はプレビュー画面をリアルタイムで更新します。



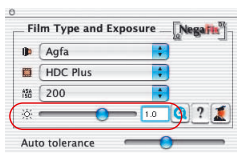
フィルムタイプ：“HDC plus”

このポップアップで指定のフィルムタイプを選びます。各フィルムプリセットがプレビュー画面でフレームを際立って変わります。



フィルムスピード：“200 ASA”

このポップアップで使用フィルムのフィルムスピード(ASA/ISO-値)を選択できます。選択はプレビュー画面を再度更新します。



露出補正：“+1 F-ストップ”

このスライダーで+1 Fストップ内でフィルム露出補正を最後に行えます。







これでネガからポジへの変換プロセスを完了します。

最適な結果を得る為、**SilverFast** オートアジャストボタンを押すことだけが必要です。

オートアジャストは実際のスキャンフレーム用に全面的ブライトネスと同様の適切なハイライトシャドウ値を設定します。



## NOTE!

IT8-キャリブレーションはポジティブスキャンモード（スライド&写真）にのみ適用可能。ネガティブモードでは自動的に不可となります。

期待通りの結果にならない場合、良い結果を得るために、他のフィルムプリセット（メーカー）、フィルムスピードで試して下さい。（別メーカーのプロファイルでも）上記アドバイスでも芳しくない場合のみ、エキスパートモードへのスイッチが必要です。

最終スキャンを開始するまで、さらなる最適化用に標準 **SilverFast** ツールを今、続ける事ができます：

例、イメージのネーミング、スケーリング、USM、ディスクリーニング、セレクトティブカラーコレクション..最後に CMYK/RGB でスキャンします。

## 3. エキスパートダイアログ\*

いつエキスパートモードダイアログを使うべきか？

どの場合でも第2章で述べたように、まずネガからポジへの変換に標準の手続きを使います。



\*注意

エキスパートダイアログは次の製品で利用可能: **SilverFastAi**, **SilverFastHDR**, **SilverFastDC**, 等。

**SilverFastSE**-バージョンに **NegaFix** エキスパートダイアログはありません。

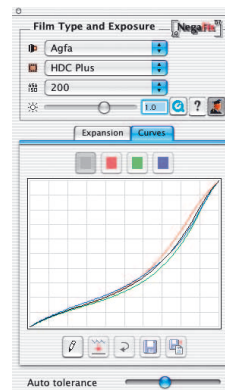
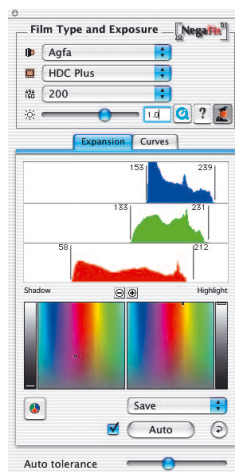


これらのステップが希望の結果を産み出さない場合、“エキスパート-ダイアログ”を開きます。特定フィルム用のプロファイルがないか、既存のプロファイルがネガへ正しく変換しない場合などが該当します。

### “エキスパート”ダイアログ概要

エキスパートダイアログは“エキスパート”ボタンをクリックすると現れ、2つの主パネルから成ります：

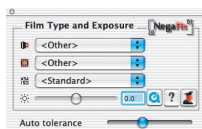
- “Expansion”ダイアログはネガのダイナミックレンジと拡張をモニター&コントロールします。
- “Curves”ダイアログはプロファイルの特性を示し、カラーキャストを取り除きます。



## エキスパートモードのワークフロー

エキスパートダイアログでネガを最適化する方法を短く述べます。

### 1. 標準メニュー：フィルムプロファイルを選択



プロファイルなしの場合でも良い結果を産み出しますが、できるだけ選択するのがベストでしょう。もしも偏差が強すぎる場合、“Other” か “Standard” にスイッチするのが良いでしょう。

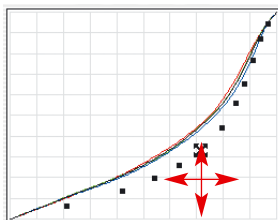
### 2. 拡張メニュー



“Auto-Tolerance” スライダーはオートマスクング処理の強さを調節します。

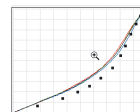
その効果はヒストグラムとプレビュー画面でモニター可能です。最も左のスライダー位置では最小の効果を示します。

### 3. カーブメニュー：カーブの調節

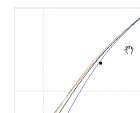


“Edit” モードに変更します。（ペンシルをクリック）  
カーブをドラッグする事で、プレビュー画面のイメージは希望通りになります。カーブダイアログ上の単一カーブはカラーアイコン（単一カーブ用 赤、緑、青）クリックにより選択できます（全カーブの選択はグレーをクリック）。デフォルトでは全カーブが選択されます。

単一カーブポイントはマウスで移動できます。  
より正確に調節するなら、カーブをズームする（+の拡大メガネ、“Alt” キーを押すとーの拡大メガネ）事が可能です。



ズームモードで、可視領域は“Shift” キーを押して移動できるでしょう。





## 4. カーブメニュー:ニュートラルグレーを設定

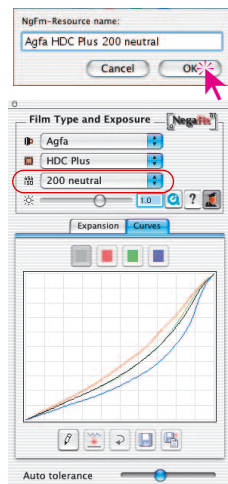
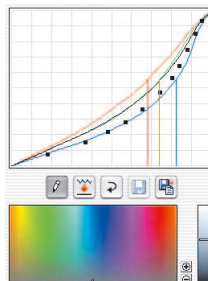
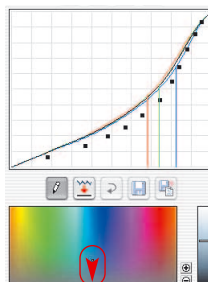
しばしばニュートラルにすべきイメージエリアはカラーキャストを持ちます。これは簡単にニュートラル化または別のカラーに変更できます:

Edit モードでカーブを使い、プレビュー内でカラーキャストエリアをクリック。グラデーションカーブのこのポイントは縦ラインでマークされ、下の HS & L ダイアログで単一のポイントかライン別々にマークされます。

HSダイアログでこのポイントをドラッグして水平グレー軸へ縦に下げます。

プレビュー画面はその変更を即座に反映します。

このポイントを純粋なニュートラルにしたい場合は、色空間の何か他のエリアにポイントをドラッグできます。



## 5. カーブメニュー:新規作成プロファイルを保存

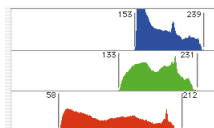
“Save as” ボタンをクリック、新規作成プロファイルに新しい名前をつけます。カスタムプロファイルはポップアップ “ASA/ISO” で書き添えられます。

## “拡張”メニュー詳細

エキスパートダイアログの上部の“拡張”メニューはオレンジマスクヒストグラムと如何に **NegaFix** がオレンジマスクを最適化するかをモニターします。ヒストグラムは手動でのオレンジマスクの最適化も可能です。

## 自動マスク

上半分はネガヒストグラムと如何に自動マスクがハイライト&シャドウポイントを設定するかを表示します。



☒ Auto 自動マスクは継続的に動作、ボタン“Auto”左のチェックマークによって表示されます。

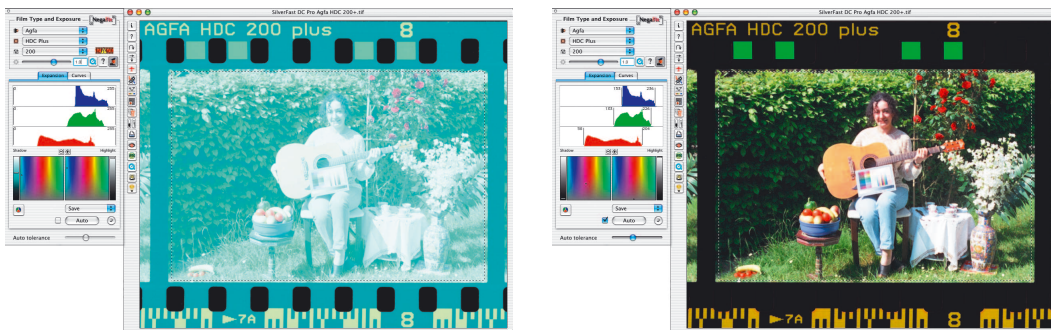


“Auto” ボタンクリックは手動で自動マスクを実行します。**NegaFix** はネガを再び解析し、オレンジマスクを除去し、生じるヒストグラムとプレビューイメージを表示します。

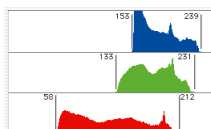


ノート:

このアイコンは自動マスクが非アクティブの時に警告を表示します。それは **NegaFix** コントロール画面の上部エリアや“Reset” ボタンクリック後にも現れます。



オレンジマスク移動は単一ヒストグラムの左右の縦の区切り線部分を通じて表示(コントロール)されます。オレンジ自動マスクは単一ヒストグラムチャンネル内の始めのピクセルに区切り線を移動するでしょう。



区切り線横の番号は対応している色調値を示します。区切り線はスライダーとしても利用でき、オレンジマスク除去プロセスをアクティブにコントロールできます。

Auto tolerance

オレンジ自動マスクの強さはスライダー “Auto-Tolerance” でコントロールする事ができます。ずっと右へのスライダー移動は大きな効果になります。

どの変更も **NegaFix** ダイアログ画面でモニターでき、大きな **SilverFast** プレビューで即座に更新もされます。これで常に自分の補正の結果をフルに管理できます。

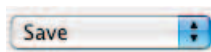
ダイアログ画面での追加ボタン：



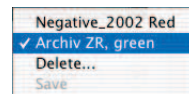
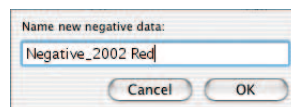
“Reset” ボタンクリックは全設定をリセットして、オレンジ自動マスクをオフにスイッチします。リセット後、警告アイコン（自動マスクオフ）が表示されます。



このボタンはRGB（色調値 0～255）と CMY（%値0～100）間のモニター用ヒストグラムの外観をスイッチします。ボタンはその外観のみをスイッチし、イメージクオリティや、何か他の変更に影響はありません。



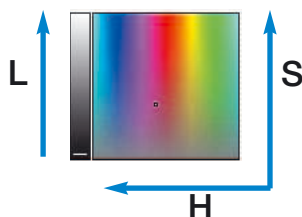
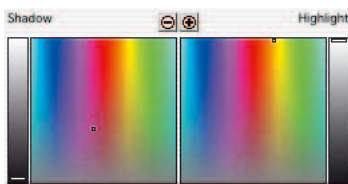
ポップアップメニュー “Save” はオレンジマスク処理用カスタムハイライト/シャドウポイントの保存か、前に保存したオレンジマスク H-S ポイントのロードが可能です。





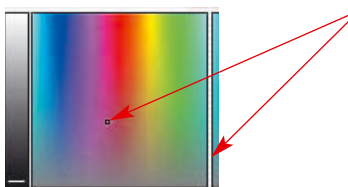
## オレンジマスクハイライト-シャドウポイント設定

“拡張”ダイアログ下部はオレンジマスクハイライトシャドウポイントの位置を 3次元 HSL色空間内部でモニターします。ハイライトとシャドウの両方は通常可視できるカラーキャストを持ちます。自動マスクはこのキャストを認識し、除去します。



位置は正方形の色空間と縦のルミナンスフィールド内部で表示されます。

縦のフィールドはルミナンス（輝度）“L” を示します。カラーの正方形は水平にカラーヒュー（色合い）角度と垂直に Saturation（彩度）“S” を示します。



マーキング（垂直フィールド内のショートバー、カラー正方形内の小さなポイント）は色空間におけるのハイライト-シャドウポイントの正確な位置を指し示します。ポイントと同様に、バーはカラーキャスト補正コントロールでマウスによって移動します。どんな変更も **NegaFix** ダイアログ画面内で表示され、**SilverFast** プレビュー画面で即座に更新されます。

6.7



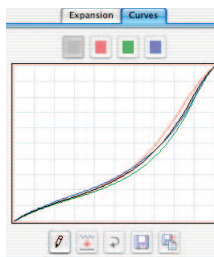
オリジナルビュー

3倍ズームクリック後のビュー



統合型ズーム機能を用いて、色空間を自由にズームイン&アウトさせる事ができます。これはオレンジマスクハイライト-シャドウポイントのニュートラル化の非常に微妙な補正を可能にします。

## “Curves” ダイアログ

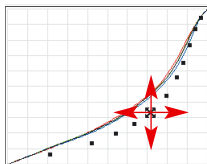


エキスパートダイアログの2番目の画面、“Curves” パネルはアクティブなフィルムプロファイルの RGB-カーブをモニターします:単一カーブ 赤、緑、青と同じく、全カーブ（黒）。このダイアログは既存のフィルムプロファイルの修正が直接可能であり、新規プロファイルとして保存も可能です。ネガプロファイルのカラー特性は変更可能で、カラーキャストも同様に除去可能です。

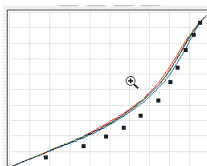
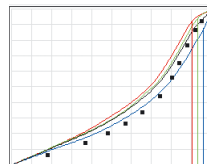
## フィルムグラデーションカーブの変更



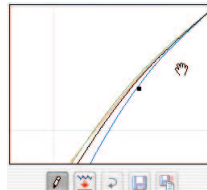
“Edit” ボタンはカーブダイアログをアクティブにします。黒のオーバーレイカーブは黒カーブポイントの連続で定義されます。ポイントの連続はオリジナルフィルムメーカープロファイルの特性を表現します。



より正確な調節は、カーブへのズームインが再度可能（“+”は拡大メガネに、“Alt” キーとで“-”縮小に）ズームモード内で、可視領域は“Shift”キーを押してマウスの移動により移動させる事ができます。



カーブ上の単一ポイントに触ってマウスで再配置しても良いです。より正確な調節には、カーブへのズームインが可能、（“+”は拡大メガネ、“Alt” キーで“-”縮小に）ズームモードにおいて、可視領域は“Shift”キーを押して移動できるでしょう。



カーブ上の何れかの RGB-セレクトの選択は、何れかの赤、緑、青のカーブをそれに従ってアクティブにします。グレーセレクトをクリックは全カーブをアクティブにします。



“Smoothen” ボタンは、若干ラフと見られるアクティブなカーブのスムージングを可能にします。この機能は繰り返し使われます:追加のクリックでさらなるスムージング操作を呼び出します。複数クリックはその効果を増大させます。

## カラーキャストのニュートラル化

最初に Edit ボタンクリックでカーブダイアログを起動します。



カーソルをイメージプレビュー画面内へ動かし、ニュートラル化したい領域でクリックします。カーソル移動中、フローティングデンストメータでカラー値(CMY推奨)をモニターする事ができます。

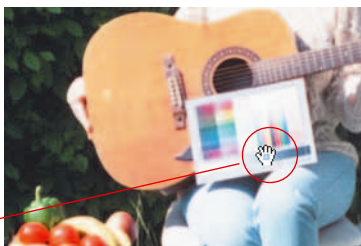
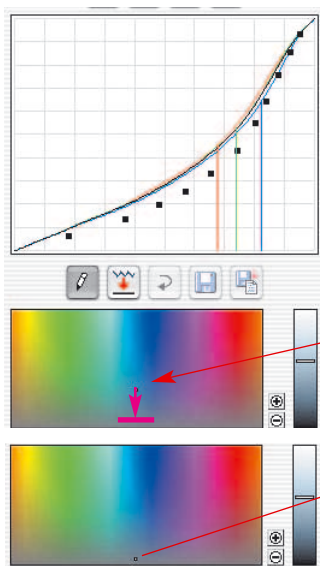
イメージ上でのクリックで **NegaFix** カーブダイアログ画面下に新規ダイアログを表示させます。クリック済イメージポイントは HSL-色空間において小ポイントとしてモニターされます。そして色調値は、フィルムグラデーション画面内で垂直のラインとして示されます。

再度 HSL-ダイアログ内のマーキングはマウスで簡単に移動できるコントロールを表現します。

より微妙なコントロールは、ズームボタンをクリックして色空間をズームイン/アウトできます。

全コントロールの全ての変更は **SilverFast** プレビュー画面で即座に表示されます。

カラーキャストのニュートラル化は HSL-ダイアログでポイントをニュートラルグレー軸へ下にドラッグして実行できます。



マウスをリリースした後、プレビュー画面が更新されます。

任意でカラーキャストを作成

当然、HSL色空間内部のどのポイントも何か他のカラーに移動できます。これはカラーキャストを作成します。

多くのイメージでは、純粋なニュートラルは不自然に見えます。



夕焼けの写真を考えてみます。  
暖かい赤みのあるカラーキャスト  
は冷たいニュートラル出力に対し  
確かに望まれます。



ニュートラルグレー  
でのイメージ

黄色がかった  
グレーでのイメージ



新規プロファイルとして変更を保存

全ての変更が完了、プレビュー画面が望んだ結果を表示すると  
更新された設定が新規プロファイルとして保存できます。



“Save” ボタンクリックで現プロファイルにおいて全ての  
パラメータを保存。以前のプロファイルは上書きされます。

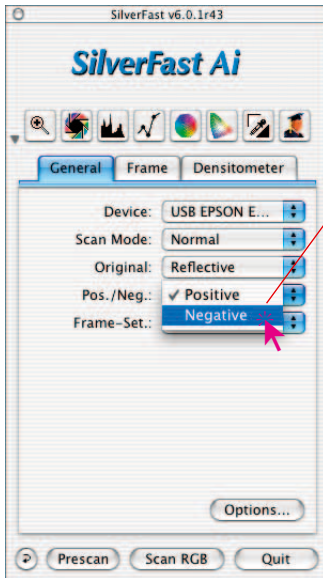


オプション “Save as” の使用はより安全です。ここでは  
新規名のプロファイルを作れます。  
新しいプロファイルは “ASA/ISO” ポップメニューリスト下  
で保存され、いつでも再利用できます。

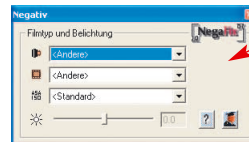
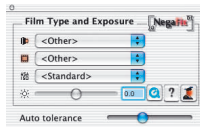
## 4. SilverFast NegaFix リファレンスカード

### SilverFast 概要

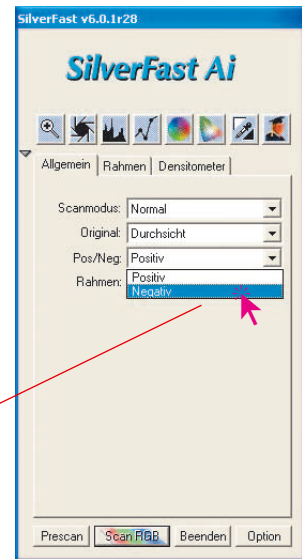
**NegaFix** は “Negative” ポップアップメニュー選択によって “General” パネルからアクティブにできます。



SilverFastAi での NegaFix-  
ダイアログ Macintosh



SilverFastAi での NegaFix-  
ダイアログ Windows

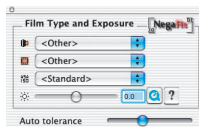


### SilverFastSE 概要

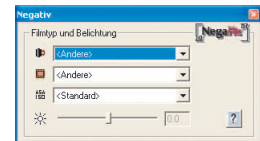
拡張機能 “エキスパートダイアログ” は下記製品で利用可能：

**SilverFastAi , SilverFastHDR , SilverFastDC**

**SilverFastSE** バージョンでは利用できません。全てのフィルムパラメータ選択はフルに適用できます。



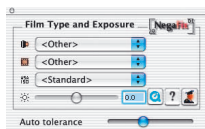
SilverFastSE での NegaFix-  
ダイアログ Macintosh



SilverFastSE での NegaFix-  
ダイアログ Windows

## SilverFast NegaFix コンポーネント

標準ダイアログは“Expert” ボタンのクリックで拡張できます。拡張モードでは“Expansion”と“Curves”パネル間をスイッチできます：



NegaFix-ダイアログ  
ネガフィルム編集標準ダイアログ  
(以下のコントロールを含む)



フィルムメーカー選択ポップアップ



フィルムタイプ選択ポップアップ



フィルム速度選択ポップアップ



フィルム露出コントロール  
スライダー



エキスパートダイアログ\*  
オープン/クローズボタン



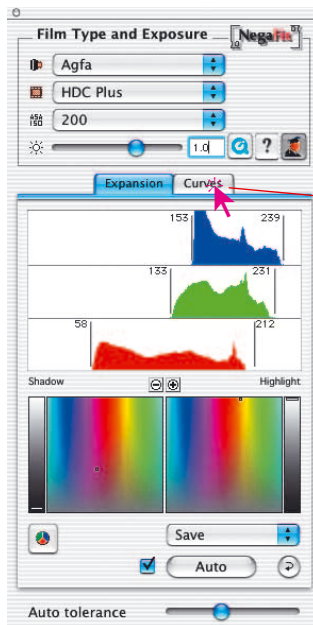
Helpファイルオープンボタン



オートマスク\*  
警告用インジケータ

\* ノート：

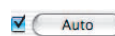
**SilverFastAi**フルバージョンのみ  
利用可能、“SE”バージョンは  
不可です。



エキスパートダイアログ\* “Expansion”  
単一コントロール類：



ヒストグラムモニター  
CMY- / RGB-切換え



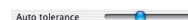
自動マスクボタン



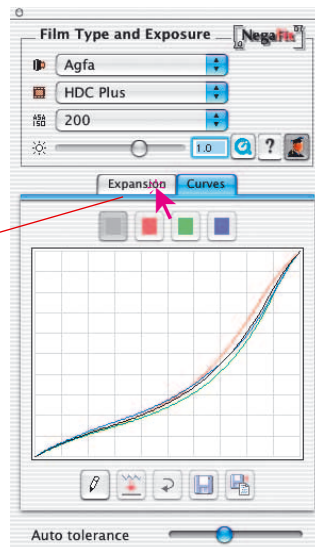
リセットボタン



Save メニュー



自動マスク用自動  
トランススライダー



エキスパートダイアログ\* “Curves”  
単一コントロール類：



Edit-モードオン/オフ



カーブスムージング



リセットボタン



Save ボタン



Save-as-ボタン



単一カラーチャンネル  
(RGB) 選択

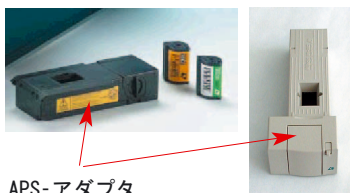




## フィルムホルダーの利用\* (フィルムスキャナー用\*)

フィルムアダプターが変更された後、通常、**SilverFastAi** は新しいアダプタを認識させるため、リスタートさせます。

### APS アダプタ



APS-アダプタ

APS アダプタが接続されたら、フィルムカートリッジをセットさせます。またはメッセージが表示されます：“スキャナーが接続されていません”

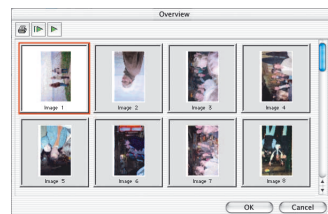
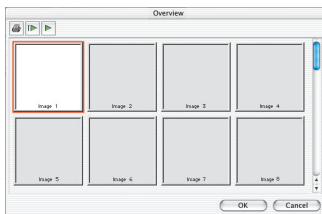


プレビュー画面で、APS オーバービュー (Index scan) 用ボタンが見えます。この機能呼び出すと、スタートボタンの利用で小オーバービューイメージの表示を開始できます。もしイメージが保管されているなら、手続きは利用できる最後のイメージの背後で継続されます。注:ロードしたフィルムカートリッジの識別する方法はありません。オーバービューをリフレッシュする必要があります。



\*注意:

機能はスキャナー毎に異なり、いくつかの機能は特定のスキャナー/画像処理ソフトのみ利用可能です。



イメージオーバービュー上の小ボタンバー内にプリントボタンがあり、オーバービューのプリント ( 1. ボタン) が可能。またフィルム交換後のオーバービューリフレッシュ ( 2. ボタン)、オーバービューリフレッシュの継続/停止 (3. ボタン) も可です。

2番目のボタンクリックはスキャナーに現行メディア (フィルムストリップ、APS, etc) のオーバービュー生成を指示します。

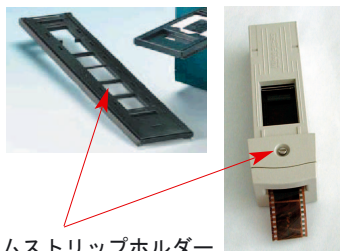
オーバービューの作成は、必要ならばモニターや、停止、継続する事ができます。





イメージを選択するには、その上でクリックし、OK ボタンで確認します。番号を利用してオーバービュースキャンがまだ作成されないイメージを選択できます。イメージ選択後、処理されている現行イメージ用のオーバービュースキャンが完了されている場合のみ、ダイアログが閉じるでしょう。APS フィルムをアンロードするには、まず巻き戻さなければなりません。イジェクトボタン（プリスキャン画面の左ふち）を使ってこれを行います。時おり、動作しない場合、スキャナーを切ってオンにします。それからスキャナーはフィルム巻き戻しを自動的に始めます。スキャナーがカートリッジからフィルムストリップのリロードを開始する前に再度オフにし、フィルムを取り出します（巻き戻しノイズがする）。それからスキャナーのスイッチを再びオンにします。

## フィルムストリップホルダー\*



フィルムストリップホルダー

フィルムストリップホルダー\* 利用は APSアダプタに非常に類似します。**SilverFastAi** の起動前、スキャナーをスイッチオンにし、フィルムストリップをロードさせておきます。General パレットにおいて、オリジナルに従ってネガ/ポジを選択します。それに従ったプリスキャンがない場合、フィルムストリップ上で最初のイメージのプレビュースキャンが生成されます。



APS アダプタに関して、プリスキャン画面で適切なボタンを使い、イメージオーバービューダイアログを開きます。オーバービュースキャン (Index スキャン) が個々に自動的に作成/完了します。イメージ上でクリックして選択でき、OK ボタンを押します。再び、サムネイルイメージが作成されていなくても、フレーム上でクリックしてイメージを選択する事ができます。



メインプリスキャン画面の左ふちのイジェクトボタンを使って、フィルムストリップをイジェクトします。



\*注意:

機能は各スキャナーで異なり、いくつかの機能は特定のスキャナー/画像処理ソフトでのみ利用可能です。



## フィルムストリップ位置の調節

このボタンはモーター駆動送りの場合、フィルムストリップの最初/最後の新規位置設定が可能で、フィルムを正しく配置しません。

ポジションボタンをクリックすると、マウスが矢印にスイッチします。マウスの底を利用して、スライド内のイメージの正確な始まりが設定されます。スキャナーはその後、再アジャストし、プリスキャンプレビューを更新します。

”Alt” キーを押してポジションボタンをクリックすると、矢印の向きがスイッチされます。イメージの正確な最後が矢印の底によりクリックされる事でマークされています。スキャナーは再アジャストし、プリスキャンプレビューを更新します。



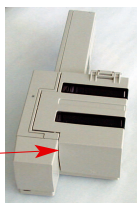
## 中判形式用フィルムホルダー\*

いくつかのスキャナーは異なる形式用ホルダーをサポート。これらのボタンは中判形式用 6x4.5, 6x6, 6x7, 6x9cm です。

## オートドキュメントフィーダー用バッチスキャン (ADF)\*

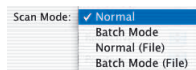


スライドホルダー  
スライドマガジン

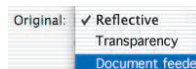


フィルムとスライドはオートドキュメントフィーダー、スライドフィーダー、APSアダプタ等の利用で自動的にスキャンできます。スライドは Photoshop (バッチモード) や自動画像処理付/なしの一定のディスク (バッチモードファイル) に直接スキャン可能です。ドキュメントが挿入されている後か、スライドマガジンがロードされ、挿入されている後に続いて進めます：

1. General パレット > Scan mode で” Batch mode “,” Batch mode File “を選択。



これは Original 下” Document feeder “にスイッチし、アダプタを自動的にアクティブにします。



\*注意：

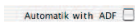
機能は各スキャナーで異なり、いくつかの機能は特定のスキャナー/画像処理ソフトでのみ利用可能です。



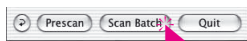
2. 最初のスライド（または写真）をロードイメージ用ボタンクリックによってロードします。



3. “Prescan” をクリックします。



4. ここでプリスキャンをそれに従ってオートアジャスト付/なしで調節します。全写真を手動でスキャンし、自動画像処理で補正したいなら、“Options…”メニュー下のプリセット内の“automatic with ADF”フィールドをチェックします。



5. “Scan Batch” をクリックします。

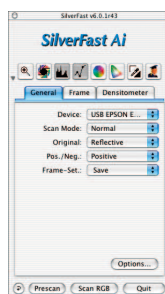
## バッチ中断後の **SilverFast** ダイアログ

バッチスキャン（スキャンモード ” Batch “…”）が中断した場合、” Alt “ キーを同時に押していれば、 **SilverFast** のリスタートで自動的に継続するでしょう。 **SilverFast** が定期的に起動されるなら、バッチスキャンが継続される事はありません。そうでない場合、 **SilverFast** が正常に起動します。

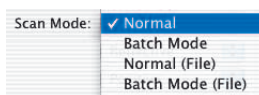
## 異なるファイル形式の保存

以下のテーブルは **SilverFast** ファミリー製品で作成できる形式です：

file format	channels, data depth (. suffix)	SilverFast Ai	SilverFast SE	SilverFast DCPro	SilverFast DC	SilverFast DC SE	SilverFast HDR	SilverFast PhotoCD
TIFF	K, 1 bit line art (.tif)	☑	☑	—	—	—	—	—
	K, 8 Bit Grayscale (.tif)	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑
	RGB, 24 Bit colour (.tif)	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑
	RGB, 48 Bit colour, uncorrected (.tif)	☑	—	☑	—	—	☑	—
	RGB, 48 Bit colour, corrected (.tif)	☑	—	☑	—	—	☑	—
	CMYK, 32 Bit colour (.tif)	☑	—	☑	☑	☑	☑	☑
JPEG	K, 8 Bit Grayscale (.jpg)	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑
	RGB, 24 Bit colour (.jpg)	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑
	RGB, 48 Bit colour, uncorrected (.jpg)	☑	—	☑	—	—	☑	—
	RGB, 48 Bit colour, corrected (.jpg)	☑	—	☑	—	—	☑	—
	CMYK, 32 Bit colour (.jpg)	☑	—	☑	☑	☑	☑	☑
	CMYK single file 32 Bit color (.eps)	☑	—	☑	☑	—	☑	☑
DCS	CMYK multiple files 4x8 Bit grayscale + 1x 32 Bit color (.eps)	☑	—	☑	☑	—	☑	☑
		☑	—	☑	☑	—	☑	☑
EPSF	K, 8 Bit grayscale	☑	—	☑	☑	—	☑	☑
	CMYK, 32 Bit colour	☑	—	☑	☑	—	☑	☑
PSD	RGB, 24 Bit colour (.psd)	—	—	—	—	—	—	—
Kodak PhotoCD YCC, (.pcd)		—	—	—	—	—	—	—
NEF (Nikon)	RGB, 12 Bit colour (.nef)	—	—	—	—	—	—	—
CRW (Canon)	RGB, 12 Bit colour (.crw)	—	—	—	—	—	—	—
DCS (Kodak)	RGB, 8-12 Bit colour (.dcr, .tif)	—	—	—	—	—	—	—
DCR (Kodak)	RGB, 12 Bit colour (.dcr)	—	—	—	—	—	—	—
MRW (Minolta)	RGB, 8-12Bit colour (.mrw)	—	—	—	—	—	—	—
RAF (Fuji)	RGB, 8-12Bit colour (.raf)	—	—	—	—	—	—	—
ORF (Olympus)	RGB, 8-12Bit colour (.orf)	—	—	—	—	—	—	—
X3F (Sigma)	RGB, 12 Bit colour (.x3f)	—	—	—	—	—	—	—



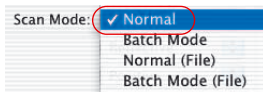
ファイル形式選択は Generalパレットの  
“Scan mode “メニューで行われます。



“Normal file “または “Batch mode (File) “  
が選ばれると、ファイル形式確定用の新規画面が  
開始されたスキャン内で開きます。

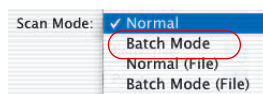


## Scan Mode “Normal”



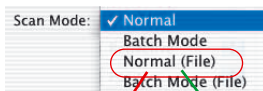
この設定ではプリスキャン画面のアクティブになったスキャンフレームをスキャンし、そのイメージファイルはスキャン後にイメージエディタですぐに開かれます。ユーザーはファイルとしてアプリケーションからそれを保存する事ができます。

## Scan Mode “Batch”



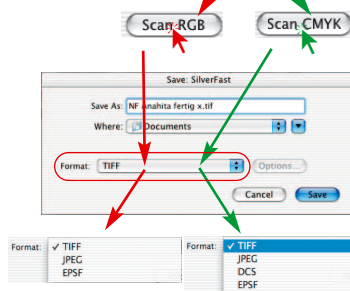
この設定はプリスキャン画面の全スキャンフレームをスキャンし、スキャン後イメージエディタですぐに開かれます。ユーザーはファイルとしてアプリケーションから保存する事ができます。

## Scan Mode “Normal (File)”

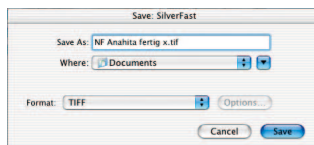


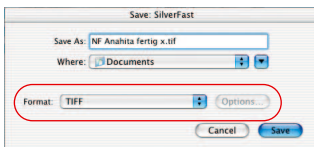
プリスキャン画面のアクティブなスキャンフレームはこの設定でスキャンされ、そのイメージはスキャン完了時点でファイルとして自動的に保存されます。

“save” ダイアログ内の設定はどのファイル形式で書かれるかを決定します。“save” ダイアログは“scan...”ボタンがクリックされた時に表示されます。



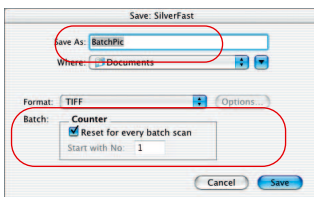
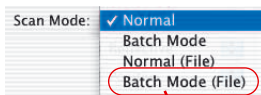
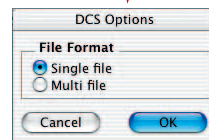
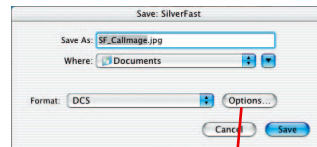
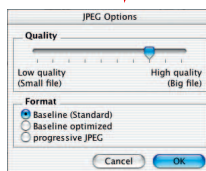
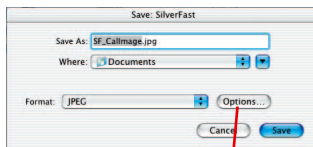
スキャンフレームのネーミング: スキャンフレームが既に **SilverFast**-メインダイアログに名前があれば、この名前が実ファイル名になります。名前が割り当てられなければ、Save ダイアログが“Unnamed 1”を表示します。ここで個々の名前を割り当てると良いでしょう。.





**File format:** “Format” で様々なファイル形式の中から選択できます。提供されるファイル形式は、スキャンがRGB（前の（ページ赤い矢印）または、CMYK（前のページ緑の矢印）であるかによります。既存のテーブルは概要を示します。

いくつかの形式の場合、例 “JPEG” と “DCS” 等、追加 BOX “Options ...” がアクティブになります。これらスペシャルファイル形式用の追加パラメータが設定できます。



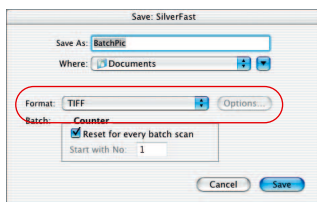
## Scan Type “Batch Type (File)”

プリスキャン画面の全スキャンフレームはこの設定でスキャンされ、そのイメージはスキャン完了時にファイルとして自動的に保存されます。

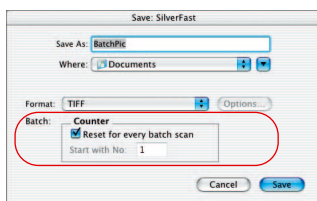
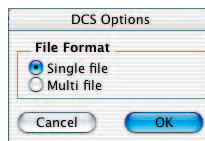
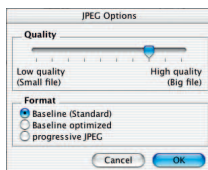
“save” ダイアログの設定はどのファイル形式で書かれるかを確定します。“save” ダイアログは “scan batch” ボタンがクリックされるとすぐに表示されます。

**スキャンファイルのネーミング:** スキャンフレームがすでに **SilverFast**-メインダイアログに名前があれば、この名前が実ファイル名になります。スキャンフレームに名前がない場合、ファイル名 “Batch image ...” が割り当てられ、連番が付記されます: “Batch Image 0001 “, “Batch Image 0002 “, ...。

いくつかのスキャンフレームに名前がつけられ、いくつかにはない場合、両原則のミックスになります: “Batch Image 0001 “, “NameABC “, “Batch Image 0003 “, “NameDEF “...

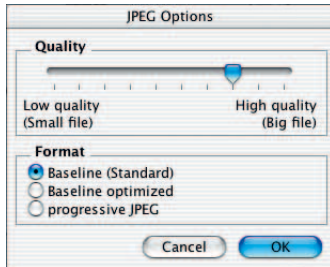


File format: “Format” を利用して再度2つの別のファイル形式から選ぶ事ができます。主だったテーブルが簡単に識別されます。“Options ...” とある追加 BOX は“JPEG”と“DCS”形式利用でアクティブになります。追加パラメータがこれらスペシャルファイル形式用に設定できます。



バッチでのイメージ番号設定: “Reset for each batch scan” BOX は、再度“1”で各新規バッチスキャンが開始されるポイント設定の始まりとしてアクティブになります。バッチの最初のスキャンは “...0001 “ が付属します。

BOX が非アクティブかマークされてない時、**SilverFast** は最後のスキャン番号（例、“...0057”）を記憶し、次のバッチ（“...0058 “）に対して一定の番号を与えます。



### JPEG-ファイル形式に保存

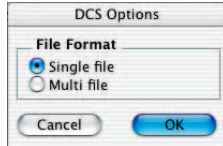
**Quality:** スライダーで “Low quality.. (高イメージ圧縮の低品質)” と “high quality .. (最小イメージ圧縮の高品質)” から決める事ができます。

### Format: 3つのパラメータから選択可能

“Baseline”。は標準設定。ファイル形式は一般的に読み出し可能です。

“Baseline optimised” は幾分小さな最適化済ファイルを生成、それは全てのアプリケーションからは読み出しされず、制限があります。

“Progressive JPEG” はインターネット用形式です。ファイルは複数の解像度のレイヤーに構築されます。ファイル転送中、低解像度のイメージをすぐに見る事ができ、最終解像度に到達するまで、転送進行と共にリファインされるでしょう。



### DCS-ファイル形式に保存

**Single file:** 全セパレーションレイヤーは単一 CMYK ファイルに保存されます。

**Multi file:** 各セパレーションレイヤーはセパレートファイル+、プレビュー用の1つのエクストラファイルを保存します。

## 異なるファイル形式の読み出し

**SilverFast** 製品は以下のファイル形式を認識して開きます：

file format	channels, data depth (.suffix)	SilverFast Ai	SilverFast SE	SilverFast DCPro	SilverFast DC	SilverFast DC SE	SilverFast HDR	SilverFast PhotoCD
TIFF	K, 1 bit line art (.tif)	-	-	-	-	-	-	-
	K, 8 Bit Grayscale (.tif)	-	-	⚡	⚡	⚡	⚡	-
	RGB, 24 Bit colour (.tif)	-	-	⚡	⚡	⚡	⚡	-
	RGB, 48 Bit colour, uncorrected (.tif)	-	-	⚡	-	-	⚡	-
	RGB, 48 Bit colour, corrected (.tif)	-	-	⚡	-	-	⚡	-
JPEG	CMYK, 32 Bit colour (.tif)	-	-	-	-	-	-	-
	K, 8 Bit Grayscale (.jpg)	-	-	⚡	⚡	⚡	⚡	-
	RGB, 24 Bit colour (.jpg)	-	-	⚡	⚡	⚡	⚡	-
	RGB, 48 Bit colour, uncorrected (.jpg)	-	-	⚡	-	-	⚡	-
	RGB, 48 Bit colour, corrected (.jpg)	-	-	⚡	-	-	⚡	-
DCS	CMYK, 32 Bit colour (.jpg)	-	-	-	-	-	-	-
	CMYK single file 32 Bit color (.eps)	-	-	-	-	-	-	-
	CMYK multiple files 4x8 Bit grayscale + 1x 32 Bit color (.eps)	-	-	-	-	-	-	-
EPSF	K, 8 Bit grayscale	-	-	-	-	-	-	-
	CMYK, 32 Bit colour	-	-	-	-	-	-	-
PSD	RGB, 24 Bit colour (.psd)	-	-	⚡	⚡	⚡	⚡	-
Kodak PhotoCD	YCC, (.pcd)	-	-	-	-	-	-	⚡
NEF (Nikon)	RGB, 12 Bit colour (.nef)	-	-	⚡	-	-	-	-
CRW (Canon)	RGB, 12 Bit colour (.crw)	-	-	⚡	-	-	-	-
DCS (Kodak)	RGB, 8-12 Bit colour (.dcr, .tif)	-	-	⚡	-	-	-	-
DCR (Kodak)	RGB, 12 Bit colour (.dcr)	-	-	⚡	-	-	-	-
MRW (Minolta)	RGB, 8-12Bit colour (.mrw)	-	-	⚡	-	-	-	-
RAF (Fuji)	RGB, 8-12Bit colour (.raf)	-	-	⚡	-	-	-	-
ORF (Olympus)	RGB, 8-12Bit colour (.orf)	-	-	⚡	-	-	-	-
X3F (Sigma)	RGB, 12 Bit colour (.x3f)	-	-	⚡	-	-	-	-

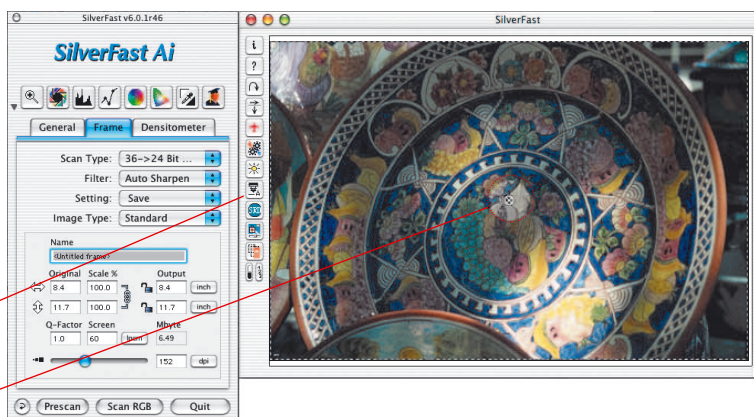
## スキャナーのフォーカス\*



若干のスキャナー\*はオリジナルフォーカス機能\*を備えます。習慣的な写真術で知られる、フォーカスポイントをシフトすることができます。オリジナルへの距離変更が可能だけでなく、イメージ上のどこかの地点に自由に移動できます。この機能はオリジナルの材質の粗さを補う事を可能にします。多くのスライドポジは比較的厚いフレームで配置されるか、凸面形状です。（考慮されない時、イメージのデフォーカスを起こす）オートフォーカスのアイコン\*のクリックにより、それぞれのフォーカスモードはオン/オフになります。（次ページを参照）

フォーカススイッチ\*

手動フォーカスインジケータ



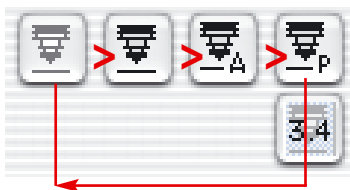
\* 注意

フォーカス機能が利用できるかは、現在のスキャナーモデルに依存します。

いくつかのスキャナーは全フォーカス機能をサポートします。他のスキャナーは代わりに、オートフォーカスのオン/オフのみサポートします。



## フォーカス



### フォーカス機能

1. オートフォーカス “オフ”
2. オートフォーカス “オン”
3. 手動フォーカス “オン”
4. プレビュー付フォーカス



フォーカス機能の実行はフォーカスボタンクリックで行います。クリック毎にボタンの外観が変化し、異なる機能を表します。4回のクリック後、最初の機能が再び利用可能になります。

### オートフォーカス “オフ”

標準位置でフォーカスボタンはグレーです。オートフォーカスはオフになります。

### オートフォーカス “オン”



フォーカスボタンは“A”の文字と一緒に黒いアイコンを表示。オートフォーカスはオンになります。フォーカスは常にアクティブなスキャンフレーム中心で起こります。フォーカス機能はイメージの中心でコントラスト差異をディテールに使用してそれを方向付けます。フォーカス機能に十分なディテールを提供できるイメージのこのポイントでの視覚情報がない場合、オートフォーカスがうまくいきません。オートフォーカスが黒い表面に出会うと、忠実に同じままに保ちます。エラーメッセージが表示されます。そのような場合、オートフォーカスを手動フォーカスにスイッチ下さい。

### 手動フォーカス “オン”



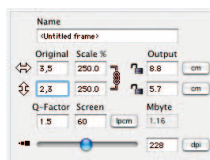
フォーカスボタンはカメラレンズを模した黒いアイコンで表されます。マウス矢印はエッジポイントを設定できるペンになります。手動フォーカスは十分に視覚的ディテールが識別できるイメージ上のポイントに配置すべきです。マウスを写真の方へ動かします。（マウスポインタがペンシンボルに変わります）フォーカスを設定したい地点の写真でポイントをクリックします。十字付の小さな円が現れてフォーカスを設定します。



## プレビュー付手動フォーカス



フォーカスボタンは“P” 文字付の黒いシンボルで表されます。フォーカス値は下の追加アイコンでミリメートルで示されます。



最初に、現行フレーム用に十分な高出力解像度を設定します。

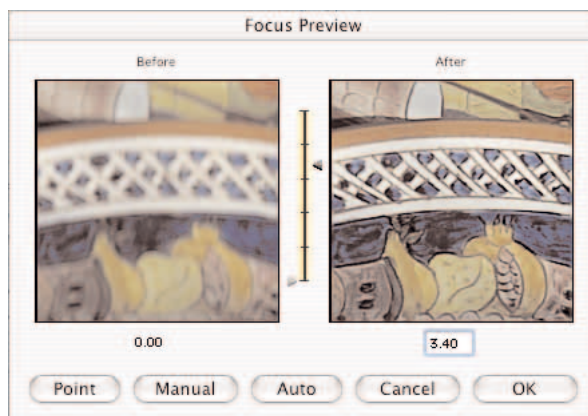


最初にフォーカスボタンをクリックします。マウスポインタがペンアイコンになるまで、マウスを写真全体に動かします。



次にフォーカスを設定したい所の写真のポイント上でクリックします。

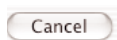
“focus preview” ダイアログがビフォーアフター画面で現れます。プレビューは入力した解像度で作成されます。新しいスキャンが自動的に開始されます。



ダイアログ画面でフォーカスを変えるため、以下のツールが利用できます：



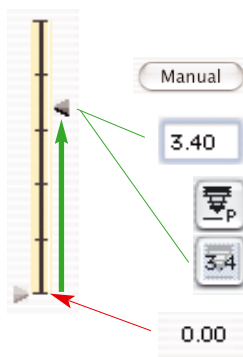
1. フォーカスが十分正確なら“OK”をクリックしておきます。  
入力したフォーカスポイントは最終スキャンで用いられます。



2. ”Cancel“ボタンでフォーカスダイアログを終了します。  
フォーカス変更は最終スキャンで使われません。画面が閉じ、**SilverFast** シンボルが再び利用できます。

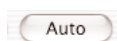


3. フォーカスが十分でない場合か、フォーカスを写真の異なるポイントに対しチェックする必要がある場合は、新規フォーカスポイントを“Point”ボタン経由で写真上に配置できます。  
新規スキャンが開始されます。



4. 択一的に、フォーカスのレベルはスライドコントローラ※通じたマウス移動によって変更可能です。※プレビューイメージの間にあります）右矢印を押すと、マウス経由でフォーカスのレベルを調節可能です。この押しの距離は右プレビュー画面下の BOX とフォーカスボタン隣のボタンに“mm”単位で表示されます。

“Manual” クリックで、新規スキャンが開始され、結果をプレビュー作成します。“OK”のクリックでフォーカスのレベルが確定され、後のスキャンで利用されます。



5. “Auto”をクリックする事で、標準オートフォーカス機能へ戻る事ができます。

## スペシャル機能の解説

### **SilverFast PhotoCD, -HDR -DC, -DCPro**

Photoshopプラグインと TWAINモジュールはスキャナーから独立します。**SilverFastPhotoCD, SilverFastHDR, SilverFastDC, SilverFastDCpro** は現在のスキャナープラグイン **SilverFastAi** と同じ機能を基本的に持ちます。

以下は、個々の Photoshop プラグインと TWAINモジュール用でいくつかの差異をリストしています。

基本的な違いは何か？



**SilverFastAi** は真にスキャンソフトであり、単独スキャン型式にそれぞれ開発されています。対応するスキャナーはスキャナーの内部動力を活用して直接コントロールされます。その結果は最高の品質です。



**SilverFastHDR** はスキャナーなしで動作し、既存の写真の最適化ツールとして使用されます。全ての RGB イメージファイルは、24ビット（チャンネル毎 8 ビット）と 48ビット（チャンネル毎 16 ビット）のカラー深度を持ちます。（ファイルは Tiff, JPEG）



**SilverFastDC** はまさに **SilverFastHDR** のように動作しますが、24ビット（チャンネル毎 8 ビット）カラー深度に制限されます。



**SilverFastDCPro** は **SilverFastHDR** のような操作感ですが、デジタル写真用にいくつかの追加 & プロフェッショナル機能を持ちます。異なるカメラメーカーの RAW データ形式を認識します。

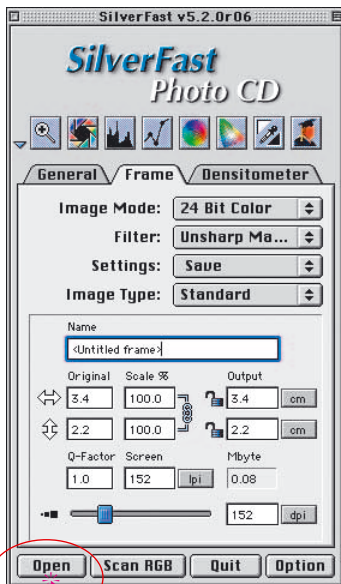
**SilverFastPhotoCD** はスキャナーなしで働き、KODAK PhotoCD 形式が含まれたイメージの最適化ツールとして利用されます。

全ての **SilverFast** モジュールは TWAINモジュールと同じく、Photoshop プラグイン（推奨）として利用できる点で共通。全プラグインは SF Launcher ファイルでも起動可能です。

## SilverFast PhotoCD

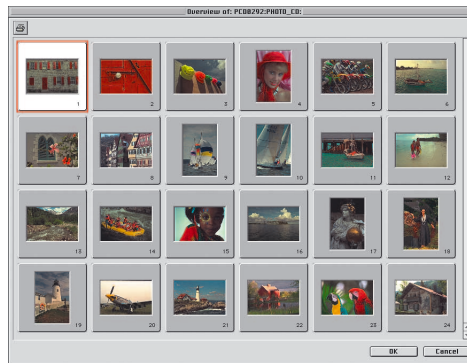
PhotoCD-イメージの開き方。

もしオリジナルの Kodak PhotoCD が CD-ROMドライブにあれば、“open” か “overview” ボタンクリックで PhotoCD 上の全てのイメージのオーバービューを作成します。

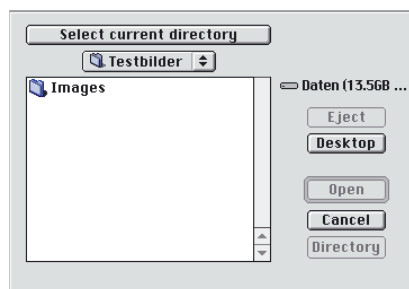


イメージのオープン

“open” か “overview” ボタンクリックで、PhotoCD 上の全てのイメージのオーバービューを作成。

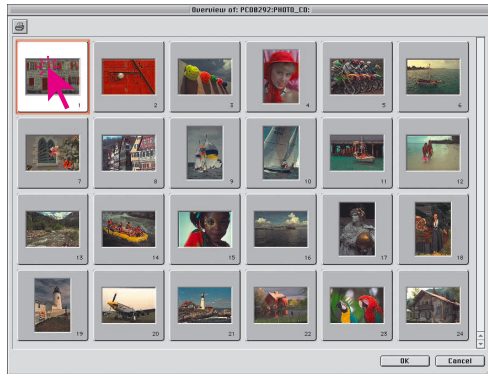


**Note:** **SilverFast PhotoCD** が CD-ROMドライブのオリジナルの Kodak PhotoCD を見つけられない場合か、“OVERVIEW.PCD:1” の名前がついたオーバービューファイルがない場合、ダイアログ BOX が PhotoCD イメージの場所を尋ねます:



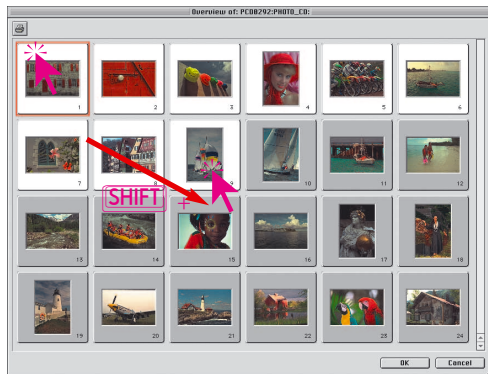
## オーバービュー画面からのイメージ選択

オーバービュー画面からのイメージ選択は3つの方法があります：



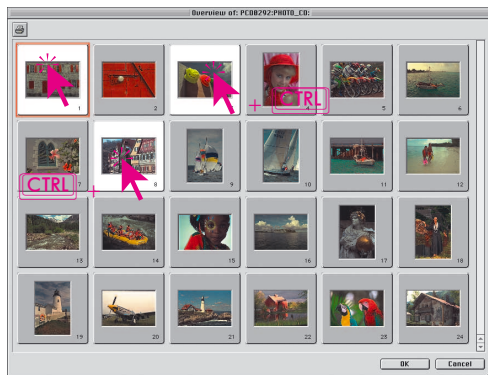
- 単一イメージの選択

クリックしてオーバービュー画面からイメージを選択します。“OK”ボタンをクリックしてプリスキャン画面内部にイメージを表示させます。



- イメージの連続的ライン（列）の選択

ラインの最初/最後のイメージを選択します。“SHIFT”キーを押したまま、ラインの最初/最後のイメージ上でクリックします。“OK”ボタンを押してプリスキャン画面内部で先頭のイメージを表示させます。




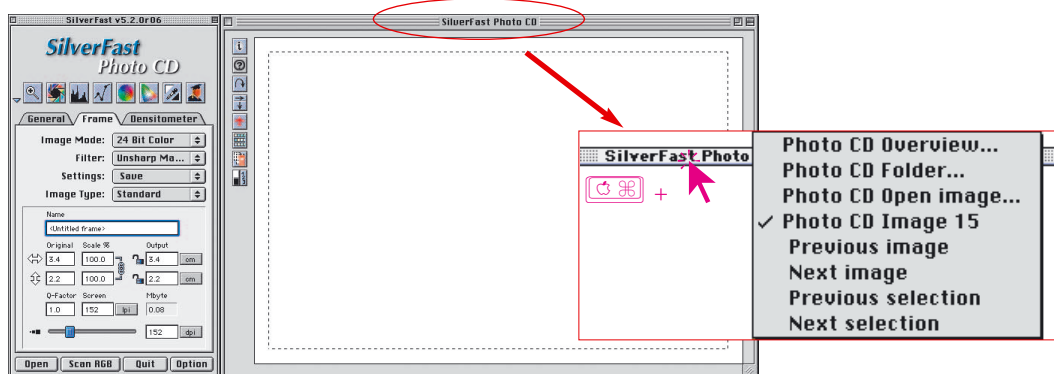
- 分類されたイメージの選択

クリックして最初のイメージを選択します。“Command”キー(Win: “STRG/Ctrl”)を押したままマウスクリックで追加イメージをイメージを選択。2回目のマウスクリックで使用しないイメージを非選択にします。“OK”ボタンをクリックしてプリスキャン画面内部に先頭イメージを表示させます。



## PhotoCD イメージの択一的オープン

“Command”  キーを押しながら、**SilverFast** プリスキャン画面タイトルをクリックしてポップアップメニューを開きます。  
(Win ユーザーはプリスキャン画面タイトルの右クリックが可能)



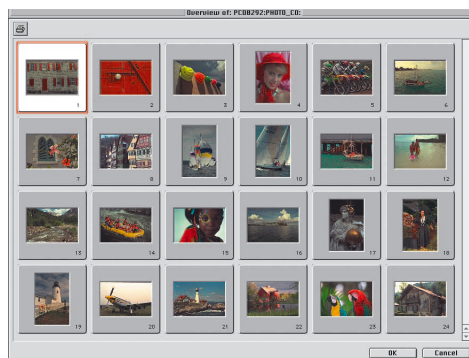
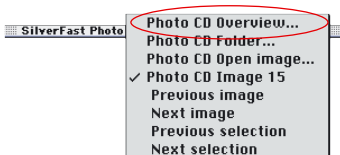
ポップアップの記載の量はお使いのシステム状況によって異なります。

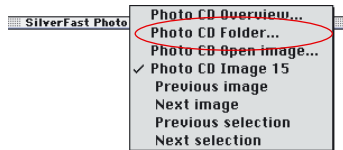
例：“PhotoCD Overview” はオリジナル Kodak PhotoCD が CD-ROM ドライブ内にある場合のみ、見えます。

個々の記載の詳細：

## PhotoCD オーバービュー

CD 上に見つかった全イメージのオーバービューでオーバービュー画面を開きます。オーバービューは CD上にファイル “OVERVIEW.PCD;1” がある場合のみ作成されます。

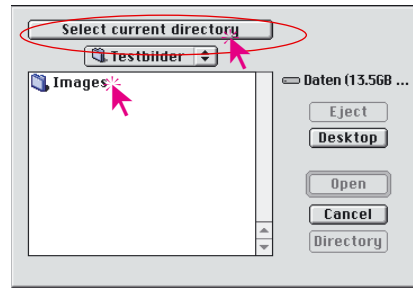




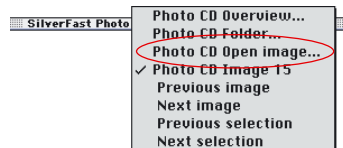
### PhotoCD Folder

イメージオーバービューの作成/利用なしに、PhotoCDイメージを含む“images”名の手動でのフォルダのサーチ、変更、選択に使用されます。“select current folder” ボタンクリックで“images” フォルダを選びます。

“images” フォルダを開かずに、ただ選択するだけです。

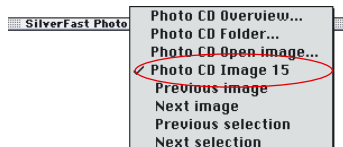
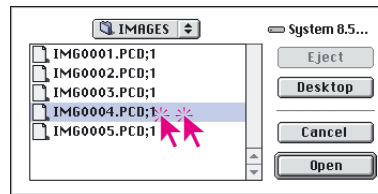


イメージオーバービューはオリジナルの Kodak PhotoCD が CD-ROM ドライブにあるか、CD上に“OVERVIEW.PCD;1” 名のファイルがある場合のみ作成できます。



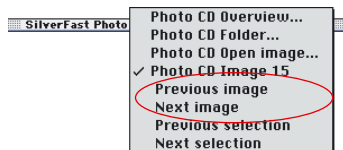
### PhotoCD Open Image

PhotoCD 上で単一イメージの手動オープンに使われます。名前をダブルクリックするか、名前をシングルクリックし、その後“open” ボタンクリックでイメージを直接開きます。



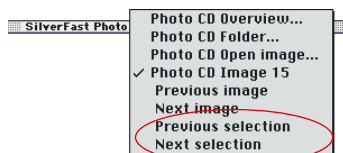
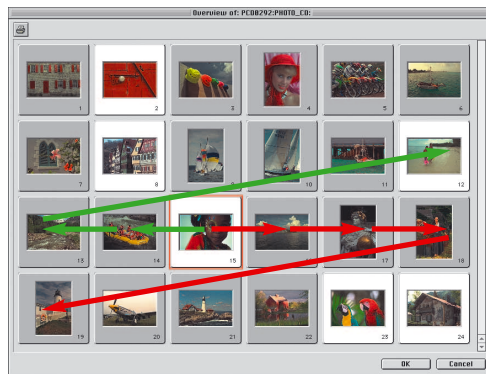
### PhotoCD Image (イメージ名)

最近開いたイメージの名前を表示します。



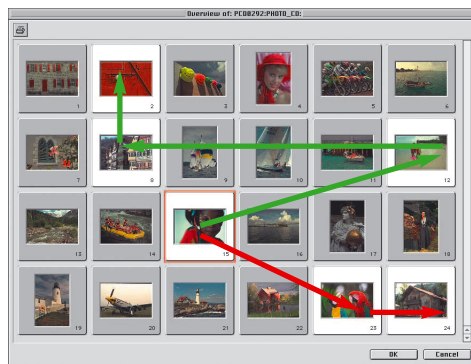
## Previous Image / Next image

**SilverFast** プリスキャン画面の現行イメージからイメージオーバービュー画面内部の前/次イメージへスイッチします。この変更はイメージオーバービュー画面で前/次イメージを以前選んだかどうかには依存しません。



## Previous Selection / Next selection

**SilverFast** プリスキャン画面の現行イメージからイメージオーバービュー画面内で前/次ハイライトイメージへスイッチします。この変更はイメージオーバービュー画面で以前選んだイメージに対してのみ適用されます。



## Printing the image overview

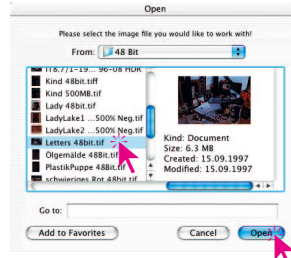
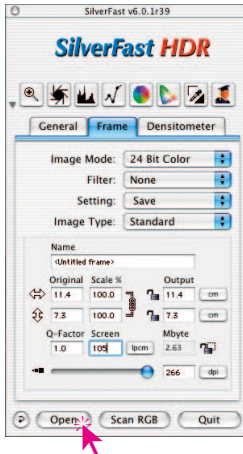


プリンターアイコンクリックで標準プリンターメニューを開きます。イメージオーバービューは写真のコンタクトシート風に印刷します。

## SilverFastHDR

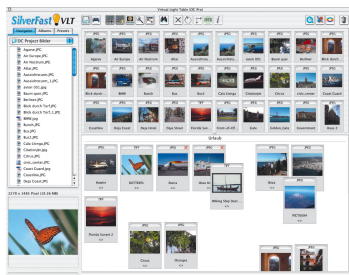
### “Open” ボタンでのイメージのオープン

“open” ボタンクリックで、デバイス選択用ダイアログか、画像を含んでいるフォルダをアクティブにします。



名前をダブルクリックするか、名前のシングルクリック + “open” ボタンでイメージが直接開きます。イメージは、**SilverFast** プリスキャン画面内部で開かれます。

### バーチャルライトテーブル (VLT)




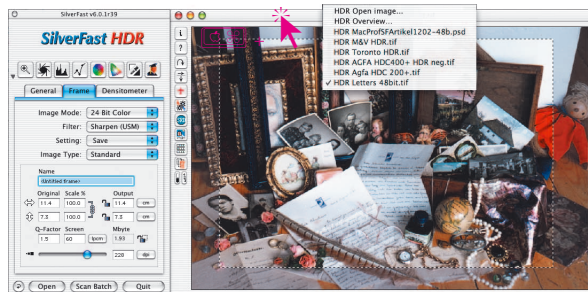
バーチャルライトテーブル (Virtual Light Table / VLT) は Ver6.0.2 から利用でき、以前使用された “Image overview” ダイアログと置き換わります。VLT は 特筆すべきツールです、それはイメージを操作しながら、シングル画面内で4つの重要なステップを結合している為です。

- ・ビューイング、オーバビュー取得&サーチ
- ・ソート、俯瞰、体系づけ
- ・イメージの加工、最適化
- ・コンタクトシート&単一イメージの印刷

VLT 機能の利用法は後述の **SilverFastDC** に関するセクションにより正確な記述があります。

## イメージの択一的オープン

“Command”  キーを押しながら、**SilverFast** プリスキャン画面タイトルをクリックしてポップアップメニューを開きます。  
(Winは **SilverFast** プリスキャン画面のタイトルを右クリック)



ポップアップは項目“open HDR image”，“HDR overview”と前のイメージの名前を表示します。プリスキャン画面で現在の表示イメージの名前がチェックマークされます。  
個々の記載の詳細：

HDR Open image...  
HDR Overview...  
HDR MacProfSFArtikel1202-48b.psd  
HDR M&V HDR.tif  
HDR Toronto HDR.tif  
HDR ACFA HDC400+ HDR neg.tif  
HDR Agfa HDC 200+.tif  
HDR Letters 48bit.tif

### HDR Open Image

イメージと共にデバイス/フォルダを要求するダイアログ BOXを開きます。

HDR Open image...  
HDR Overview...  
HDR MacProfSFArtikel1202-48b.psd  
HDR M&V HDR.tif  
HDR Toronto HDR.tif  
HDR ACFA HDC400+ HDR neg.tif  
HDR Agfa HDC 200+.tif  
HDR Letters 48bit.tif

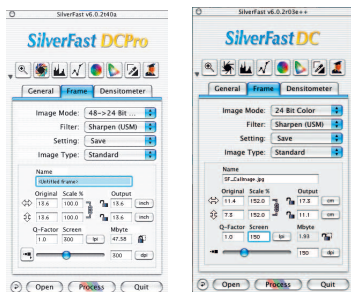
### HDR Overview

オーバービュー画面からのイメージ選択に使われるダイアログ BOX を開きます。





## SilverFastDC, -DCPro



**SilverFastDCPro & SilverFastDC** はデジタルカメラで生成された写真向けに特化した主機能を持ちます。**DCPro & DC** いくつか最も共通のカメラ形式を読む事が可能。**DCPro** は本来、プロフェッショナル RAW データ形式 (DC が TIFF & JPEG 形式と共に一般的に使われる) で使われます。その形式の **SilverFast** のバージョンの概要はマニュアルのセクション 6.9 “異なるファイル形式の読み出し” とこちらにあります:

file format	channels, data depth (suffix)	Silverfast Ai	Silverfast SE	Silverfast DCPro	Silverfast DC	Silverfast DC-SE	Silverfast HDR	Silverfast PhotoCD
TIFF	K, 1 bit line art (.tif)	-	-	-	-	-	-	-
	K, 8 bit Grayscale (.tif)	-	-	12.3	12.3	12.3	12.3	-
	HSM, 24 bit colour (.tif)	-	-	12.3	12.3	12.3	12.3	-
	PCRP, 48 bit colour, unconnected (.tif)	-	-	12.3	-	-	12.3	-
	RGD, 16 bit colour, connected (.tif)	-	-	12.3	-	-	12.3	-
	CANIK, 32 bit colour (.tif)	-	-	-	-	-	-	-
JPEG	K, 8 bit Grayscale (.jpg)	-	-	14.4	14.4	14.4	14.4	-
	RGD, 24 bit colour (.jpg)	-	-	12.3	12.3	12.3	12.3	-
	HSM, 48 bit colour, unconnected (.jpg)	-	-	14.4	-	-	14.4	-
	PCRP, 48 bit colour, connected (.jpg)	-	-	14.4	-	-	14.4	-
	CANIK, 32 bit colour (.jpg)	-	-	-	-	-	-	-
DCS	CANIK single file: 32 bit color (.eps)	-	-	-	-	-	-	-
	CANIK multiple files: 48 bit grayscale + 1x 32 bit color (.eps)	-	-	-	-	-	-	-
PP3F	K, 8 bit grayscale	-	-	-	-	-	-	-
	CANIK, 32 bit colour	-	-	-	-	-	-	-
PSD	HSM, 24 bit colour (.psd)	-	-	12.3	12.3	12.3	12.3	-
Kodak PhotoCD YCC, (p-cd)	-	-	-	-	-	-	-	12.3
NEF (Nikon)	RGD, 12 bit colour (.nef)	-	-	14.4	-	-	-	-
CRW (Canon)	HSM, 12 bit colour (.crw)	-	-	12.3	-	-	-	-
CRS (Kodak)	PCRP, 8+16 bit colour (.dcr, .crs)	-	-	12.3	-	-	-	-
DCR (Kodak)	RGD, 12 bit colour (.dcr)	-	-	14.4	-	-	-	-
Moscow (Mitsubishi)	HSM, 8 bit colour (.mos)	-	-	12.3	-	-	-	-
RAF (Fujifilm)	PCRP, 8+16 bit colour (.raf)	-	-	12.3	-	-	-	-
ORF (Olympus)	RGD, 9+16 bit colour (.orf)	-	-	14.4	-	-	-	-
X3F (Sigma)	HSM, 12 bit colour (.x3f)	-	-	12.3	-	-	-	-

“バーチャルライトテーブル: VLT” は、4つの最も重要なデジタル画像処理ジョブを1つの画面に結合する特筆すべきツールです:

- ビューイング、オーバービュー取得、サーチ
- ソート、俯瞰、体系づけ
- イメージの加工、最適化
- コンタクトシートと単一イメージの印刷

カメラとコンピュータの相互作用が正しく機能すれば、そのイメージは更なる加工のため VLT によってデジタルカメラから直接受け取られるかもしれません。

**SilverFastDC, DCPro** の起動時、VLT は開きます。これらのボタンクリックで、ユーザーは VLT と **SilverFast** メインダイアログ間をスイッチできるでしょう。



## SilverFastDCPro でのRAWデータ取り扱い



**SilverFastDCPro** はプロフェッショナルデジタルカメラの最も共通の RAWデータ形式を直接読み込む事ができます。以前サポートした旧来の 48ビット RGB-TIFF 形式とは別に、CRW (Canon), DCS (Kodak), MRW (Minolta), NEF (Nikon), ORF (Olympus), RAF (Fuji), X3F (Sigma) が現在サポートされます。

### システム動作条件

RAW-データの取り扱いは大容量ファイルの扱いになります。その後のシステム動作条件は高いものになります。

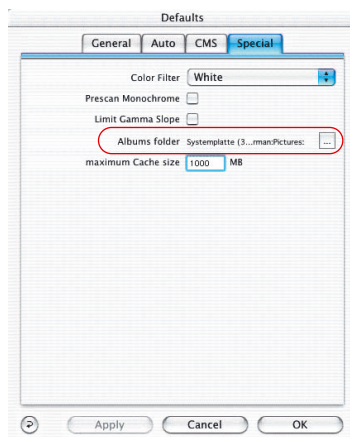
- システム動作条件 Macintosh  
MacOSX, 256 MB RAM, 150MB ディスク空き容量
- システム動作条件 Windows  
CPU 1 GHz, 256 MB RAM, 150 MB ディスク空き容量

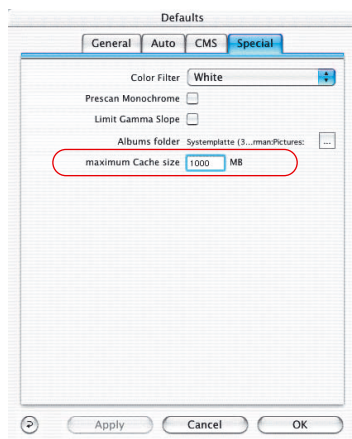
### プリセット&キャッシュ

コンピュータシステムの最適な利用を確実にするため、メモリ必要条件と予想されるファイルサイズに熟考を求められます。

従い、2つのプリセットがパレット “General” / “Options” / “Special” で作られるでしょう。

- Album folder 用パスの設定  
ここでユーザーは **SilverFastDC** アルバムの保存用に個々のディレクトリの生成と割り当てができます。





### • キャッシュサイズ設定

バックグラウンドで RAW-データの大容量を変換するため、それぞれに大容量のキャッシュメモリサイズが必要です。

RAWデータの変換は、RAWデータファイルが未圧縮 “48ビット RGB TIFF” 形式へ変換される事を意味します。

予期されるメモリ割り当ての概算例：

6メガピクセルでのデジタルカメラは 6 MB程度の RAWデータ ファイルを電送します。48ビットRGB への変換はおおよそ 36 MBのファイルサイズを意味します。

6 MB (RAW) x 3 (RGB, チャンネル毎8ビット) x 2 (RGB, チャンネル毎16ビット)。

例として、6 MB の平均サイズで 100 RAW-データファイルを変換すると必要キャッシュサイズは 3.6GB 位に増大します。適切な大容量ハードドライブが推奨されます。

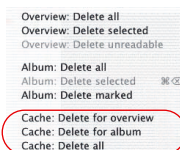
HDD のキャパシティが変換中に限度に達すると、**SilverFast** は休止し、対応するメッセージを表示します。ユーザーはその後、“Options” / “Special” ダイアログでキャッシュサイズの割り当てを変更する必要があります。

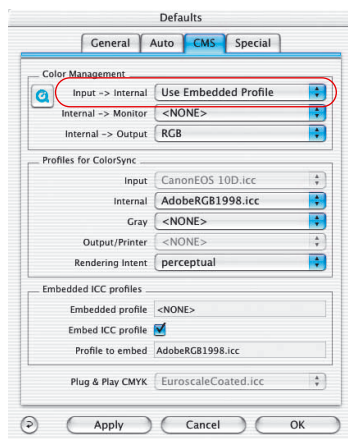
本来、**SilverFast** はキャッシュサイズの増大なしに継続する事ができます。もし限界に達し、追加ファイルが変換される場合、**SilverFast** はより古いイメージのキャッシュを上書きします。これはインターネットブラウザで行われるキャッシュメモリと類似した事が起こります。

古いイメージはこうして解放され、新規イメージが変換後に受け取ります。

キャッシュメモリの内容はユーザーが自発的に削除するまで残ります。

キャッシュはポップアップ “Delete” で直接削除されるでしょう。





#### • お持ちのカメラ用 ICC プロファイル

スペシャルICC プロファイルが **SilverFast** によって多数のデジタルカメラ用にインストールされます。全ての対応済モデルの正確なリストは当社ウェブページをチェック下さい。

通常、オプション “Use embedded Profile” がプリセットダイアログ “Input > Internal” で選ばれるはずですが。

何かイメージを開く際、**SilverFastDCPro** は EXIF データ読み込みで使われたカメラモデルを確定しようとします。カメラが認識され、**SilverFast** がこのカメラ用プロファイルをインストールしたなら、そのプロファイルとイメージは自動的に適切に結合されます。

プロファイルがない場合、プロファイルなしが選択されます。この場合、カラーミスマッチが起こるかもしれません。

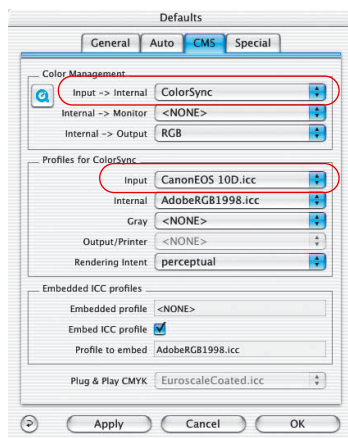
統合された IT8-キャリブレーションを用いることで、各カメラ用の ICC プロファイルの生成が可能になります。このプロファイルはそれから手動で選択されます。

#### カメラプロファイルの手動選択

お使いのカメラのそれぞれのプロファイルは入力プロンプト “ColorSync Profiles” / “Input” 下 **SilverFast** ダイアログ “General” / “Options” / “CMS” で選ばれます。

入力プロンプト “Color-Management” / “Input > External” はプロファイルの使用に “ColorSync” を設定すべきです。

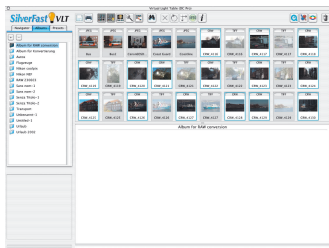
カメライメージが通常のカラーミスマッチと思われる場合、**SilverFast** 内部のカメラ用にプロファイルなしが選ばれるのがもっともです。当社ウェブページの “News” オプション下をチェック下さい（新規カメラプロファイルのリリースについての言及があります）。



## RAW-データファイル変換のためのワークフロー

**SilverFastDCPro** はバックグラウンドで RAWデータファイルの素早い変換が可能です。

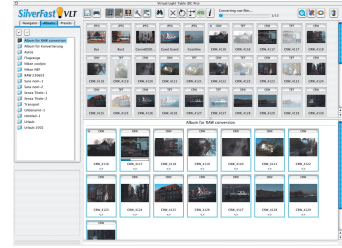
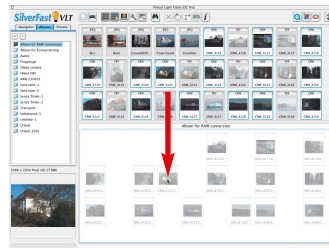
これは VLT のオーバービュー内で変換されるイメージの選択とそれらをアルバム内へドラッグする事で行われます。



*Left: First select the images that are to be converted*

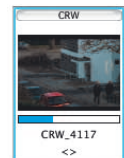
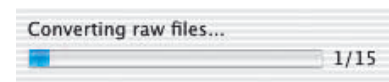
*Middle: Drag them into an Album*

*Right: The conversion commences immediately*

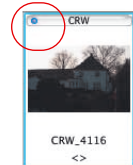


変換は即座に開始されます。変換ステータスはステータスバーで見る事ができます。

プログレスバー（右図）右で、既に変換済のイメージの数とイメージの数全体が表示されます。これに加え、現行イメージのサムネイルが別の小さなプログレスバーと同様、表示されます。



RAWデータイメージを変換したら、サムネイルはサムネイルイメージの上左角に小さな青のドットでマークされます。



それは **SilverFast** がバックグラウンドでこの変換が起こるを許容している為で、ユーザーは同時に作業を継続できます。

## バーチャルライトテーブル(VLT)起動



“VLT” アイコンは、プリスキャン画面左、縦のボタンバーをクリックします。VLT は直ぐにモニター全面に開きます。  
**SilverFast** メインダイアログは隠れます。

## VLTの編集

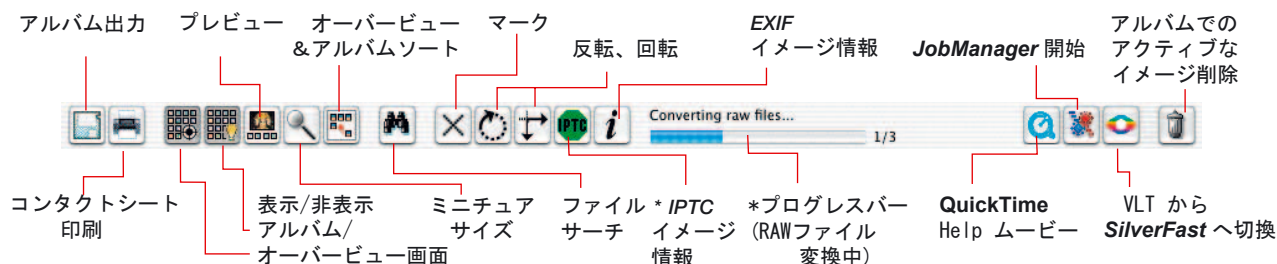


VLT は 5つのエリアに分かれます:

- ブラウザ&ナビゲーション画面  
選択: アルバム付アルバムパレット/プリセットパレット
- オーバービュー画面
- アルバム画面、実際のワーキングエリア
- 拡大画面
- ツール&コントロールバー



## ツール&amp;コントロールバーの詳細

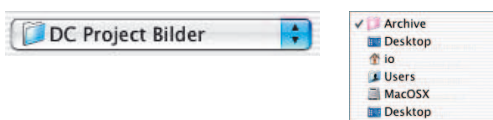
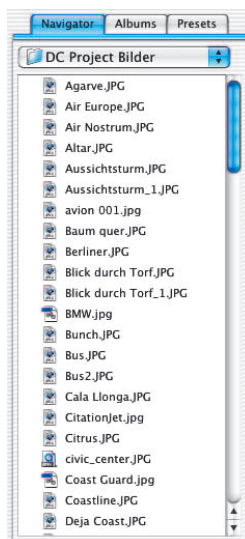


\* **SilverFastDCPro** でのみ可能

## ブラウザ&amp;ナビゲーション画面

ブラウザを利用して、全ての外部ストレージメディアと同様にディレクトリ全体を素早くかつ簡単にイメージ検索が行えます。カメラに依り、イメージはデバイスから直接的にアクセスする事も可能です。

上のポップアップメニューはディレクトリを表示します。いずれか他のフォルダーへジャンプ可能です。



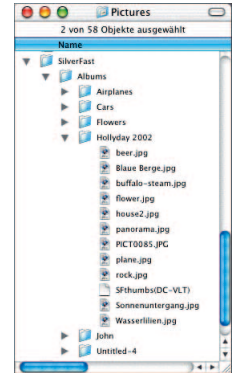
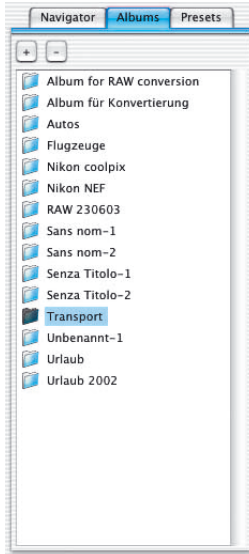
フォルダの中身は長いロールバー内ですぐに表示されます。フォルダに続いて、イメージはここで閲覧できます。

**SilverFast** は何れか認識した写真のサムネイルを表示します。フォルダはダブルクリックして直接開きます。それらは全面の小トライアングルでのクリックによって、開くか閉じます。

## Album パレット

イメージは Albumパレットと個々の Album画面で管理されます。必要とするどんな個々のアルバム数も作成できるでしょう。アルバムの中身は VLT 画面で表示され、そこで加工する事ができます。

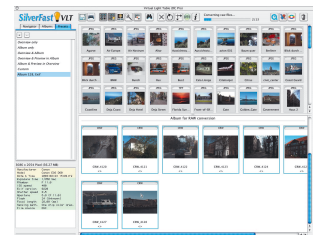
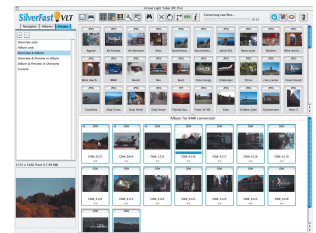
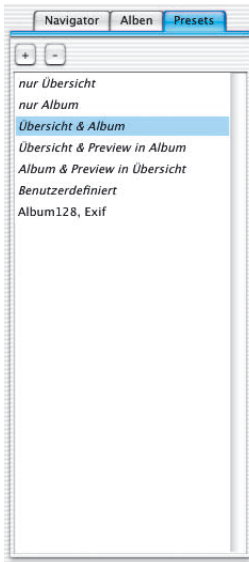
新規アルバムは“Images”フォルダ内に空ディレクトリを作成し、サブディレクトリ“SilverFast \ Albums”に配置されます。オーバービュー画面、ナビゲーター、又は Album 画面のデスクトップからのドラッグによって、オリジナルファイルのコピーが作られます。オリジナルファイルは常に触られないままです。“+”ボタンを使い新規アルバムが作成されます。“-”はアクティブなアルバム削除用です。



## Presets-パレット

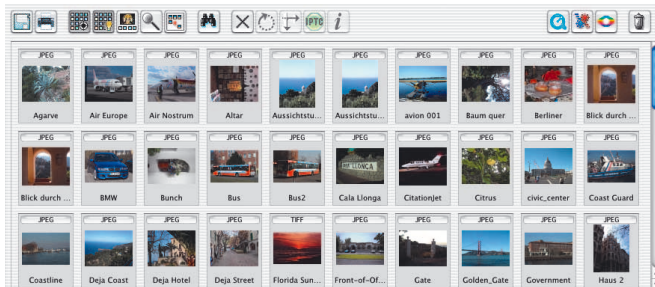
“presets” パレットで5つの定義された項目で、VLTユーザーインターフェースをシングルマウスクリックで変更できます：

- ・ VLT のパラメータ
  - ・ 見える VLT 画面
  - ・ サムネイルサイズ
  - ・ 拡大画面設定
  - ・ フルイメージビューのパラメータ
- ユーザーの個々の設定は、+/- ボタン上のクリックで保存&削除されます。



## オーバービュー画面とツールバー

**SilverFast** が選んだディレクトリでイメージを認識した場合、オーバービュー画面でミニチュアで表示されます。



後の利用で、**SilverFast** は小ファイル “SFthumbs (DC)” を選んだイメージフォルダ内へ生成します。

オーバービュー画面は自由に拡大縮小可能。右のスクロールバーは大容量のイメージでさえクイックなオーバービュー可能です。



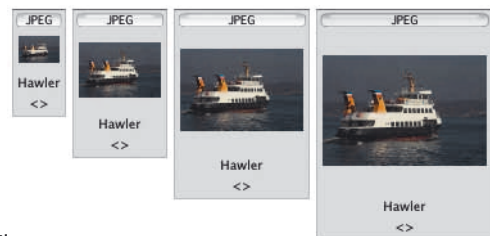
もし最大のオーバービューが必要なら、“Hide/Show” ボタンクリックにより、アルバムは隠れるでしょう。



“Thumbnail size” ボタンクリックは、32x32~128x128 ピクセルで可変するミニチュアサイズの変更が可能です。サンプルでは異なるサイズを表示させています：

Overview: 32 * 32
✓ Overview: 64 * 64
Overview: 96 * 96
Overview: 128 * 128
Light table: 32 * 32
Light table: 64 * 64
✓ Light table: 96 * 96
Light table: 128 * 128
Magnifier: 256 * 256
✓ Magnifier: 512 * 512
Magnifier: size to fit
Magnifier: display EXIF data

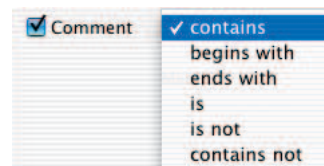
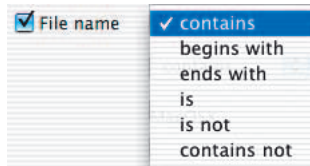
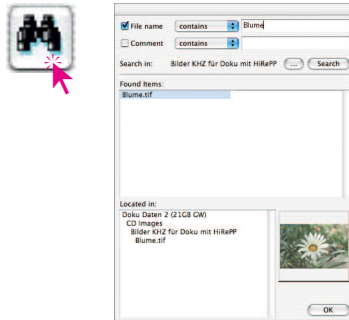
拡大画面は 512x512 ピクセル迄表示可能です。“Display fitting” 使用でイメージは常に拡大画面の最大サイズに表示されます。“Show EXIF-data” のクリックはいくつかの基本 EXIF ファイルが拡大画面の中で見る事ができます。



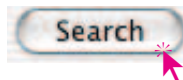
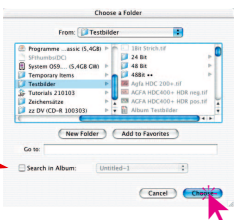
サイズ比較  
32, 64, 96, 128 ピクセル

## サーチ

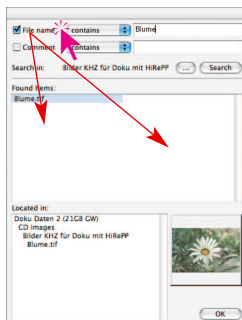
もしファイル名かイメージコンテンツを直接サーチする場合、“search”をクリックするだけです。より多くのサーチ基準を入力できます：



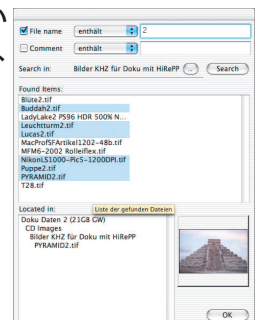
“Directory” サーチされるディレクトリをマークします。サーチされるアルバムが択一的にここで選ばれます。



“Search” ボタンクリックでサーチが開始されます。

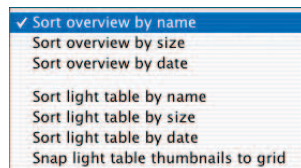


サーチ基準にマッチする全てのイメージが中央の画面に即座に表示されます。ファイル名をクリックすると、そのパス全体が表示され、画面内でミニチュアが表示されます。見つかったイメージはアルバム画面にドラッグしても良いでしょう。“Command” キーを押したまま、単一イメージを選択に加えられます。また“Shift” キーが押された場合、イメージのひと続き全部がマークされます。“OK” を押すと、ダイアログが閉じます。

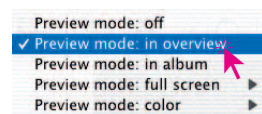




オーバービュー画面と Album 画面においてミニチュアを個々のボタン名、サイズ、日付でソートする事も可能です。



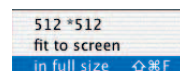
“display Preview” ボタンを利用して拡大されたアクティブイメージを表示可能です。オーバービューかアルバム画面がこの目的に使われます。



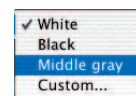
プレビューモード実行:  
フルスクリーン・ + +   
プレビュー (又はスペース+クリック)

アクティブなプレビューモードで  
次イメージ   
前のイメージ

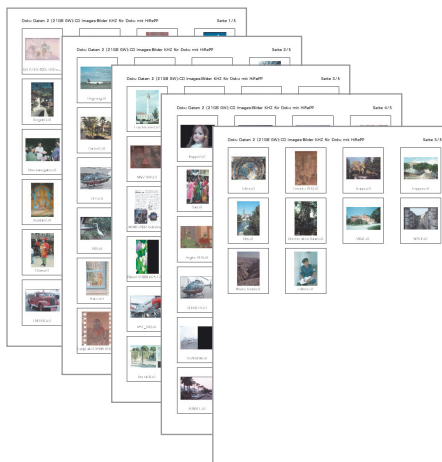
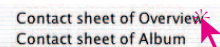
プレビューモード: “entire Monitor”  
オプションは別のサイズ調節が可能です。



プレビューモード: Colour” オプションを使い、  
モニターのバックグラウンドカラーを選べます。



“Print” \ “Contact sheet overview”  
ボタンクリックで、オーバービュー画面の  
コンテンツをコンタクトシート風に印刷できます。  
イメージサイズの適用は自動的に行われます。



コンタクトシートのヘッダー  
にはパスとページ番号が  
含まれます。



## マグニファイ (拡大メガネ)

拡大メガネはオーバービュー画面とアルバムの両方で使われます。いずれかのミニチュアを動き回ると、イメージのコンテンツは magnifier 画面内にすぐに表示されます。

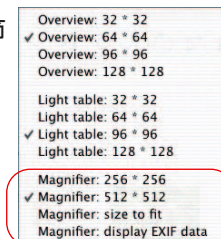
“Size of miniatures” ボタンをクリックで拡大メガネの表示サイズを2ステップで調節可能です: 256 x 256 ピクセル / 512 x 512 ピクセル。

最高レベルでは、表示のサイズが若干増加するため、可視できる領域はマウスで移動します。

“Display fitting” ボタンで、イメージファイルは Magnifier 画面内部で常に最大サイズで表示されます。

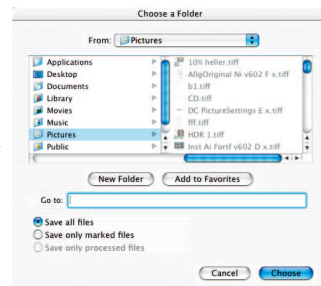
“Show EXIF-data” のクリックで、いくつかの基本 EXIF ファイルが Magnifier 画面で表示されます。

上の magnifier 画面では、現行イメージのピクセルサイズが表示されます。



## アルバム出力

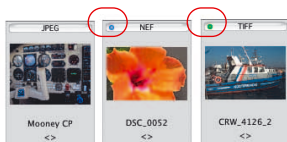
アルバムのイメージは全パラメータ設定と同様に、“Export Album” ボタンをクリックで保存できます。デフォルトでアルバムはサブディレクトリ “SilverFast” / “Albums” (OS X) の登録ユーザーの “images” フォルダで保存されます。



Windows: Desktop \ user\_data \ user  
Images \ SilverFast \ Albums

## サムネイル内の青\* / 緑色ドット

既に変換済の RAW-データイメージは青のドットでマークされます。ドットはオーバービューとアルバムで見る事ができます。緑のドットマークは **SilverFastDC** メインメニュー経由で以前補正され、コピーとしてアルバムへ保存された事を表します。緑のドットはアルバムのみで利用可能です。

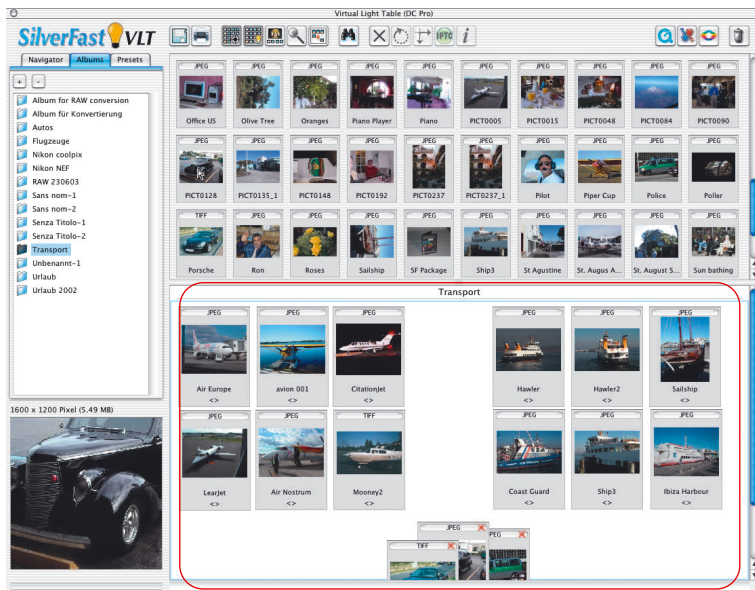


\* この機能は下記製品のみ利用可能:  
**SilverFastDCPro**



## Album 画面 - VLT の中央作業スペース

前に紹介した全パートと機能グループは VLT の中央画面付近 - Album 画面 - にあります。これがメインの作業エリアです。



イメージデータを含む全ディレクトリはブラウザの利用により、識別され、保存されます。中央 Album 画面がこれらイメージ用のオーガナイザーとして働きます。

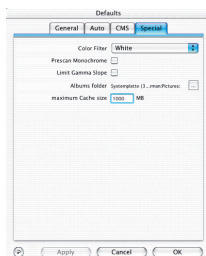
個々のアルバムのどんな数でも利用可能。アルバムパレットのアルバム名をクリックすると、アルバム間を直接的にスイッチする事ができます。

スイッチングの際、単に Album 画面が変わるだけです。ブラウザとオーバービュー画面は触られないままです。

アルバム保存用パスは下記の通り設定できます。

“General-palette / Options / Special-palette / ..”

**SilverFastDCPro** に関し、キャッシュメモリのサイズもここで設定できます。



## ドラッグ&ドロップ

“ドラッグ&ドロップ”は素早くかつ簡単な作業方法です。イメージはブラウザ外、オーバービュー外、サーチダイアログ外、またはデスクトップから Album 画面へドラッグできます。ファイルを掴み、それらを Album画面へドラッグしてマウスボタンを離します。フォルダ全体でもこの方法で、デスクトップから直接コピーできるでしょう。

Album 画面が隠れている場合、イメージは“Show / hide Album”ボタン上、またはアルバムパレットのアルバム名の上にドラッグできるでしょう。新たにドラッグした各イメージファイルはアクティブになります。これはカラーボーダーと明るい背景色で表示されます。

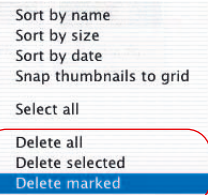


## Album 画面内でのイメージの分類



アルバムへドラッグされた全てのイメージを今ソートできます。一番簡単な方法はドラッグ&ドロップです。

コンテキストメニュー (Mac: “Ctrl” キー、Windows: 右マウスボタン) を使い、これらイメージを名前、ファイルサイズ、日付でソートし、Album 画面で自動整列します。



2つの方法で行われます:

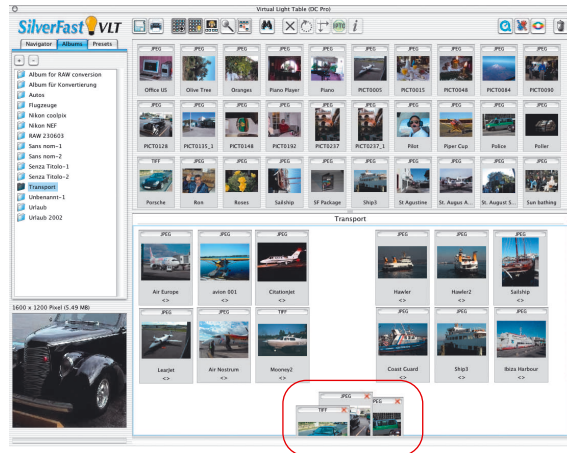
ドラッグ&ドロップでのソート: シングルマウスクリックで希望のものをアクティブにし、アルバムパレットのアルバム上へドラッグさせます。希望のイメージをクリックでアクティブにし、何れか他の3つの VLT アイコン上にドラッグします。

“Command” キーを押す事で (Windows “Ctrl” キー)、より多くの単一イメージがマークされて選択に追加されます。

本来的に、イメージは1つのアルバム内で手動での再配置 & 再ソートもまた可能です

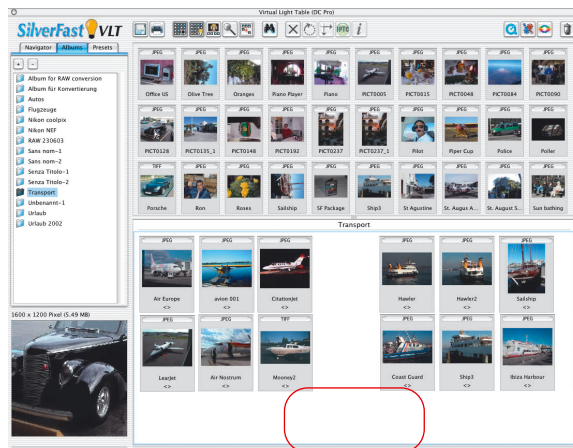


マーキングによるイメージのソート：最初に“Mark”ボタンをクリックします。マウスポインタが Album 画面に触れると同時に十字に切り換ります。イメージ上でクリックすると、上右角で小さな十字でマークされるでしょう。



不要なイメージはその後コンテキストメニューによって削除できます。

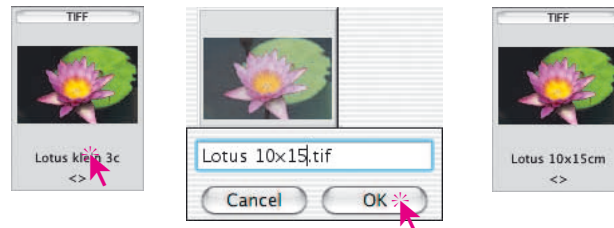
Sort by name  
Sort by size  
Sort by date  
Snap thumbnails to grid  
Select all  
Delete all  
Delete selected  
Delete marked



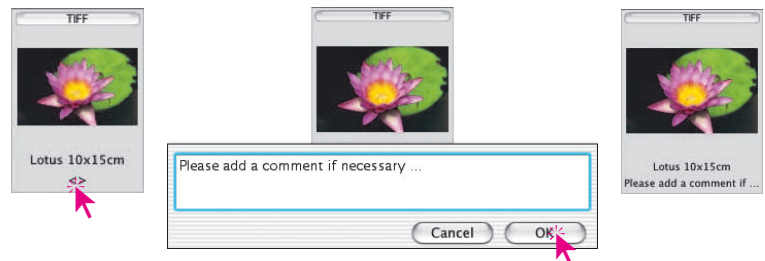
## アルバム内での名前とコメントの編集

ミニチュア画像下のイメージ名の下でイメージコメント用に小テキストフィールドが利用できます。

ファイル名編集：名前をクリックします。



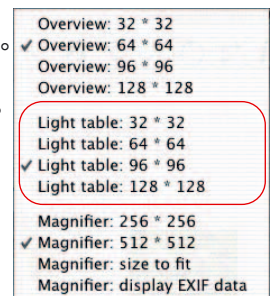
コメントの編集：カッコの空の先をクリックします。  
(例、既存のコメント上で)



## Album 画面でのミニチュアサイズ設定



イメージのサムネイルはオーバービュー画面でのように、サイズを調節可能です。再び、4つのレベルが利用できます。これら設定は全てのアルバムに有効です。





## アルバムでのイメージの回転&反転

Album 画面でのイメージはこれら 2 つのボタンによって回転や反転が行えます。

回転は 90度ステップで右回転（反時計回りは“Shift”を押す）します。

反転はそれぞれの矢印の先をクリックして行います。右矢印のクリックはイメージを水平に、他の矢印クリックは垂直に反転させます。



回転/反転ツールのクリック時に、ポップアップが現れ、選択したイメージはデータの損失なしに変換されています。

JPEG ファイルはデータの損失なしにすぐに変換されます。



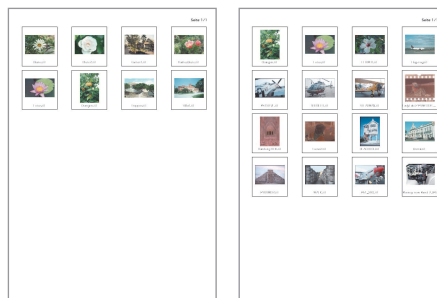
他の全ての形式において、サムネイルだけが最初に変換されます。イメージでの未決定の変更を表示させるため、ファイル名が赤でマークされます。マークされたイメージはその後コンテキストメニュー“Chose imahes with pending changes”を利用するか、または JobManager（そこで変換される）にドラッグ&ドロップする事で選択します。

## アルバムコンタクトシートの印刷



“Print” / “Contact sheet of album” ボタンを使い、Album 画面のソート済コンテンツを写真のコンタクトシート風に印刷する事ができます。イメージサイズ、ページ番号などの適用は自動処理されます。それぞれのアルバムは個々に印刷されます。

ページ番号だけはコンタクトシートのヘッダーで印刷されます。



## \* アルバム内での IPTC イメージ情報



注意: この機能とそれぞれのボタンは **SilverFastDCpro** でのみ利用可能です。

このボタンクリックで、拡張性 IPTC イメージデータは閲覧し、アルバム内のアクティブイメージ用に編集されます。

“IPTC” は “International Press and Telecommunication Council”

(国際新聞通信委員会) の略で、データベース用途の為のイメージユーザーと同様、イメージ権利の持ち主であるイメージ作者により使用される場合があります。コピーライト問題は別にして、作者はイメージタイトル、イメージの日付、キーワード等の詳細データを入力する場合があります。データベースを利用して、イメージをそれから簡単に速い特定サーチを形成する、特定の基準でサーチされるかもしれません。

“Selection” メニューで様々なパレットが利用可能です。

✓ Caption	⌘ 1
Keywords	⌘ 2
Categories	⌘ 3
Credits	⌘ 4
Origin	⌘ 5
Copyright	⌘ 6

入力した IPTCデータは再生ファイル用に “Save” ボタンをクリックして保存します。

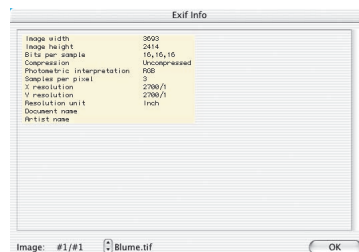
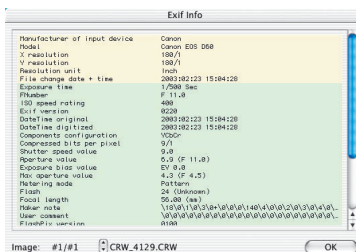
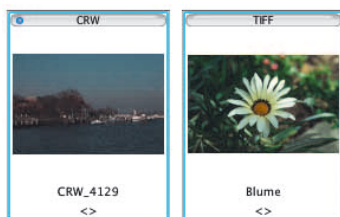
“Load” ボタンクリックで、その設定と保存 IPTCデータがリコールされます。

\* この機能は以下の製品のみ利用可能:  
**SilverFastDCpro**

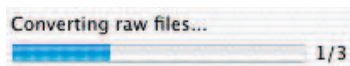


## イメージ情報の取得 (EXIF)

このボタンクリックで、イメージの全 EXIF 情報（可能なら）が表示されます。



この例では、完全な EXIF 情報が左画面で表示され、48ビット RAW データスキャンの情報が右側になります。



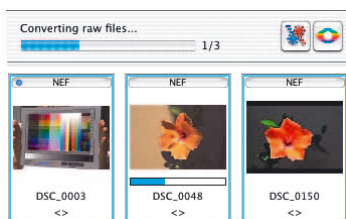
プログレスバー\*

注意: この機能と各ボタンは **SilverFastDCPro** でのみ利用可能です。

特定メーカーか、特定カメラ RAWデータでも画像処理ツールで変換されてしまうと、通常は読み出しのみになります。

この変換は時間がかかり、通常は **SilverFastDCPro** のバックグラウンドで動作します。プログレスバーは現行ステータスを表示します。

もし1つ以上のイメージが同時に変換される場合、小さな追加  
プログレスバーが表示されます。



## Album 画面のサイズ



Album 画面は自由に拡大縮小できます。右のスクロールバーは大容量イメージでも素早いオーバービューが可能。

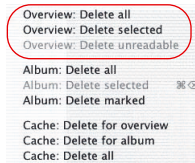
最大オーバービューが必要なら、“Hide/Show” ボタンをクリックでアルバムは隠れます。



## アルバムでのイメージ削除



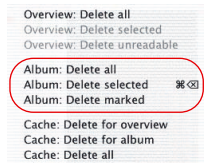
ポップアップメニュー “Trash” を使って、オーバービュー内のイメージとそのアルバムは削除されます。



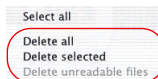
ポップアップ “Trash”

オーバービュー用

アルバム用

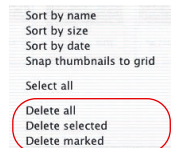


コンテキストメニューを活用して (Macintosh: Ctrl+クリック、Windows: 右マウスボタン)、イメージの削除も可能です。



コンテキストメニュー

オーバービュー用



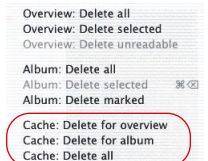
アルバム用

“drag and drop” 機能により、アルバム全体をゴミ箱へ送り出せます。

## \* キャッシュメモリの削除



キャッシュメモリは RAWデータ変換からの HELPファイルと同じく、現ファイルを保存できます。このキャッシュメモリはポップアップ “Delete” で直接削除します。保存用パスとキャッシュサイズは **SilverFast-DCPro** のメインメニューで入力します: General-palette/Options... /Special palette/ ...



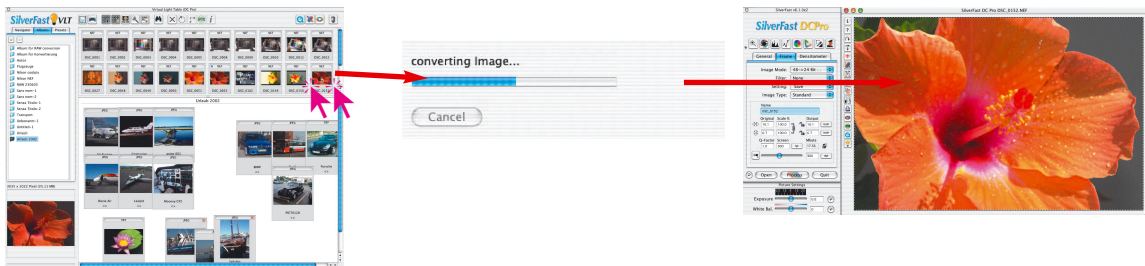
\* この機能は以下でのみ利用可能:  
**SilverFastDCPro**

## イメージの最適化

### **SilverFast** でのダイレクトな最適化

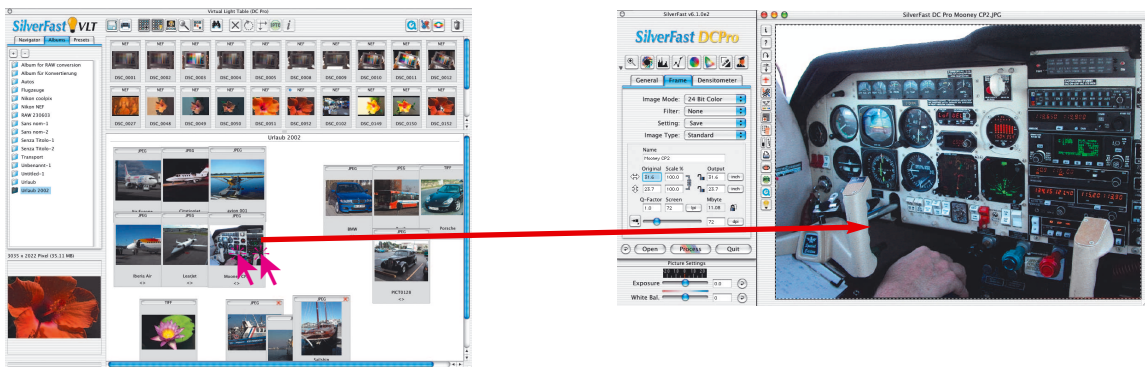
オーバービューか Album 画面の中でイメージをダブルクリックすると、**SilverFast** プリスキャン画面へ直接通されます。

未変換の RAW データファイル (**SilverFastDCPro**のみ可能) をダブルクリックすると変換が開始されます。進み具合は画面に表示されます。



### **SilverFastDCPro**

VLT で RAW データファイルをダブルクリックすると変換が開始され、その後メインメニューでファイルを開きます。



### **SilverFastDC, -HDR**

VLT でイメージファイルをダブルクリックすると、メインメニューでこのファイルを直接開きます。

\* この機能は下記のみで利用可能:  
**SilverFastDCPro**

全ての **SilverFast** ツールは再びここで利用できます。

RAWデータイメージのサムネイルは変換完了後に青いドットでマークされます。

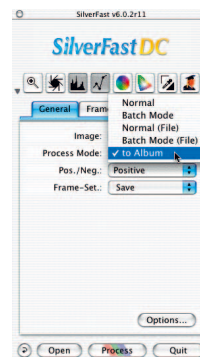


最適化の後、そのイメージは“Process” ボタンクリックにより、補正済イメージとしてアルバムへ戻されるでしょう。

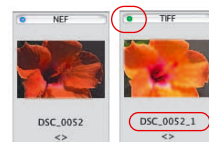


オプションの“To album”は、**SilverFast** メニュー “Process mode” > “General” パレットで選択される事に注意ください。

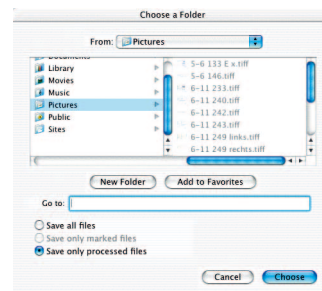
そうでない場合、補正済イメージはアプリケーション※へ直接的に配置されます：  
※例、Photoshop



最終イメージはアルバムへ戻される際、左上角で緑のドットでマークされます。数値はファイル名 “Name\_1. jpg” の背後に追加されます：



全イメージの最適化が完了すると、最終イメージはアルバム以外の何れか別のディレクトリへ Export ボタンを利用して直接再配置して良いでしょう。



\* この機能は下記でのみ利用可能です：  
**SilverFastDCPro**

**SilverFast JobManager** による最適化

イメージ最適化の第二の可能性は JobManager に通す事です。

時間を省いて、複数のイメージ/ディレクトリ全体さえも最適化  
する場合は、こちらを推奨します。



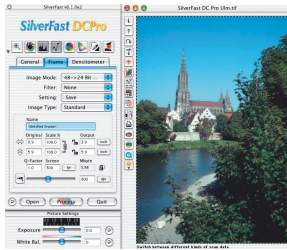
JobManager は VLT ツールバー内で各ボタンの  
クリックによってアクティブになります。  
選択したイメージはその後ドラッグ&ドロップ  
機能で JobManager に渡され、加工されます。  
選択したイメージはドラッグ&ドロップにより、  
VLT 画面から JobManager に直接渡せます。  
完全なアルバムであっても JobManager 画面へ  
ドラッグして良いでしょう。



未変換の RAWデータイメージ\*は JobManager に渡った時に、  
変換されます。これはバックグラウンドで行われます。  
これらイメージの編集は変換完了後にのみ、可能です。

\* この機能は下記でのみ利用可能：  
**SilverFastDCPro**

## VLT ワークフロー サンプル



1. **SilverFastDC / SilverFastDCPro** を起動して、VLT を開始。
2. **ブラウザ**: ファイルディレクトリをサーチ&選択するか、Album 画面に直接イメージをドラッグします。  
**イメージオーバービュー**: イメージを選択し、Album 画面へドラッグします。  
**サーチ機能**: ファイル名/コメントをサーチし、Album 画面へドラッグします。



3. 全イメージが見つかるまでステップ2を繰り返します。オーバービュー画面が隠れている場合があります。
4. **Album 画面**: 希望のやり方でイメージをソートします。

5. **ファイル名**と**イメージコメント**を編集します。  
 回転や反転ツールを使い、誤った位置のイメージを整列します。



**マークツール**でマークします。

択一的にイメージをドラッグ&ドロップ方法により、別のアルバムへ手動でソートする事もできます。



6. コンテキストメニューで**マーク済ファイル**を削除。  
 残りのイメージを再ソートし、**アルバムを保存**します。  
 必要ならコンタクトシートを印刷します。



7. 最初のイメージを **SilverFast** の**プリスキャン画面**にダブルクリックで渡し、“Process” ボタンをクリックしてそこで最適化します。補正されたイメージをアルバムへ戻します。  
 時間節約の代用法: **JobManager** をスタート、ドラッグ & ドロップ機能でイメージを転送し、そこで最適化を始めます。



8. 最適化用の次のイメージを選びます。全イメージが最適化されるまで、ステップ 7~8 を繰り返します。
9. 必要ならば、最適化済イメージを別ディレクトリへコピーします。



## VLT キーボードショートカット (Macintosh)

### General

一連のイメージ選択 .....Shift + : +

単一イメージ選択 ..... コマンド + : +

### VLT 画面

コンテキストメニューを開く。Ctrl+VLT画面をクリック +

全てをアクティブに ..... コマンド + A: +

EXIF / イメージ情報 .....コマンド+i : +

イメージ削除 .....コマンド+バックスペース: +

不良イメージをマーク .....Shift + マーカーでクリック: +

フルサイズプレビュー .....コマンド + Shift + F: + +   
または .....スペース+クリック

アクティブなプレビューモード: 次イメージ .....

前モード .....

## VLT キーボードショートカット (Windows)

### General

一連のイメージ選択 .....Shift + : +

単一イメージ選択 .....Ctrl. + : +

### VLT 画面

コンテキストメニューを開く。Ctrl+VLT画面をクリック: +

全てをアクティブに .....Ctrl.+ A: +

EXIF / イメージ情報 .....Ctrl.+ i: +

イメージ削除 .....Delete:

不良イメージをマーク .....Shift + マーカーでクリック +

フルサイズプレビュー .....Ctrl + Shift + F: + +   
または .....スペース+クリック

アクティブなプレビューモード: 次イメージ .....

前イメージ .....

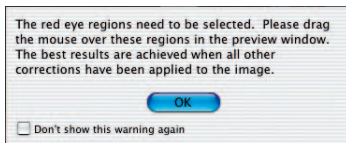
## レッドアイツール（赤目除去）



**SilverFast 6** で新機能が利用可能になりました。プリスキャン画面左、縦のボタンの並びにある“レッドアイ”カラー補正用ツールです。

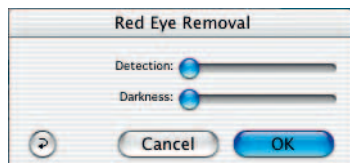
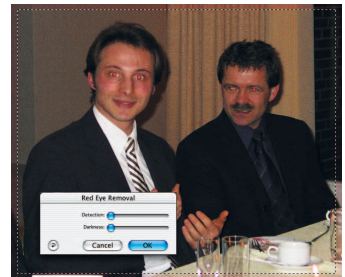
レッドアイはフラッシュライトでのポートレートで起こります。フラッシュとレンズ間の距離が小さく、撮影した人物の瞳が広がっている場合です。

最初に補正するポートレートのプリスキャンをスタートします。“Remove red eyes” ボタンをクリックします。

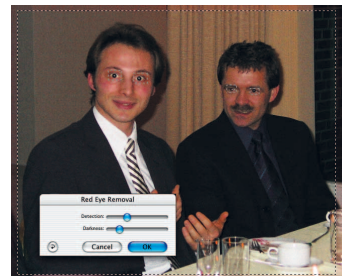


メッセージが表示され、イメージの目の周囲にフレームを描くよう案内されます。

“OK” を押し、マウスで目の周囲にフレームを描きます。“Shift” キーを押したままにすると無数の個々のフレームを描く事も可能。“Alt” キーを押したままの場合、これら個々のフレームは削除する事ができます。

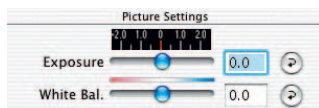


今、開いたダイアログ画面内で、レッドアイをスライダー利用でニュートラル化できます。“Detect” のクリックでカラーディテクションの感度を決めます。“Darkness” クリックでは瞳の暗さの度合いを調節可能です。“OK” ボタンクリックで、その設定が確定します。



“Remove red eyes” ボタンが今、中央を暗く表示しています。そのボタンをクリックし、そして補正フレームへ入ると、この機能は不可になります。

## 露出とホワイトバランスの補正



**SilverFastDC Ver 6** 以上での新機能は、露出とホワイトバランス調節用メニュー”Picture Settings“です。メインダイアログ下に通常表示される個別の画面です。

スライダー”Exposure”はイメージの露出における変更をシミュレートします。一般的に、調節範囲は $\pm 2$ つのフレームから構成されます。

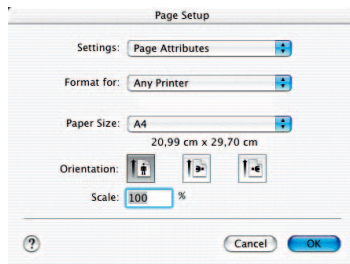
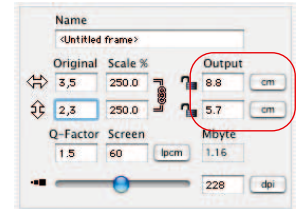
スライダー”White Bal.”はイメージの中のホワイトバランスの素早い、簡単な補正を行います。

この機能を利用して、誤ったカメラ設定を補うことができます。

## プリスキャン画面のダイレクト出力



**SilverFastDC Ver 6** ではプレビュー画面のアクティブなイメージフレームのコンテンツを直接プリンタへ送る事が可能です。従い、急ぎの印刷に画像処理ソフトでイメージを保存&リロードさせる事が不要になります。印刷するイメージのサイズは、“Frames”パレットのスケーリングダイアログで設定する事ができます。



印刷メニューはプレビュー画面左の縦のボタンバー内の“print”ボタンクリックにより開きます。このメニューの設定はプリンタドライバに依存し、それぞれ変わります。ここで設定を入力し、印刷出力を開始します。

**SilverFast** 印刷出力開始後、開いたままになります。これは、もしイメージが実際の印刷出力の後でも保存する予定ならば、それを決定できる事を意味します。

## VLT のアドバンスト印刷ダイアログ

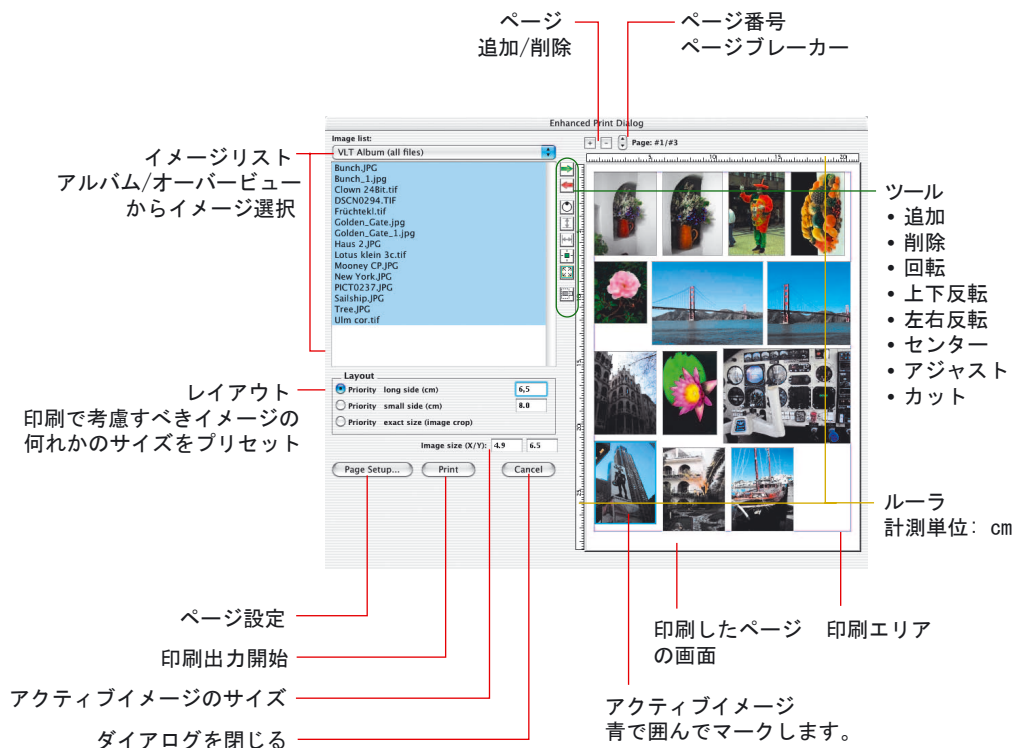


Contact sheet of Overview  
Contact sheet of Album

Enhanced print dialog...

VLT 内の印刷メニューはアルバムのコンタクトシート印刷またはオーバービュー印刷の能力だけでなく、アルバム/オーバービューから選んだイメージを印刷する“アドバンスト印刷ダイアログ”も含まれます。

### アドバンスト印刷ダイアログの内容



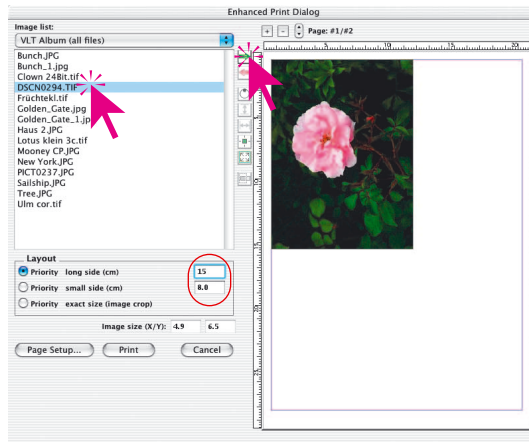
## 単一イメージ印刷

- ✓ VLT Album (all files)
- VLT Album (selected files)
- VLT Overview (all files)
- VLT Overview (selected files)

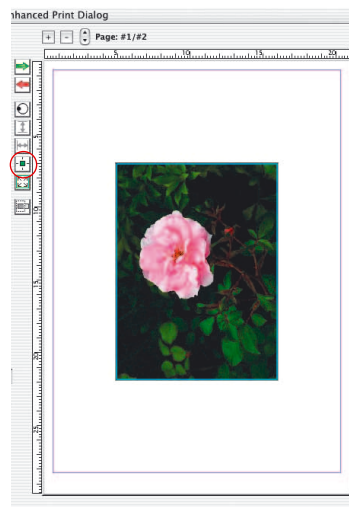
コンテキストメニュー “Image List “でリストされるダイアログ画面の左部のアクティブなアルバム/アクティブなオーバービューの（全/単一）イメージ選択を選んで良いでしょう。

イメージリストでマウスクリックからイメージを選び “Layout “（ここでは 15x8cm ）内で希望の印刷サイズ用の値を入力します。

“Add “ボタンクリックで、イメージはプリンタへ送られ、**SilverFast** によって印刷シートの上左角に自動的に配置されます。



サイズか位置を変更したい場合、これは印刷画面の左にあるボタンを使って行います。

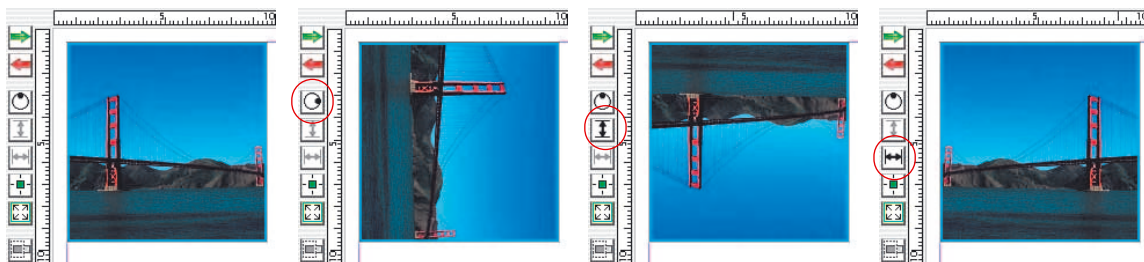


左：印刷出力でのセンターイメージ  
右：印刷出力用フィットイメージ





向きも変更可能です。“Rotate” ボタンクリックでイメージは 90° ステップで回転します。“Invert” ボタンでイメージは追加で垂直か水平に反転されます。



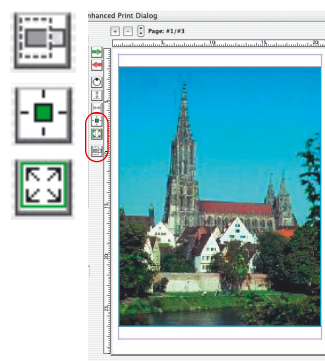
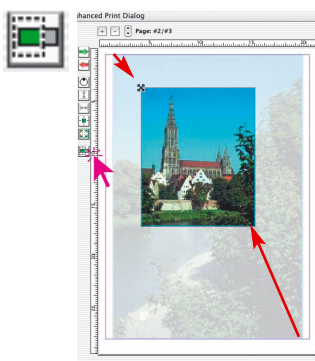
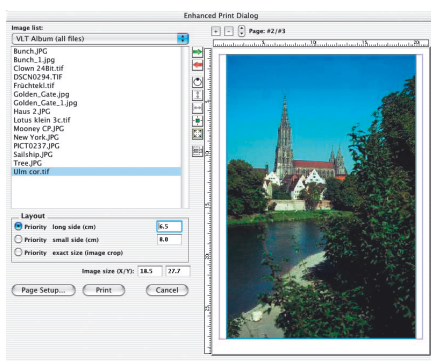
以前に変更した全てはイメージがオリジナルサイズに連動したままです。このイメージの比率を変えたい時、“Cut image” オプションをアクティブにします。アクティブモードにおいて、選択はイメージのクリック＆ドラッグによりアクティブなイメージ内で実行できます。これを端で行うとイメージのカットが可能です。カットイメージは再びサイズするでしょう。

“Cut image” モードが非アクティブなら、イメージの比率は変更されません（サイズ、位置、向きだけを変更可能）  
カットイメージはより以上の変更に対し保護する事ができます。

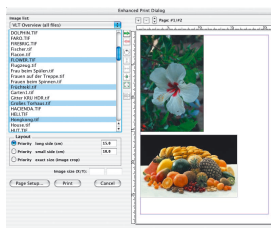
下左：オリジナル比率での  
イメージ（カットモード非アクティブ）

中央：カットイメージ（カットモード  
アクティブ）

右：ページにフィットするカットイメージ  
（カットモード非アクティブ）



- ✓ VLT Album (all files)
- VLT Album (selected files)
- VLT Overview (all files)
- VLT Overview (selected files)

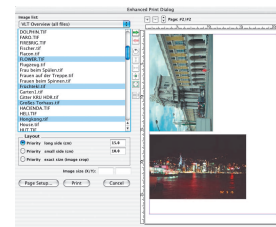
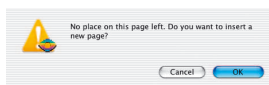


## 複数のイメージを印刷出力に転送

ポップアップメニュー “Image list “を利用し、イメージの選択がダイアログ画面左部においてアクティブなアルバム/アクティブなオーバービューからリストされるなら、選択ができるようになります。

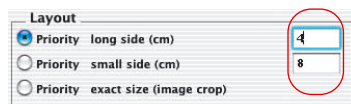
“Add “ボタンでこのリストから選ばれるイメージは印刷出力画面へ送られます。 **SilverFast** は印刷シートの最適な方法でこれらイメージの自動的な配置を行おうとします。

印刷領域が充分でない時、**SilverFast** はより多くの印刷シートを使用するか尋ねます。

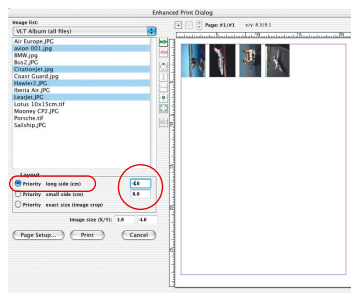


アクティブページの番号と同様に、ページ番号は画面上に表示されます。ページは小矢印ボタンを利用して変更られます。

“+” “-” ボタンそれぞれをクリックすると、印刷シートは手動での追加や削除ができます。

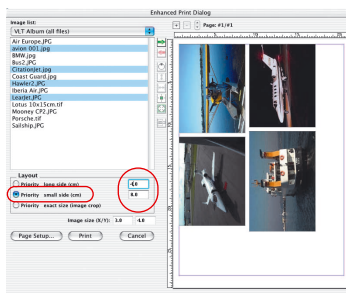


印刷イメージのサイズは “Layout “メニュー下のプリセットで調節します。 “Priority” (優先権) は、全イメージに同じロングページ、同じショートページ、印刷出力で入力した値を使う際に決定します。



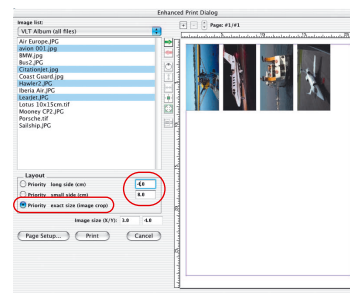
### ロングサイド Priority

The selected images were all inserted with a long page of 4 cm.



### スモールサイド Priority

The selected images were all inserted with a short page of 8 cm.



### 正確なサイズ Priority

The selected images were all inserted with an exact size of 4x8cm. Since in this case the image contents were larger, they were cut to 4x8 cm.

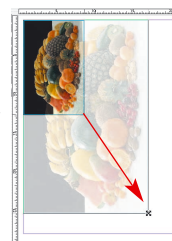
本来、全ての単一イメージは印刷出力画面で手動でのクリック  
&ドラッグでサイズの可変も行えます。

### イメージ内部でのクリック&ドラッグ

イメージ全体を移動

### エッジ/コーナーでクリック&ドラッグ

イメージサイズ変更 (“Cut image” ボタンが  
非アクティブの際に、比例して)



印刷画面左のナビゲーションボタンを使って、回転、反転などが  
可能です：

追加： 選択 & マークしたイメージは印刷画面へ送られます。

削除： 選択したイメージは印刷出力から削除されます。

回転： 選択したイメージは90° ステップで回転します。  
ドットは向きを表します。

上下（垂直）に反転： アクティブなイメージは印刷画面で垂直に  
反転します。

左右（水平）に反転： アクティブなイメージは印刷画面で水平に  
反転します。

センターページ： イメージを印刷画面の中央に位置します。

ページサイズに適合： アクティブなイメージは印刷領域に比例して  
適合します。

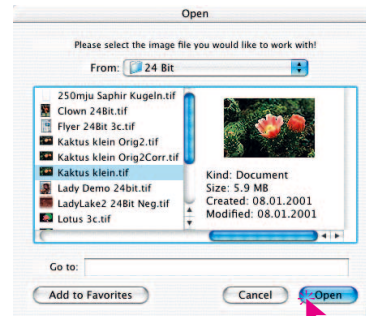
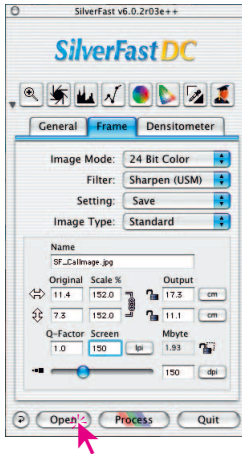
カットイメージ： このモードがアクティブな時、イメージエリア  
をマウスドラッグによって手動で選択できます。もしこれが  
非アクティブならイメージの比率は変更されず、サイズや位置、  
向きだけが変更されます。

クリエイティブな作業も可能：  
イメージは互いの上にも配置  
できます（大きな背景として  
あるイメージを選択し、一方  
小さな方を上に配置できます）



## “Open” ボタンでのイメージのオープン

“open” ボタンクリックでデバイスか、イメージを含んでいるフォルダ選択用のダイアログがアクティブになります。



名前をダブルクリックするか、“open” ボタンクリックで直接イメージを開きます。**SilverFast** プリスキャン画面の内部でイメージは開きます。

## SilverFastDCPro でのIT8-キャリブレーション

スキャナーとデジタルカメラ間のキャリブレーションの違い

デジタルカメラをキャリブレートする際、複数の要因を検討する必要があります。

スキャナーの大きな利点とは、殆ど一定のコンディションで動作するという事です：オブジェクトとセンサー間の絶対的配列と同じく、ほぼ一定の光源、固定された色温度、物体とセンサー間との一定の距離など。

これはデジタルカメラと完全に異なる点です。実際、一定や標準化などではなく、カメラは非常にフレキシブルであり、それと共に計算がやっかいです。

IT8-キャリブレーションは実行できますが、厳密に言えば、周囲の要因に対し、何も変更がなされない限りだけです。

これらのコンディションは、写真スタジオのテーブルトップ、写真複製の間だけよく見られます。それらは照明コンディションや、アウトドア写真等での変更時にひどく変わり易いものです。

たった一つの単一写真のためにファクターの各偏差がキャリブレーションを機能させます。もし写真スタジオで光源が動く場合、新しいキャリブレーション写真が作られます。これを行うには、用意したスタンド上の適切な IT8ターゲットを撮られる写真へ置き、そして写真内の IT-8ターゲットをキャプチャーします。その後、セットからターゲットをはずして写真を再撮影します。この方法で2つの写真が撮られます：最初はキャリブレーション用、後が実際の写真です。プロフェッショナルはグレーカードテストでの手順を知っています（目的はここで記述したステップと同じ）。



## SilverFastDCPro でのキャリブレーションのステップ

フラットベッド/フィルムスキャナー以外に、デジタルカメラユーザーは時に角張って撮られた IT-8ターゲットに出くわします。カメラの光学軸に正確に垂直なチャートは反射するため、結果、後のキャリブレーションに使えない写真になります。

角張った歪みを補う為、**SilverFastDCPro** はフレキシブルで鋭敏な可変スキャンフレームを装備します。このフレームは IT-8ターゲットの個々の計測フィールドに似たグリッドを含みます。

キャリブレーション自体は、他の全ての **SilverFastAi** 版と同じです。唯一の違いはスキャンフレームの配置が異なります。

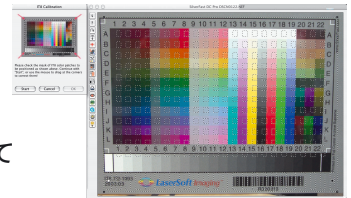


**SilverFastDCPro** を起動、IT-8イメージをメインメニューのプレビュー画面へロードします。

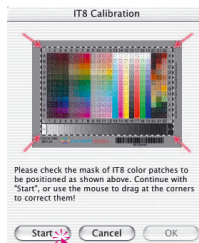
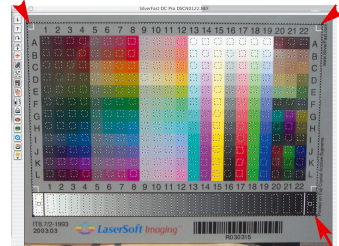
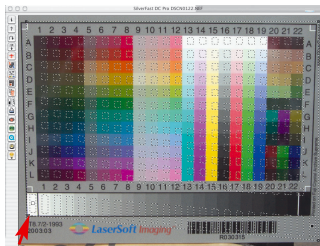
プレビュー画面左の縦のツールパレットの各ボタンをクリックして IT8-ダイアログを開きます。

グリッドはプレビュー画面にすぐ

現れます。グリッドを IT8ターゲット上へ正確に配置します。



By means of one mouse click into the IT8 Image of the dialogue window, the frame is set back to the standard position



一度フレームを正しくセットしたら、キャリブレーションは“Start” ボタンクリックで開始します。

以下の流れは標準の **SilverFast** IT8-キャリブレーションと同一です。

詳細な情報は、第七章“**SilverFast** IT8-キャリブレーションを使ったスキャナーのキャリブレーション”を参照下さい。



SilverFast HiRePP

HiRePP “高解像度ピクチャーパフォーマンス”



HiRePP は大容量イメージファイル（30 MB以上）の読み込み速度を劇的に引き上げるために設計された新技術です（**SilverFastAi**、スキャナー独立型 **SilverFastHDR**、**SilverFastDC** と連携）。**SilverFast** 全バージョンは HiRePP-アクセラレートしたイメージ（24 & 48 ビットTIFFファイルなど）を確かに読み込みます。その機能は **SilverFast** インターフェース内では見えませんが、そのため、ユーザーとの相互作用の必要がない、トータルでは見えずに動作します。そのインパクトはより大きなイメージファイルサイズになる程、より効果的です。大容量イメージファイル（例、500MB）のロード/オープンはそのソフトウェアとパソコンのCPU パワーに依存し、それぞれ数十分係るでしょう。もしこれらの大容量ファイルが HiRePP 付 **SilverFast** バージョンで生成されている場合、**SilverFastHDR / DC** でのこれらファイルのオープンは数十秒だけです。勿論、HiRePP を既存の HiRePP なしファイルの **SilverFastHDR** へそれに従ってインストールする事も可能です。それは **SilverFast JobManager** などには理想的なタスクです。旧データのディレクトリ全体は自動的に HiRePP 対応になります。全てにどんなクオリティのロスもありません。

保存するのにどれ位時間がかかりますか？

テスト構成: Macintosh G4, 450 MHz, 384 MB RAM,  
Adobe Photoshop 6 / 120 MB RAM

イメージファイル	100 MB without HiRePP	100 MB with HiRePP	500 MB without HiRePP	500 MB with HiRePP
オープン				
SilverFastHDR with HiRePP in	≈11 sec	≈2,5 sec	≈34 sec	≈2,5 sec
Photoshop 6 in	≈15 sec	≈15 sec	≈90 sec	≈90 sec

どのようにに HiRePP は機能しますか？

HiRePP は2ステップシステムとして機能します：

- 第1ステップ: **SilverFastHDR** HiRePP 互換イメージデータを作るか、新しい **SilverFastAi** ソフトで再スキャンする事です。
- 第2ステップ: 全 HiRePP 可能イメージファイルをロードし、**SilverFastHDR** でリアルタイムに編集できます。

HiRePP は特に誰にとって重要ですか？

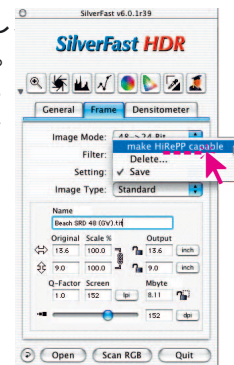
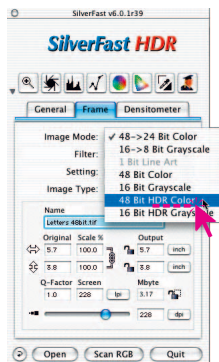
大容量イメージファイルは通常、大型スキャナーと同じく、高い光学解像度をもつハイエンドスキャナーで作成されます。その為、HiRePP 使用のイメージファイルはクオリティロスがありませんが、大きな時間節約の可能性を産み出します。HiRePP は上記の通り、そのようなタイプのスキャナーに推奨します。加えて、全ユーザーは大きなファイル数を処理する必要があります(出版社、画像データアーカイブ、写真家等)。時間節約は明らかに画像処理の数を増大させるでしょう。

## HiRePP で既存のイメージデータの再生

如何なるイメージの変更なく、HiRePP 互換の既存のイメージストックをどうやって作りますか？

まず、**SilverFastSRD** を非アクティブにし“48 bit HDR Color”モードに切替えます。全ツール&フィルターは非アクティブです。

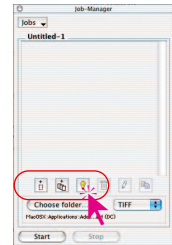
“Adjustments” 下のパレット “Frames” で設定を最適な名前で保存します。  
例、. “make HiRePP capable”。



6.11

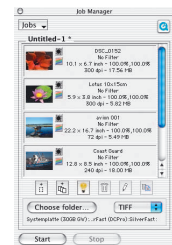


統合された JobManager をスタートします。  
最初に空の画面を開きます。

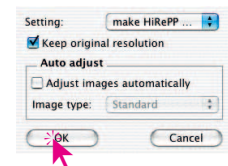


ここでバーチャルライトテーブル (VLT) を開きます。  
HiRePP 互換にするイメージデータを選択します:異なるディレクトリからのイメージのコンビネーション、完全なディレクトリコンテンツ、アルバムかディレクトリからの個々のイメージ。

“ドラッグ&ドロップ” で JobManager 画面へ  
選択を引き入れます。



“make HiRePP capable” を今、保存した  
画面が再オープンします。



**重要:**

“Keep original resolution” BOXをチェックし、  
“Adjust Images automatically” を非アクティブにします。  
イメージパラメータが変更されないままになるでしょう。

“OK” クリックで、選択したイメージが JobManager に送られます。



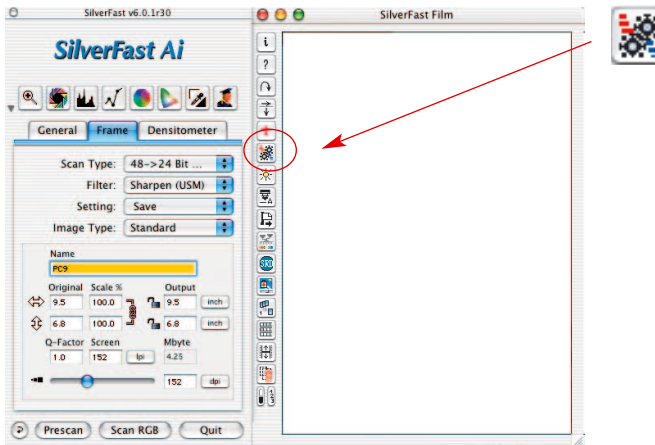
全イメージを選択 (Mac: “Cmd” + A / Win: “Ctrl” +A)。  
 新たに更新したイメージが保存される新規ディレクトリが  
 選ばれます。  
 作業は “Start” ボタンを押す事で起動させるだけです。



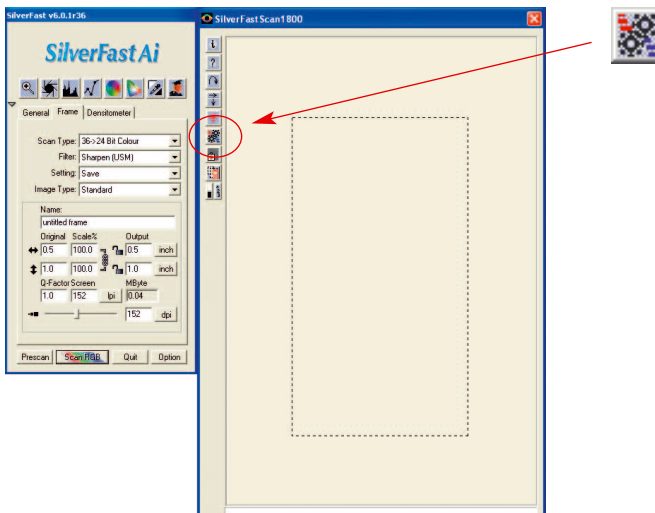
## フィルムスキャナー用 **SilverFast JobManager**

### 概要

JobManager をアクティブにするには、**SilverFastAi** プレビュー画面左の縦のボタンリストから JobManager ボタンをクリックします。



**SilverFastAi** ダイアログ (Mac)




**SilverFastAi** ダイアログ (Win)





## SilverFast JobManager ツール


アイコンは現在選んだコレクション  
(補正)と出力形式を表します:


 オートアジャスト実行  
(スキャン前)

 グラデーションカーブ  
(エフェクトの変化)


 セレクティブカラーコレクション  
実行


 RGB 出力形式 (選択)


 Lab 出力形式 (選択)

 CMYK 出力形式 (選択)

アイコンはジョブに関連した  
動作を表します:


 プレビューからアクティブ  
フレームを追加


 プレビューから全フレーム追加

 イメージオーバービューダイア  
ログ画面からイメージ追加

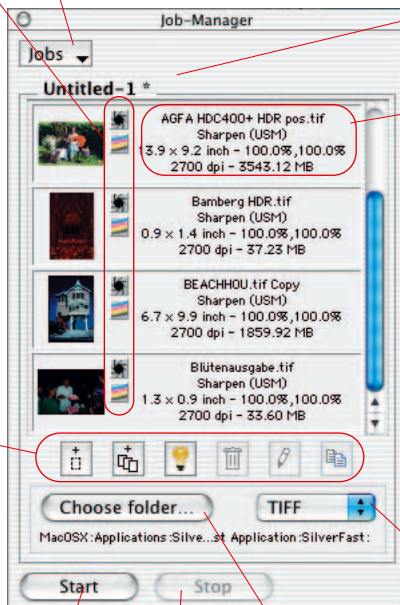
 VLT 実行

 選択したジョブエントリーを削除

 選択したジョブエントリーの  
パラメータを編集

 ジョブエントリーパラメータをコピー

**SilverFast JobManager** メニュー  
ジョブ (保存やロードなど) 完了に関する  
アクションを参照します。



現在ジョブ名  
星印(\*)は、ジョブが変更された所を  
示します。

イメージ情報  
ファイル名  
アクティブフィルター  
出力寸法 / スケーリング  
水平&垂直  
出力解像度 - ファイルサイズ

ジョブ実行の  
スタート/ストップ

ディレクトリ  
最終イメージは実行  
中に保存されます。

ファイル形式  
希望するファイル形式用  
選択BOX

## JobManager の目的

JobManager とは何ですか？

**SilverFast** JobManager（以下“JM”と省略）はスキャンソフト **SilverFastAi** 用のビルトイン機能であり、スキャナーから独立して操作する Photoshop プラグインや、TWAIN モジュール（**SilverFastHDR**、**SilverFastDC**、**SilverFastPhotoCD**）と同じです。

JM は **SilverFastAi** でサポートする一定のフィルムスキャナーで利用可能です、しかし JM は **SilverFastAi** でサポートするフラットベッド/ドラムスキャナー用にオプションとしてのみ利用可能であり、**SilverFastAi** 標準版には含まれません。

JobManager の目的は何ですか？

ユーザーが一連のイメージ全体（例、フィルムストリップ全体）をスキャンしたい場合、通常イメージ毎に処理しようとします。ユーザーは電卓とスキャナーを持って仕事場に座り、イメージ毎に一方のイメージ最適化（グラデーション、ヒストグラム、カラーコレクション、フォーカスなど）&最終スキャンの後、もう一方を進めようとします。

もし多数のイメージと最高のクオリティが必要ななら、これは時間とコストを浪費する手順です。ハードウェアがプレビュースキャン、うまくスキャンを行う事は時間を要し、保存したファイルが壊れる事はユーザーにとっては無駄な時間です。

JM を利用する際、フラットベッド/ドラムスキャナー利用は追加の利点があります。JM により、透過と反射（原稿）の作品データやスライドとネガのミックスまでも処理する事が可能です。それらは JM を使い1つのパスで処理できます。それ故、JM はワークフロー処理で効率を劇的に引き上げ、コストの削減につながることも意味します。



\*注意

下記製品とJM 利用時のみ適用可能:

**SilverFastHDR**, **SilverFastPhotoCD** /**SilverFastDC**

## ジョブとは何ですか?

ジョブ/ジョブエントリは使用できる設定、パラメータ、操作の集りです。

- a) スキャンされるイメージ用
- b) 既存のイメージファイル用
- c) イメージファイルでの完全フォルダー用

ジョブ/ジョブエントリはインストラクションリストとして見る事もでき、そこからイメージ、イメージファイル\* またはイメージフォルダ\*が自動的に処理できます。

## “バッチスキャン”と JM はどう違いますか?

フラットベッド/ドラムスキャナーの利用時、プレビュー画面のイメージフレームパラメータの自動処理がバッチスキャンになります。こうして、バッチスキャンはフラットベッド/ドラムスキャナーのプレビュー画面に限定されます。フィルムスキャナーでは、バッチスキャンは同じ方法で定義されます。

フィルムストリップ（同じ方法で/個々に修正したパラメータで）を用いた追加のイメージスキャンが選択が現在だけがあります。それら全ての代わりに、選択したイメージのスキャンを選ぶ事もできます。その後のイメージのための個々の設定変更は、通常はバッチスキャンでは不可能です。

スキャナー独立型の **SilverFast** バージョン、HDR, DC, PhotoCD, 等では JM はファイル\*, ディレクトリ\*, RGBを含むイメージファイル, ネットワーク上のディスク等からの、48 bit\*\* RAWデータを受取ります。

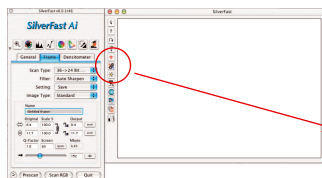
ネガフィルムの RGBスキャン、透過材料、反射材料はどんな希望のシーケンス（順序）でも同時に処理する事ができます。

### \*\* RAW データとは ?

少数のスキャナーとデジタルカメラは “RAW データ” か HDR 形式（高ダイナミックレンジ）48ビットカラー/16ビットグレースケールを **SilverFastAi** スキャンソフトを使ってスキャンする事もできます。この方法でスキャナーのRAW データは RGB ファイルとして読めます。ここでは（48ビット HDR カラータイプで）、スキャン中の調節は出力スケールと解像度の度合いだけです。**SilverFastAi** はスキャナープロファイル（スキャナーの偏差が記述）を 48ビットデータの出力中に RGBデータ内へ埋め込む事ができます。スキャナー偏差はそれから **SilverFastHDR** で処理中、自動的に補正できます。

## フィルムスキャナー\*とフィルムストリップ\*で **SilverFast JobManager** を利用

### JobManager のアクティベート



まず **SilverFastAi** を起動。起動後にプレビュースキャンを行う必要はありません、挿したフィルムストリップの内容全体に関し、向きを最初にセットすべきだからです。

JM の実行は **SilverFastAi** プレビュー画面左の縦のボタンリストで“JobManager” ボタンをクリックします。



JM 画面が開きます。

画面は空のままで、JMにイメージが追加されないか、保存なしのジョブがロードされる限り、“Untitled-1”が使用されます。まず、個々のジョブエントリとしてイメージファイルを JM に追加します。各ジョブエントリはまさしく1回のスキャン用にパラメータを定義します。画面内部の全ジョブエントリは1つのジョブとして結合するでしょう。

### ジョブエントリを作成できる複数の方法



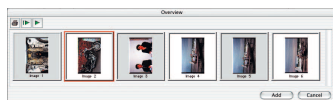
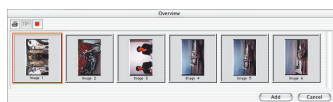
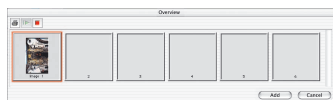
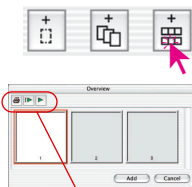
JM 画面のツールリストに3つのボタンがあり、ジョブに対するイメージファイルの追加をコントロールします：

最初のボタンは主にフレームに入れた個々のイメージに使用されます。2番目のボタンはプレビュー画面で既に見える単一イメージ用に主に使われます。3番目はフレームに入れてないフィルムストリップ\* または完全なフィルム\*用です。



**\*注意**

いくつかの機能は一定のスキャナータイプのみにあります。




挿入したフィルムストリップのイメージオーバービュー  
挿入したフィルムストリップコンテンツのオーバービューを得るため、3番目のボタンをクリックします。

画面“Image overview”はまだ空のままで開きます。画面のサイズ、すなわちサムネイルの数はスキャナータイプとフィルムストリップの長さに応じて制限されます。

上にあるボタン（最初のもの）を用いてオーバービューを印刷する事ができ、もし新しいフィルムストリップが挿入される場合、オーバービュー（第2ボタン）をリフレッシュします。それとも既に始まったりリフレッシュを止める事ができます（第3ボタン）。

第2ボタンのクリックでスキャナーにフィルムストリップ全体のオーバービューを作成するよう指示します。

 オーバービューの進行はモニターに表示されて、スタートとステップができます。



### 希望イメージの選択



生成されるイメージオーバービュー内で“Command-クリック” (Win: Control-クリック) で、個々のイメージを選択可能です。または一続きのイメージは“Shift クリック” (Win: **SHIFT** + **⬅**) で、“Command A” (Win: **CTRL** + **A**) で全イメージ選択可能。アクティブなイメージはイメージオーバービュー内で広い白フレームになります。（非アクティブイメージはグレーのまま）



“Add” ボタンクリックで、イメージは JM 画面へ追加されます。

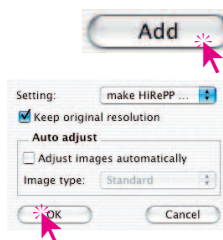
### イメージの選択:

#### Macintosh

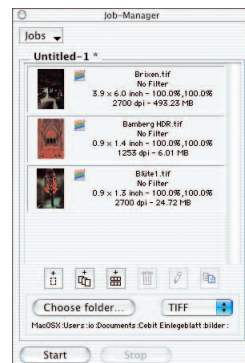
-  + **⬅** 追加シングルイメージ
- SHIFT** + **⬅** 連続イメージ
-  + **A** 全イメージ

#### Windows

- CTRL** + **⬅** 追加シングルイメージ
- SHIFT** + **⬅** 連続イメージ
- CTRL** + **A** 全イメージ



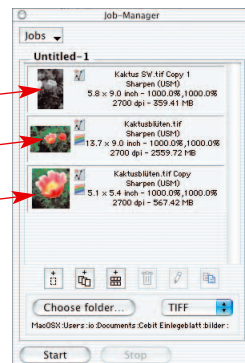
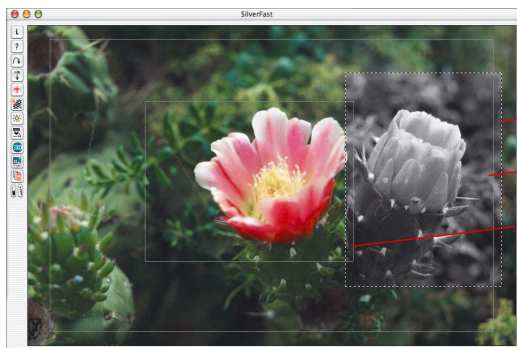
これらのイメージに定義されているパラメータはないため（プレビュー画面でフレームをスキャンする事と対照的に）、“Add” ボタンクリック後、ダイアログが表示され以前保存したプリセット（又は **SilverFast** 基本設定）からイメージのパラメータ代用として選択できます。加えて、これらのイメージ（ジョブエントリー）が加工前に自動的に適用されるなら、明示する事ができます。選んだそのイメージは JM 画面でのみ見る事ができます。もしサムネイルがないイメージが JM に追加される時、第三のイメージでの処理として標準アイコンが表示されます。



### プレビュー画面の全フレーム追加



2番目のボタンクリックで、プレビュー画面で表示される全フレームが JM 画面へ追加されるでしょう。下図の例では、3つのフレームが表示されました。フレームそれぞれは異なるイメージ選択を取り囲み、異なるパラメータで最適化されました。フレームそれぞれは異なる名前、異なる表示画面で囲み、異なった最適化用パラメータを含みます。

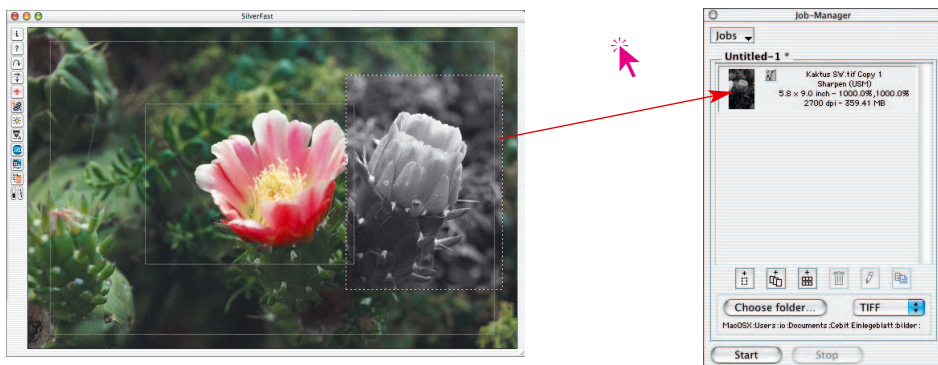




## 単一フレームの追加

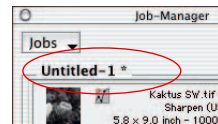


1番目のボタンクリックで、プレビュー画面で現在アクティブなフレームが JM 画面に追加されます。



3つのタイプのジョブエントリを混合可能です。

ジョブ/ジョブエントリで変更し、そのジョブ変更がまだ保存されてない時、それらはジョブ名の後にアスタリスク（星印）で明示されます。



### 注意



もしイメージオーバービューが JobManager ボタン（プリスキャン画面の左の余白）に表示される場合、利用できないキーボードショートカットがそこにあります。このオーバービューは単一の、デフォルトプレビュースキャン用新規イメージの選択目的だけに現れます。イメージをここから JM へ転送する事はできません。

## ジョブエントリーの削除



個々のジョブエントリがいつでも削除できます。実行するには、JM 画面で削除されるジョブエントリを選択する必要があります。削除ボタンのワンクリックで、マーク済エントリが除去されます。

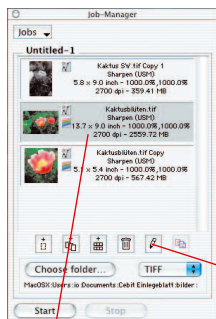
## ジョブエントリーの処理

プロセッシング（処理）モードへのスイッチ

処理されるジョブエントリーはマウスクリックで選択する必要があります。**SilverFast** JobManager は 選択カラーのフレームでの処理で見つかったデフォルトジョブエントリーをマークします。

JM プロセッシングモードを“Processing” ボタンクリックで開始。プロセッシングモードへの変更により、選択イメージはスキャナーからプレビュー画面へ自動的にロードされ、プレビュースキャンが作成される事を意味します。

“Processing” ボタンを押したままで、アクティブなプロセッシングモードを示します。（左図）



プロセッシング  
ボタン  
オフ/オン

プロセッシング  
ボタン オフ

選択したジョブエントリー



## 実際のイメージ処理

次のステップは簡単です。ここで選択したイメージ処理に必要な**SilverFast** 全ツールが、標準スキャン手順の処理と同じように利用できます。

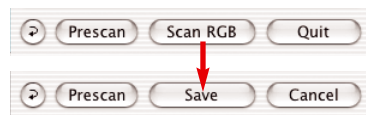
勿論、イメージ補正のワークフローステップの順序を保つ事は重要です。

イメージ最適化の流れは左図の通りです。

**SilverFast** ScanPilot を追加の補助手段として利用する事も可能です。

唯一の違いは最後の処理ポイントです。適用した補正はすぐに処理されませんが、JM で保存されます。

標準スキャンソフトの“Scan” ボタンが JM “Save” ボタンに変更されました。



“Save” を押す際、スキャンはこの時点では開始されません。



すぐに次イメージへ進む事が出来、同様に処理できます。JM 画面を単にクリックすると、自動的にプレビュー画面内へロードされます。次イメージの最適化を進めます。

“Save” をクリックする事で、パラメータは JM へ戻り、再び操作を行います。この方法を利用して、最短時間でフィルムストリップの必要なイメージ全てを最適化する事が可能です。

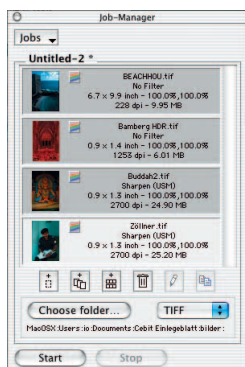
## プロセッシングモードを離れる

最後のイメージ最適化の終了後、“Processing” ボタンクリックで再びプロセッシングモードを離れる事ができます。

ここで、スキャンされるジョブエントリーを選ぶ事ができます。これを以下の方法で行う事が可能です：

- 個々のイメージは “Command クリック” (Win: **CTRL** + **⌘**)。
- 連続するイメージは “Shift クリック” (**SHIFT** + **⌘** (Win: **SHIFT** + **⌘**))。
- ジョブの全イメージは “Command A” (**⌘** + **A**) (Win: **CTRL** + **A**)。

例では、4 エントリーの内3つだけが選択されました。



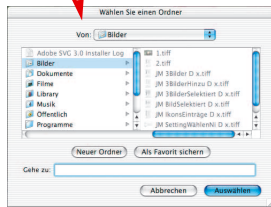
## スキャン保存用に保存先を選択

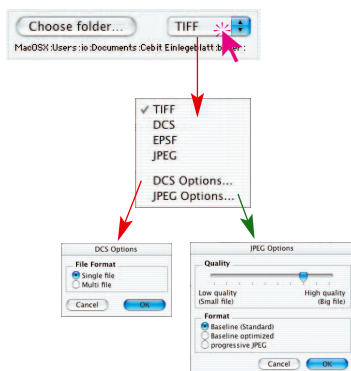
“Choose folder” ボタンをクリックすると画面が開き、スキャンを保存する場所を選択できます。

新規ディレクトリを作成する事もできます。

選んだ保存場所へのパスが “Choose folder” ボタン下の文字に明示されます。

選択を行い、“Select” ボタンクリックでダイアログを閉じます。





## ファイル形式の選択

形式選択メニュー（右ボタン）にイメージを保存できる利用可能ファイル形式が表示されます。形式の選択はデジタル化（RGB / CMYK）に使用される色空間の選択で可変します。

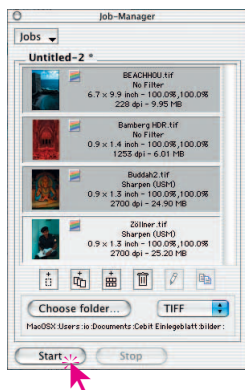
P 219 の利用可能なファイル形式の表を参照下さい。

“JPEG “や追加のパラメータは

“JPEG “ “DCS “のような複数のファイル形式で追加パラメータを設定する事ができます。

## 実スキャンプロセスの開始

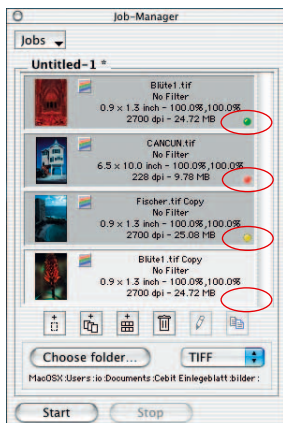
JM 画面で “Start” ボタンをクリックすると、選択エントリーの自動処理が開始されます。この処理はイメージ最適化のための意図した設定に依存して時間を要します（特に最大のスキャン、高解像度、大きなグレースケール、マルチサンプリングなど）。



利点はユーザーが今、作業場所を離れて他の事に取り組んだり、スキャナーやコンピュータがそのジョブを自分で処理する事が可能な点です。

## ファイル名の取り扱い

スキャンフレームとジョブエントリーがいずれかの個々のファイル名を取得できなかった場合、JM は自動的に名称 “BatchPic...” を連続する番号付き（ “BatchPic0001 “、 “BatchPic0002 “）で割り当てます。



## ジョブステータス

LED がジョブ処理中と後に各ジョブエントリーのステータスを表示します。

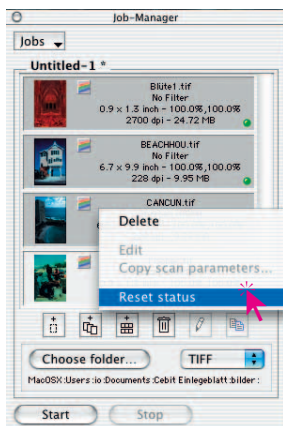
黄色: エントリーが処理されている時

緑色: エントリーが順調に処理された時

赤色: エントリーが不完全に処理された時

グレー/白色: エントリーがまだ処理されてない時

JM 画面で選択されたエントリーがない場合、全ジョブエントリーが実行されるか、さもなければ選択したエントリーだけが処理されます。ジョブ処理は JM “stop” ボタンクリックか、進行ダイアログでの “Cancel” ボタンクリックでいつでも中断する事ができます。もし少し後でリスタートする際、処理を止めた所が継続されますが、緑色/赤色以外のステータスのエントリーのみが処理されます。

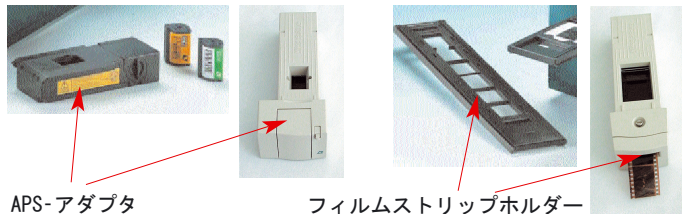


## ジョブの差し替え

既に処理済のジョブエントリーを再び実行したいなら、それらのステータスはリセットさせるべきです。まず、エントリーを JM 画面から選択します。

“Ctrl クリック” (CTRL + Win: 右マウスボタン) でコンテキストメニュー ( “Reset status” 指示を含む、ジョブエントリーコマンドを追加する) を開きます。それは選択したエントリーを “Unprocessed” に、そしてグレーカラーに差し替えます。今度はジョブエントリーの新規選択を再びスタートし、処理する事ができます。

## SilverFast JobManager ワークフロー (フィルムスキャナー利用時)



APS-アダプタ

フィルムストリップホルダー

1. フィルムスキャナーを起動、スキャナーにフィルムストリップを置きます。



2. 画像処理プログラム (Photoshopなど)、または SF Launcher を起動します。



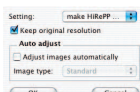
3. お持ちのスキャナー用 **SilverFastAi** を起動します。



4. **SilverFast JobManager** をアクティブにします。



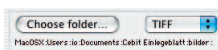
5. オーバービュースキャンを作成します。



6. イメージを選択し、JM に追加します。



7. 各写真を最適化して保存します。



8. 最終スキャン用の保存先ディレクトリを選択。



9. ジョブの処理をスタートします。



X. コンピュータとスキャナーは独力の処理を継続します。



10. JM と **SilverFastAi** を閉じます。



## フラットベッドスキャナー\*での JobManager

### フィルムスキャナー操作との違い

**SilverFastAi** JobManager は通常、全スキャナーに対しては同様です。起こりうる違いは、スキャナー自身の構造的違いから発生します。

- フラットベッドスキャナーは通常、透過ユニット\*に適合します。これにより、反射&透過イメージは同じマシンでスキャンされるでしょう。
- 透過ユニットを用いて、ポジ&ネガが処理されるかもしれません。フィルムサイズすら問題ではなく、全ての形式はスキャナー上に配置されます。
- 透過用一体型の引出しを持つフラットベッドスキャナー\* は同じジョブ、同じ時間で、反射&透過ユニット両方で利用されるかもしれません。両スキャンエリアはイメージにフルにフィットするでしょう。ネガとポジのコンビネーションでさえ可能です。
- フラットベッドスキャナーのスキャンエリアはフィルムスキャナーと比較して非常に大きいものです。異なるイメージの向きは問題ありません。JobManager を利用する事で、プリスキャン自体でスキャンを簡単に最適化し、同時に希望の出力方向にイメージを誘導します。



\* 注意

いくつかの機能は一定のスキャナータイプのみで見られます。

## 下記製品での JobManager SilverFastHDR, DC, DCPro, PhotoCD

### スキャナー操作の違い

処理時間 - サンプル (以下英文) :  
Job order: 2 color slide films (each 36 slides) having different brands (A and F), which were exposed individually (thus do not represent a series) are to be scanned: including color and gradation correction: sharpening: scaling A: 900%, B: 200%: output A: at 228 dpi CMYK, B: at 72 dpi RGB.

Typical time requirement:	Min
prescan, zoom: each 30 sec.	1
optimising	2
USM prescan	0,5
Batch scan: A 1 and B 3 min	4
	$\Sigma = 7,5$
	x 72 slides
	$\Sigma\Sigma = 540 \text{ min}$
	$\Sigma\Sigma = 9 \text{ hours}$

Time requirement with JM:	Min
raw data each 4 min	4
prescan, zoom: each 2 sec	0,033
optimising	2
USM prescan 1 sec	0,0167
rendering: A 5 sec., B 40 sec	0,75
	$\Sigma = 6,8$
	x 72 slides
	$\Sigma\Sigma = 489,6 \text{ min}$

Less machine times:	Min
for raw scans: (72 x 4 min.) - 30 min	258
for rendering: (72 x 45 sec.) + 1 min	55
	$\Sigma = 313$
	$\Sigma\Sigma\Sigma = 176,6$
	$\Sigma\Sigma\Sigma < 3 \text{ hours}$

processing time saved: 6 hours

JobManager はスキャナー独立型プラグイン **SilverFastHDR, DC, DCPro** と共に使用する際に素晴らしい利点を発揮します。

これらプラグインとのコンビネーションにおいて、ユーザーは時間節約の為に素晴らしいポテンシャルを見出すでしょう。

一般に、イメージファイルはスキャナーを用いてワンステップでデジタル化されます。ユーザーは仕事場に座ってコンピュータとスキャナーでイメージを最適化します（グラデーション、ヒストグラム、カラーコレクション、シャープ化、その他）。そして一度にそれぞれの写真を最終スキャンします。

もしイメージのボリュームが高く、最大限のイメージ品質が必要な時、それは時間とコストが集中する手順です。プリスキャン、立派なスキャンを実行する為に、ハードウェアは時間を要します、またファイル保存は停止し、ユーザーには無駄な時間です。

今の高速ワークフローではそれは受け入れ難く、JM はこうしたワークフロー能率を劇的に向上し低コストな手段に使われます。

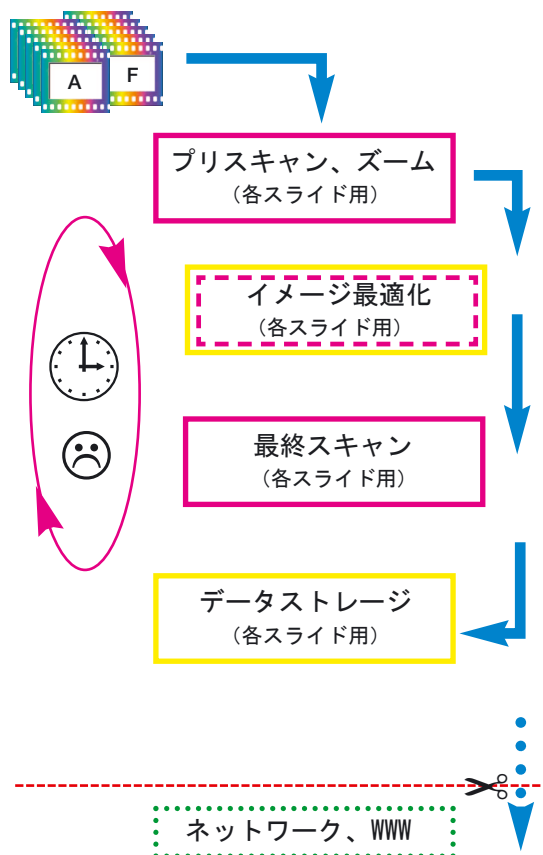
標準的なワークフローを、JM によって可能なものと例えました。（次ページを参照下さい）

左図に伝統的なワークフローを、右に **SilverFast** JobManager によってコントロールされた新しいワークフローを図として表現しています。

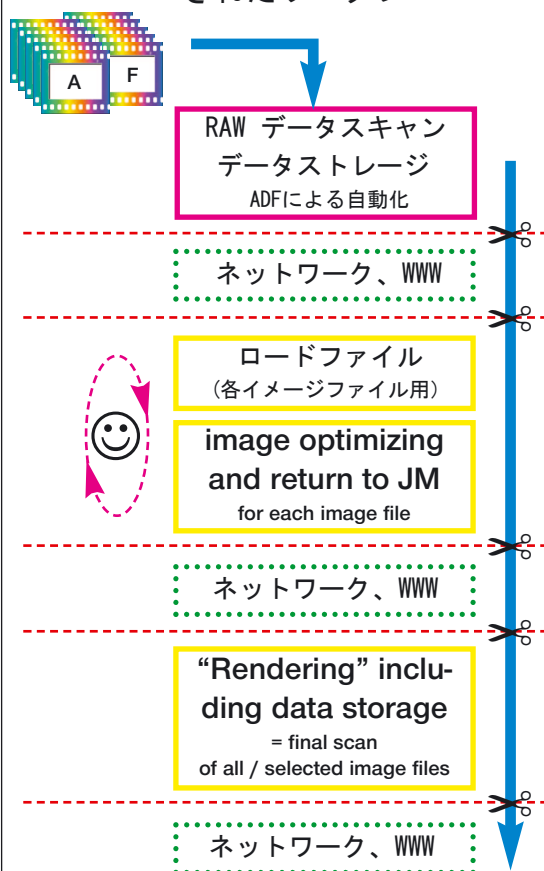
伝統的なやり方において、短い待ちが2番目の作業場での仕事を実用的にさせない為、オペレーターは絶えずスキャナー作業を残したままにしなければなりません。各イメージは個々に処理され、ネットワークへ利用可能にしました。

**SilverFast** JobManager ではオペレータが別の作業場で追加の作業を継続できる、長くて自由な期間があります。計算に表すと、72 スライドのスキャンは 6時間の作業を省く事ができます。

伝統的に循環工程の繰り返しは  
人員の高い時間消費です。



**SilverFast JobManager**  
人員の最小時間消費での自動化  
されたワークフロー



## SilverFast JobManagers インストール後の自動化ワークフローと オペレータによりコントロールされた伝統的循環作業との比較

- Legend:
- magenta** 高い時間コスト
  - yellow** コンピュータシステムにのみ依存する時間の要求
  - green** 全てのネットワークタイプのためのデータの準備と有効性。
  - ✂️ 可能な作業の中断 (他の誰かへのジョブ転送)

## ジョブエントリーパラメータのコピー

時折、同時に複数のジョブエントリーのパラメータが必要な事が起きます（複数のエントリーに RGBから CMYK への出力変換変更）が、これは直接可能ではありません（同時に処理しようとする複数ジョブエントリーに関して何の値を表示させるか？）。いまなお、単一ジョブエントリーだけが完了されるべきです。以下のとおり進めて下さい：



- 最初にEditモードをアクティブにし、変更したいエントリーを選択。ここで必要な変更（例、CMYK への出力変換設定）を行います。正常に保存したグラデーションカーブは変更が保存されている間に利用されます。自動画像処理は開始されません。



- 変更予定のジョブエントリーは、JM 画面でも選択されます：

個々のイメージには ” Command クリック”

+ (Win: **CTRL** + )、一連のイメージには、

”Shift クリック” **SHIFT** + (Win: **SHIFT** + )

全てのイメージには、”Command A”

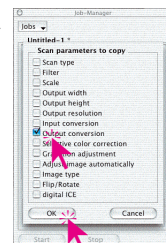
+ **A** (Win: **CTRL** + **A**)



- 今、アクティブな“Copy”ボタンクリックで、現ジョブで行った全ての変更が他のジョブへコピーできます。

ユーザーはどのパラメータがコピーされるかを定義します。

（注：このダイアログでの最後の設定はアクティブであり、次のJM スタートの間はそこに存在します）。



- “OK” ボタンクリックで、ハイライトされたパラメータが選択したジョブエントリーへコピーされます。（完了）

## 完了ジョブエントリーのコピー

ジョブの個々、複数または全てのジョブエントリーを新規作成又は、既存のジョブにコピーする事も可能です。”Copy & Save” コマンドを使います：

- ” プロセッシングモード” を終了します。
- コピーしたいジョブエントリー（1つまたは複数）を選択。
- 次の操作でジョブエントリーをコピーします。” Command + C”  
⌘ + C (Win: CTRL + C).
- 最終ジョブを開くか、作成します。
- コピーした最終ジョブの内容を目標のジョブへ “Command + V”  
⌘ + V (Win: CTRL + V)

## 下記製品間の JobManager の違い *SilverFastHDR, DC, SilverFast Ai*

2つの小さな違いだけがあります：

- a) スキャナー独立型 **SilverFast** バージョンでのイメージの移動が **SilverFast Ai** よりもやや簡単です。

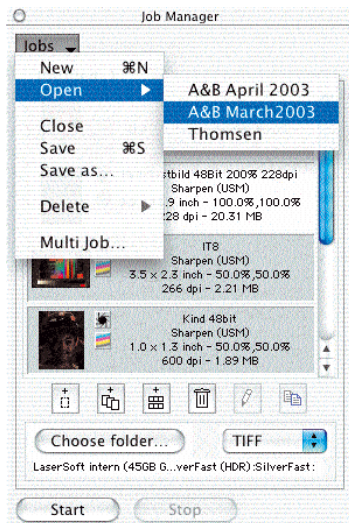
**SilverFast HDR & DC** では、VLTからのイメージを JobManager へ直接ドラッグ&ドラッグできます。

**SilverFastAi** では対応しているボタンを使う必要があります。



- b) **SilverFastHDR, DC** では “add all frames” ボタンは利用不可です。  
代わりに、VLT ボタンがあります。

## 完了ジョブの管理



個々のジョブエントリーの処理と保存の後、完了したジョブの管理の方に進む事ができます。

**SilverFast** JobManager メニューのエントリーは完了済ジョブと共に使用する事ができます。ここでは完了済ジョブ用に全ての基本操作を使う事ができます。

特定メニューポイント:

**New:** 新規の空のジョブを作成。JobManager に未保存のジョブがまだある場合、最初にそのジョブを保存するか否かを尋ねられるでしょう。

**Open:** サブメニュー内で全ての保存ジョブリストを含みます。ジョブはメニューから適切なエントリー選択によりロードされ、現行のロード済ジョブはサブメニューでハイライトされます。

**Close:** 現行ジョブを閉じます。

**Save:** 現行ジョブを保存します。ジョブが新規（前に保存されていない）なら、ダイアログが現れジョブ用の名前入力を促します。ジョブを保存する場所は指定できません。代わりに、全ジョブが **SilverFast** フォルダ内部の“Jobs”フォルダの中に保存されるでしょう。

**Save as:** ジョブが以前、既に保存されている場合、新規名の下で現行ジョブを保存します（すなわち、ジョブのコピー作成）。

**Delete:** サブメニュー内で保存した全ジョブのリストを含みます。メニューから希望のエントリー選択で、ジョブが削除されます。（全ての保存ジョブを削除する“All Jobs”オプション有り）

**Mult Job:** 保存ジョブ全てのリスト付の画面を開きます。1つ（又はそれ以上）のジョブ選択と“start”クリックで、選択ジョブ全ての処理を起動します。終了済ジョブのステータスはチェックBOX“reset status before execution”のクリックでリセットする事ができます。



## JobManager でのステップのワークフロー

次ページの図解は起こりうるステップの一続きを表します。

JM 画面へのジョブエントリーの追加①またはジョブ用のジョブエントリーの収集からスタートします。イメージファイルは外部から読み込むか、**SilverFastHDR** のプリスキャン画面から直接引継がれます。

もちろん、既存のジョブを直接的に取り戻す事も可能です②。引き続き、ジョブ内の他の全てを表示する個々のイメージ、又はジョブの複数/全てのイメージが次々に最適化できます。

(ステップ ②と③)。

もし選択したイメージ最適化が追加イメージファイル用に適切なら、最適化したイメージのパラメータが問題なく多数の希望追加ファイルによってコピーできます。(ステップ④)

最後に、ジョブはそれから出力されます(ステップ⑤)。

複数のジョブは結合して計算されます。

計算が終了したイメージファイルはネットワークですぐに利用する事ができます。

完了した”古い”ジョブにもメリットがあります。それらはいつでも編集でき、新しいパラメータで再計算する事が可能です。

外部/内部データ配送、ネットワーク、WWW、...

イメージファイルの全タイプの配給 & 保存

48ビットTIFF

デジタルカメラ

24ビットTIFF

JPEG



スキャナー

Macintosh / Windows ワークステーション

**SilverFast HDR**

プリスキャンからのフレーム  
• JobManager 画面に追加

③ イメージの最適化  
• 既存のパラメータの  
チェック  
• 新規パラメータ設定  
(スキャンソフトでの設定)  
• 結果を保存

**SilverFastHDR** は  
Adobe Photoshop プラグイン  
で使うか、TWAIN モジュール  
として他の多くのソフトで  
動作します。

**SilverFast JobManager**

① イメージファイル追加  
• “変更パラメータと同様”。に従って分類  
し、そのジョブ自身でそれぞれ保存

② Job #1 をロード  
• イメージを選択 (ジョブ内部で他の全ての  
イメージを表している)  
• プロセッシングモードでの変更

④ パラメータのコピー  
• 選択したイメージをパラメータを  
*all others in the job*  
• ジョブを保存

① - ④ 追加ジョブ用リポート

⑤ ジョブを出力  
• ターゲットフォルダを選択  
• ジョブ処理を開始

## 補 足

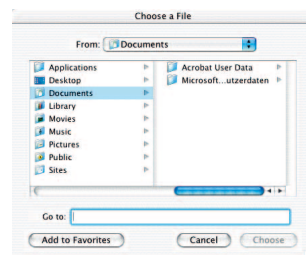
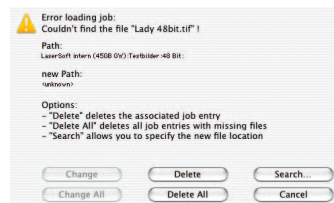
### エラーメッセージ

#### ソースファイルの消失

**SilverFast JM** はジョブロード中、必要ソースファイルの存在を調べます。ファイルが元の場所にない場合、ダイアログが表示されます：







ジョブエントリーの削除、ジョブエントリー全部の削除または消失ファイルの位置の決定を行う事ができます。

ジョブエントリーのサーチし、それを追加画面による割り当てができます。新しい再配置の後で、パスをジョブエントリーまたは、それぞれ全てのジョブエントリーに対して転送して変更する事ができます。









## SilverFast JobManager キーボードショートカット Macintosh

JobManager イメージオーバービューでのイメージ選択

個々のイメージ追加	“Command クリック”	 + 
一連のイメージ	“Shift クリック”	 + 
全イメージ	“Ctrl A”	 + 

## Windows

JobManager イメージオーバービューでのイメージ選択

個々のイメージ追加	“Ctrl クリック”	 + 
一連のイメージ	“Shift クリック”	 + 
全イメージ	“Ctrl-A”	 + 



## ダスト&スクラッチ(ゴミ)除去



標準的なレタッチ方法によるダスト&スクラッチ除去は“楽しい”時間の消費です。ソフトではこの問題を解決するため、いくつかアプローチがありますが、プロフェッショナルなレベルまで到達できるものは皆無です。それら製品は不十分なクオリティを見せ、「どうやってソフトで真のティテールと不要な付着物とを差別化できるか？」という難題を解決できませんでした。

いかに **SilverFast** はダスト&スクラッチを認識し、それを削除しますか？

**SilverFast** (Version 6.x から) は初心者“レタッチ”すら、数回のマウスクリックだけで納得する結果に到達できます。95% 以上の量のレタッチは **SilverFast** の統合型 SRD (スマートデフェクト (ゴミ類) 除去を用いて保存できます。

**SilverFast SRD** はレイヤーシステムベースのフルにユーザーコントロールされた手順を使います (**SilverFast SE** は制限付での単一レイヤーのみの使用可)

連続的なイメージ付着物 (ゴミ) が最初に認識され、その後補正されます。小さく、薄めのデフェクトで始めて、次第にレベル毎に強めのスクラッチ&デフェクトにして行くよう推奨します。

粗めで大き目のもので始めて、レイヤー毎により微細で複雑なスクラッチ&付着物に進むようアドバイスします。

これはイメージディテールを保持し、クローンツールでの除去を最小限にする事が可能なエレガントな方法です。



ゴミ類の最適な認識について、**SilverFast** は2つの異なる方法を採ります。同じような名前のパラメータを使うこれらの作業は、別のゴミ類で異なった効果を持ちます。

**SilverFastSRD** の別の利点：全ての処理はスキャナーに含まれたフルダイナミックレンジ（ビットデプス）を使います。  
良いスキャナーほど、処理結果はより良いものです。



**SilverFastSRD** の効果  
左：補正前



右：**SilverFastSRD** 補正後

## 概 要

## エキスパートモード



スライダー “Environment size”  
使用と、下記メニューを開く  
“Longish scratch removal”

## レイヤー管理



新規レイヤー追加



アクティブレイヤーを削除



レイヤーを前に移動



レイヤーを背後に移動



パラメータのリセット

## マスク作成

マスク変更ツール: マウスを押した  
ままボタンクリックで、ポップ  
アップが現れて希望のツールに  
変更します。



ブラシ



ポリゴン



投げ輪

## 付着物（ゴミ）ビュー



リアルタイム補正 オン/オフ



補正なしのオリジナル



除去した付着物



ハイライトした付着物（赤）

## Help



HELP を開き、機能の説明  
とインストラクション

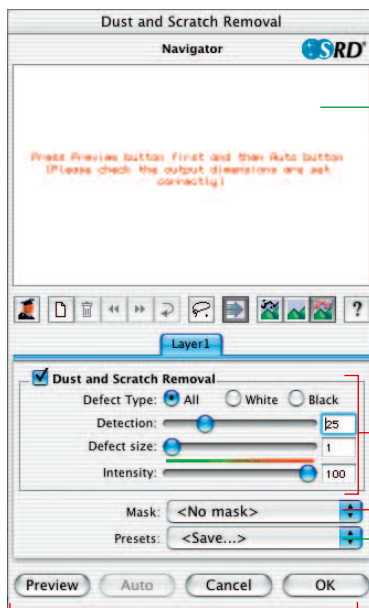
## SilverFast ダスト&amp;スクラッチ除去の実行



右ボタンのみが利用可能な場合、DIGITAL ICE 技術等の  
ハードウェアベースのダスト&スクラッチ機能のみです。



SilverFastSRD ボタンで SilverFast ダスト&スクラッチ  
コントロール画面が現れます。



## ナビゲーター画面

赤色フレームでのエリア

イメージエリアで利用

黄色フレームでのエリア

プレビュー画面で見える選択が

マウスで移動できます

## ダスト&amp;スクラッチ除去用

コントロールメニュー

デフェクトタイプ: 全部、白（明るい）/  
黒（暗い）のゴミ類

ディテクション: 認識感度

ディフェクトサイズ: ゴミ類のサイズ

インテンシティ: イメージディテール

とゴミ類の区別

## マスク

マスクのロード\* と保存\*

## プリセット\*

プリセットのロードと保存

## コントロールボタン

プレビュー: ゴミ除去のモニター用  
高解像度プレビュー

オート: 最初のスライダー設定を実行

キャンセル: D&S-ダイアログをパラ  
メータの適用なしに

OK: 現在のパラメータを適用し、  
コントロール画面を閉じます。



\* DIGITAL ICE 技術

ハードウェアベースのダスト&スクラッチ  
除去はユーザーコントロール不可であり、  
オンオフのスイッチのみ可能です。  
モノクロ&コダクロームでは動作しません。



## SilverFast SRD のワークフロー

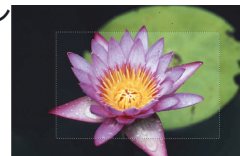


## SilverFast SRD でのイメージ最適化ワークフロー

如何にイメージが最適化され、**SilverFastSRD**（ダスト&スクラッチ除去）が適用されるかを、以下のページで短く図解します。

### 1. プレビュースキャン

**SilverFast** を起動、プレビュースキャンを始めます。選択イメージ内部で自分のスキャンフレームを配置します。



### 2. ズーム

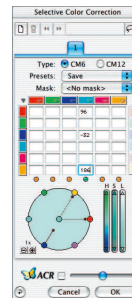
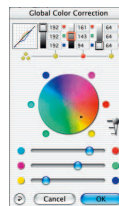
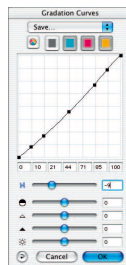
より以上のイメージディテールを見るため（必要なら）、ズームツールをクリックします。



### 3. イメージ最適化

オートアジャストから始めて、中間トーン（上スライダー）、コントラスト（下スライダー）、グローバル/セレクトティブカラーコレクションなどのイメージ補正の全ツールが利用できます。もしベストなワークフローに慣れていない時、ScanPilot（右図）が効果的に補助します。

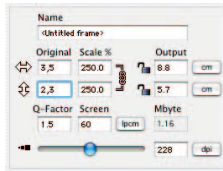
**イメージ最適化 (SilverFast)**  
グラデーション、グローバル/  
セレクトティブカラーコレクション



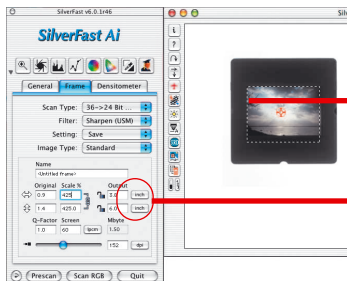
## 4. 出力解像度



お持ちのイメージに必要な出力パラメータを設定すべきです:  
スケーリング（または幅と高さ）と出力解像度



ダスト&スクラッチのようなイメージのゴミ類の認識と同じく、解像度増大に伴う、ファイルサイズの増大（MB）も注意した方が良いでしょう。小さな解像度は高めの解像度よりも少な目のキズで現れるでしょう。

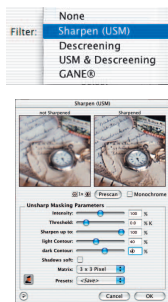


## 5. イメージのシャープ化（USM）

ver 6 から **SilverFastSE** はビフォー&アフタープレビュー（自動的プリセットを融合）を用いたシャープ化ダイアログを搭載しました。ビフォー&アフタープレビューで最終スキャンのシャープさをリアルタイムでモニター&調節可能です。

使用されるスキャナーのクオリティと同様、シャープさ適用の強度はダスト&スクラッチの外観に重要な影響を与えることになるでしょう。

立派な光学解像度をもつ高品質スキャナーは、それゆえ非常に良いシャープさを各イメージディテールとダスト&スクラッチに明らかにもたらすでしょう。どんな追加のシャープ化もそのシャープ効果の誇張をもたらすでしょう。



USM-ダイアログ  
(SilverFastAi)



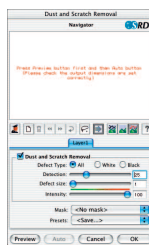
## 6. SilverFast SRD のアクティベート



**SRD** アイコンをクリックして **SilverFast SRD** ダイアログを開きます。DIGITAL ICE等のハードウェア対応型ゴミ除去機能がついたスキャナーをお持ちの場合、例) DIGITAL ICE 等と **SilverFast SRD** 間を切り換えることが可能です。他の全てのスキャナーは **SilverFast SRD** のみとなります。上部2つのボタンは **SilverFast SRD** オフへの切換えを表します。

**SilverFast SRD** を最初に開くと、空のナビゲーター画面が現れます。ナビゲーター画面内部の指示に従って下さい：

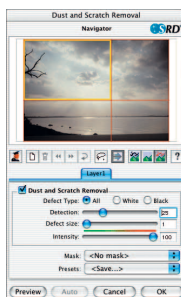
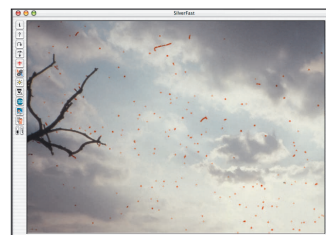
SRD-Dialog  
in SilverFast Ai



a) “Preview” をクリックし、設定された出力解像度に関連する解像度をもつプレビュースキャンを開始します。



b) “Auto” をクリックすると、SRD-Automatic でイメージを解析します。ゴミが認識され、赤でハイライトされます。



**SilverFast SRD** を非アクティブにし、その後で機能を再アクティブにすると、以前のプレビュースキャンがコントロール画面内で以前の設定全とと一緒に現れます。前のプレビューが不要な場合、標準 **SilverFast** プレビュー画面内に既にある別イメージで作業したいなら、以下を行う必要があります。

a) “Preview” をクリックして新規プレビュースキャンを実行。  
b) “Auto” クリックで新規 SRD-Automatic が開始します。



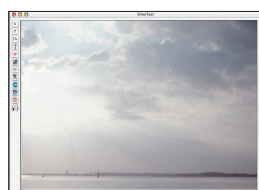
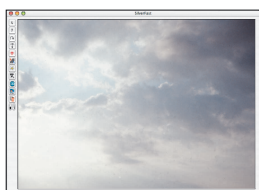
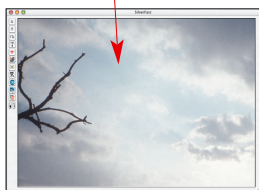
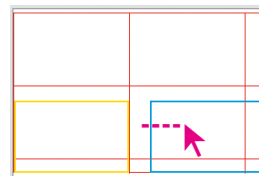
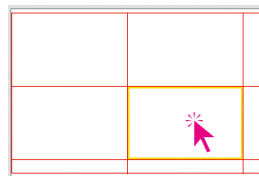
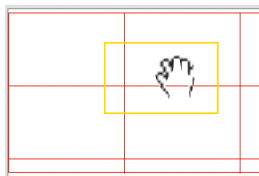
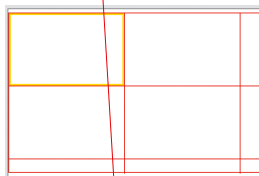
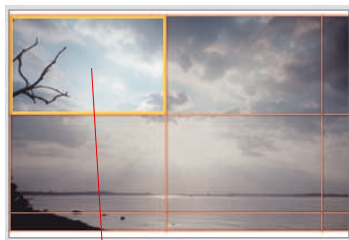
a) b)

## 7. ナビゲーター・SRDプレビューダイアログでの操作

SRD-Automatic を利用して、いくつかのイメージのゴミ類が既に削除されるでしょう。

その結果を効果的にモニター&チェックする為に、イメージ全体がナビゲーター画面でタイル分割されます。

“ナビゲーター”画面はイメージに関する各タイルの位置を表示します。タイルのサイズと番号はイメージサイズと出力解像度設定によります。



“ナビゲーター” 使用

黄色フレームタイルは高解像度プレビュー画面内のイメージを表します。黄色フレームタイルはナビゲーター画面のどの位置へも移動でき、高解像度画面はそれに従って更新されます。赤色フレームタイルをクリックすると関連するイメージ選択は高解像度画面内部に表示されます。選んだタイルはそれから黄色フレームになるでしょう。

3つの”モニターモード“が利用でき、適切なボタンクリックで実行できます。



a) 補正なし、オリジナルイメージ

b) ゴミが除去された、補正済イメージ

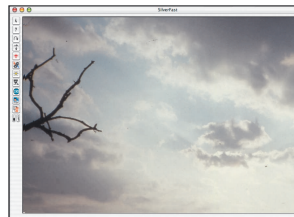
c) ゴミが赤でハイライトされたオリジナルイメージ



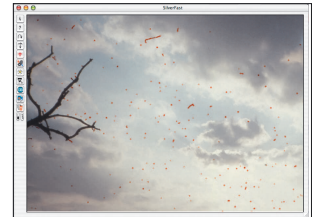
b)、c) のモードでは、高解像度プレビュー画面内にクリックする事で、一時的にモードをスイッチ（オリジナルビュー）可能。マウスを押し続けると（オリジナル）モードを表示します。マウスを離すと b か c を表示します。



a) オリジナルビュー

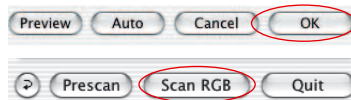


b) 補正されたビュー



c) ゴミをハイライト

モニターモード:



結果が満足するものなら、SRD-ダイアログを“OK”で閉じ、そして **SilverFast** メインダイアログからスキャンを開始できます。

リアルタイムコレクションのアクティブ/非アクティブ

青 / 赤の矢印をクリックすると、**SilverFastSRD** リアルタイムコレクションをアクティブ/非アクティブにします。



矢印が青なら、どんな変更も処理され、マウスを離れた後、ラージプレビュー内で表示されます。これはお使いのコンピュータの処理パワーによって若干時間がかかります。リアルタイムコレクションはこの問題を回避します。



矢印が赤に変わったら、小さな矩形フレームがイメージ上に現れ、リアルタイムコレクション領域を表現します。このリアルタイムフレームはプレビュー画面で自由に移動できます。SRD パラメータの変更はリアルタイムフレーム内部でほぼリアルタイムで表示されるでしょう。

## 手動コレクション

SRD-Automatic の結果が不十分で、更に補正が必要な場合、いくつかのポイントを順守する必要があります。

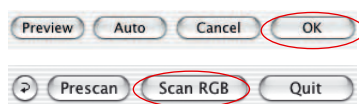
- 常に大きな、はっきり見えるゴミ類からステップ毎に始め、レイヤーを追加（必要なら）しながら、より小さいゴミをとります。

各レイヤーに関し、1パラメータ設定のみが適用できます。

マルチレイヤー&マスクは **SilverFastAi** のみ利用可能です。

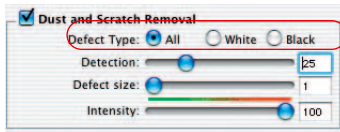
**SilverFastSE & DCSE** は1つだけのパラメータ設定と1つだけのマスクが適用できます。

- 最初に“ダスト&スクラッチ除去”の第1の方法を使います。そしてラインに酷似したゴミが目立っている時は第2の方法を使う必要があります。



全ての補正完了後、“OK” のクリックでパラメータ設定が確定、ダイアログが閉じます。ここで最終スキャンのみ、**SilverFast** メインダイアログからスタートさせる必要があります。

## 1. ディフェクトタイプ (Defect-Type) 変更

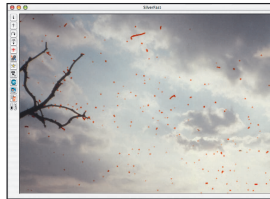


**SilverFastSRD automatic** によって見つけられた設定を補正すべきでしょうか？ もしそうなら、別のデフェクトタイプが良い結果を出せるかを評価し始める必要があります。通常、ポジからのスキャンは“Black”に設定し、ネガからのスキャンを“White”に設定すべきです。

現行ディフェクトタイプから切換え（“All” → “White” “Black” 等）、結果をプレビュー画面でモニターします。異なるモニターモードでチェック！イメージの他の領域にある、多くのゴミ用に異なるタイルもチェックします。



未補正のオリジナル



ディフェクトタイプ “All”



ディフェクトタイプ “White”

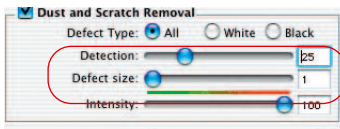


ディフェクトタイプ “Black”

## 2. スライダー “Defect Recognition” と “Defect Size”

SRD-Automatic により両スライダーがプリセットされます。

“Detection” は認識の感度を表します。最適なパラメータはイメージの性質に依存します。シャープ化されているイメージでは、Detection は通通常、1～60の間です。スムーズ化されているイメージでは、おそらく60～100の間です。



“Defect Size” はゴミ類のピクセルサイズに相当します。値はそれぞれ小さく、通常 1 ～ 5 の間になります。

ラージプレビュー画面で両スライダー効果を常にモニターし、必要ならイメージの異なるタイルでチェックします。

推奨される手順: ディフェクトサイズ = 1 で始め、その後 Defect Recognition を調節します。効果がまだ小さすぎる場合、Defect Size = 2 を使って効果を上げます、そして小さな変更を通じ、可能な限りベストな結果に近づけます。

重要: 最初に “Intensity” スライダーをそのデフォルト値 “100” のままにしておきます。

### 3. スライダー “Intensity”

前の2つのスライダーの結果が思い通りにならなかった時だけ、“Intensity” を小さな増加量で 100以下の値に変更できます。これはたくさんのディテールをもつイメージの場合に影響があります。

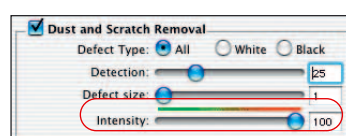
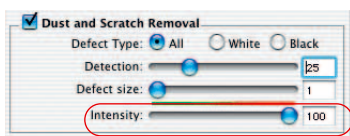
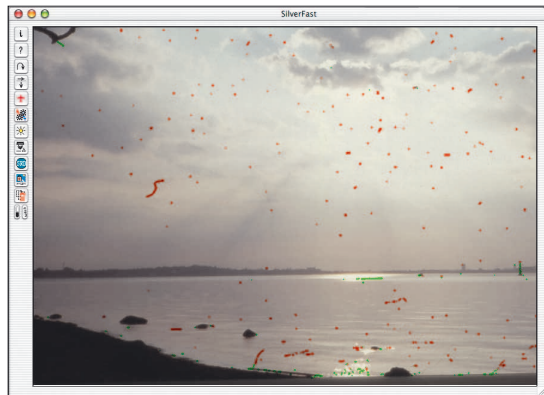
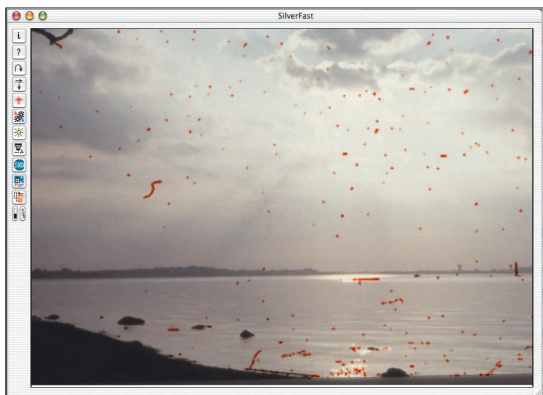
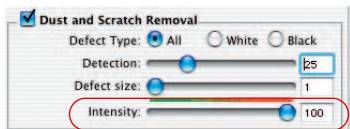
このスライダーは“誤って”認識したゴミ類の量を減少させる事が可能です。この機能はどのイメージディテールが真のディテールとして認識し、どれがゴミとしての認識を考慮されるかの区別をコントロールします。

ラージプレビュー画面でスライダーの効果を常にモニターします。もし適切なら、異なるイメージタイルにも行います。

Intensity スライダーがかなり右の、“100” に位置する場合、全ての認識されたゴミは赤色でハイライトされ、それぞれ最終スキャンで除去されます。

スライダーが左に移動するほど、ゴミの量が緑色でハイライトされるでしょう。緑色でハイライトされたディテールは最終スキャンで保護されます。

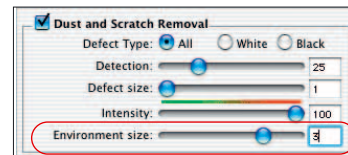
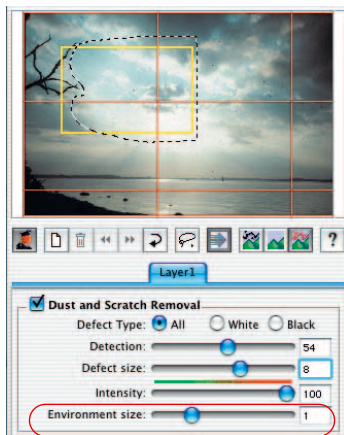
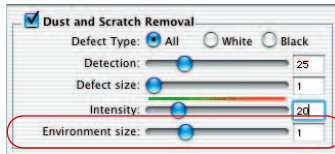
スライダー上の赤-緑カラーバーはその機能の関係を明示します。



#### 4. スライダー “Environment Size”

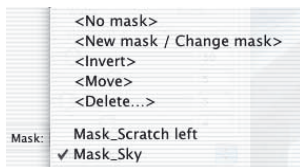
これは **SilverFast** のフルバージョンでのみ利用可能です。  
エキスパートモードをアクティブにすると表示されます。

このスライダーはゴミの境界の認識コントロールに使用  
されます。パラメータ値は小さく、通常は1～6の間です。





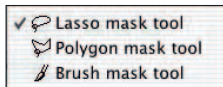
## 5. マスクの利用



通常、**SilverFastSRD** での全パラメータ設定はイメージ全体に適用されます。

イメージが非常に強いゴミだけを持つか、キズが一定イメージの中にだけあるか、または **SilverFast SRD** 機能がイメージの一定エリアに限定されようとする場合、マスク機能を使う事になるでしょう。

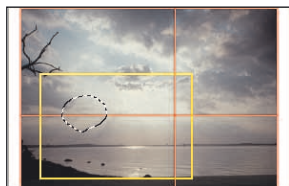
マスクはナビゲーター画面内と同様、プレビュー画面でマウスを使い自由に描く事ができます。以下のマスクツールが利用可能：“Lasso（投げ輪）”、“Polygon”、“Brush”：



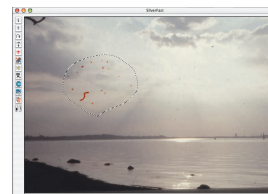
### マスクツールの選択

マスクツールをクリックし、マウスを押したままにすると、マスクツール選択用ポップアップが現れます。マウスを更に押しつづけると、好きなマスクツールに移動できます。そしてマウスを離します。

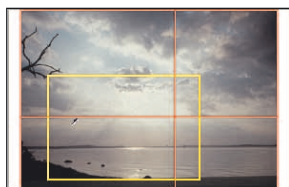
### マスクのドローイング



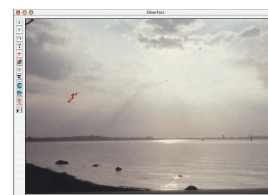
Lasso（投げ輪）ツールを使い、ダスト&スクラッチ除去を適用するプレビュー/ナビゲータ画面内部でイメージの何れかの領域を自由に囲む事ができます。



Polygon（ポリゴン）を使い、クリックドラッグの直線で何れか希望の領域を自由に囲む事ができます。（始点に再度あたるまで）



Brush（ブラシ）ツールで上塗りして、長めのキズをカバーする事ができます。これらの領域だけを**SilverFastSRD** の補正でカバーされます。



### 反転したマスクのドローイング

” Alt “キーを押しながら何れかのマスクツールを実行すると、マスク機能を反転します。マスクはネガティブマスクの一種になります。ここで、補正による影響を受けないエリアをマスクツールで囲みます。

この機能はマスクメニューの反転マスク機能に類似します。

### 既存マスクからの増減

マスクを描いた後、既存マスクから増減を行う事ができます。



マスクに追加: “Shift” を押して追加する分を描きます。



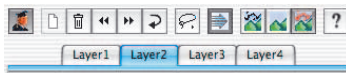
マスクから減少: “Alt” を押して減少する分を描きます。



破線つきアクティブなマスク



“Shift” & “Alt” に対応したマスク



## 6. マルチレイヤーの操作

**SilverFast SRD** 起動時、自動的に第1レイヤーになります。このレイヤー上で粗めのゴミ類の最初の補正を実行します。もし設定がいくつかのゴミの除去を可能にするだけなら、残りのゴミは次レイヤーで処理する事になります。大きく目立ったゴミから始め、レイヤー毎に目立たないゴミ、キズに進めていきます。

新規レイヤーは “Add Layer” ボタンで追加する事ができます。



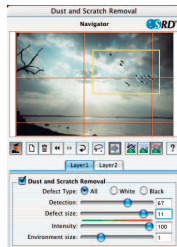


最大4つのレイヤーを持つ事ができます。

矢印ボタンは各レイヤー間を移動可能です。ここでは Photoshopのレイヤー機能に似た、とじの順番を変更できるでしょう。これはオーバーラッピングマスク領域で特に重要です。



*Uncorrected original*



**レイヤー 1**

*Correction of more subtle artifacts. On the right you can see that some of the artifacts are not recognized.*

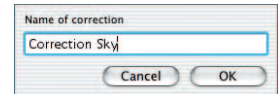
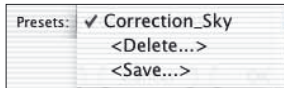


**レイヤー 2**

*Correction of more distinct artifacts with more aggressive setting. Remaining artifacts from layer 1 can now, one by one, with help of masking be eliminated without problems.*

## 7. 設定の保存/ロード

“Save” メニューのクリックで現設定を保存。“Save” ダイアログ内で必要な設定用名称を入力する事ができます。



以前に保存した設定を削除する為、“Delete Resources” ダイアログで削除したい設定をハイライトし、“Delete” をクリックします。



## エキスパートモード

### エキスパートモードのアクティベート

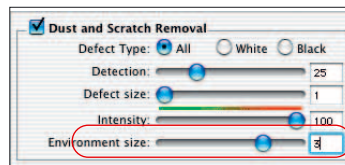
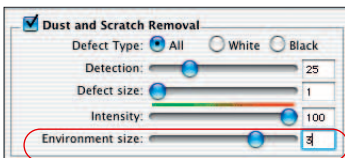
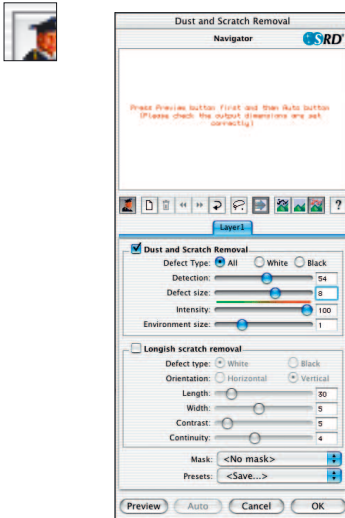
エキスパートボタンをクリックすると、**SRD**-ダイアログが拡張し、長めのゴミ除去のための第2の他の方法での設定を表示します。加えて、“Extension” があります。

両方の代替方法はそれ自身単独か、または互いにでのどちらかで使われます。異なる方法それぞれに別レイヤーを割り当てる事を勧めます。

#### 1. スライダー “Environment Size”

このスライダーは **SilverFast** フルバージョンでのみ利用可能で、エキスパートダイアログ実行後でのみ見ることができます。

このスライダーを使ってゴミ境界を正確にコントロールする事ができます。パラメータ値は小さく、通常は 1~5 の間です。



## 2. 長めのキズ

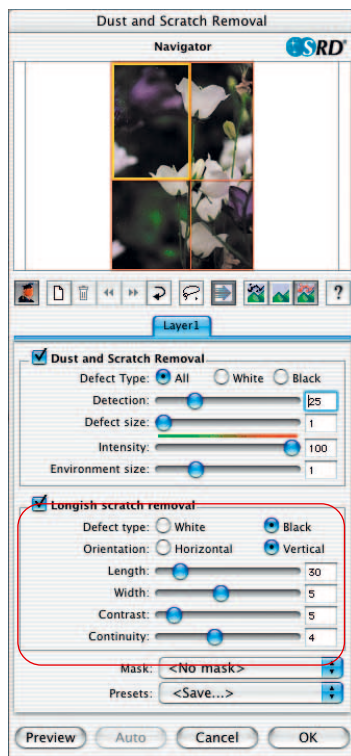
以下のコントロールとオプションはメニュー “Longish Scratches” にあります。**SilverFast** フルバージョンでのみ利用可能です、エキスパートボタンクリックの後で見えるようになります。

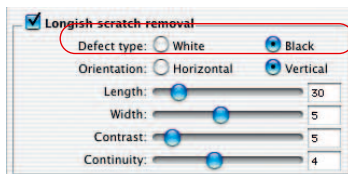
この代替方法はフィルム反転中、小さなほこり、粒子によりキズついた表面のあるもの（35 mmフィルム）に適用する事ができます。大抵、これらキズは複数のイメージに渡って進行し、時にフィルム全体まで及びます。これらはしばしばフィルムの端に対して常に平行です。

長めのキズの除去には、以下のコントロールが利用可能です：**Defect Type, Orientation, Length, Width, Contrast Continuity.**

通常、最初の3つ（Defect Type, Orientation, Length）の利用で、適切な結果を得るには十分です。Width, Contrast, Coninuity などの他のコントロールはデフォルト設定で引き続き残ります。

コントロールの順番や位置はワークフローに関連します。



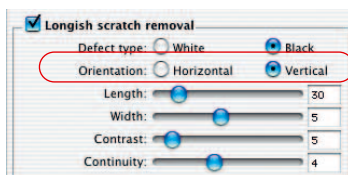


### 3. ” Defect Type” 選択

最初にディフェクトタイプのカラーを選ぶ事になります：White / black 。長めのキズはおそらく1つか他の2つのディフェクトタイプに関係します。オリジナルにより、白か黒のラインになります。

この選択は長めのキズが別の原因を持つためにユーザーに提供されます。それは実際のキズであるか、または時にスキャナーの汚れたCCDセル等が挙げられます。

両方のディフェクトタイプを考慮すべき場合、別レイヤーを使って2番目のタイプを処理できます。



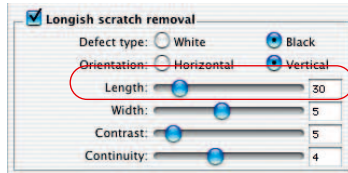
### 4. “Orientation” 選択

スキャンオリジナル上でのキズの向きによって、水平か垂直方向をスイッチできます。

キズが垂直と水平の場合、2番目のレイヤーを作成してそれら両方を取り除く事ができます。



## 5. スライダー “Length”



このスライダーはキズの最大距離を決める事ができます。このパラメータは最も重要であり、他のパラメータに関係するゴミの認識に強力な効果があります。デフォルト値は 30 です。値の範囲は 5 ～ 200 。

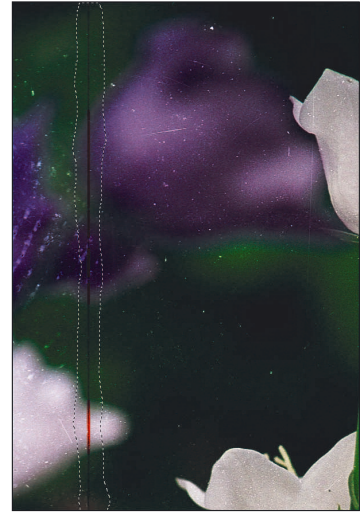
小さめの値は長いキズを認識し、大きめの値は小さなキズを認識します。



オリジナル

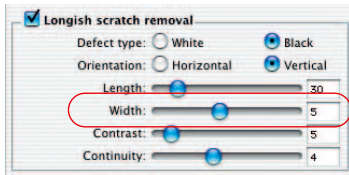


Length = 100



Length = 10

このスライダーのパラメータ設定が、より以上改良された結果に導く場合、他のスライダーを使います。



## 6. スライダー “Width”

このスライダーはキズの最大幅を決定します。多くの場合、最適な認識範囲は 1～5の間です。大きめの値は広くて長いゴミ認識になります。

非常に広いキズ（高解像度と広いゴミ）では、時に手動でイメージを改善させる必要があります。



オリジナル



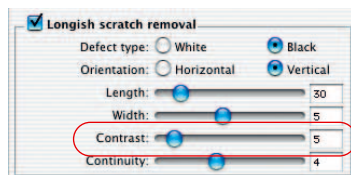
Width = 1



Width = 3



## 7. スライダー “Contrast”



このスライダーはその背景に対しキズの局部的コントラストに関係します。暗い背景での非常に明るいキズはハイコントラスト値で認識されます。背景に対してかろうじて見えるキズを認識するには、コントラスト値は低い値に設定すべきです。小さめのコントラスト値（1 ～ 5）と小さな“Length”値（5 ～ 20）とのコンビネーションでは、欠陥のある認識に導きます。これは小さなイメージディテールの認識かもしれません。このため、コントラスト値は可能なら 5 以上にした方が良いでしょう。



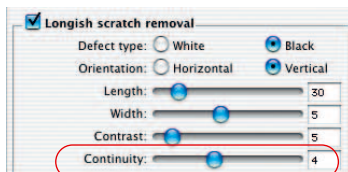
オリジナル



Contrast = 2



Contrast = 6



## 8. スライダー “Continuity”

ノイズの多いイメージ、又はキズが多数のディテールをもつイメージ内側にある時、Continuity (連続性) スライダー値は再調節 (0 ~ 10 の間) した方が良いでしょう。大きな値は“やっかいな”環境 (ノイズが多い/非常に細やかなイメージイメージ) において、より良いキズの認識が可能です。



オリジナル



Continuity = 1



Continuity = 9

注意: 長めのキズは若干曲がる場合があります。この方法では水平か垂直のキズに設計されている為、パラメータ設定をより綿密に注意しておく必要があります。例として、120 の長さで幅 1ピクセルの水平のキズがあり、イメージの4ラインに若干曲がって伸びていると、120 と 1の長さで幅の値では認識されません。代わりに、ラフな値 30 (120を4で分割) が必要になるでしょう。

## 第7章 カラーマネージメント



カラーマネージメント

この章ではカラーマネージメントのコンセプト、**SilverFast**での適切な設定方法、またお使いのスキャナーで正確な色を得る為のキャリブレーション方法を解説します。

7. カラーマネージメント	327-356
イントロダクション	328
カラーマネージメントシステムの目的	329-330
<b>SilverFast</b> カラーマネージメントの目的	330-332
CMS ダイアログ	333-343
1. カラーマネージメント	334-335
2. ColorSync (ICM) 用プロファイル	336-340
3. プロファイル埋め込み	341
4. プラグ&プレイ CMYK	342-343
サンプル設定 SilverFast/Photoshop 5	344-346
サンプル設定 SilverFast/Photoshop 6	347
サンプル設定 SilverFast/Photoshop 7	348
スキャナーキャリブレーション (IT8-キャリブレーション)	349-356
キーボードショートカット	357-359



## カラーマネージメント

### イントロダクション

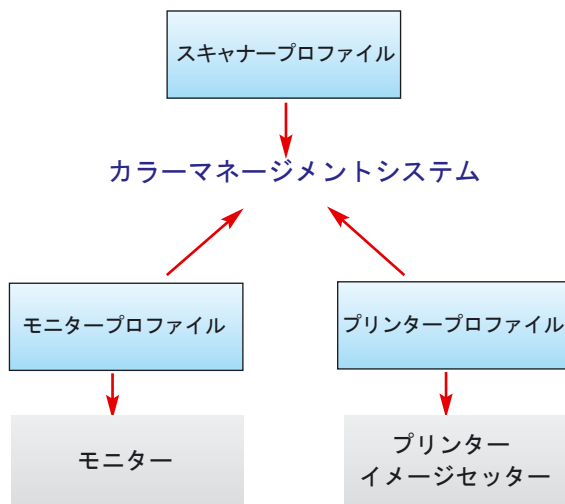
昔は、カラー再生でプロフェッショナルな結果を得る事は、高度に教育されたプロによってのみ実現していました。2つの主な理由が挙げられます：

1. カラー再生用デバイスは高価な投資を要求される。
2. デバイスの操作が複雑 - 複雑なノウハウが必要でした。

ラッキーな事に、上に述べた理由は今日では正しくありません。それは必要なデバイスであるスキャナー、PC、プリンターは誰にも手に入れやすくなったからです。操作もインテリジェントなソフトと発達したカラーマネージメントで容易になりました。

### カラーマネージメントシステム（CMS）の目的

カラーマネージメントなしのプロフェッショナルワークフローは現在では考えられません。時間とコストを節約するには、既にプレビュー上のモニター/プリンターで最終スキャン結果を見るのが望ましいです。入力&出力デバイス其々は自身のカラー領域を持つため、カラーが一貫するよう仮定する事はできません。



ICCプロファイルとは?

ICC-プロファイルはデバイスの色空間特性を示すものです。ICCプロファイルはデータファイルであり、デバイスのキャリブレーションに使われます。

IT8とは?

IT8 は標準テストフォームで、入力デバイスのパフォーマンスの計測と、ICC-プロファイルの生成に設計されました。

これは CMS が関連してくる所です。ICCプロファイルは色空間の動きを記述している各入出力デバイスの為に生成されるべきです。ワークフロー内部でカラーマネージメントシステムは2つのプロファイル（スキャナー等のデータ発信とモニター等のデータ受信）を比較して、イメージデータを正しいカラーインプレッションに転送する変換のための関係を計算します。

## **SilverFast** カラーマネージメントの目的

**SilverFast** は大多数のスキャンソフトとは、その機能的パワーによって異なります。カラーマネージメントに関して **SilverFast** は3つの重要な機能を提供します：

### 1. Photoshop とのオートマッチング

Photoshop アーキテクチャーへの **SilverFast** アーキテクチャーのハイレベルな統合は、Photoshop 最終結果での **SilverFast** プレビューのマッチングを実行します。これは **SilverFast** の非常に重要なハイライトで、それはこの機能だけがユーザーが SilverFast プレビューからの最終結果を見積れる（そしてコントロールできる）事を確実にするからです。

### 2. ICC-プロファイルでの安全な IT8-キャリブレーション(オプション)

**SilverFastAi** でスキャナー用 ICC プロファイルを作成できます。それにより、スキャナーはカラーマネージメントワークフロー内部で利用できます。LaserSoft Imaging は全 **SilverFast** フルバージョン用に IT8-キャリブレーション（オプション）を提供。

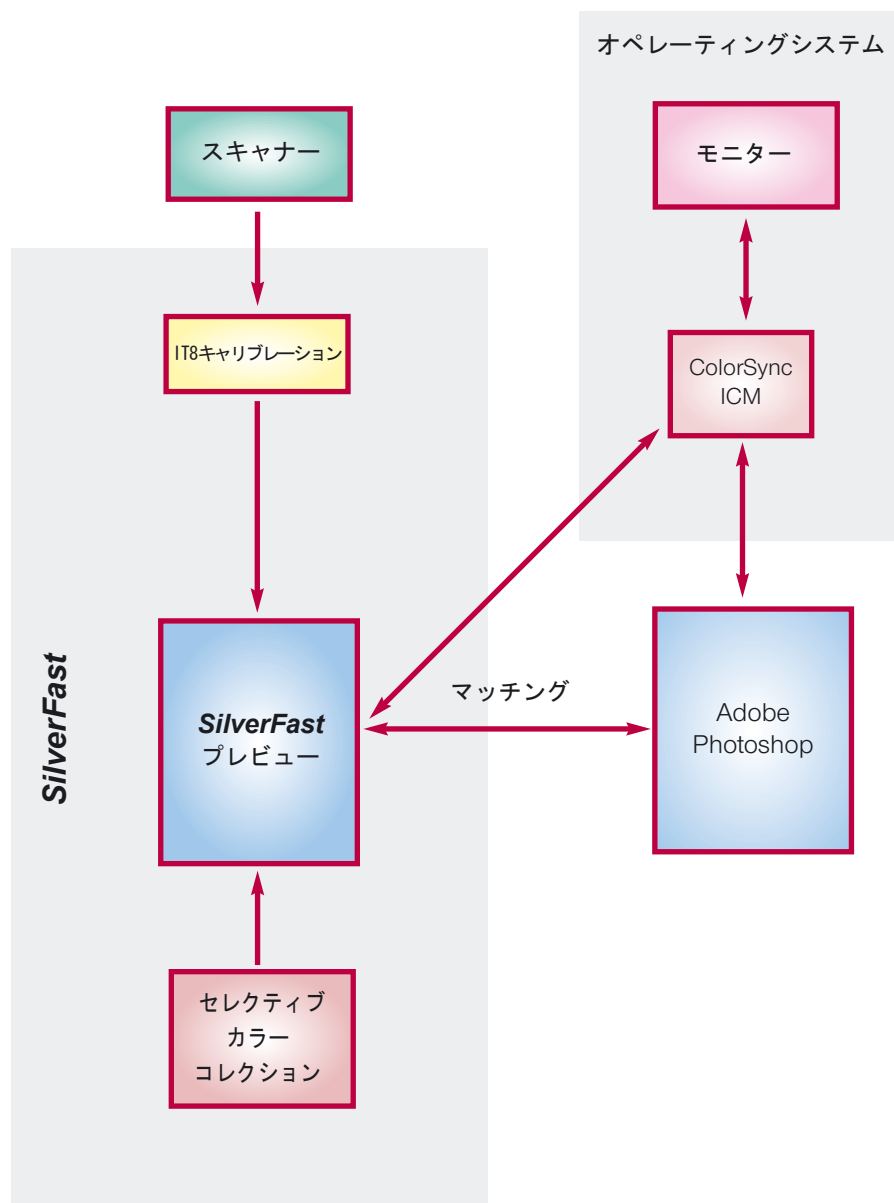
**SilverFast** の IT8-キャリブレーションは起こりうる誤操作を除外するような方法で **SilverFast** アプリケーションへ統合されます。

### 3. セレクティブカラーコレクションでの個々のカラーコントロール

**SilverFast** のセレクティブカラーコレクションは **SilverFast** プレビュー上で個々のカラーをユーザーが独立して変更する事を可能にします。試行錯誤なしに非常にプロレベルで最終結果のカラーをコントロールしながら、カラーマネージメントに統合される事はどのレベルのユーザーにとって利益となるものです。



## SilverFast カラーマネジメント





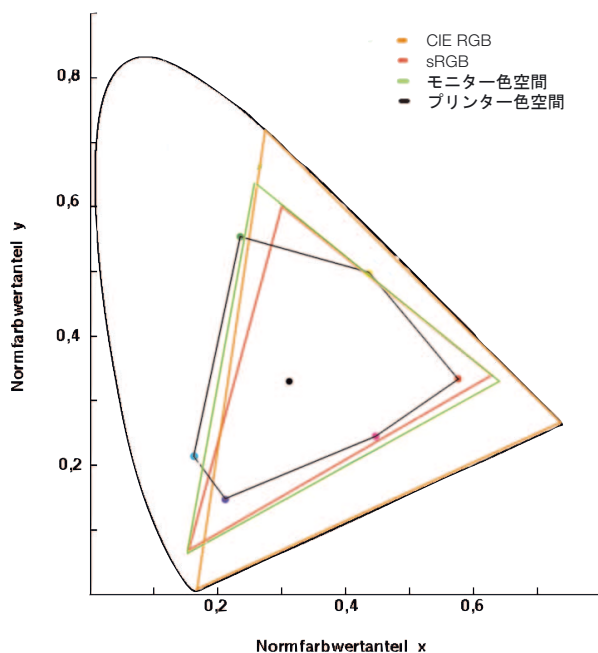
**Note!**

印刷でカラー再生を行いたい場合、sRGB をPhotoshop でのデフォルト色空間として選択しないで下さい。

明らかに、異なるデバイスでの同じ方法で同じデータを表示する能力には限界があります。異なる色空間は可変する寸法（異なる色の量）を持ちます。カラーシェードもまた可変表示できます。これは結果として変換からのカラー偏差値になります。Photoshop がその設定でデフォルトカラーとして提供する “sRGB” は非常に小さい為、プリンターの小さな色空間でさえ適切に出力しません。sRGB 色空間はどのモニターでもインターネットの為に色空間を適合させるにはまだ大きすぎます。印刷する必要があるイメージを含む何れかの文書について、sRGB は最適ではありません。代わりに、Apple RGB または Adobe RGB を使います。

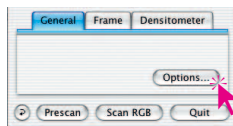
## 色空間の比較

図示しているのが、サーフェス上への色空間の投影です。三角形は L\*a\*b\*-色空間を表し、見える色全てを含みます。



**SilverFast** はワークフロー統合用に異なる可能性を提供します。システムレベルでは、ColorSync (Mac) 、 ICM (Windows98/2000/XP)、またはアプリケーションに統合されて。通常、Photosho で実現します。CMYK-出力は既にプレビュー上で **SilverFast** ソフトプルーフ機能によってチェックできます。

## CMS-ダイアログ



” General “パレットで” Options… “ ボタンをクリックすると、基本設定ダイアログが現れます。その中に CMS があり、カラーマネージメント設定を調節可能です。

“CMS” パネルは4つの異なるセクションを持ちます。

### 1. カラーマネージメント

ここでは **SilverFast** がその画像処理機能や異なるデバイス（スキャナー、デジタルカメラ、モニター、プリンター）何れかと、如何に通信するかを定義する事ができます。

### 2. ColorSync (ICM) 用プロファイル

ColorSync (Windows: ICM) を任意のカラーマネージメントシステムとして選んだ場合、ここで異なるデバイス用に入力と出力プロファイルを定義する必要があります。

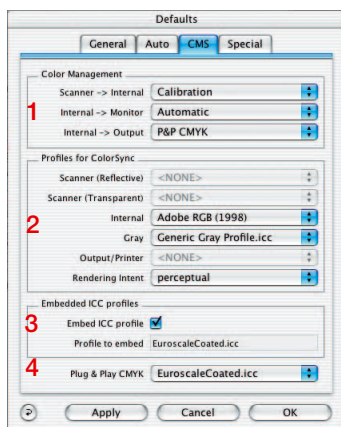
### 3. 埋め込み ICCプロファイル

ここで SilverFast が直後に別の出力デバイスに正しく色を出力するため、出力データへプロファイルを埋め込むかを定義します。

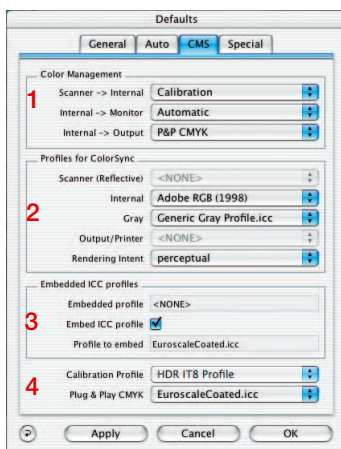
現行イメージ内に埋め込んだプロファイル名は下記製品でも表示されます。 **SilverFast HDR, DC, PhotoCD.**

### 4. プラグ&プレイ CMYK

プラグ&プレイ CMYK 利用時、セパレーションICC (CMYK) - 出力プロファイルをプリンター用イメージ分離に選びます。



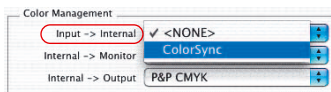
**SilverFast Ai** での CMSパレット



**SilverFastHDR** での CMSパレット

## 1. カラーマネージメント

### スキャナー --> 内部



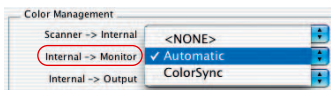
ここではお持ちのスキャナーの色空間が如何にシステムにマッチするかを定義します。オリジナルスキャンが正確な色で画像処理アプリケーションへ転送されるかどうかを決定します。

**<NONE>:** スキャナー色空間のマッチングを画像処理ソフトの色空間へ放棄します。モニター上のカラーはイメージサンプルから偏差するかもしれません。

**ColorSync:** スキャナーをオペレーティングシステムのカラーマネージメントへ統合する事を決めます。正しい ICC プロファイルイメージ選択により、正確なカラーでスキャンされます。

**SilverFast** IT-8 キャリブレーションでお持ちのスキャナーを記述（スキャナー全色）しているプロファイルを生成できます。

### 内部 --> モニター



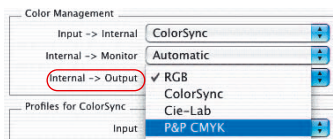
ここでは如何にモニターがシステムにマッチするかどうかを定義する事ができます。そのワークフローがお持ちの画像処理ソフト（例、Photoshop）と一致する事を確かめる必要があります。

**<NONE>:** データは何れかのマッチングなしにモニターへ渡ります。カラーマネージメントを省略下さい。特に Photoshop 5 では、**SilverFast** プレビューが Photoshop における結果からひどく偏差する場合があります。

**Automatic:** モニターへのマッチングを Photoshop に頼ります。フィールド “internal” 内 “Profiles for ColorSync (ICM)” 下で Photoshop 内で定義した同じ色空間（例、Adobe RGB）を設定するよう勧めます。そうでなければ、スキャンデータの色が偏差するでしょう。TWAIN 標準はそのような機能に対応していないので、**SilverFast** TWAIN モジュールでは利用できません。

**ColorSync:** モニターを OSのカラーマネージメントへ統合します。お持ちのモニター用に適切な ICCプロファイルが必要です。より高度なモニターはディスクかCDでそれが供給されます。ない場合、メーカーのウェブサイト経由で入手すると良いでしょう。最後の手段はそれをスペクトル光度計で作成できるでしょう。Photoshop 5 では自分用のモニターキャリブレーション (ICC-プロファイル) を作成可能です。これに関して、Photoshop ツール・Adobe gamma “ の利用か、プロフェッショナルソリューションとして、関連計測ツールを使います。

## 内部-->出力



ここではどのデータタイプを **SilverFast** からプリンターが得るかを定義できます。画像処理ソフト (例、Photoshop) へ転送されるデータは異なる形式にできます。CMYK & RGB ファイルはプロファイル埋め込みができます。データはそれに従って、プリンターの色空間にマッチします。

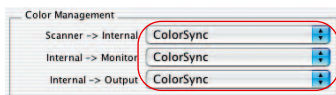
**RGB** RGB-データ形式でデータ出力可能。この設定はポストスクリプトを持たないユーザーに推奨されますが、他のプリンター/ プリンターICCプロファイルがない/ 単にインターネット/マルチメディアに利用する場合も同様です。

**ColorSync** プリンターをOSのカラーマネージメントへ統合。プリンターに適切なICC-プロファイルが必要です。

**Lab CIE-L\*a\*b\*** はデバイス独立型の色空間であり、見える色全てを表現します。色の違いは非常に細かくは出力されず、多くの色がモニター上に表示できません。P332の図をご覧ください。

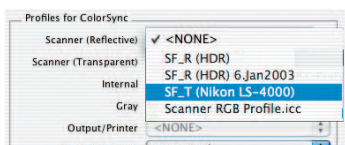
**P&P CMYK** **SilverFast** に組み込まれた4色セパレーションから直接 CMYK データを得るための高品質システム。正確な色を得る為、Photoshop で同じ CMYK 色空間を選ぶ事 (同じICC-プロファイルで定義) は、**SilverFast** 内と同様、重要です

## 2. ColorSync (ICM) 用プロファイル



カラーマネジメント用に ColorSync (ICM) を選んだ場合のみ、ここでお持ちのデバイスに最適のプロファイルを“ColorSync profiles”下で選ぶ必要が出てくるでしょう。例外はメニューオプション“Internal ---> Monitor”で、“Internal”下に割り当てた ICC プロファイルを持つ必要があります。

### スキャナー（反射）、スキャナー（透過）



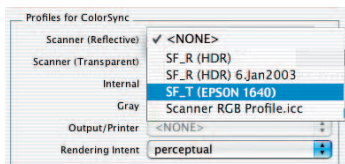
フィルムスキャナーのみ  
オプション“Scanner (Transparency)”  
が利用可能です。

ここでは **SilverFast** で作成した、或いはスキャナーメーカーから提供された適切な（入力）スキャナープロファイルを割り当てます。SilverFast で生成されたプロファイルは以下のネーミング慣例があります：

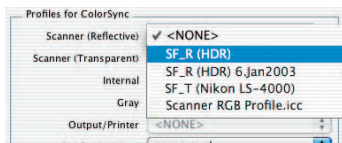
SF\_R（スキャナー名） / SF\_T（スキャナー名）

“R”が反射を“T”が透過を表します。カッコ内でこれらの後に再びスキャナー名になります。

ハードウェアメーカーのプロファイルは標準構造に従いません。おそらく、ファイル語尾が“.icc” / “.icm” とあるデバイス名を見つけます。その内部形式はフルコンパチブルのため、何か重大な意味は持ちません。



透過ユニット付フラットベッドスキャナー  
両オプションが利用可能：  
“Scanner (transparency)”  
“Scanner (reflective)”

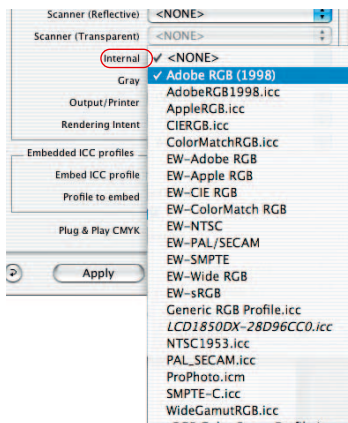


透過ユニットなしフラットベッドスキャナー  
SilverFastHDI, DC, PhotoCD.

1つのオプションのみ利用可能  
“Scanner (reflective)”

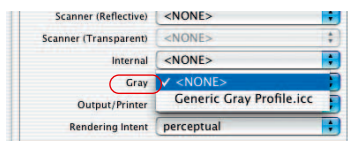


## 内部



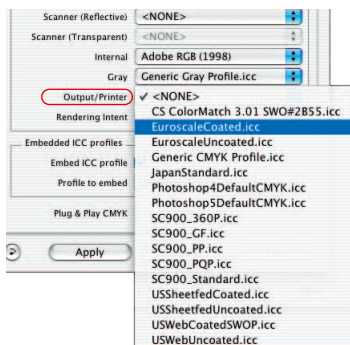
内部色空間は接続された何れかのデバイスからは独立しており、プロファイルによって定義されます。これはカラーマネージメントを基礎に置く、カラーマッチングファウンデーションを定義します。ユーザーの大多数にとって、コンピューターの負荷を下げるため、モニター色空間を選択するよう勧めます。一度、Internal --> Monitor ColorSync (ICM) を選んだら、自由に選択できるプロファイルで内部色空間を定義すべきです。“Internal” 下 “Automatic” を選んだ場合、アプリケーションの内部色空間のプロファイルを選択します。Photoshop プラグインは Photoshop へのモニターマッチングを終了します。

## グレー



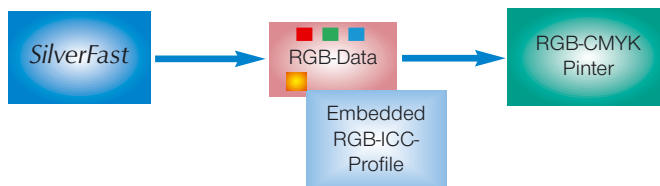
イメージファイルへの埋め込みも可能なグレースケールスキャン用のグレイプロファイルを選ぶ事ができます。

## 出力/プリンター

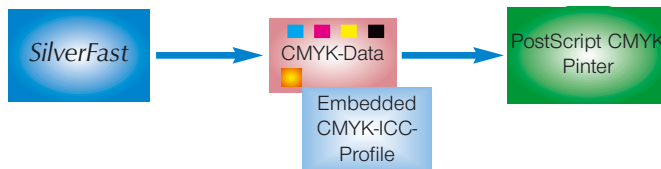


カラーマネジメントへのプリンター統合はハイライトですが、最もやっかいな問題を含む部分でもあります。スキャナーの色空間とモニターのものとは同じ原理- RGB -です。サイズでは、小さな違いがあるでしょう、また関連する白色点は互いに対して変わります。プリンターは異なった動作をします:出力はインクだけでなく、ペーパーストックにも依ります（紙の白さはどうか、紙の吸水性はどうか）。この情報全てはプロファイルにより考慮されるべきです。近年のインクジェットプリンターはドライバで供給されており、通常これらの問題を考慮に入れます。しかし、それらは ColorSync とうまく統合させる事はできません。

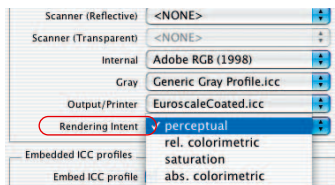
カラーマネジメント下 Internal-->Output ColorSync (ICM) 選択後、お持ちのプリンター/イメージセッターの出力プロファイルを選ぶ必要があります。このプロファイルは要望によって、ファイルへの埋め込みが可能です。



出力でのプロファイル埋め込み（非ポストスクリプトプリンター）



出力でのプロファイル埋め込み（ポストスクリプトプリンター）

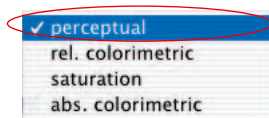


## ICC-プロファイル用 “レンダリングインテント”

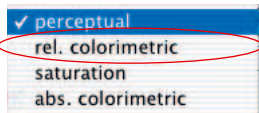
“Profiles for ColorSync” は “Option” ダイアログの “CMS” タブに追加ポップアップメニューがあります。ここで全ての ColorSync 操作に利用できる、**SilverFast** の “レンダリングインテント（出力目的）” がスイッチオンになりました。様々な操作（例、入力、モニター&出力マッチング）のためのレンダリングインテントの区別は不可です。これに優先して、**SilverFast** はプロファイルでプリセットされたレンダリングインテント（通常は、Perceptual Match）を利用しました。このデフォルト設定に代えて、ColorSync でサポートされた “relative colourimetric, saturation, absolute colourimetric” のような他のレンダリングインテント3つの1つを選べます。効果を比較すると、“Absolute Colourimetric” 選択時は、前の動作に最も類似するようにみえます、メディアの違いにより、白色点がここに現れます。CGで作られているイメージデータ、またはレンダリングからのものはレンダリングインテントの適合が必要かもしれません。

### レンダリングインテント

#### 1. Perceptual（知覚的）

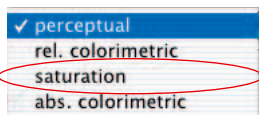


関連したカラーメトリックが使われます。再生は知覚的/素敵な外観をもたらします。これは通常、全ての色のイン&アウトの両方がそのカラーメトリック表現から修正される事を意味します。模範的利用法は、スキャンしたイメージ用です。



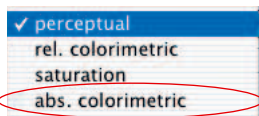
## 2. Relative Colourimetric

関連するカラーメトリックが使われます。反射印刷に関し、これはペーパーの“y”（白ペーパー）が“1”に受け取られる事です。全カラーメトリック計測はペーパーのカラーメトリー（カラーメトリック再生が内側全カラーに提供されるペーパーのカラーメトリーを基に標準化されます。全領域外のカラーは再生可能な全領域の境界にマップされます。これはより大きな効果的全領域の提供に利点があるため、明るい色はよりそれは異なるペーパー白色点でプリンタ用に正しくカラーマッチする犠牲の損失になります。模範的利用法は、紙の白さを要するカラー再生がのあるスポットカラーです。



## 3. Saturation

Saturation（彩度）関連のカラーメトリーが使われます。Saturation が強調される再生です。内側全ての色はカラーメトリックになるか、そうでないかもしれません。模範的利用法は、Saturation が最も重要な色の属性であるビジネスグラフィックス用途です。



## 4. Absolute Colourimetric

アブソルート（絶対的）カラーメトリーが使われます。反射印刷に関し、印刷用紙の“y”（ペーパーホワイト）は“1”以下です。カラーメトリック再生は全色内に提供されます。領域外の色は、再生可能な全領域の境界にマップされます。これはプリンター間で正確なカラーマッチングの提供に大きな利点を持ちます。それはペーパーホワイトと領域外になる1との間の“y”値でのカラーを引き起こす不利な点があります。模範的利用法は、正確なカラー再生が必要であるスポットカラー用途です。

## 3. プロファイル埋め込み

今日、デジタルイメージは異なるコンピュータ上へ様々なチャンネルで転送されます。信頼できるカラー出力を、それがどこから来てどう処理されているかを熟知しなくとも確実にするためには、イメージはカラー再生プロセス用の基礎を保証するプロファイルを取得します。

データ内へ ICC-プロファイルを埋め込みたい場合、それに従いこのフィールドをチェックする必要があります。

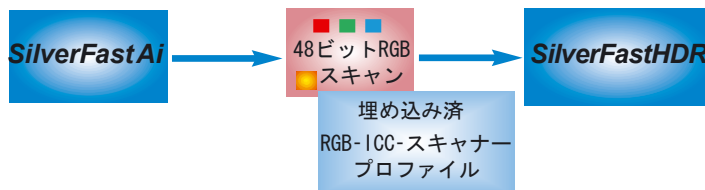
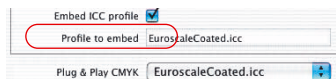
どのプロファイルが埋め込まれたか自動的に分かります。

ICC プロファイル用に4つの起こりうるものがあります：

1. Internal->Output 下のカラーマネージメント選択で RGB の選択時、そのプロファイルは、ColorSync --> Internal (例、Adobe RGB)用のフィールドプロファイルから生じます。
2. Internal-->Output下 ColorSync (ICM)選択時、プロファイルはフィールド “Profiles for ColorSync” (例、“Euroscan/Coated. icc) 内のフィールド Output/Printerから生じます。
3. “P&P CMYK” を選択すると、“Plug&Play CMYK” 下で選んだプロファイルになります。
4. 48 ビットモードでスキャンし、“Profiles for ColorSync” , 下のスキャナープロファイル選択を行っている場合、そのスキャナープロファイルはそのファイル内へ埋め込まれます。

### 48 ビットモードで作業中?

**SilverFastAi** は48ビットデータ出力中スキャナープロファイル (スキャナー偏差を記述) をTiff データに埋め込む事が可能です。スキャナー偏差はその後 **SilverFastHDR** での後処理中に自動的に補正されます。



48ビットRGBファイルへのスキャナープロファイル埋め込み

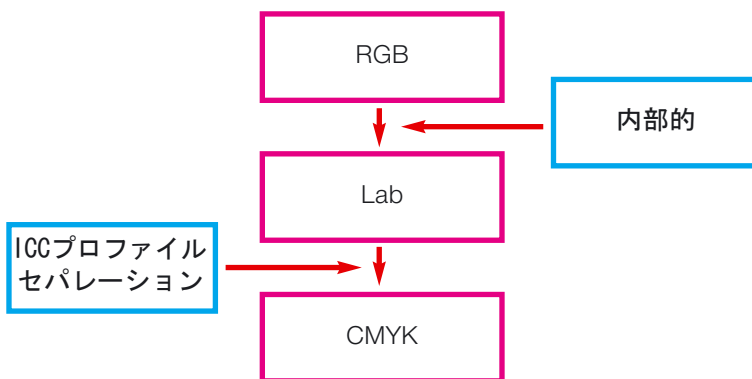
## 4. プラグ&プレイ CMYK

### カラーセパレーション(色調分離)でのスキヤニング

LaserSoft Imaging はプラグ&プレイCMYK を通じてハイエンドセパレーションのための新たなソリューションを開発しました。新しく革新的な技術はセパレーションの問題を解決します。それはCMYK プレビューが最終結果との違いを見るために常に使われるからで、**SilverFast** ではそうではありません。  
以下の概略は新しいセパレーションの機能性を解説しています：

1. RGB データはハードウェア独立型 Lab色空間に対して内部的に計算されます。モニター設定は計算に入ります。モニターはそれゆえ、常に正しく調節するべきです。
2. Photoshop セパレーション(ICCプロファイルを活用)と同様、**SilverFast** セパレーションを利用し、Lab 形式経由で CMYK へ計算します。

### **SilverFast** プラグ&プレイ セパレーション

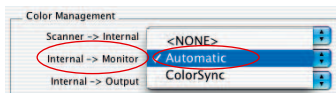




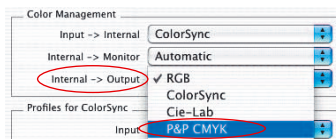
## カラーマネージメントでのCMYK-出力

### プラグ&プレイ CMYK-セパレーション

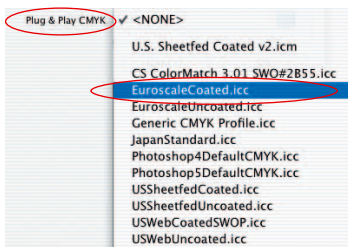
P&P CMYK セパレーションを実行するには、以下の通り進めます：  
**SilverFast** カラーマネージメントダイアログ下 Internal->Output”  
 “P&P CMYK” を選択。” Plug&Play CMYK” 下のダイアログの下で  
 適切なプロファイルを選びます。  
 ICC-CMYK 出力プロファイルが CMSダイアログの所で選択可能です。  
 “Colour Settings -->CMYK setup” 下で、Photoshop と同じプロ  
 ファイルがロードされた事を確かめます。  
 Optionダイアログを離れたら、ボタン “Scan RGB” が “Scan CMYK”  
 を表示するでしょう。



モニター設定の選択



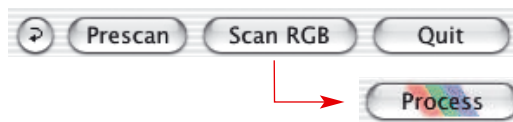
P+P CMYK の選択



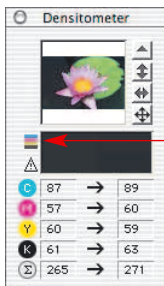
RGB-CMYK 切換え

Windows では右マウスボタンを  
 押します。

ソフトブルーフ - CMYK-シミュレーション  
 “Alt” コマンドでプレビューをクリック。



“CRTL” キーを押したまま “Scan” ボタンクリックで **SilverFast** を  
 RGB から CMYK ヘスイッチする事もできるでしょう。小ポップ  
 アップ画面が現れ、選択を実行（パーマネントソフトブルーフ  
 のページ P77& 177も参照）できます。セパレーションテーブル/  
 ICC-プロファイルを以前選択した事がなければ、選択はグレー  
 表示になり、アクティブにできません。



ソフトブルーフ  
 機能のオン/オフ  
 切換え用ボタン

プレビュー上 (CMYK-ソフトブルーフ) のCMYKシミュレーション  
 スキャンボタンが “Scan CMYK” を 表示時に、デンストメータ  
 画面内のソフトブルーフボタンのクリックにより、プレビュー  
 を CMYK シミュレーションにスイッチする事ができます。

## SilverFast /Photoshop 5.02 サンプル設定

以下は Photoshop 5.02 に関連する **SilverFast** CMS ダイアログ用サンプルの選択設定です。

### カラーマネジメントなしの Photoshop 下で RGB 出力

Photoshop ファイル/カラー設定/ RGB 設定で、選択（例、作業色空間として① Adobe RGB ）を行います。

この色空間用 ICCプロファイルは出力されるはずであり、従って **SilverFast** で後で選択できます。これを行うには、設定を保存してオペレーティングシステムの ICC-フォルダへ保存する事が可能です。ここで **SilverFast**（Photoshop “読込”メニューから）を設定します。**SilverFast** メインダイアログで “Option” > “CMS” に進みます。

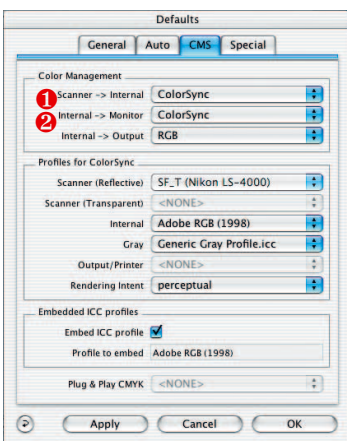
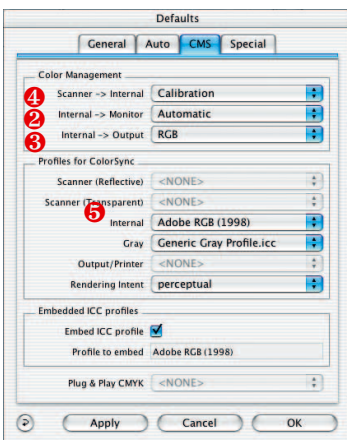
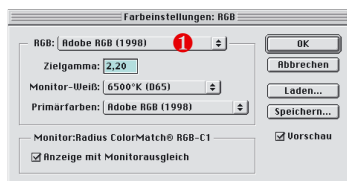
“Colour management” で② “Automatic” under “Internal --> Monitor” を選択。“Internal --> Output” 下③ “RGB” を選びます。この場合、④ <NONE> か、Scanner->Internal” > “Calibration” を選びます。**SilverFast** 自身の IT8-キャリブレーションでのみキャリブレーションを使えます。この例では、<NONE> のままにします。以前、Photoshop で選んだ事のある RGBプロファイルとして、“Profiles for ColorSync” セクション “Internal” > Adobe RGB を選択します。

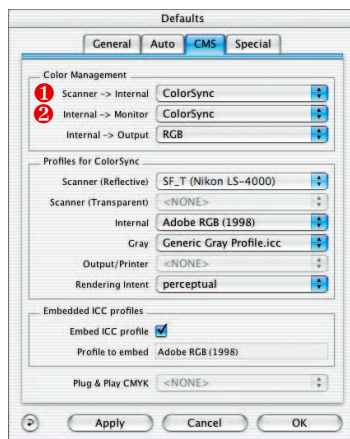
### カラーマネジメントでの RGB 出力

“Photoshop /Colour Settings/ RGB Setup” 下で RGB 色空間を選択（例、dobe RGB）し終えました。これにより、この色空間（“Profiles for ColorSync / ICM” “Internal” 下 **SilverFast** CMS-ダイアログで後で選択可能）を定義しているICCプロファイルの後でもつはずです。（このプロファイルがない場合、Save でプロファイルをシステムのプロファイルフォルダへ保存します）ここで **SilverFast** を（読込みメニューから）呼び出します。

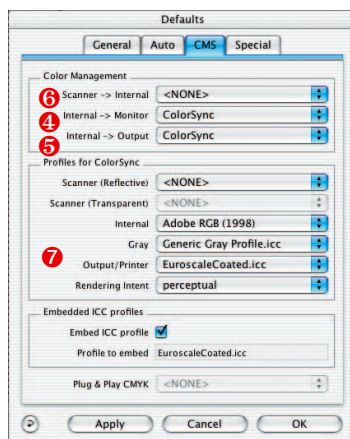
**SilverFast** メインダイアログ内 “Option” 下 “CMS” へ進みます。

Internal -> Monitor and Internal --> Output 下 “Colour management” セクションで① “ColorSync”（ICM）を選びます。Scanner --> Internal も”例では② “ColorSync”（ICM）に設定します。スキャナーICC-プロファイル（**SilverFast** IT8キャリブレーションか、スキャナーメーカーから提供分）がある場合のみ、これは可能です。ハードメーカープロファイルはスキャナー仕様の代わりにより普及しているため、必ずしも正確ではありません。





“Profiles for ColorSync” セクションでお持ちのスキナーのスキナープロファイル③（反射/透過）を、Output /Printer でプリンタープロファイルを選択します。“Internal” 下で内部システム色空間のプロファイルを選びます。**SilverFast** は完全なカラーマネージメントに対応するお持ちの画像処理ソフトを引き受けます。ソフトメーカーのマニュアルでこの機能について参照下さい。



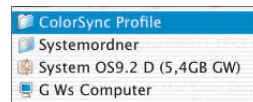
## カラーマネージメント(CMS-セパレーション)でのCMYK-出力

“Photoshop /CMYK Setup” で CMYK色空間を選択しました。これにより、後で **SilverFast** で選択できる ICCプロファイルを持つ事になります。そうでなければ、その設定を“save”でシステムプロファイルフォルダへ保存する事ができます。ここで **SilverFast**（“読み込み”メニューから）を呼び出します。SilverFast メインダイアログの“Option” 下 “CMS” に進みます。セクション “Colour management” 下で ④ “ColorSync” を選択。Internal--> Monitor で ⑤ “ColorSync” を選択。Internal --> Output で “ColorSync” を選択。Scanner--> Internal で、例では再度⑥ <NONE>にします。セクション “Profiles for ColorSync” > Output/Printerで Photoshop で割り当てたものと同じCMYKプロファイルを選択。Internal下で、内部システム色空間のプロファイルを選びます。

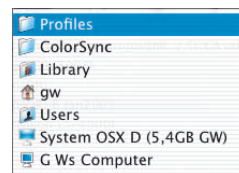
## Photoshop 5.02 からのプロファイルの保存方法

“File”, -->Colour Settings: RGB Setup.に進みます。このダイアログでは、自分の設定を作り、それを保存する事が可能。プロファイルは右フォルダへ入る事を確認、それで **SilverFast** がそれにアクセス（ロード）できます。

MacOS 9 を利用した保存用のパスは...  
システムフォルダ:ColorSync Profiles、  
そしてそのファイルを保存します。



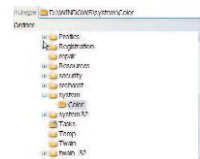
MacOSX を利用した保存用のパスは...  
User : ユーザー識別:  
Library:Color-Sync:プロファイル...



Win98 を利用した保存用パスは:

《C:/Windows/System/Colors》

Note: **SilverFast** 内のプロファイルは  
ファイル名とは別の名前を持ちます。

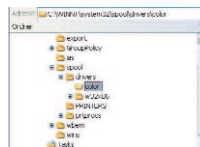
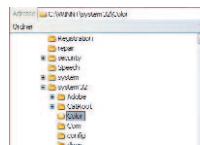


Windows 2000 を利用した保存用パスは:

《C:/WinNT/System32/Color》

または

《C:/WinNT/System32/Spool/Drivers/Color》

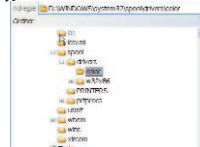
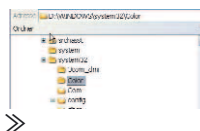


Windows XP を利用した保存用パスは:

《C:/Windows/System32/Color》

または

《C:/Windows/System32/Spool/Drivers/Color》



注意

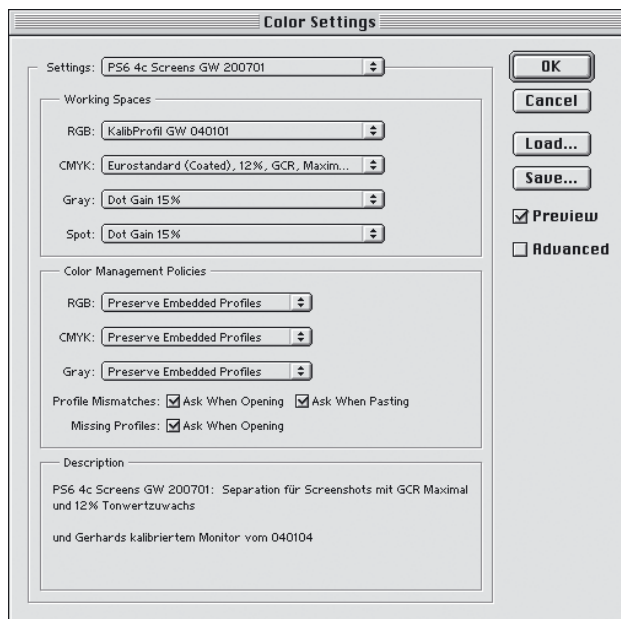
Windows では、プロファイル記述は  
プロファイル名に対応しません。  
確実にするには不要なプロファイルを  
無作為に選んではいけません。それら  
プロファイルは一時的に Windows /  
システムカラーディレクトリ外から  
新規ディレクトリ（フォルダ）へ移動します。

## SilverFast / Photoshop 6 サンプル設定

ADOBE Photoshop 6 で、全カラー設定は“Colour Settings”下の1メニューに統合されています。一見するとやや複雑な感じですが、実際は、よりはっきりした構造になっています。

一度設定すると、全てを1設定として保存でき、必要ならば他の設定を交換できます。

お手元の Photoshop マニュアルの対応ページをを注意深くご覧下さい。



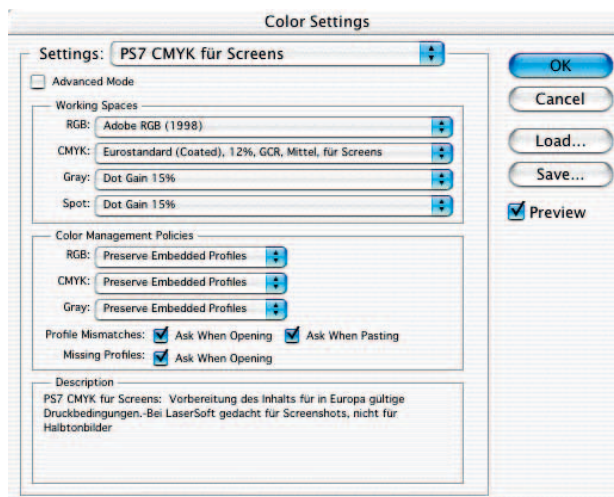
## SilverFast / Photoshop 7 サンプル設定

ADOBE Photoshop 7 で、全カラー設定は“Colour Settings”下の1メニューに統合されています。一見するとやや複雑そうですが、実際はよりはっきりした構造になっています。

Photoshop 6 用に変更は行われませんでした。同じプリセットが使われるでしょう。

一度設定したら、全てを1設定として保存でき、必要ならば、他の設定と交換できます。

お手元の Photoshop マニュアル対応ページを注意深くご覧下さい。





## SilverFast IT8-キャリブレーションを利用した スキャナーのキャリブレーション

IT8-キャリブレーションボタンが  
IT8 ダイアログを開きます。



IT8-ボタン（色付き）  
キャリブレーションが実行



IT8-ボタン（グレー）  
キャリブレーションが不可



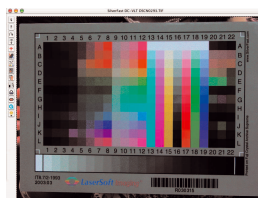
IT8-ボタンはソフトでこの  
機能がアクティブでない時は  
見えません。

複数のハイエンド機器に **SilverFastAi** はキャリブレーション用  
プロツールと入力 ICC-プロファイルの生成を備えます。キャリ  
ブレーションは反射&透過ポジオリジナル用に作る事ができます。  
そのキャリブレーションはネガオリジナルに対して適用不可です。  
IT8-キャリブレーションは **SilverFast** の追加機能です。

通常ソフトに対してオプションとなっており、故に別々に行  
わせる必要があります。一定の **SilverFast** バージョン（選んだ  
スキャナー用）で、この機能はデフォルトによりアクティブです。  
この機能が別々に実行された際、第2の CD-ROM がこの手続きに  
必要です - “**SilverFast** フィーチャーCD”。

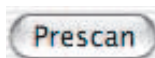
別々のアクティベーション手続きは **SilverFast** フィーチャーCD  
の章に記載があります。

**SilverFast** は IT8-キャリブレーションのプロセスを非常に便利  
（全ステップが、以下に述べる指示に従い、ソフトで自動的に  
実行されます）



### 1. IT8 リファレンスチャートのスキャナーに配置.

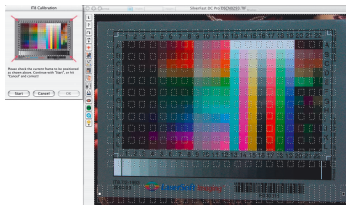
オリジナルがスキャンエリア内部に配置された事を確認。  
スキャナーベッドの縁のエリアに配置しないようにします。  
いくつかのスキャナーでは、このエリアはハードウェア  
キャリブレーション用に取っておきます。ターゲットの  
向きは左図のようにしておきます。



### 2. “prescan” をクリック（プリスキャンが実行されます）

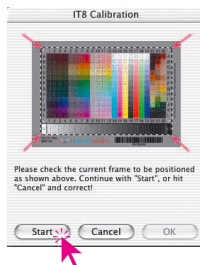
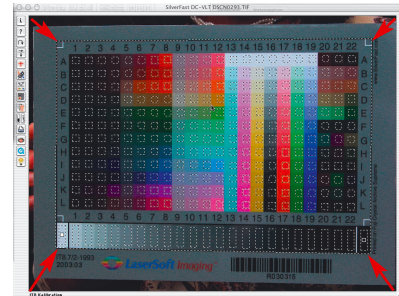
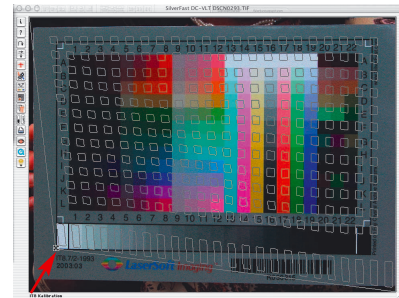


### 3. Calibration “ボタンをクリックします



### 4. “IT8-calibration” 画面がポップアップ表示 プレビュー画面とグリッドが開きます。

全ての端が正確に IT8 - ターゲットをカバーするようにグリッドを配置します。



## 5. キャリブレーションを開始

もしフレームが正しく設定されると、キャリブレーションを “Start” ボタンクリックで開始できます。

**SilverFast** は今、選んだ IT8ターゲット用の各参照ファイルをサーチします。

## 6. IT8ターゲットの識別と正しい参照データファイルのサーチ

### 6a. **SilverFast** は参照データファイルを自身に配置します。

これは通常非常に素早く、自動的に走ります。IT8ターゲットは前面のバーコードによって識別されます。**SilverFast** はその後、各参照データファイルをサーチし、そしてキャリブレーションを起動します。

6b. **SilverFast** は参照データファイルを見つけられない

参照ファイル用にインストールしたフォルダー内で自動的にサーチが始まります。ファイルが該当しない時、**SilverFast**は LaserSoft Imaging ホームページへの接続を行い、そのデータファイルをサーチします。参照ファイルはすぐロード（サイズは 20~30kB）されます。キャリブレーションはその後で開始されます。

参照ファイルが該当しない時、オプションダイアログが開きます。ユーザーがバーコードを含まない非LaserSoft Imaging IT8 ターゲットを選んだ場合に起こるかもしれません。この場合、マッチする参照ファイルを手動で配置願います。

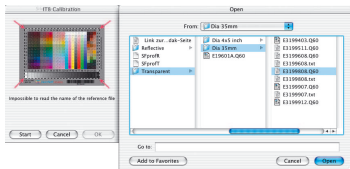
**注意!** 各参照データファイルはIT8ターゲットに関する正確な情報を含みます。これは各IT8ターゲット用に1つだけの対の参照ファイルがある事を意味します。該当しない正確なターゲット&参照ファイルは誤ったキャリブレーションを招き、間違った結果になります。


**SilverFast** ソフトウェアは通常、いくつかの参照ファイルを自動的に“IT8 Reference”フォルダ※にインストールします。  
 ※ **SivlerFast** フォルダのサブフォルダ

参照ファイルがインストールされない場合、ウェブサイトと同様、**SilverFast** インストールेशनCDにファイルがあります。

<http://silverfast.com/download/it8calibration-en.html>

自分の参照ファイルを、そのファイル名によって簡単に識別する事が可能。その名前はいわゆるチャージ番号か、生産期日がキャリブレーションターゲット上に直接印刷されたか、その保護される袖か、バーコードしたのいずれかです。



 お持ちの参照ファイル（テキストファイル）がお持ちのIT8キャリブレーションターゲットに対応している事をご確認下さい。（不明な場合、メーカーに問い合わせ下さい）

オリジナル KODAK 参照ターゲット  
(イメージ) 用参照ファイルは  
こちら:

<ftp://FTP.Kodak.com/GASTDS/Q60D/ATA/>



**Note!**  
IT8-利用時、適切なフィルムメーカー  
(Kodak, Agfa, Fuji等)の正しい参照  
データのみを使用することを確かめて  
下さい。

反射モードでのキャリブレーションに関して、反射ターゲットに対応している参照ファイルを選ぶ事を確かめて下さい。それによって透過キャリブレーションに同じものを適用します。

“Open” ボタンをクリックして選択を確定します。

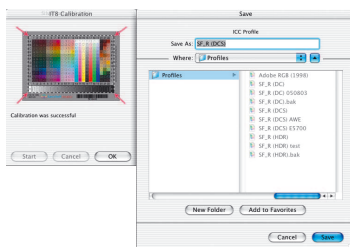
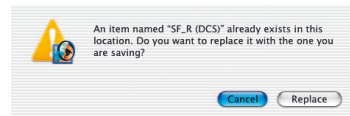
## 7. ICC プロファイルの保存

キャリブレーション完了後、“Calibration has been successful” 「キャリブレーション成功」とメッセージが表示されます。

その後、システムワイドカラーマネージメント用ICCプロファイルとしてキャリブレーション結果の保存オプションがあります。プロファイルの名前と位置をユーザーが選択可能です。

“OK” を押してダイアログ画面を閉じます。新規プリスキャンがプレビュー更新と同時に起動します。

丁度プロファイルの名前が存在する場合、既存の古いプロファイルの置換えを求められます。



## 8. キャリブレーションがアクティブになりました。IT8キャリブレーションボタンが色付になります。



注意！

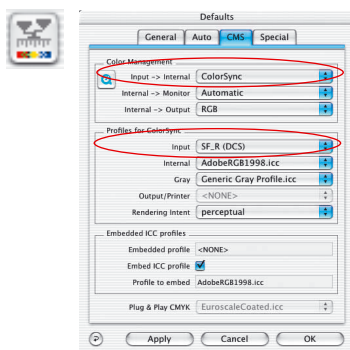
Options...

後続のキャリブレーションのアクティベーションに関し、以下のカラーマネージメント設定を選択下さい：

“Scanner->internal” メニューで “ColorSync” (Windows “ICM”) オプションを選択。

この後、透過&反射イメージ両方に適切なキャリブレーションプロファイルを選びます。

CMS ダイアログの “OK” BOX クリック後、IT8キャリブレーションがアクティブになります。



### スキャナーとデジタルカメラ間のキャリブレーションの違い

デジタルカメラのキャリブレートの際に、複数のファクターを計算に入れておく必要があります。

スキャナーの大きな利点は、殆ど一定のコンディションで動作するという事です。ほぼ一定の光源を持ち、固定した色温度やオブジェクトとセンサー間に絶対的配置を持つのと同様に、オブジェクトとセンサー間に一定の距離を持ちます。

これはデジタルカメラとまったく違います！実際に一定や標準化などではなく、カメラはよりもっと柔軟でありながら、それと共に計算がハードになります。

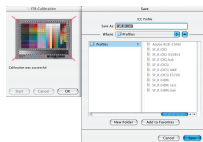
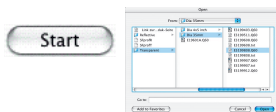
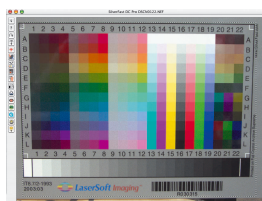
IT8-キャリブレーションは実行できますが、厳密に言えば、周囲のファクターに変更が行われない間だけ継続します。

これら条件は通常、写真スタジオのテーブルトップ、写真再生の間でのみ見られます。それらは光源、アウトドア写真などの変更操作時にひどく変化します。

ファクターそれぞれの偏差でキャリブレーション作業をたった1つのシングル写真に作ります。もし光源が写真スタジオ内に移動するなら、新規キャリブレーション写真が作成される事になります。これを行うには、スタンドの最適なIT8-ターゲットを撮られる写真へ配置するだけです。そして写真内でIT8ターゲットをキャプチャーします。それからセットからターゲットを再移動し、写真を再撮影します。この方法で2つの写真が撮影されます。最初がキャリブレーション用、後者が実際の写真です。プロはグレーカードテストでの手順を熟知します。（その目的はここで記述したステップと同じです）

## IT8 キャリブレーションの一連の流れ

**SilverFast** でのキャリブレーションプロセスを通して要約します。



1. IT8-ターゲットをスキャナーへ配置、ターゲットを整えます。
2. プリスキンを開始します。
3. IT8-キャリブレーションボタン（ダイアログが開く）を一度クリック。
4. プレビュー画面でグリッドを IT8 ターゲット上に正確に配置します。
5. “Start” ボタンを一度クリックします。  
（ダイアログが開く場合：対応している IT8-参照ファイルの位置をブラウズして、選択します。“Open” ボタンをクリックして選択を確定します）
6. IT8-キャリブレーションプロセス自身が自動的に走ります。  
IT8 ダイアログ画面はキャリブレーションプロセスの進行を知らせます。
7. システムワイドカラーマネジメント用 ICC-プロファイルとして、キャリブレーション結果を保存します。
8. IT8-キャリブレーションプロセスが完了し、自動的にアクティブにセットされます。



# カラーマネジメント

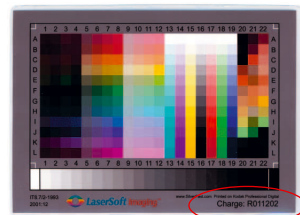
異なるメーカーのIT8ターゲット上にある  
製造チャージ番号の場所



LaserSoft Imaging ターゲット  
35mm、透過  
チャージ番号はスライド上



LaserSoft Imaging ターゲット  
4x5インチ、透過  
袖のステッカー

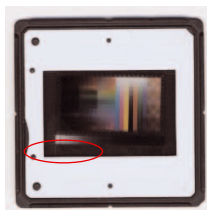
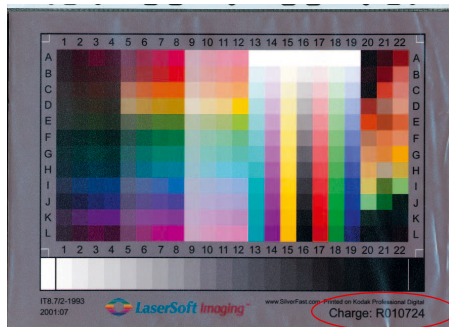


LaserSoft Imaging ターゲット  
5x7インチ、反射  
ターゲット下右に記載



Kodak ターゲット  
35mm、透過  
ターゲット上&スライド上  
参照日付記載

LaserSoft Imaging ターゲット  
DIN A4、反射  
ターゲット下右に記載



C-ROES ターゲット  
35mm、透過  
ターゲット上参照日付記載

C-ROES ターゲット  
DIN A4、反射  
ターゲット下右に記載





キャリブレーションなしスキャン



キャリブレーション済スキャン (IT8-キャリブレーション)






第七章 付録

*Addendum*






## キーボードショートカット Mac








## ScanPilot

適用/現ツール実行 .....   
 スクロール ..... ボタン  / 

## プリスキャン/ スキャン

プリスキャン停止 / スキャン停止 .....  +   
 色空間 .....  + スキャンボタンクリック











## フレーム

フレーム複製 .....  + クリック  
 フルスキャンサイズ設定 .....  +   
 フレーム削除（拡張キーボード） .....   
 フレーム削除（標準キーボード） .....  +   
 フレームリセット .....  + “Option” ボタンクリック

## オートアジャスト

オートアジャストリセット .....  + クリック 

## ハイライト/シャドウツール

ハイライト設定 ..... 白トライアングル   
 中間トーン設定 ..... ピペット   
 シャドウ設定 ..... 黒トライアングル   
 複数回適用 ..... 押したまま   
 ハイライト/シャドウリセット .....  +   
 ブライテストポイント表示 .....  +   
 ダークテストポイント表示 .....  + 





## ヒストグラム

ヒストグラム結果を表示 . . . .  (ヒストグラムダイアログ内で)

## セレクトティブカラーコレクション

全カラー選択 . . . . .  + 

追加カラー選択 . . . . .  + プリスキャンクリック  
/  + LED 下の列をクリック

非アクティブマスク領域表示 . . . . .  + 

## リセット

全パラメータリセット . . . . .  + “Reset” ボタンクリック

フレームリセット . . . . .  + “Reset” ボタンクリック

最後の操作をリドゥ/アンドゥ . . . . .  + 

## ダイアログ画面表示

プレビューズームイン . . . . .  + 

イメージオートアジャスト . . . . .  + 

ヒストグラムダイアログ . . . . .  + 

グラデーションダイアログ . . . . .  + 

グローバルコレクション . . . . .  + 

セレクトティブカラーコレクション . . . . .  + 

エキスパートダイアログ . . . . .  + 

ダイアログを離れる . . . . . 

スキャンスタート . . . . . 




最後の操作のアンドゥ/リドゥ . . . . .  + 

最適スキャン解像度を表示 . . . . . 



スキャン補間を表示 . . . . .  + 

キーボードショートカット **Windows**







## ScanPilot

適用/現ツール実行 .....   
 スクロール ..... ボタン  / 

## プリスキャン/スキャン

プリスキャン停止/スキャン停止 .....  +   
 色空間のスイッチ ..... スキャンボタン上での  
 右マウスボタンクリック




## フレーム

フレーム複製 .....  + クリック & 移動  
 フルスキャンサイズに設定 .....  +   
 フレーム削除（拡張キーボード） .....   
 フレーム削除（標準キーボード） .....   
 フレームリセット .....  + “Option” ボタンクリック

## オートアジャスト

オートアジャストリセット .....  + 

## ハイライト/シャドウツール

ハイライト設定 ..... 白トライアングル   
 中間トーン設定 ..... ピペット   
 シャドウ設定 ..... 黒トライアングル   
 複数回適用 ..... 押したまま   
 ハイライト/シャドウリセット .....  +   
 ブライテストポイント表示 .....  +   
 ダークテストポイント表示 ..... 



## ヒストグラム

Show result histogram ..... **[ALT]** in histogram-dialog

## セレクトティブカラーコレクション

Select all colours ..... **[CONTROL]** + **[A]**

Select additional colour ..... **[SHIFT]** + click in prescan  
or **[SHIFT]** + click on LED below column

Show inactive mask area ..... **[CONTROL]** + **[ALT]**

## リセット

Reset all parameters ..... **[SHIFT]** + click on “Reset” button

Frame reset ..... **[ALT]** + click on “Reset” button

Undo / redo last operation ..... **[CONTROL]** + **[Z]**

## ダイアログ画面表示

Zoom in preview ..... **[CONTROL]** + **[ALT]** + **[1]**

Image auto-adjust ..... **[CONTROL]** + **[ALT]** + **[2]**

Histogram dialog ..... **[CONTROL]** + **[ALT]** + **[3]**

Gradation dialog ..... **[CONTROL]** + **[ALT]** + **[4]**

Global correction ..... **[CONTROL]** + **[ALT]** + **[5]**

Selective colour correction ..... **[CONTROL]** + **[ALT]** + **[6]**

Expert dialog ..... **[CONTROL]** + **[ALT]** + **[8]**

Leave dialog ..... **[ESC]**

Start scan ..... **[RETURN]**

Undo / redo last operation ..... **[CONTROL]** + **[Z]**

Show scan resolution ..... **[CONTROL]**

Show resulting interpolated resolution ..... **[CONTROL]** + **[SHIFT]**



10-2003

LaserSoft Imaging AG  
Luisenweg 6-8  
24105 Kiel • Germany  
Tel.: (+49) 431-5 60 09-0  
Fax: (+49) 431-5 60 09-98  
eMail: [Info@SilverFast.de](mailto:Info@SilverFast.de)  
Internet: [www.SilverFast.de](http://www.SilverFast.de)

LaserSoft Imaging, Inc.  
P.O. Box 9343  
546 Bay Isles Road  
Longboat Key, FL-34228, USA  
Ph.: (+1) 941-383-7496  
Fax: (+1) 941-387-7574  
eMail: [info@SilverFast.com](mailto:info@SilverFast.com)  
Internet: [www.SilverFast.com](http://www.SilverFast.com)

**LaserSoft Imaging**™